



Solaris 10 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-0305-15
2005 年 12 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. (以下 米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、JDK、Solaris JumpStart、SunSolve、iPlanet、Sun4U、Sun StorEdge、Solstice AdminSuite、Java Naming and Directory Interface、Sun Enterprise、Sun Fire、Netra、OpenBoot、J2EE、StarOffice、Sun Blade、Sun Ray、Ultra、Solstice Enterprise Agents、SunSwift、ShowMe TV、SunHSI/S、StarSuite、Solstice DiskSuite、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape および Netscape Navigator は、米国ならびに他の国における Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。KCMS は、米国または、他の国における Eastman Kodak Company の商標または登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 10 Release Notes

Part No: 817-0552-17

Revision A



060207@13215



目次

はじめに 17

1 Solaris 10 リリースに対する更新 23

Solaris 10 1/06 ソフトウェア 23

新しい最小メモリー要件 23

Solaris リリースのアップグレードサポートの変更 23

Solaris Live Upgrade と Solaris ゾーン 24

x86 マシン上のミニルートへのパッチの適用 24

Solaris 10 1/06 リリースのインストールに必要な Solaris Data Encryption Supplement 24

Solaris 10 1/06 リリース用のパッチをインストールするときに必要な追加手順 25

x86: ビデオカードが 1 枚しかないシステムで全画面の拡大鏡を設定できない 26

x86: USB マウスデバイスを拡張デバイスとして GNOME オンスクリーンキーボードと一緒に使用するように設定するときの問題 29

StarSuite パッチアプリケーションに必要な追加手順 31

SPARC: Sun Blade 1500 ワークステーションでアップグレードがハングアップする (6363365) 31

x86: BIOS デバイスのユーティリティに障害が発生すると、インストールまたはアップグレードを完了できない (6362108) 32

ゾーンが含まれるシステムをアップグレードしたあとに、ロケールの問題が発生する (6361672) 33

完全ルートゾーン、ディスクレスクライアント、および Solaris Live Upgrade に関するインストール後の問題 (6358227) 34

x86: ドライバ更新を追加したときに、ネットワーク構成に失敗することがある (6353146) 35

サイズの大きなディスクの場合に、mkfs コマンドを使用してファイルシステムを

作成できないことがある (6352813) 35

x86: 設定されている時間によっては、キーの組み合わせを使用して Sun Java Desktop System のユーザー補助機能を開始できないことがある (6351923) 36

Generic LAN Driver Version 3 で Logical Link Control フレームのフィールド長の設定に失敗する (6350869) 36

x86: Solaris 10 1/06 ソフトウェアインストール時の端末タイプの選択に関する問題 (6350819) 37

localeadm コマンドを使用して地域を追加できない (6350486) 37

x86: 複数の CPU を使用するシステムが、インストールまたはシステムのブート時にハングアップすることがある (6348316) 38

SPARC: 64 ビットオブジェクトの処理中の dbx デバッガに関する問題 (6347707) 38

x86: ブルガリア語のロケールでロシア語の文字のマップが使用される (6346843) 39

小さなスライスにファイルシステムを作成できないことがある (6346510) 39

ファイルシステムの容量がいっぱいになっている NFSv4 クライアントで、書き込みエラーが検出されない (6346204) 40

x86: GRUB (GRand Unified Bootloader) メニューが含まれる Solaris Live Upgrade ブート環境を削除できない (6341350) 41

Ctrl + Esc キーを使って起動メニューを開くことができない (6340714) 41

x86: CD メディアまたは DVD メディアを使用して Solaris Live Upgrade ブート環境をアップグレードするときに、エラーが発生する (6336069) 42

x86: UTF-8 ロケールを使用するときの dtlogin に関する問題 (6334517) 42

e1000g Ethernet ドライバをアンロードするとシステムパニックが発生することがある (6333461) 43

x86: インストール時の無効な /sbin/dhccpinfo エラー (6332044) 43

x86: Solaris 10 1/06 リリースへのアップグレード時に、Agilent Fibre Channel HBA Driver パッケージの削除に失敗する (6330840) 44

SPARC: GNOME オンスクリーンキーボードを使用して設定するときの問題 (6329929) 44

SPARC: Solaris OS DVD からシステムブートするときにロードキーの警告が表示される (6329642) 46

SPARC: Sun Expert3D および Sun Elite3D ハードウェアの電源管理システムが動作しない環境がある (6321362) 46

セルビア語のロケールでロシア語の文字のマップが使用される (6314583) 46

SPARC: 動的再構成の実行中にエラーメッセージが表示される (6312424) 47

Solaris OS へのシンボリックリンクが変更されると、SUNWceuow パッケージが適切にアップグレードされない (6303564) 47

SPARC: ストレージエリアネットワークに含まれるサーバー上のリンクを再初期化すると、すべてのサーバー上の論理ユニット番号がリセットされる (6301627) 48

x86: dtremote を使用すると GNOME アプリケーションが失敗する (6278039) 48

全画面の拡大鏡とキーボードのアクセシビリティ機能が動作しない
(6273030) 48

x86: CD メディアからインストールしてリブートを選択したあとに、ハング
アップしているように見える (6270371) 49

ゾーン用のパッチを削除したあとに pkgchk を実行すると、エラーメッセージが
表示される (6267966) 50

Solaris OS で許可されるアプリケーションのリストが古い (6267922) 51

ルート (/) ファイルシステムが RAID-1 ボリューム (ミラー) の場合に、アップグ
レードオプションを使用できない (6263122) 51

Solaris ゾーンがインストールされている場合に、Solaris Flash アーカイブを作成
できない (6246943) 54

Solaris Live Upgrade の luupgrade コマンドを実行したときに進捗バーが表示さ
れない (6239850) 54

録音の開始時に「CD 品質、可逆」モードに失敗する (6227666) 55

2 番目のデスクトップシステムにデスクトップアイコンが表示されない
(6211279) 55

DataDigests の使用時にエラーが断続的に発生することがある (5108515) 56

ストレージエリアネットワークのファブリックゾーンでデバイスがすぐに使用で
きる状態にならない (5077933) 56

2 インストールに関する注意事項とバグ情報 59

一般情報 59

Single UNIX Specification, Version 3 によって導入される変更 59

sendmail で TCP ラッパのサポートが使用可能 61

x86: Solaris fdisk の識別子の変更 61

x86: x86 システムでのアプリケーションのメモリー割り当て制限 62

x86: Solaris で no execute ビットをサポート 63

インストール前の注意事項とバグ情報 63

Solaris OS 以外の製品のサポート 63

Solaris 10 3/05 HWx リリースについて 64

Solaris Express や Solaris 10 ベータリリースからのアップグレードはできな
い 66

Solaris 10 OS へのアップグレード後、署名されていない実行可能ファイルが存在
する 66

Sun Fire V250 Server のインストール 67

NFS Version 4 で新しく導入された初回システムブート時のプロンプト 67

x86: e1x または pcelx NIC を備えたシステムでネットワーク構成が失敗す
る 68

/var ファイルシステムのデフォルトのサイズは Extra Value 製品には不十
分 68

- x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない 70
- SPARC: 古いファームウェアでは、ブート用 Flash PROM を更新する必要がある 70
- Solaris Live Upgrade を実行するには、追加パッチが必要 71
- Solaris Live Upgrade パッケージをインストールするときの制限 71
- 旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアと互換性がない 72
- Solaris Live Upgrade を使用して Solaris フラッシュアーカイブを空のブート環境にインストールするとインストールが失敗する (6222925) 74
- 主インタフェースでないインタフェースを構成し DHCP を有効にすると、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する (6215739) 75
- x86: Sun Java Workstations 2100Z では、Solaris 10 Operating System DVD からのブート時にパニックが発生することがある (6214356) 76
- x86: Solaris GUI インストールプログラムが Solaris フラッシュアーカイブのインストールで失敗する場合があります (6208656) 78
- x86: 一部の Sun Fire システムでは、シリアルコンソールが動作しない (6208412) 79
- x86 fdisk ブートパーティションがすでに存在しているシステムでは、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する場合があります (6186606) 79
- x86: fdisk コマンドまたは format コマンドでディスクの一部分しか使用できない (5042195) 80
- x86: Sun LX50 サーバーにおいて X サーバーがマウスデバイスを開くことができない (5027771) 81
- Solaris 7 ソフトウェアを実行している場合は、Solaris 10 Operating System DVD 上のデータにアクセスできない (4511090) 81
- インストールに関する注意事項とバグ情報 82
- Solaris 10 OS のインストール後に Java エラーメッセージが表示される (6218158) 82
- Solaris フラッシュアーカイブのインストール時に Solaris 10 インストールディスクが排出される (6215847) 83
- x86: 初期インストールのあと、kdmconfig プログラムが 2 回実行される (6209092) 84
- x86: カスタム JumpStart インストールのあと、システムのブートが失敗する (6205478) 85
- インストールログが不完全または不正確なことがある (5087588) 85
- x86: boot-device 変数が設定されていない場合、DVD から対話式 GUI インストールを行うと失敗する (5065465) 86
- SPARC: Solaris 10 OS インストールプログラムは、特定のケースのパネルを適切に表示しないことがある (5002175) 86
- x86: 一部の Dell Precision ワークステーションで、インストール中に USB キーボードがフリーズする (4888849) 87

インストール後、/dev および /devices/pseudo のアクセス権が不適切に設定される (4720192、6215918)	87
SPARC: ネットワークイメージを使用して Solaris をインストールするときにエラーメッセージが表示される (4704046)	89
SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (4640568)	89
ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (4189127)	90
アップグレードに関する注意事項とバグ情報	90
Solaris 9 9/04 OS からアップグレードしたあとのデバイス ID の不一致	91
SPARC: 推奨パッチクラスタが適用された Solaris 9 リリースからのアップグレードは部分的にしか成功しない (6202868)	91
Solaris Live Upgrade を使用して以前の Solaris リリースからアップグレードするとき、古いアンインストールが削除されない (6198380)	92
アップグレード後に、構成ファイル pam.conf が自動的に更新されない (5060721)	93
Solaris Live Upgrade を使用してアップグレードを行うと、Solstice DiskSuite の構成が Solaris ボリュームマネージャー形式に変換されない (4915974)	94
Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 7 リリースからアップグレードするとき、無効なエラーメッセージが表示される (4872151)	95
Solaris Live Upgrade の使用時にインストールプログラムが表示するテキストに関する問題 (4736488)	95
SPARC: アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (4525236)	96
Solaris 10 リリースにアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (4626093)	96
/export ディレクトリが満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (4409601)	97
ディスクレスクライアントサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (4363078)	97
インストールに関するその他の注意事項	98
StarOffice と StarSuite は同じシステムに共存できない	98
Solaris 7 または Solaris 8 ソフトウェアが稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前のドキュメントパッケージをインストールできない	99
選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある	99
Solaris Live Upgrade を使用すると、LANGUAGES CD からデフォルトですべての言語がインストールされる (4898832)	99

3 実行時の注意事項とバグ情報 101

共通デスクトップ環境 101

x86: インテル社の i810 および i815 統合型グラフィックスチップセットのサポート	101
---	-----

ar ロケールでアラビア語のテキストが表示されない	102
一部のロケールで X キーボード拡張を使用するときに Compose キーシーケンスが機能しないことがある (6219932)	102
x86: kdmconfig コマンドで Xorg X サーバー用のシステム識別情報の構成ファイルを作成できない (6217442)	103
x86: kdmconfig プログラム内の Xorg X サーバーの構成指示が不完全である (6205881)	104
x86: キーボード、ディスプレイ、およびマウスを構成するプログラムが X サーバーに対して機能していない (6178669)	105
SPARC: 共通デスクトップ環境のログインサービスにおいて、いくつかの UTF-8 ロケールが利用できない (5042573)	105
CDE のリムーバブルメディア自動実行機能が削除されている (4634260)	106
Solaris PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (4260435)	106
Solaris PDASync がマルチバイトの国際化された PDA デバイスとのデータ交換をサポートしていない (4263814)	107
DOCUMENTATION DVD	107
ほかのドキュメントパッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要	107
ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (4674475)	107
ファイルシステム	108
一部の Solaris Express または Solaris 10 リリースからのアップグレードにはファイルシステムの再マウントが必要	108
NFSv4 アクセス制御リストの関数が正しく動作しないことがある	108
Solaris NFSv4 クライアントと NFSv4 サーバーとの間にアクセスに関する問題がある	109
1T バイトよりも大きなデバイスでシステムクラッシュダンプが失敗する (6214480)	109
smosservice コマンドで OS サービスを追加すると、ディスク容量不足のメッセージが表示される (5073840)	110
ハードウェア関連の注意事項とバグ情報	110
SPARC: Solaris 10 OS で Sun Crypto Accelerator 4000 ボードバージョン 1.0 および 1.1 がサポートされていない	110
特定の USB 2.0 コントローラが使用できない	111
サポートされる USB デバイスと対応するハブの構成	111
x86: Solaris 10 OS で特定のデバイスドライバにいくつかの制限がある	111
モニターのないシステムでの DVD-ROM/CD-ROM	112
x86: US 英語以外のキーボードを指定するには手動による構成が必要	112
SPARC: テープデバイスに接続される特定のホストバスアダプタ用の jfca ドライバによってエラーが発生することがある (6210240)	113

USB 2.0 ハブを USB 1.x デバイスとともに使用すると、システムパニックが発生することがある (6209619)	114
x86: 特定のマザーボードで EHCI ドライバが使用できない (6204987)	115
FireWire (IEEE 1394) ストレージデバイスによってシステムパニックが発生することがある (6203680)	115
再生または録音操作時に USB オーディオデバイスを一時停止すると、システムのデッドロックが発生することがある (6200924)	116
同一バスを共有する特定のデバイス間で競合が発生する (6196994)	116
Num Lock キーをオンにした状態ではキーボードの一部のキーが機能しない (6173972)	117
SPARC: リビジョン ID が 32 未満の GigaSwift Fast と Gigabit Ethernet デバイスによってシステムパニックが発生することがある (5090222)	117
hat_getkpfnum() DDI 関数は旧式とされている (5046984)	118
USB 2.0 ホストコントローラを持つシステムがハングアップまたはパニックを起こすことがある (5030842)	119
x86: Sun Fire V65x サーバーで Adaptec SCSI Card 39320D カードを 2 枚使用すると、システムがパニックになることがある (5001908)	120
x86: Solaris OS (x86 版) ではソフトシステムシャットダウンがサポートされていない (4873161、5043369)	121
一部の DVD および CD-ROM ドライブで Solaris をブートできない (4397457)	121
iPlanet Directory Server 5.1 に関する注意事項	122
Directory Server 5.1 のインストール	122
Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 への移行	123
デバッグ実行時の注意事項	124
SPARC: 保存停止・復元再開サイクル中にカーネルデバッグがアクティブになっているシステムがパニックになることがある (5062018)	124
マスター CPU の変更後、システムがループになることがある (4405263)	125
地域化に関する注意事項	125
ログイン画面で UTF-8 ロケールに推奨のマークが付いている	126
エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードのハードウェアがサポートされない	129
PDF ドキュメントを印刷することができない (6239307、6218079)	130
x86: 特定のアジア言語の UTF-8 以外のロケールでログインプロセスがハングアップすることがある (6215527)	131
localeadm -l を実行してもインストールされた韓国語ロケールパッケージが表示されない (6189823)	131
特殊キーボードキーが機能しない (5077631)	131
修飾キーが正しく機能しない (4996542)	132
中国語と韓国語の文字が、四角形として印刷される (4977300)	132

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソート機能が正しく動作しない (4307314)	132
ネットワーク接続に関する注意事項	133
SPARC: 32 ビットコンパイルと 64 ビットコンパイルで RTM_IFINFO メッセージ のサイズが異なっている	133
Solaris 10 OS では IP 転送がデフォルトで無効になっている	133
IP アドレスが失敗した IP ネットワークマルチパスグループに属していると、ゾー ンはブートしない (6184000)	134
IPv4 または IPv6 の ATM LANE サブネットが正常に初期化されないことがある (4625849)	134
フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパ ケットが失われることがある (4152864)	135
セキュリティに関する注意事項	135
pam_ldap を有効にしておく、パスワードなしのログインが失敗する	135
新しいバージョンの encrypt() と decrypt() は下位互換性がない	135
Sun StorEdge T3 が不正なパラメータによってパニックになることがある (4319812)	136
サービス管理機能	136
svccfg import サブコマンドで依存サービスが更新されない (6221374)	136
印刷サービスがデフォルトでオフライン設定になっている (5100134)	137
keyserv デモンによって一部のファイルシステムサービスが無効になる (5084183)	137
ファイルシステムがマウントされる前にログインプロンプトが表示される場合が ある (5082164)	137
スマートカード	138
スマートカードに対してシステムが反応しない (4415094)	138
スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (4447632)	138
Solaris のコマンドと標準	139
Bash 2.0.5b でいくつかの環境変数が設定されなくなった	139
新しい ln ユーティリティには -f オプションが必要	139
新しい tcsh により、ハイフンまたは等号が使われている setenv 変数名が拒否 される	140
STDIO getc ファミリのファイル終了条件の動作が変更になった	140
ps コマンドの出力列が広がった	141
コマンド ping -v が IPv6 アドレスに対して機能しない (4984993)	141
Solaris ボリュームマネージャー	141
Solaris ボリュームマネージャーの metattach コマンドが失敗することがあ る	141
Solaris ボリュームマネージャーの metassist コマンドが英語以外のロケールで 失敗する (5067097)	142

ディスクがフォーマットされていないシステムではボリュームの作成に失敗する (5064066)	142
Solaris ボリュームマネージャー RAID-1 (ミラー) または RAID-5 ボリュームがソフトウェアパーティション上に構築されたディスクセット内に作成されると、ホットスベアが正しく動作しない (4981358)	143
論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャーの metadevadm コマンドが失敗する (4645721)	143
Solaris ボリュームマネージャーの metarecover コマンドが metadb 名前空間の更新に失敗する (4645776)	144
Sun Java Desktop System	144
電子メールとカレンダー	145
ログイン	145
ヘルプシステム	147
Mozilla ブラウザ	147
システムレベルの問題	148
サウンドレコーダに関する問題	149
ボリュームコントロールオプションが動作しない	149
キーボードインジケータを使用するときの問題 (6245563)	149
一部の表示オプションを使用すると、ファイルマネージャーでエラーが発生することがある (6233643)	150
ホームディレクトリの外部にあるファイルを削除できない (6203010、5105006)	150
特定の種類のアーカイブを作成するときの問題 (5082008)	150
テキストエディタで複数バイト文字を入力できない (4937266)	151
システム管理	151
Sun Patch Manager Tool 2.0 に旧バージョンとの互換性がない	151
Sun Remote Services Net Connect が大域ゾーンでしかサポートされない	152
zoneadm コマンドで非大域ゾーンをインストールしているときにエラーまたは警告メッセージが表示されることがある	152
Solaris Product Registry の管理ユーティリティーがゾーン内で起動できない (6220284)	153
新しくインストールされたパッケージに patchadd でパッチを再適用できない (6219176)	153
大域ゾーンのパッチ適用後に作成された非大域ゾーンにリモートログインサービスでアクセスできない (6216195)	155
既存のディスクレスクライアントをシステムから削除できない (6205746)	156
Net Connect 3.1.1 のインストールが失敗する (6197548)	156
x86: Solaris フラッシュアーカイブをインストールするときに、デフォルトの C ライブラリによってブート障害が発生することがある (6192995)	157
SPARC: smossservice delete コマンドですべてのディレクトリが正常に削除されるとは限らない (6192105)	157

patchadd コマンドでパッチを NFS サーバーからインストールできない
(6188748) 158

lucreate コマンドで RAID-1 ボリュームを作成できない (5106987) 159

SPARC: 保存停止・復元再開サイクル中にパニックが発生すると、システムがハン
グアップすることがある (5062026) 160

SPARC: キーボードシーケンスを使用してシステムを停止すると、システムがパ
ニックすることがある (5061679) 160

ipfs コマンドを -w オプション付きで使用すると失敗する (5040248) 160

マウントポイントのアクセス権が作成したブート環境に保存されない
(4992478) 161

kill -HUP によって必ずしもエージェントが snmpd.conf 構成ファイルを再度
読み取るとは限らない (4988483) 161

x86: BIOS のブート時に F4 キーを押すとサービスパーティションのブートに失敗
する (4782757、5051157) 162

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミング
インタフェースプロバイダを検出できない (4619576) 162

XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプロ
グラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (4497393、
4497399、4497406、4497411) 163

Solaris Management Console のマウントと共有ツールでファイルシステムのマウ
ント属性を変更できない (4466829) 163

- 4 特定システムに関する注意事項 165
 - Sun Fire ハイエンドシステムでの動的再構成 165
 - ソフトウェアおよびハードウェアの既知のバグ 166
 - Sun Fire ミッドレンジシステムでの動的再構成 167
 - 最小構成のシステムコントローラファームウェア 167
 - DR ソフトウェアの既知のバグ 168
 - Sun Enterprise 10000 に関するリリース情報 170
 - システムサービスプロセッサの要件 170
 - 動的再構成に関する注意事項 170
 - InterDomain Networks 172
 - OpenBoot PROM 変数 172
 - Sun Enterprise ミッドレンジシステムでの動的再構成 172
 - サポートするハードウェア 173
 - ソフトウェアに関する注意事項 173
 - 既知の障害 175

- 5 サポート中止に関する情報 179
 - Solaris 10 オペレーティングシステム でサポートを中止した製品 179

アジアの短縮 dtlogin 名 179
 add_drv システムコマンドの device_driver へのパス名指定サポート 179
 admintool コマンド 180
 asysmem() インタフェースおよび sysmem() インタフェース 180
 BIND バージョン 8 DNS サーバーおよびツール 180
 x86: 共通オブジェクトファイル形式 (COFF) 180
 廃止されたデバイスドライバインタフェース (DDI) 181
 Alt キーおよびメタキーを使用した Euro 文字入力シーケンス 181
 フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド 182
 汎用 LAN ドライバのバージョン 0 インタフェース 182
 GMT zoneinfo タイムゾーン 183
 Sun Java Desktop System, Release 3 から除外された GNOME コンポーネント 183
 グラフィックドライバのサポート 184
 x86: EISA デバイスとドライバ 184
 JRE 1.2.2 185
 Kodak Color Management System 186
 SPARC: Lance Ethernet ドライバ 186
 LDAP クライアントライブラリ 186
 廃止された軽量プロセス (LWP) インタフェース 186
 無名インタフェースグループ機能 186
 Netscape ソフトウェア 187
 netstat の -k オプション 187
 x86: ネットワークデバイス 187
 POSIX スレッド以外の fork() 関数の動作 187
 pam_unix モジュール 188
 PC File Viewer 188
 Perl バージョン 5.005_03 188
 libc の ptrace インタフェース 188
 電源管理入出力制御コマンド 188
 sendmailvars と L sendmail.cf コマンドまたは G sendmail.cf コマンド 189
 ShowMe TV 189
 SPARC: 64 ビットパッケージ 189
 sdtjplay Desktop Java Media Player 190
 Solaris 静的システムライブラリ 191
 Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム 191
 SBus 用シリアルパラレルコントローラ stc(7d) 191
 記憶装置インタフェース 191

sun4m ハードウェア	192
SunFDDI ドライバと SunHSI/S ドライバ	192
Sun Java System Application Server Platform Edition 7.0 (旧 Sun ONE Application Server 7.0 Platform Edition)	192
Sun StorEdge A1000、Sun StorEdge A3000、Sun StorEdge A3500、および Sun StorEdge A3500FC システム	193
テープデバイス	193
トークンリングネットワークドライバ	193
SPARC: 32 ビット Sun4U カーネル	193
Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカード	194
32-bit: X11 静的ライブラリ	194
xutops プリントフィルタ	194
将来のリリースで提供されなくなる予定の製品	194
アジアの短縮 dtlogin 名	194
監査デーモンインタフェース	195
Cfront 実行時サポートライブラリ	195
Configuration Assistant (構成用補助) の fp プラグインハードウェアオプション	195
基本セキュリティーモジュールのデバイス割り当てインタフェース	195
旧式となるデバイスドライバインタフェース (DDI)	196
power.conf の Device Management エントリ	198
デバイスとドライバソフトウェアのサポート	198
FMLI (Form and Menu Language Interpreter)	198
/etc/net/ti* のホストファイル	198
Java 2 Platform, Standard Edition 1.4	198
krb5.conf の Kerberos Ticket Lifetime パラメータ	199
Korean CID フォント	199
UTF-8 でないレガシー (従来の) ロケール	199
CPU パフォーマンスカウンタライブラリ (libcpc) の関数	199
libXinput ライブラリ	201
NIS+ (ネットワーク情報サービスプラス) のネームサービスの種類	201
nstest テストプログラム	201
Perl バージョン 5.6.1	201
Solaris Management Console のパッチツール (パッチマネージャー)	202
Solstice Enterprise Agents	202
スタンドアロンのルーター検出	202
Sun Fire Link インタフェース	202
Sun Java Desktop System アプリケーション	202
トークンリングおよび FDDI デバイスタイプ	203

	WBEM ベースの動的再構成	203
	XIL インタフェース	203
	xetops ユーティリティー	204
	x86: Xsun DDX のモジュール、ライブラリ、および関連ファイル	204
6	マニュアルに関する情報	205
	Software Supplement CD に収録されていたマニュアル	205
	『Solaris のシステム管理 (基本編)』	205
	ディスクリスクライアントの管理 (手順)	205
	『Solaris 10 インストールの手引き』と Solaris 10 インストールガイド	206
	『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』	206
	『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』	206
	『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』	207
	『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart / 上級編)』	207
	『Solaris 10 インストールの手引き』	207
	Solaris 10 のマニュアルとマニュアルページ	207
A	Solaris 10 オペレーティングシステムで統合されたバグの表	209
	解決済みの統合されたバグ	209
B	Solaris 10 オペレーティングシステムのパッチについて	213
	SPARC パッチの一覧	213
	x86 パッチの一覧	236
C	日本語環境に関する情報	257
	日本語環境に関する情報	257
	ユーザー定義文字を扱うコマンドに関する制限事項	257
	「半角／全角」キーが動作しない (6311410)	257

はじめに

本書『Solaris 10 ご使用にあたって』では、インストール時および実行時の問題点について詳細を説明します。本書には、Solaris™ 10 オペレーティングシステムでのソフトウェアのサポート中止に関する情報も含まれています。

注 - このリリースでは、SPARC® および x86 系列のプロセッサアーキテクチャー (UltraSPARC®, SPARC64, AMD64, Pentium, Xeon EM64T) を使用するシステムをサポートします。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List (<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) を参照してください。本書では、プラットフォームにより実装が異なる場合は、それを特記します。

本書では、「x86」という用語は AMD64 あるいは Intel Xeon/Pentium 製品系列と互換性のあるプロセッサを使用して製造された 32 ビットおよび 64 ビットシステムを意味します。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List を参照してください。

対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 10 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

関連マニュアル

Solaris 10 ソフトウェアをインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- Java Desktop System Release 3 Solaris 10 Collection - Japanese
- 『Solaris 10 インストールの手引き』カード
- 『Solaris 10 インストールガイド(基本編)』
- 『Solaris 10 インストールガイド(ネットワークインストール)』
- 『Solaris 10 インストールガイド(Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』
- 『Solaris 10 インストールガイド(カスタム Jump Start/上級編)』
- Solaris 10 System Administrator Collection - Japanese

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、Solaris ソフトウェアのインストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアの製造元から提供される『Solaris Sun ハードウェアマニュアル』などのインストール手順の補足資料を参照してください。

内容の紹介

『Solaris 10 ご使用にあたって』には、現在のリリースまでの Solaris 10 ソフトウェアに適用されるすべての情報がまとめられています。

本書には次の情報が記載されています。

第 1 章では、2005 年 3 月に Solaris 10 がリリースされたあとに、このソフトウェアに適用される問題とバグに関する情報について記載しています。

第 2 章では、インストールまたはアップグレード時に発生する可能性のある問題とバグについて記載しています。この情報は、付録 A の修正済みバグの一覧に含まれていない限り、このあとの Solaris 10 リリースにも適用される場合があります。

第 3 章では、Solaris 10 ソフトウェアの実行中に発生する可能性がある問題とバグについて説明します。この情報は、付録 A の修正済みバグの一覧に含まれていない限り、このあとの Solaris 10 リリースにも適用される場合があります。

第 4 章では、特定のハードウェアシステムに関する問題やその他の情報を提供します。

第 5 章では、Solaris 10 ソフトウェアのすべてのリリースから削除された機能に関する通知を記載しています。この章では、将来の Solaris リリースから削除される可能性がある機能についても記載しています。

第 6 章では、Solaris のマニュアルの問題について説明しています。この章の情報は、特に明記していない限り、将来の Solaris のマニュアルにも適用される場合があります。

付録 A では、Solaris 10 が初めてリリースされたあとに、特定の Solaris 10 リリースで解決されているすべてのバグおよび問題の一覧を記載しています。ここまでの章に記載されている問題のうち、現在の Solaris 10 リリースに適用されなくなった問題を確認するには、この付録を参照してください。

付録 B では、最新の Solaris 10 リリースに適用されるパッチと、それらのパッチによって解決された問題の一覧を記載しています。

付録 C では、日本語環境に関する情報を記載しています。

他社の Web サイト

このマニュアルでは、他社が提供している URL で関連する追加情報を参照します。

注 – このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトや資源上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の素材について Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトや資源上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、次のサービスに関する情報も提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Solaris 10 リリースに対する更新

この章では、2005 年 3 月に Solaris 10 OS がリリースされてから、このソフトウェアに適用された新しい情報について説明します。

Solaris 10 1/06 ソフトウェア

次のバグと問題は、Solaris 10 1/06 ソフトウェアに関するものです。

新しい最小メモリー要件

Solaris 10 1/06 リリース以降のすべての x86 ベースのシステムでは、Solaris ソフトウェアを実行するために 256M バイト以上の RAM が必要になっています。

Solaris リリースのアップグレードサポートの変更

Solaris 10 1/06 リリース以降にアップグレードできるのは、次のリリースの Solaris OS だけです。

- Solaris 8 OS
- Solaris 9 OS
- Solaris 10 OS

Solaris 8 より前のリリースのソフトウェアを Solaris 10 1/06 ソフトウェアにアップグレードする場合は、最初に上記のいずれかのリリースにアップグレードしてください。そのあとに、Solaris 10 1/06 リリースにアップグレードしてください。

Solaris Live Upgrade と Solaris ゾーン

Solaris Live Upgrade を Solaris ゾーンで使用することはできません。Solaris 10 システムに非大域ゾーンをインストールしている場合には、Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 10 1/06 リリースにアップグレードすることはできません。

luupgrade コマンドを使用すると、次のエラー メッセージが表示されます。

```
Unable to upgrade boot environment.
```

回避方法: このようなシステムをアップグレードする場合は、Solaris 対話式インストールプログラムまたはカスタム JumpStart プログラムを使用してください。これらのプログラムは、すべてのパッチと新規パッケージのうち、現在の OS と Solaris 10 1/06 ソフトウェアとの差分を含むものだけを Solaris 10 OS に適用します。また、すべての非大域ゾーンにもパッケージとパッチを適用します。

どちらのプログラムにも制限があります。たとえば、追加のソフトウェア製品またはロケールパッケージをインストールしたり、ディスクレイアウトを変更したりする方法で、アップグレードをカスタマイズすることはできません。これらの制限の詳細については、『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』の「非大域ゾーンをインストールしている場合の Solaris OS のアップグレード」を参照してください。

x86 マシン上のミニルートへのパッチの適用

x86 マシン上のミニルートにパッチを適用する場合に、`-c` ターゲット指定子を指定して `patchadd` を使用する手順が変更されています。変更後の手順では、ミニルートを展開し、パッチを適用してから、ミニルートを再度パッケージ化する必要があります。

詳細な手順については、次のトピックを参照してください。

- 『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 8 章「DVD メディアを使用したネットワークインストールの準備 (作業)」
- 『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 9 章「CD メディアを使用したネットワークインストールの準備 (作業)」

Solaris 10 1/06 リリースのインストールに必要な Solaris Data Encryption Supplement

Solaris 10 1/06 リリースをインストールするときには、このリリースに対応する Solaris Data Encryption Supplement を使用する必要があります。この補助パッケージは、SUNWcry および SUNWcryr パッケージとして配信されます。適切なバージョンの補助パッケージがない場合は、適切なパッチをインストールして補助パッケージをアップグレードしてください。

- パッチ ID 118562-05 以降のリビジョン (SPARC ベースのシステム用)
- パッチ ID 118563-04 以降のリビジョン (x86 ベースのシステム用)

現在の補助パッケージのバージョンを確認するには、`showrev -p` を使用します。

Solaris 10 1/06 リリース用のパッチをインストールするときに必要な追加手順

次のパッチは、CR 6277164 および CR 6214222 で報告されている問題を解決するためのパッチです。

- パッチ ID 119366-05 (SPARC ベースのシステム用)
- パッチ ID 119367-05 (x86 ベースのシステム用)

次の節では、それら報告済みの問題を完全に解決するために必要な追加手順について説明します。

GNOME ディスプレイマネージャーに関する問題の解決 (6277164)

注 - GDM (GNOME ディスプレイマネージャー) をログインプログラムとして使用する前に、または GDM をログインプログラムとしてあらかじめ使用可能にしている場合は、この手順を実行します。それ以外の場合は、この手順は省略してもかまいません。

パッチを適用するときに、GDM 構成ファイルに新しい値を読み込みます。次に、GDM アプリケーションを再起動します。

1. 構成ファイルに新しい値を読み込むために、次のオプションのいずれかを選択します。

- `/etc/X11/gdm/factory-gdm.conf` ファイルを `/etc/X11/gdm/gdm.conf` ファイルにコピーします。

`gdm.conf` ファイルに変更を加えていない場合は、この手順を実行します。この手順のあとに GDM アプリケーションを起動します。

- `factory-gdm.conf` ファイルの差分を `gdm.conf` ファイルに手動でマージします。

`gdm.conf` ファイルに加えた変更を残す場合は、この手順を実行します。

ファイルをマージするときは、次のコマンドの値を `factory-gdm.conf` ファイルから `gdm.conf` ファイルにコピーします。これらのコマンドは、OS のパフォーマンスを最適化します。

- `RebootCommand`

- HaltCommand
- SuspendCommand
- DefaultPath
- RootPath
- GraphicalTheme

2. GDM を再起動するために、次の手順を実行します。

- a. スーパーユーザーになります。
- b. 次のコマンドを実行します。

```
# svcadm disable application/gdm2-login
```

- c. 表示されたコンソールで、Return キーを押してコマンドプロンプトを表示します。
- d. GDM を再起動するために、次のコマンドを実行します。

```
# svcadm enable application/gdm2-login
```

AccessKeyMouseListeners に関する問題の解決 (6214222)

CR 6214222 に報告されている問題をより確実に解決するには、パッチを適用するときには次の手順を実行します。

1. /etc/X11/gdm/modules ディレクトリに変更します。
2. factory-AccessDwellMouseEvents のファイルを AccessDwellMouseEvents にコピーします。
3. factory-AccessKeyMouseEvents のファイルを AccessKeyMouseEvents にコピーします。
4. 前の節で説明した手順を実行して、GDM を再起動します。

x86: ビデオカードが 1 枚しかないシステムで全画面の拡大鏡を設定できない

ビデオカードを 1 枚しか使用していない Solaris 10 システムでは、全画面の拡大鏡を設定することはできません。このような構成の場合には、ダミードライバの設定を定義した別の構成ファイルを使用する必要があります。最初に、Xserver が動作していないことを確認します。そのあとに、次の手順を実行してください。

1. コマンド行セッションにログインします。
 - GNOME ディスプレイマネージャーを使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. スーパーユーザーとしてセッションにログインします。
 - b. プロンプトで、**svcadm disable application/gdm2-login** と入力します。

- c. 再度スーパーユーザーとしてログインします。
- dtlogin を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. dtlogin ウィンドウで、「オプション」をクリックし、「コマンド行ログイン」を選択します。
 - b. スーパーユーザーとしてログインします。
- 2. 新しい xorg.conf ファイルを作成します。

```
# /usr/X11/bin/Xorg -configure
```

ルート (/) ディレクトリに xorg.conf.new が作成されます。

- 3. 新しい構成ファイルを /etc/x11 ディレクトリにコピーし、ファイルの名前を xorg.conf に変更します。

```
# cp /xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf
```

- 4. 次のサンプル構成を使用して、ファイルの構成を変更します。

- 新しいモニターセクションを追加します。

```
Section "Monitor"
    Identifier      "monitor_dummy"
    ModelName       "dummy"
    HorizSync       10-200
    VertRefresh     20-90
EndSection
```

- 新しいデバイスセクションを追加します。

```
Section "Device"
    BoardName       "dummy"
    Driver          "dummy"
    Identifier      "device_dummy"
    VendorName      "dummy"
    videoram        10000
EndSection
```

注 - グラフィックスカードの画面の幅と高さ、および発色数に応じて、videoram 値の調整が必要になる場合があります。値 (K バイト) は、使用する画面に適した大きさにする必要があります。たとえば、幅 * 高さ * bpp/8 という式を使用して値を計算します。

- 新しい画面セクションを追加します。

```
Section "Screen"
    DefaultDepth    24
    SubSection "Display"
        Depth       24
        Modes        "1280x1024"
    EndSubSection
    Device          "device_dummy"
    Identifier      "screen_dummy"
```

```
Monitor      "monitor_dummy"
EndSection
```

注 – 解像度の値は、システムの設定に応じて調整が必要になる場合があります。

5. ServerLayout セクションで次の行を探します。

```
Screen      0  "Screen0" 0 0
```

6. この行の下に、次の行を挿入します。

```
Screen      1  "screen_dummy" RightOf "Screen0"
```

この追加した行により、Screen1 が定義されます。2 番目のダミー画面として、物理的な主画面である Screen0 の論理的に右側に割り当てられます。

7. 変更を保存します。
8. コマンド行セッションからシステムをリブートします。
- GDM を使用する場合は、次の操作を実行します。
 - a. **svcadm enable application/gdm2-login** と入力します。
 - b. システムをリブートします。
 - dtlogin を使用する場合は、システムをリブートし、ログインします。
9. Gnopernicus スクリーンリーダーを起動します。
10. 「起動モード」を「拡大鏡」に変更します。
11. 「設定」をクリックしてから、「拡大鏡」を選択します。
12. 「追加/変更」をクリックします。
13. 「拡大鏡」設定に次の値を割り当てます。
- ソース: 0.1
 - 拡大表示の位置:
 - 左と上部: 0
 - 右と下部: 最大値
14. 「適用」をクリックします。

全画面拡大の画面が上に表示され、Gnopernicus ウィンドウが表示されなくなります。この状態で、全画面拡大を設定することができます。

x86: USB マウスデバイスを拡張デバイスとして GNOME オンスクリーンキーボードと一緒に使用するように設定するときの問題

USB マウスデバイスを拡張デバイスとして、GNOME オンスクリーンキーボード (GOK) と一緒に使用するように設定することはできません。PS2 マウスデバイスを主ポインタとして使用しながら USB マウスデバイスを設定すると、設定に失敗します。USB マウスを適切に設定するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. USB マウスデバイスが接続されていない間に、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
# ls -l /dev/usb/hid*
```

3. USB マウスを接続し、上記のコマンドをもう一度入力します。
4. 画面に表示される USB マウスのパスを書き留めておきます。
5. コマンド行セッションにログインします。

- GNOME ディスプレイマネージャーを使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. スーパーユーザーとしてセッションにログインします。
 - b. プロンプトで、**svcadm disable application/gdm2-login** と入力します。
 - c. 再度スーパーユーザーとしてログインします。
- dtlogin を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. dtlogin ウィンドウで、「オプション」をクリックし、「コマンド行ログイン」を選択します。
 - b. スーパーユーザーとしてログインします。

6. 新しい xorg.conf ファイルを作成します。

```
# /usr/X11/bin/Xorg -configure
```

ルート (/) ディレクトリに xorg.conf.new が作成されます。

7. 新しい構成ファイルを /etc/x11 ディレクトリにコピーし、ファイルの名前を xorg.conf に変更します。

```
# cp /xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf
```

8. このファイルの設定を変更します。

- ServerLayout セクションの InputDevice "Mouse0" "CorePointer" 行の下に、Mouse1 として入力デバイスを追加します。次の例を参照してください。

```
InputDevice      "Mouse0" "CorePointer"  
InputDevice      "Mouse1"
```

- Identifier "Mouse0" 行のある InputDevice セクションで、次の変更を適用します。

- Option "Device" "/dev/mouse" を Option "Device" "/dev/kdmouse" に変更します。
- Option "Protocol" "auto" を Option "Protocol" "VUID" に変更します。
- 次の新しいオプションを追加します。

```
Option      "StreamsModule" "vuid3ps2"
```

変更を適用したあとのセクションは、次の例のようにになっているはずです。

```
Section "InputDevice"
    Identifier "Mouse0"
    Driver     "mouse"
    Option     "Protocol" "VUID"
    Option     "Device"   "/dev/kdmouse"
    Option     "StreamsModule" "vuid3ps2"
EndSection
```

- 上記の InputDevice セクションの下に、新しい InputDevice セクションを作成します。

```
Section "InputDevice"
    Identifier "Mouse1"
    Driver     "mouse"
    Option     "Device"   "/dev/usb/hid1"
EndSection
```

注 - /dev/usb/hid1 は、USB マウスのパスの例です。手順 4 のパスを使用して、/dev/usb/hid1 を置き換えてください。

9. ファイルを保存し、終了します。
10. コマンド行セッションからシステムをリブートします。
 - GDM を使用する場合は、次の操作を実行します。
 - a. **svcadm enable application/gdm2-login** と入力します。
 - b. システムをリブートします。
 - dtlogin を使用する場合は、システムをリブートします。
11. アクセス可能な UI を使用するユーザーのアカウントにログインします。
12. 「起動」メニュー => 「設定」=> 「アクセシビリティ」=> 「支援技術のサポート」の順にクリックして、支援技術のサポートを有効にします。
13. システムからログアウトしてから、アクセス可能な UI を使用するユーザーのアカウントに再度ログインします。
14. 端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。


```
% /usr/sfw/bin/gok --select-action=switch1
```
15. GOK ウィンドウで、「GOK」をクリックし、「設定」を選択します。

16. アクセス可能な UI を使用するユーザーの要件に応じて、GOK を設定します。
GOK を設定せずに現在の設定を受け入れる場合は、「GOK の設定」ウィンドウで「適用」をクリックしてから「了解」をクリックします。
17. GOK を終了してから、「起動」メニュー => 「アプリケーション」 => 「アクセシビリティ」 => 「オンスクリーンキーボード」の順にクリックして GOK を再起動します。次の警告メッセージが表示される場合があります。


```
The device you are using to control GOK is  
also controlling the system pointer.
```
18. 「了解」をクリックします。
19. GOK を終了してから、手順 14 ～ 17 を繰り返します。
警告メッセージは表示されなくなります。

StarSuite パッチアプリケーションに必要な追加手順

次のパッチは、CR 6234855 および CR 6262830 で報告された StarSuite™ の問題を解決するために、Solaris OS に適用されます。

- SPARC ベースのシステムの場合
 - パッチ ID 119412-06
 - パッチ ID 119906-03
- x86 ベースのシステムの場合:
 - パッチ ID 119413-06
 - パッチ ID 119907-03

報告済みの問題を完全に解決するには、これらのパッチを適用したあとに次の手順を実行します。これらの手順を実行すれば、たとえば、StarSuite 7 Product 5 ソフトウェアを使用して、StarSuite 8 ソフトウェアで作成された OpenDocument ファイルを開けるようになります。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを実行します。


```
# update-mime-database /usr/share/mime
```
3. システムからログアウトしてから、再度ログインします。

SPARC: Sun Blade 1500 ワークステーションでアップグレードがハングアップする (6363365)

DVD メディアからインストールまたはアップグレードしている場合、Solaris 10 1/06 ソフトウェアへのアップグレードがハングアップすることがあります。この問題は、JLMS DVD ドライブが搭載されている特定の Sun Blade™ 1500 ワークステーションで発生します。このエラーは、次のインストール方法のいずれかを使用するときに発生します。

- Solaris 対話型インストールプログラム
- Solaris Live Upgrade

システムがハングアップしても、エラーメッセージは表示されません。

回避方法: このようなシステムをアップグレードするときは、ネットワークインストールイメージを使用してください。

x86: BIOS デバイスのユーティリティーに障害が発生すると、インストールまたはアップグレードを完了できない (6362108)

特定の状況において、BIOS デバイスのユーティリティー (/sbin/biosdev) に障害が発生し、インストールまたはアップグレードが正常に行われなくなることがあります。このエラーは、次のいずれかの状況で発生する可能性があります。

- パッチ ID 117435-02 を適用したが、システムをリブートしなかった。
- システムに、同一の fdisk パーティションを持つ複数の同一ディスクがある。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
biosdev: Could not match any!!
```

回避方法: パッチ ID 117435-02 を適用したあとは、必ずシステムをリブートしてください。インストールまたはアップグレードに使用される同一のディスクが、異なる fdisk パーティションレイアウトで構成されていることを確認してください。

次の例で使用するシステムには、同じ fdisk パーティションレイアウトで構成される 2 つのディスクが含まれています。これらのレイアウトを変更するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. ディスク管理ユーティリティーを起動します。

```
# format
```

システム上で使用できるディスクのリストが表示されます。

3. fdisk パーティションを変更するディスクを選択するために、ディスクの番号を入力します。
4. 「Format」オプションのリストから、「fdisk」を選択します。
ディスクのパーティション情報と fdisk オプションのリストが表示されます。
5. ディスクのレイアウトを変更するために、次のいずれかの方法を選択します。
 - 別のアクティブパーティションを指定する場合は、2 を押します。
 - 別のディスクパーティションを追加する場合は、1 を押します。
 - 未使用のパーティションを削除する場合は、3 を押します。
6. 変更を保存して fdisk メニューを終了するには、5 を押します。

7. ディスク管理ユーティリティを終了するには、「Format」オプションから「Quit」を選択します。
8. システムをリブートします。
9. システムをリブートしたあとに、エラーメッセージが表示されなくなったことを確認します。スーパーユーザーとして、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/biosdev
```

それでもエラーメッセージが生成される場合は、前記の手順を繰り返します。ただし、手順 5 では別のオプションを選択してください。

10. 同一の fdisk パーティションレイアウトを持つ同一のディスクがほかにもシステムに含まれている場合は、それらのディスクに対して手順 1～9 を繰り返します。そのようなディスクがない場合は、Solaris のインストールまたはアップグレードを続行できます。

ゾーンが含まれるシステムをアップグレードしたあとに、ロケールの問題が発生する (6361672)

GUI ベースのインストールプログラムを使用してゾーンが含まれるシステムをアップグレードすると、ロケールの問題が発生します。インストールしたあとに、`/etc/default/init` ファイルの `LANG` 変数が `null` に設定されます。いずれかのシステムコマンドを実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
couldn't set locale correctly
```

回避方法: スーパーユーザーとして、次の回避方法のいずれかを選択します。

- 回避方法 1: システムのアップグレードがすでに完了している場合は、`/etc/default/init` ファイルを手動で編集して、正しい `LANG` 変数および `LC_*` 変数を設定してください。そのあとで、システムをリブートします。
詳細な説明と例については、`locale(1)` のマニュアルページを参照してください。
- 回避方法 2: テキストベースのインストールプログラムを使用して、システムをアップグレードします。次の手順のうち、使用しているシステムに適した手順を実行してください。
 - SPARC システムの場合は、`boot` コマンドと一緒に `text` フラグを使用します。たとえば、CD メディアを使用してソフトウェアをインストールする場合は、次のコマンドを実行します。

```
ok boot cdrom - text
```

- x86 システムの場合は、インストール選択画面で「3 Solaris Interactive Text (Desktop session)」を選択します。

詳細については、Solaris 10 インストールガイドを参照してください。

完全ルートゾーン、ディスクレスクライアント、 および Solaris Live Upgrade に関するインストール 後の問題 (6358227)

SUNWgnome-ally_libs-share パッケージを追加しているときに、インストール後プロセスで問題が発生することがあります。この問題は、次の状況に影響します。

- 非大域ゾーンを使用し、かつ完全ルートゾーンを設定する
 - Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 8 または Solaris 9 リリースからアップグレードする
 - Solaris 10 1/06 リリースからディスクレスクライアントを設定する
1. 非大域ゾーンを使用し、かつ完全ルートゾーンを設定した場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
# zoneadm -z wholerootzone install
```

```
Installation of these packages generated warnings:
<SUNWgnome-ally_libs-share>
The file
</export/home/wholerootzone/root/var/sadm/system/logs/install_log>
contains a log of the zone installation
.
#
```

install_log に、次のエラーが報告されます。

```
*** package <SUNWgnome-ally_libs-share> installed with warnings:
```

```
cp: cannot access ../../../../share/jar/gnome-java-bridge.jar
pkgadd: ERROR: postinstall script did not complete successfully
```

```
Installation of <SUNWgnome-ally_libs-share> on zone <wholerootzone>
partially failed.
```

2. Solaris 8 または Solaris 9 リリースから Solaris Live Upgrade を使用してアップグレードする場合、upgrade_log から次のエラーが報告されます。

```
Doing pkgadd of SUNWgnome-ally_libs-share to /.
15360 blocks
/a/var/sadm/pkg/SUNWgnome-ally_libs-share/install/postinstall:
/sbin/zonename: not found
Installation of <SUNWgnome-ally_libs-share> was successful.
```

3. Solaris 10 1/06 リリースにディスクレスクライアントサービスを設定した場合に、そのシステムの /var/sadm/system/logs にあるログファイルに次のエラーが報告されます。

```
Doing pkgadd of SUNWgnome-ally_libs-share to /export/Solaris_10.
15360 blocks
/export/Solaris_10/var/sadm/pkg
/SUNWgnome-ally_libs-share/install/postinstall:
/export/Solaris_10/usr/java/jre/lib: does not exist
pkgadd: ERROR: postinstall script did not complete successfully
```

```
Installation of <SUNWgnome-ally-libs-share> failed.  
pkgadd return code = 1
```

回避方法: 3 つのすべての状況で、エラーメッセージを無視してください。

x86: ドライバ更新を追加したときに、ネットワーク構成に失敗することがある (6353146)

インストール時更新 (ITU) としても知られる、ドライバ更新 (DU) を追加しているとき、Solaris 10 OS のインストールに失敗することがあります。このエラーは、GUI を使用して Solaris 10 ソフトウェアをインストールする場合に発生します。次のメッセージが表示されます。

```
Unable to run cmd: /usr/sbin/sysidput
```

回避方法: 次のいずれかの回避方法を使用してください。

- 回避方法 1: DHCP を使用してネットワーク構成情報を収集するように、インストールを設定します。
- 回避方法 2: テキストベースのインストール方式を使用します。
 - デスクトップセッションでテキストベースのインストールを実行する場合は、次の手順を実行します。
 1. ITU の追加が終了したあとに、**e** と入力する代わりに Ctrl + C キーを入力します。
 2. オプション 3 を選択します。
 - インストール時にシリアルコンソールを使用するように指定する場合は、次の手順を実行します。
 1. ITU の追加が終了したあとに、**e** と入力する代わりに Ctrl + C キーを入力します。
 2. オプション 4 を選択します。

サイズの大きなディスクの場合に、mkfs コマンドを使用してファイルシステムを作成できないことがある (6352813)

ディスクジオメトリによっては、8G バイトより大きなサイズのディスク上に mkfs コマンドを使用してファイルシステムを作成できないことがあります。生成されるシリンドラグループのサイズは、1K バイトのフラグメントを使用するには大きすぎます。シリンドラグループのサイズが大きいため、メタデータのサイズが大きくなり、1 ブロックに収めることができません。

次のエラーメッセージが表示されます。

With 15625 sectors per cylinder, minimum cylinders
per group is 16. This requires the fragment size to be
changed from 1024 to 4096.
Please re-run mkfs with corrected parameters.

回避方法: 代わりに、newfs コマンドを使用してください。または、mkfs コマンドを使用するときに、4096 などのより大きなフラグメントサイズを割り当ててください。

x86: 設定されている時間によっては、キーの組み合わせを使用して Sun Java Desktop System のユーザー補助機能を開始できないことがある (6351923)

Sun Java™ Desktop System (Java DS) で AT キーボードを使用して次のユーザー補助機能を開始すると、問題が発生することがあります。デフォルトの時間設定でキーの組み合わせを使用した場合に、これらの機能の開始に失敗することがあります。

- GNOME オンスクリーンキーボード (GOK)
- 拡大鏡
- 音声

回避方法: このキーボードを使用してログイン時にこれらの機能を開始する場合には、次の手順を実行してください。

1. /etc/X11/gdm/modules/AccessKeyMouseEvents ファイルを開きます。
2. キーストローク入力のデフォルトの最小時間および最大時間を定義する行に移動します。

たとえば、GOK の場合は、次のような行です。

```
Controlk 1 1000 10000 gok --login --access-method=directselection
```

3. 次の手順を実行して行を変更します。
 - a. 最小時間と最大時間の設定を変更します。
 - b. GOK のパスを /usr/sfw/bin/gok として正しく設定していることを確認します。

変更が完了したあとの行は、次のようになっているはずです。

```
Controlk 1 10 100 /usr/sfw/bin/gok --login --access-method=directselection
```

Generic LAN Driver Version 3 で Logical Link Control フレームのフィールド長の設定に失敗する (6350869)

Generic LAN Driver Version 3 (GLDv3) では、LLC (Logical Link Control) フレームのフィールド長が正しく設定されません。結果として、LLC に依存する AppleTalk などのプロトコルが正しく機能しません。エラーメッセージは表示されません。この問題は、次のネットワークインタフェースコントローラに影響します。

- bge
- e1000g
- xge

回避方法: ありません。

x86: Solaris 10 1/06 ソフトウェアインストール時の端末タイプの選択に関する問題 (6350819)

Solaris 対話式インストールプログラムを使用してインストールするときに、端末のタイプの設定画面でエラーが発生します。このプログラムは、入力された最初の文字をすぐに受け入れて、インストールを続行してしまいます。このため、複数の文字を入力する必要があるオプションを選択することができません。誤って文字を1つ入力しただけでも、インストールプログラムはすぐにその文字を受け入れてしまうので、残りのインストールはエラーになります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: インストールを通常どおりに開始します。インストールタイプの入力を求める画面で、入力制限時間の 30 秒以内にインストールタイプを選択します。後続の画面での端末タイプの選択は、適切に動作するはずです。

localeadm コマンドを使用して地域を追加できない (6350486)

localeadm コマンドで地域を追加する機能は、新しい構成ファイルを作成した場合には動作しません。次の地域を追加するときに、LANGUAGES CD が検出されません。

- 南ヨーロッパ
- 北アメリカ
- 北欧

次のエラーメッセージが表示されます。

```
No langcd image has been found in
/cdrom/sol_10_1005_x86_4/Solaris_10/Product
```

```
No langcd image has been found in
/cdrom/sol_10_1005_x86_4 /cdrom/sol_10_1005_x86_4
/cdrom/sol_10_1005_x86_4
/cdrom/sol_10_1005_x86_4
/cdrom/sol_10_1005_x86_4
```

```
Please enter the path to this image/disk, or enter 'q' to quit:
```

回避方法: 新しい構成ファイルの作成を求められたら、「いいえ」を選択してください。代わりに、システムにインストールされている構成ファイルを使用してください。

x86: 複数の CPU を使用するシステムが、インストールまたはシステムのブート時にハングアップすることがある (6348316)

複数の CPU を使用するシステムに Solaris 10 1/06 ソフトウェアをインストールすると、システムがハングアップすることがあります。このエラーは、次のいずれかの状態で発生することがあります。

- インストール時に、システムコンソールに「Configuring devices」というメッセージが表示されるとき
- システムのブート時に、Sun の著作権メッセージと「Use is subject to license terms」というメッセージが表示されるとき

回避方法: GRUB (GRand Unified Bootloader) メニューから次の手順を実行してください。

1. 選択した Solaris エントリを編集するために、**e** と入力します。
2. `kernel` で始まる行に移動します。
3. **e** と入力して、GRUB 編集モードに切り替えます。
4. この行に **-kd** を追加します。
5. Enter キーを押して変更を適用します。
6. **b** と入力して、選択した Solaris エントリをブートします。
7. `kmdb` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
use_mp/W 0 :c
```

8. システムブートを実行する場合は、手順 10 に進んでください。システムブートを実行しない場合は、Solaris 10 1/06 ソフトウェアをインストールしてください。
9. インストールの終了時に、システムをリブートします。システムが再度ハングアップする場合は、手順 1～7 を繰り返します。
10. システムのブートが完了したら、スーパーユーザーになります。
11. `/etc/system` ファイルを開きます。
12. 次の行を追加します。

```
set use_mp = 0
```

13. 変更を適用するために、システムをリブートします。

SPARC: 64 ビットオブジェクトの処理中の dbx デバッガに関する問題 (6347707)

一部の 64 ビット実行可能ファイルおよび 64 ビットライブラリの処理中に、dbx デバッガがメモリアクセスエラーで終了することがあります。ただし、これらの 64 ビットオブジェクトの通常の使用には影響ありません。次のようなエラーメッセージが表示されます。

dbx: internal error: signal SIGBUS (invalid address alignment)

回避方法: 代わりに、mdb デバッガまたは Solaris 動的トレース機能を使用してください。これらのツールには、64 ビットオブジェクトを使用するプロセスを診断する機能があります。

x86: ブルガリア語のロケールでロシア語の文字のマッピングが使用される (6346843)

Solaris ソフトウェアのキーボード入力の場合、ブルガリア語のロケールでは正規のブルガリア語キーボード配列の代わりにロシア語の文字のマッピングが使用されます。ユーザーはブルガリア語のキーボード配列を使用してキリル文字を入力できないため、代わりに英語の文字のマッピングを使用して入力するしか方法はありません。

回避方法: ありません。

小さなスライスにファイルシステムを作成できないことがある (6346510)

次の状況のときに、newfs コマンドを使って UFS ファイルシステムを作成しようとすると、失敗することがあります。

- スライスのサイズが小さい (約 4M バイト未満)。
- ディスクのサイズが 8G バイトを超えている。

このエラーは、メタデータのために大きなサイズのファイルシステムが必要な場合に発生します。次の警告メッセージが表示されます。

```
Warning: inode blocks/cyl group (295) >= data blocks (294) in last
        cylinder group. This implies 4712 sector(s) cannot be allocated.
/dev/rdsk/c0t0d0s6:      0 sectors in 0 cylinders of 48 tracks, 128 sectors
                        0.0MB in 0 cyl groups (13 c/g, 39.00MB/g, 18624 i/g)
super-block backups (for fsck -F ufs -o b=#) at:
#
```

回避方法: スーパーユーザーとして、次の回避方法のいずれかを実行します。

- 回避方法 1: newfs コマンドを使用するときに、トラック数を指定します。次の手順を実行します。

1. format コマンドを使用して、割り当てるトラック数を調べます。次に例を示します。

```
# format

Searching for disks...done
AVAILABLE DISK SELECTIONS:
    0. c0t0d0 <SUN18G cyl 7506 alt 2 hd 19 sec 248>
       /pci@1f,4000/scsi@3/sd@0,0
Specify disk (enter its number):
```

この例では、トラック数は 19 です。

2. `newfs` コマンドを使ってファイルシステムを作成するときに、この数を割り当てます。次に例を示します。

```
# newfs -v -t 19 /dev/dsk/c0t0d0s6

newfs: construct a new file system /dev/dsk/c0t0d0s6: (y/n)? y
mkfs -F ufs /dev/dsk/c0t0d0s6 4712 -1 19 8192 1024 16 10 167 2048
t 0 -1 8 128 n
mkfs: bad value for nsect: -1 must be between 1 and 32768
mkfs: nsect reset to default 32
Warning: 152 sector(s) in last cylinder unallocated
/dev/dsk/c0t0d0s6:      4712 sectors in 8 cylinders of 19 tracks,
      32 sectors
      2.3MB in 1 cyl groups (16 c/g, 4.75MB/g, 2304 i/g)
super-block backups (for fsck -F ufs -o b=#) at:
      32,
#
```

- 回避方法 2: `newfs` コマンドに `i` ノード当たりのバイト数 (`nbpi`) を指定して、ファイルシステムの `i` ノード密度を小さくします。次に例を示します。

```
# newfs -i 4096 /dev/dsk/c0t0d0s6

newfs: construct a new file system /dev/dsk/c0t0d0s6: (y/n)? y
Warning: 1432 sector(s) in last cylinder unallocated
/dev/dsk/c0t0d0s6:      4712 sectors in 1 cylinders of 48 tracks,
      128 sectors
      2.3MB in 1 cyl groups (16 c/g, 48.00MB/g, 11648 i/g)
super-block backups (for fsck -F ufs -o b=#) at:
      32,
#
```

ファイルシステムの容量がいっぱいになっている NFSv4 クライアントで、書き込みエラーが検出されない (6346204)

NFSv4 クライアントのファイルシステムの容量がほとんどいっぱいになっている場合に、サーバーから返されるエラーコードが正しく処理されません。クライアントは、正しいエラーコード (`NFS4ERR_NOSPC`) をサーバーから受け取ります。しかし、このクライアントは、エラーコード (`ENOSPC`) をアプリケーションに転送することができません。アプリケーションは、`write()`、`close()`、または `fsync()` などの通常のシステム関数からエラー通知を受け取りません。このため、アプリケーションでデータの書き込みや変更を続けていくと、データが失われたり破壊したりする可能性があります。

次のエラーメッセージが `/var/adm/messages` に記録されます。

```
nfs: [ID 174370 kern.notice] NFS write error on host hostname
```

```
:  
No space left on device.  
nfs: [ID 942943 kern.notice] File: userid=uid, groupid=  
gid  
nfs: [ID 983240 kern.notice] User: userid=uid, groupid=  
gid  
nfs: [ID 702911 kern.notice] (file handle: 86007000 2000000 a000000 6000000  
32362e48 a000000 2000000 5c8fa257)
```

回避方法: ファイルシステムの容量がほとんどいっぱいになっているクライアントシステムでは、作業を行わないでください。

x86: GRUB (GRand Unified Bootloader) メニューが含まれる Solaris Live Upgrade ブート環境を削除できない (6341350)

Solaris Live Upgrade を使用してブート環境を作成するときには、システムのいずれかのブート環境で GRUB (GRand Unified Bootloader) メニューを運用します。このブート環境は、`ludelete` コマンドを使っても削除できません。

このブート環境を削除しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: The boot environment name-of-boot-environment contains the GRUB menu.  
ERROR: You are not allowed to delete this BE.  
Unable to delete boot environment.
```

回避方法: `lumake` コマンドまたは `luupgrade` コマンドを使用して、このブート環境を再利用してください。GRUB メニューを含むブート環境は、最後に削除するブート環境にします。

注 - Solaris Live Upgrade では、最後のブート環境を削除することはできません。また、GRUB メニューが含まれるブート環境を削除することもできません。ただし、最後のブート環境に GRUB メニューが含まれている場合でも、他のすべてのブート環境については必要に応じて削除できます。

Ctrl + Esc キーを使って起動メニューを開くことができない (6340714)

2 つの仮想または物理ビデオデバイスを使って拡大鏡を次のように設定すると、問題が発生します。

- 拡大鏡のソース設定: 0.1
- 拡大鏡のターゲット設定: 0.0

この設定では、Ctrl + Esc というキーの組み合わせを使用して、拡大された 2 番目のデスクトップシステムで起動メニューを開くことはできません。

回避方法: ありません。

x86: CD メディアまたは DVD メディアを使用して Solaris Live Upgrade ブート環境をアップグレードするときに、エラーが発生する (6336069)

Solaris Live Upgrade ブート環境をアップグレードするときに CD メディアまたは DVD メディアを使用すると、アップグレードに失敗します。luupgrade コマンドはそれらのインストールメディアを検出できません。ネットワークインストールイメージは、この問題の影響を受けません。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: The media is not recognized installation media media_drive
```

.

回避方法: メディアをマウントしてから、アップグレードを再開してください。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリューム管理デーモンを停止します。

```
# pkill vold
```
3. CD または DVD を手動でマウントします。
4. luupgrade コマンドを使用して、ブート環境をもう一度アップグレードします。

x86: UTF-8 ロケールを使用するときの dtlogin に関する問題 (6334517)

x86 ベースのシステムを Solaris 9 9/04 リリースから Solaris 10 ソフトウェアのいずれかのリリースにアップグレードする場合に、ログインプログラムが動作しないことがあります。dtlogin の GUI で UTF-8 ロケールを選択するときに、問題が発生します。エラーが発生すると、コアダンプが生成されます。

回避方法: 「オプション」の「言語」プルダウンメニューから UTF-8 ロケールを選択しないでください。

e1000g Ethernet ドライバをアンロードするとシステムパニックが発生することがある (6333461)

e1000g Ethernet ドライバをアンロードしているときに、一部の tx Direct Memory Access バッファハンドラ (tx DMA) が完全に解放されないことがあります。このような状況になると、システムパニックが発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
panic[cpu0]/thread=d63f4de0: assertion failed: !dma->dp_inuse, file:
../i86pc/io/rootnex.c, line: 1903
```

```
d63f4b64 genunix:assfail+5c (feab4358, feab433c,)
d63f4b8c rootnex:rootnex_dma_freehdl+8a (cefd7e48, cf287730,)
d63f4bac genunix:ddi_dma_freehdl+1e (cf287730, cf287730,)
d63f4bc8 genunix:ddi_dma_free_handle+16 (ca7e3000)
d63f4be0 e1000g:e1000g_release_dma_resources+105 (c890d1c0)
d63f4bf8 e1000g:e1000g_unattach+9d (cf287730, c890d1c0)
d63f4c14 e1000g:e1000gdetach+56 (cf287730, 0)
d63f4c54 genunix:devi_detach+86 (cf287730, 0)
d63f4c74 genunix:detach_node+6d (cf287730, 2000)
d63f4ca0 genunix:i_ndi_unconfig_node+10b (cf287730, 4, 2000)
d63f4cd4 genunix:i_ddi_detachchild+36 (cf287730, 2000)
d63f4d04 genunix:devi_detach_node+61 (cf287730, 2000)
d63f4d3c genunix:unconfig_immediate_children+238 (cefd7728, 0, 2000, )
d63f4d74 genunix:devi_unconfig_common+f5 (cefd7728, 0, 2000, )
d63f4dc8 genunix:mt_config_thread+9b (d1a54008, 0)
d63f4dd8 unix:thread_start+8 ()
```

回避方法: ありません。

x86: インストール時の無効な /sbin/dhccpinfo エラー (6332044)

x86 ベースのシステムに Solaris 10 1/06 リリースをインストールすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
/sbin/dhccpinfo: primary interface requested but no primary interface is set
```

このエラーはインストールには影響がなく、インストールは成功します。

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。

x86: Solaris 10 1/06 リリースへのアップグレード時に、Agilent Fibre Channel HBA Driver パッケージの削除に失敗する (6330840)

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 8 2/02 リリースから Solaris 10 1/06 リリースにアップグレードする場合に、Agilent Fibre Channel HBA Driver パッケージ (HPFC) の削除に失敗します。次のようなエラーメッセージが `upgrade_log` ファイルに記録されます。

```
Removing package HPFC:
Modifying /a/kernel/drv/sd.conf
cmdexec: ERROR: unable to open
/a/var/sadm/pkg/HPFC/save/sed/kernel/drv/sd.conf
pkgrm: ERROR: class action script did not complete successfully
```

```
Removal of partially failed.
pkgrm return code = 2
```

The upgrade succeeds, but two instances of the HPFC package are included on the system.

回避方法: 次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. HPFC パッケージの次のインスタンスを削除します。

```
# pkgrm HPFC
# pkgrm HPFC.2
```

3. Solaris 10 1/06 OS DVD を DVD-ROM ドライブに挿入します。
4. ディレクトリを、HPFC パッケージを含むディレクトリに変更します。

```
# cd /cdrom/Solaris_10/Product
```

5. HPFC パッケージをシステムに追加します。

```
# pkgadd -d `pwd` HPFC
```

SPARC: GNOME オンスクリーンキーボードを使用して設定するときの問題 (6329929)

ソフトウェアの問題によって、2 つめのマウスデバイスや USB ヘッドトラッカなどの拡張デバイスを GNOME オンスクリーンキーボード (GOK) と一緒に使用するとき問題が起こります。このため、GOK を使用してユーザー設定の「留めて選択」および「直接選択」を設定できません。代わりに、物理的なキーボードとマウスデバイスを使用して、これらのユーザー設定を設定する必要があります。

回避方法: 拡張デバイスを使用するようにシステムを設定したあとで、次の手順をこの順番で実行してください。

最初に、主マウスデバイスが主ポインタを制御するように、GOK を設定します。その他の拡張デバイスは、AT アプリケーションのために予約されます。GOK をはじめて起動するときに、次の手順を実行してください。

1. GOK を起動します。
2. スティックキーを有効にしているウィンドウで、Enter キーを押します。
3. 主ポインタモードの使用を求めるウィンドウで、矢印キーを使用して「取消し」を強調表示してから、Enter キーを押します。
4. ユーザー設定を設定するために、GOK をクリックし、「設定」を選択します。
5. 「留めて選択」または「直接選択」を設定します。
 - 「留めて選択」を設定する場合は、次の手順を実行します。
 - a. 「アクセスメソッド」タブをクリックします。
 - b. 「手段」ドロップダウンメニューから「留めて選択」を選択します。
 - c. 「アクション」タブをクリックし、次の手順を実行します。
 - 「名前」ドロップダウンメニューから「Dwell」を選択します。
 - 「挙動」で「留まった時に有効にする」が選択されていることを確認します。
 - 「イベントのソース」で「その他の入力デバイス」が選択されていることを確認します。
 - d. 「適用」をクリックします。
 - e. 「アクション」タブで、次の手順を実行します。
 - 「名前」ドロップダウンメニューから「マウスのカーソル」を選択します。
 - 「挙動」で「入った時に有効にする」が選択されていることを確認します。
 - f. 「適用」をクリックしてから「了解」をクリックします。
 - g. GOK ウィンドウを終了します。
 - h. ログアウトしてから、再度ログインします。
 - 「直接選択」を設定する場合は、次の手順を実行します。
 - a. 「アクセスメソッド」タブをクリックします。
 - b. 「手段」ドロップダウンメニューから「直接選択」を選択します。
 - c. 「活性化」ドロップダウンメニューから、2 番目のマウスでマウスボタン 1 を使用するように「切り替え 1」を選択します。
 - d. 「適用」をクリックしてから「了解」をクリックします。
 - e. GOK ウィンドウを終了します。
 - f. ログアウトしてから、再度ログインします。

SPARC: Solaris OS DVD からシステムブートするときにロードキーの警告が表示される (6329642)

Solaris OS DVD からシステムをブートして Solaris ソフトウェアをインストールするときに、次の警告が表示されます。

```
/sbin/install-discovery: /usr/bin/loadkeys: not found
```

このため、自動検出されたキーボードのキーボードマッピングは、ブートプロセス時には自動的に読み込まれません。

回避方法: ありません。この警告メッセージは無視してください。キーボードマッピングがなくても、Solaris ソフトウェアのインストールは続行できます。キーボードマッピングは、インストールの完了後にシステムをリブートするときに自動的に設定されます。

SPARC: Sun Expert3D および Sun Elite3D ハードウェアの電源管理システムが動作しない環境がある (6321362)

Sun Blade™ 1000 または Sun Blade 2000 ワークステーションの Sun Expert3D または Sun Elite3D カードは通常、アイドル期間が経過したあとに低電力モードに切り替わります。ただし、これらのカードが Xserver の主ヘッドとして設定されている場合には、電源管理システムは動作しません。関係するカードは通常電力のまま動作し、電力は節約されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: ありません。

セルビア語のロケールでロシア語の文字のマップが使用される (6314583)

Solaris ソフトウェアのキーボード入力の場合、セルビア語のロケールでは正規のセルビア語キーボード配列の代わりにロシア語の文字のマップが使用されます。ユーザーはセルビア語のキーボード配列を使用してキリル文字を入力できないため、代わりに英語の文字のマップを使用して入力するしか方法はありません。

回避方法: ありません。

SPARC: 動的再構成の実行中にエラーメッセージが表示される (6312424)

動的再構成 (DR) の実行中に、エラーメッセージが表示されることがあります。DR パスに含まれるデバイスで入出力処理がアクティブな状態のときに、DR を実行すると、メッセージが表示されます。メッセージが表示されたあとに、入出力処理が再試行され、最終的には成功します。表示されるメッセージの例を次に示します。

```
Jul 28 12:23:19 game10-a scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:
/ssm@0,0/pci@19,700000/SUNW,qlc@2,1/fp@0,0/ssd@w2100000c5056fa13,0 (ssd6):
Jul 28 12:23:19 game10-a      transport rejected fatal error
Jul 28 12:22:08 game10-a scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:
/ssm@0,0/pci@19,700000/SUNW,qlc@2,1/fp@0,0/ssd@w2100000c5056f9a7,0 (ssd36):
Jul 28 12:22:08 game10-a      SCSI transport failed: reason 'timeout':
retrying command
```

回避方法: ありません。このエラーメッセージは無視してください。

Solaris OS へのシンボリックリンクが変更されると、SUNWceuow パッケージが適切にアップグレードされない (6303564)

SUNWceuow パッケージは、次の状況のときに適切にアップグレードされないことがあります。

- Solaris 10 OS が稼働しているシステムに、SUNWceuow パッケージがインストールされている。
- システムを Solaris 10 1/06 リリースにアップグレードする。

このエラーは、使用するアップグレード方式に関係なく発生します。

アップグレードの終了後に、次のログが `/var/sadm/system/logs` に報告されています。

```
# grep SUNWceuow up*log
Doing pkgadd of SUNWceuow to /.
Installation of <SUNWceuow> was successful.
```

それにもかかわらず、`pkgchk` コマンドを使用して SUNWceuow が正しくインストールされているかどうかを確認すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
# pkgchk SUNWceuow
ERROR: /usr/openwin/lib/locale/cs_CZ.UTF-8/app-defaults/XTerm
pathname does not exist
```

回避方法: OS がアップグレードされたあとで、SUNWceuow パッケージを削除してから、パッケージを再インストールしてください。

```
# pkgrm SUNWceuow
# pkgadd SUNWceuow
```

SPARC: ストレージエリアネットワークに含まれるサーバー上のリンクを再初期化すると、すべてのサーバー上の論理ユニット番号がリセットされる (6301627)

luxadm -e forcelp コマンドを実行すると、1 つのサーバー上のリンクが再初期化されますが、ストレージエリアネットワーク (SAN) に含まれるすべてのサーバー上の論理ユニット番号 (LUN) もリセットされます。次のようなエラーメッセージが、同じ SAN 環境のゾーンに含まれる 1 つまたは複数のサーバーのコンソールに表示されます。

```
Aug 16 13:34:07 ontario-a last message repeated 5 times
Aug 16 13:34:07 ontario-a scsi_vhci: [ID 734749 kern.warning] WARNING:
vhci_scsi_reset 0x0
```

回避方法: ありません。このエラーメッセージは無視してください。

x86: dtremote を使用すると GNOME アプリケーションが失敗する (6278039)

リモートログインして gnome-at-properties のアクセシビリティを有効にすると、GNOME アプリケーションは起動しません。GNOME アプリケーションを起動しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
** ERROR **: Accessibility app error:
exception during registry activation from id:
IDL:Bonobo/GeneralError:1.0
aborting...
```

回避方法: ありません。dtremote を使用してログインするときには、アクセシビリティを有効にしないでください。

アクセシビリティが無効になっているデフォルトのデスクトップ設定に戻すには、GNOME セッションを閉じます。次のコマンドを実行します。

```
% gnome-cleanup
```

全画面の拡大鏡とキーボードのアクセシビリティ機能が動作しない (6273030)

Java Desktop System ソフトウェアでは、次の機能を設定できません。

- 全画面の拡大鏡
- キーボードのアクセシビリティ機能

回避方法: 次の手順を実行します。

1. /etc/X11/gdm/gdm.conf ファイルを開きます。
2. システムのプラットフォームに応じて、次の手順を実行してください。

■ SPARC ベースのシステム:

- a. ファイル内で次の文字列で始まる行を探します。

```
command=/usr/openwin/bin/Xsun
```

- b. この行に次の変更を追加します。

```
+kb +accessx -dev framebuffer1 -dev  
framebuffer2
```

次に例を示します。

```
+kb +accessx -dev /dev/fbs/pfb1 -dev /dev/fbs/pfb0
```

■ x86 ベースのシステム:

- a. ファイル内で次の文字列で始まる行を探します。

```
command=/usr/X11R6/bin/Xorg
```

- b. この行に次の変更を追加します。

```
+kb +accessx
```

x86: CD メディアからインストールしてリブートを 選択したあとに、ハングアップしているように見える (6270371)

CD メディアを使用して Solaris インストールプログラムを実行しているときに、問題が発生することがあります。Solaris 10 1/06 SOFTWARE CD - 4 から Solaris ソフトウェアをインストールしたあとに、次のプロンプトが表示されます。

```
Press Reboot now to continue.
```

「Reboot」を押しても、システムが応答しない場合があります。インストールは成功します。ただし、このエラーにより、インストールプログラムが正常に終了しません。つまり、標準のインストール後クリーンアップとシステムリブートを実行することができません。

次の例のようなエラーメッセージが、/tmp/disk0_install.log ファイルに記録されます。

```
Exception in thread "Thread-70" java.lang.IndexOutOfBoundsException:  
Index: 6, Size: 5  
    at java.util.ArrayList.add(ArrayList.java:369)  
    at  
com.sun.wizards.core.WizardTreeManager.  
actualExitButtonPressed(WizardTreeManager.java:1499)  
    at  
com.sun.wizards.core.WizardTreeManager.
```

```
exitButtonPressed(WizardTreeManager.java:1486)
    at
com.sun.wizards.core.AutonextController.
run(AutonextController.java:736)
    at
java.lang.Thread.run(Thread.java:595)
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 回避方法 1: 次の手順を実行します。
 1. システムをシャットダウンしてから、電源を再投入します。
 2. システムが起動したあとに CD を要求されたら、適切な CD を挿入します。CD が挿入されても、追加のソフトウェアはインストールされません。すぐに、通常のリブートが実行されます。
- 回避方法 2: 次の手順を実行します。
 1. 端末ウィンドウを開きます。
 2. スーパーユーザーとしてログインします。
 3. .instsuccess ファイルへのアクセスを作成または変更します。

```
# touch /tmp/.instsuccess
```

4. Java プロセスを停止します。

```
# pkill -9 java
```

CD メディアが要求されないまま、システムがリブートします。

ゾーン用のパッチを削除したあとに pkgchk を実行すると、エラーメッセージが表示される (6267966)

patchadd コマンドと patchrm コマンドは、ファイルシステムを継承した非大域ゾーンでは適切に動作しません。この結果、次の状況のときにこれらのゾーンで pkgchk コマンドを実行すると、パッケージに関するエラーメッセージが生成されることがあります。

1. 大域ゾーンで patchadd コマンドを使用して、Solaris 10 ゾーンシステムにパッチを適用します。
2. patchrm コマンドを使用して、適用したパッチを削除します。
3. ファイルシステムを継承した非大域ゾーンで、削除したパッチに含まれるパッケージに関する情報について pkgchk コマンドを使って確認します。

上記の状況のときに、SUNWcsu に対して pkgchk コマンドを使用すると、次のようなメッセージが表示されます。

```
# pkgchk SUNWcsu
ERROR: /usr/lib/inet/certdb
      modtime <04/26/05 10:55:26 PM> expected <01/23/05 01:48:24 AM> actual
```

```
file size <36012> expected <42152> actual
file cksum <37098> expected <19747> actual
ERROR: /usr/lib/inet/certlocal
modtime <04/26/05 10:55:26 PM> expected <01/23/05 01:48:24 AM> actual
file size <44348> expected <84636> actual
```

回避方法: ありません。このエラーが発生しても問題はありません。このエラーメッセージは無視してください。

Solaris OS で許可されるアプリケーションのリストが古い (6267922)

Solaris ソフトウェアでは、

/desktop/gnome/lockdown/restrict_application_launching gonf キーを true に設定すると、アプリケーションの起動が制限されます。この設定を有効にすると、アプリケーションを起動するための起動メニューに表示されるアプリケーションが特定のもののみに制限されます。許可されるアプリケーションは、/desktop/gnome/lockdown/allowed_applications gonf キーに記述されています。

現在のリストに含まれるアプリケーションは古くなっており、Java Desktop System ソフトウェアには含まれていないものも含まれています。さらに、アプリケーションが参照するディレクトリの位置が正しくない場合もあります。つまり、アプリケーションの起動を制限すると、Mozilla や StarSuite などの主要なアプリケーションが起動メニューに表示されない状態になっています。

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. ~/.gconf/desktop/gnome/lockdown ディレクトリを削除します (このディレクトリが存在する場合)。

```
# rm -rf ~/.gconf/desktop/gnome/lockdown
```
3. システムからログアウトしてから、再度ログインします。

ルート (/) ファイルシステムが RAID-1 ボリューム (ミラー) の場合に、アップグレードオプションを使用できない (6263122)

ルート (/) ファイルシステムが RAID-1 ボリュームであるシステムを Solaris 10 1/06 ソフトウェアにアップグレードするときに、問題が発生します。この問題は、アップグレードを次のように実行するときに発生します。

- CD メディアまたはネットワークインストールイメージを使用する場合。
- Solaris 対話式インストールプログラムまたはカスタム JumpStart を使用する場合。

次の問題のいずれかが発生します。

- Solaris 対話式プログラムを使用する場合に、「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」パネルでアップグレードのオプションが表示されません。
- カスタム JumpStart アップグレードを使用する場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: No upgradeable root file systems were found.
```

回避方法: 回避方法 1 を最初に実行します。最初の回避方法で問題が解決されなかった場合のみ、回避方法 2 に進んでください。

- 回避方法 1.: アップグレードを実行する前に、RAID 構成を削除します。アップグレードが完了したあとに、RAID 構成を再構築します。RAID 構成を削除する場合は、次の手順を実行します。

1. ルートパーティションの RAID-0 ボリュームまたはサブミラーに使用している物理デバイスを、次の例のようにして検索します。

```
# df -k /
```

Filesystem	kbytes	used	avail	capacity	Mounted on
/dev/md/dsk/d0	4459950	3089180	1326171	70%	/

```
# metastat -p d0
```

```
d0 -m d10 d11 1
d10 1 1 c1t0d0s0
d11 1 1 c1t1d0s0
```

2. アップグレードしないミラーを削除します。この例では、アップグレードするディスクが c1t0d0s0 なので、d11 を削除する必要があります。次のように入力してください。

```
# metadetach d0 d11
```

3. 使用するデバイスをアップグレードする物理デバイスに戻します。上記の例の場合は、次のコマンドを実行します。

```
# metaroot c1t0d0s0
```

4. 必要に応じて、アップグレードするデバイスの /etc/vfstab が更新されていることを確認します。

```
# grep c1t0d0s0 /etc/vfstab
```

```
/dev/dsk/c1t0d0s0 /dev/rdisk/c1t0d0s0 / ufs 1 no -
```

5. システムをシャットダウンします。

6. DVD または CD メディアからシステムをブートします。

「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」パネルで、アップグレードを選択できるようになります。このパネルのデバイスリストから、アップグレードするデバイスを選択することもできます。通常は、元のルートサブボリュームを構成するデバイスがリストに表示されます。

ただし、アップグレードするオプションがまだ使用できない場合は、もう1つの回避方法に進んでください。

7. アップグレードを続行するために、デバイスを選択します。

アップグレードが完了したあとに RAID 構成を再構築する場合は、次の手順を実行します。

1. ブートデバイスを再定義します。

```
# metaroot d0
```

2. システムをリブートします。

3. サブボリュームを追加します。

```
# metattach d0 d11
```

- 回避方法 2: この回避方法は、回避方法 1 が成功しなかった場合にのみ使用します。回避方法 1 をまだ試していない場合は、この回避方法は実行しないでください。

1. システムをリブートします。

既存の Solaris リリースに戻ります。

2. metaclear コマンドを使用して、ルートパーティションを構成するアクティブなメタデバイスを削除します。

```
# metaclear d0 d10 d11
```

3. システムをシャットダウンします。

4. DVD または CD メディアからシステムをブートします。

5. 画面に表示されるインストールまたはアップグレードオプションに従って、インストールを続行します。

6. アップグレードが完了したあとに、通常の手順に従ってメタデバイスを再構成します。

次の例は、ルート (/) メタデバイスの構成、メタデバイス用のシステムファイルの設定、およびサブボリュームの再接続の手順を示しています。

```
# metainit d0 -m d10
# metaroot d0
# reboot
```

```
# metainit d11 1 1 c1t1d0s0
# metattach d0 d11
```

注 – システムのブートが完了したら、古いサブボリュームを再接続します。

Solaris ゾーンがインストールされている場合に、Solaris Flash アーカイブを作成できない (6246943)

最新の Solaris リリースから、非大域ゾーンがインストールされているときに、Solaris Flash アーカイブを適切に作成できなくなっています。Solaris Flash 機能は、最新のリリースでは Solaris コンテナ (ゾーン) 機能との互換性を持っていません。

flar create コマンドを使用して、次の環境に Solaris Flash アーカイブを作成しないでください。

- 非大域ゾーン内
- 非大域ゾーンがインストールされている場合の大域ゾーン内

このような環境に Solaris フラッシュアーカイブを作成すると、配置したアーカイブが適切にインストールされないことがあります。

回避方法: ありません。

Solaris Live Upgrade の luupgrade コマンドを実行したときに進捗バーが表示されない (6239850)

Solaris Live Upgrade ソフトウェアを次の方法で使用する場合は、アップグレード進捗バーが表示されません。

- Solaris 10 1/06 CD メディアを使用して OS をアップグレードする場合。
- luupgrade コマンドを使用してブート環境をアップグレードするときに、次のオプションを指定する場合。
 - -i (CD メディアからインストールするオプション)
 - -O "-nodisplay -noconsole" (2 枚目の CD のインストーラをテキストモードかつユーザーとの対話なしで実行するオプション)
- Solaris 10 1/06 ソフトウェアを次のリリースからアップグレードする場合。
 - Solaris 8 リリース
 - Solaris 9 リリース
 - Solaris 10 リリース

たとえば、次のコマンドを実行した場合、次の出力が表示されたあとに進捗バーが表示されるべきです。

```
Running installer on BE s10u1.
```

しかし、進捗バーは表示されません。

```
# luupgrade -i -n s10u1 -s /net/installsrv/export/s10u1  
-O "-nodisplay -noconsole"
```

```
Validating the contents of the media /net/installsrv/export/s10u1.  
The media is a standard Solaris media.  
The media contains a standard Solaris installer.  
The media contains Solaris 3 version 10.  
Mounting BE s10u1.  
Running installer on BE s10u1.
```

エラーメッセージは表示されません。

回避方法: `prstat` コマンドを使用してください。このコマンドでは、インストールが進行してパッケージが追加されるに従って、その進捗を監視することができます。

録音の開始時に「CD 品質、可逆」モードに失敗する (6227666)

サウンドレコーダマルチメディアアプリケーションを「CD 品質、可逆」モードで使用する、録音の開始時にアプリケーションが失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
The Application "gnome-sound-recorder" has quit unexpectedly.
```

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを実行します。

```
# GCONF_CONFIG_SOURCE=xml::/etc/gconf/gconf.xml.defaults  
/usr/bin/gconftool-2 --makefile-install-rule  
/etc/gconf/schemas/gnome-audio-profiles.schemas
```

また、既存のユーザーの場合は次の手順を実行する必要があります。

1. `gnome-audio-profiles-properties` アプリケーションが実行中の場合は、アプリケーションウィンドウを閉じてアプリケーションを停止します。
2. プロファイル `cdlossless` が
~/.gconf/system/gstreamer/audio/profiles に存在する場合は、このプロファイルを削除します。

```
% rm ~/.gconf/system/gstreamer/audio/profiles/cdlossless
```

3. システムからログアウトしてから、再度ログインします。

2 番目のデスクトップシステムにデスクトップアイコンが表示されない (6211279)

2 つの仮想または物理ビデオデバイスを使って拡大鏡を次のように設定すると、問題が発生します。

- 拡大鏡のソース設定: 0.1

■ 拡大鏡のターゲット設定: 0.0

この設定では、2 番目のデスクトップシステムの画面にアイコンが表示されません。

回避方法: ありません。

DataDigests の使用時にエラーが断続的に発生することがある (5108515)

DataDigests が有効になっている場合に、Internet SCSI (iSCSI) ターゲットが CRC (巡回冗長検査) エラーを報告することがあります。iSCSI イニシエータにデータを転送したあとに入出力バッファを更新するユーザーアプリケーションでは、CRC が正しく計算されないことがあります。ターゲットが CRC エラーを返すと、iSCSI イニシエータは正しい DataDigest CRC を含むデータを再転送します。データの整合性は維持されます。ただし、データ転送のパフォーマンスに影響します。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: DataDigest オプションは使用しないでください。

ストレージエリアネットワークのファブリックゾーンでデバイスがすぐに使用できる状態にならない (5077933)

ストレージエリアネットワーク (SAN) のファブリックゾーンが動的に作成されているときに、そのゾーンのデバイスがホスト側で使用できないことがあります。このようなデバイスまたはホストバスアダプタのデータを表示するためにコマンド `luxadm -e dump_map` を使用すると、エラーメッセージが表示されます。次の例を参照してください。

```
# luxadm -e dump_map /dev/cfg/c5
```

```
Pos  Port_ID Hard_Addr Port WWN          Node WWN          Type
ERROR: Unable to retrieve target port details (QLogic Corp-2312-3)ERROR
```

すべての接続点の状態のリストを出力すると、次の例のような情報が表示されます。この例では、ファブリックデバイスにテープドライブが含まれていますが、c5 にデバイスが表示されていません。

```
# cfgadm -al
```

Ap_Id	Type	Receptacle	Occupant	Condition
:				
:				
c5	fc-fabric	connected	unconfigured	unknown
usb0/1	unknown	empty	unconfigured	ok
:				
:				

回避方法: ファブリック接続のデバイスを構成したあとに、`luxadm -e forcelip` コマンドを使用して、それらのデバイスへのリンクを再初期化してください。上記の例の場合は、次のように入力します。

```
# luxadm -e forcelip /dev/cfg/c5
```


第 2 章

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、Solaris 10 オペレーティングシステムのインストールに関連した問題を説明します。

注 - この章に記載されている問題とバグの一部は、後続の Solaris 10 リリースですでに解決済みです。アップグレード済みの Solaris ソフトウェアでは、この章の一部の問題とバグに関する説明が適用されなくなっている可能性があります。使用している Solaris 10 ソフトウェアに適用されないバグと問題については、[付録 A](#) を参照してください。

一般情報

ここでは、Solaris 10 OS での動作の変更点など、一般的な情報について説明します。

Single UNIX Specification, Version 3 によって導入される変更

Single UNIX Specification, Version 3 (SUSv3) では、次の POSIX オペレーティングシステムインタフェースが更新されます。

- POSIX.1-1990
- POSIX.1b-1993
- POSIX.1c-1996
- POSIX.2-1992
- POSIX.2a-1992

更新には、次のような変更点が含まれます。

Korn シェルの ENV 変数

対話型でない Korn シェルでは、環境変数 ENV は展開されなくなりました。この変更は、/bin/ksh と /usr/xpg4/bin/sh の両方に適用されます。

コンパイラと SUSv3 アプリケーション

SUSv3 などの規格に準拠するアプリケーションを構築するには、適切な機能テストマクロ、コンパイラ、およびオプションを使用する必要があります。詳細は、standards(5) のマニュアルページを参照してください。

file コマンド

-m オプションを指定して file コマンドを使用すると、ユーザー定義のマジックファイルに対して符号付き比較が実行されます。また、x86 環境では、マジック値を比較する前にマルチバイト整数からビッグエンディアン (SPARC) 順序への切り替えは行われなくなりました。詳細は、file(1) および magic(4) のマニュアルページを参照してください。

出力関数

snprintf() と vsnprintf() は、入力値が n=0 のとき、書式設定されるバイト数を返すようになりました。詳細は、snprintf(3C) および vsnprintf(3C) のマニュアルページを参照してください。

テキストエディタ

起動時に、エディタは追加の条件を確認してから、\$HOME または現在のディレクトリにある .exrc ファイルを読み取ります。詳細は、ex(1) および vi(1) のマニュアルページを参照してください。

64-bit SPARC: 時刻関数

入力の time_t が大きすぎて tm 構造体で表現できない場合、次の関数は null ポインタを返し、errno を EOVERFLOW に設定します。

- gmtime()
- gmtime_r()
- localtime()
- localtime_r()

詳細は、gmtime(3C)、gmtime_r(3C)、localtime(3C)、および localtime_r(3C) のマニュアルページを参照してください。

末尾のスラッシュ

SUSv3 では、既存のディレクトリまたは作成するディレクトリを指定するパスの場合のみ、パス名の末尾にスラッシュ文字 (/) を使用できます。

/usr/xpg6/bin と /usr/xpg4/bin のユーティリティー

/usr/xpg6/bin と /usr/xpg4/bin にあるユーティリティーの動作は、SUSv3 または XPG4 に準拠しており、Solaris のデフォルトの動作と衝突します。SUSv3 に準拠するコマンド行環境を使用するには、PATH を適切に設定する必要があります。詳細は、各ユーティリティーのマニュアルページを参照してください。

sendmail で TCP ラッパーのサポートが使用可能

TCP ラッパーをサポートするサービスのリストに sendmail ユーティリティーが追加されました。このユーティリティーの追加機能が原因で、Solaris 10 システムでは以前はサービスが非常に厳しく制限されていた場合、sendmail による接続拒否が発生する可能性があります。TCP ラッパーの使用を有効にするには、デーモン名 sendmail を使用してください。TCP ラッパーのサポートについては、『Solaris 10 の概要』の「TCP ラッパーを使用する sendmail バージョン 8.12」を参照してください。TCP ラッパーの設定方法については、SUNWtcpd パッケージに含まれている tcpd(1M) および hosts_access(4) のマニュアルページを参照してください。

x86: Solaris fdisk の識別子の変更

Solaris 10 リリースでは、Linux オペレーティングシステムとのマルチブート環境を構成するために、Solaris fdisk の識別子は 0xbf に設定されます。以前の Solaris リリースでは、Solaris fdisk の識別子は、Linux スワップパーティションの識別子と同じ 0x82 に設定されていました。識別子に変更されたことにより、Linux スワップパーティションの変更や Linux OS の再インストールを行わなくても、Solaris 10 OS と Linux オペレーティングシステムをインストールできます。

Solaris OS では、0x82 という識別子をもつ Solaris fdisk も引き続き認識され、サポートされます。fdisk コマンドを使用すると、0x82 識別子と 0xbf 識別子を切り替えることができます。Solaris Live Upgrade を使用している場合で、0x82 識別子を使用する必要があるときは、luactivate コマンドを使用して 0xbf 識別子と 0x82 識別子を切り替えることができます。

詳細は、fdisk(1M) のマニュアルページを参照してください。

x86: x86 システムでのアプリケーションのメモリー割り当て制限

Solaris のアプリケーションは、`malloc()`、`brk()`、`mmap()` などの関数を使用してメモリーを割り当てます。アプリケーションで割り当てることができるメモリーの最大量は、ユーザー仮想アドレス空間のサイズによって制限されます。ユーザー仮想アドレス空間に含まれているプログラムのテキスト、スタック、データ、ライブラリなどによって、メモリー割り当ての最大サイズがさらに減少することもあります。

32 ビットコンピューティング環境

32 ビットコンピューティング環境では、ユーザーとカーネルの間で 32 ビット仮想アドレス空間が共有されます。したがって、ユーザー仮想アドレス空間のサイズは、4G バイトからカーネル仮想アドレス空間のサイズを引いたものとなります。カーネル仮想アドレス空間のサイズは、物理メモリーのサイズに応じて決まります。物理メモリーのサイズが大きくなるほど、ユーザー仮想アドレス空間のサイズは小さくなります。8G バイトのメモリーを備えたシステムの場合、ユーザー仮想アドレス空間のサイズは約 3G バイトです。

メモリー割り当て制限のためアプリケーションに十分なメモリーが得られない場合は、次の 2 つの方法があります。

- カーネル仮想アドレス空間のデフォルトのサイズを減らして、ユーザー仮想アドレス空間のサイズを増やします。`eeeprom` コマンドを使用して、`kernelbase` 変数をより高い値に設定できます。`kernelbase` の変更は慎重に行なってください。システムのカーネル仮想アドレス空間を小さくすると、システムがハングアップしたり、動作効率が低下したりすることがあります。
- より良い方法としては、Solaris x86 64 ビットコンピューティング環境でアプリケーションを実行します。

64 ビットコンピューティング環境

64 ビットコンピューティング環境では、32 ビットアプリケーション用の仮想アドレス空間はすべてユーザー用となります。したがって、32 ビットアプリケーションでは、4G バイトからテキスト、スタック、およびライブラリに必要なユーザーアドレス空間を引いた残りすべてを割り当てることができます。

初期の 64 ビット AMD プロセッサの一部では、メモリー割り当て上限がさらに 1G バイト少なくなる場合があります。使用しているプロセッサがこの影響を受けるかどうかを調べるには、次の手順を実行します。

1. 任意の 32 ビットシェルから、コマンド `pmap $$` を実行します。
2. プロセスマップで、0xC0000000 以上のアドレスが表示されるかどうかを確認します。このようなアドレスが存在しない場合は、Solaris OS によって 32 ビットアプリケーションが制限され、4G バイトの仮想アドレス空間のうち下位の 3G バイトになっています。

64 ビットアプリケーションは、すでに使用中のメモリーに応じて 250T バイトまで割り当てることができます。

x86: Solaris で no execute ビットをサポート

Solaris 10 は x86 上で、32 ビットモードおよび 64 ビットモードの no execute (NX) ビットをサポートします。NX ビットを使用すると、`mmap()` 関数など各種のメモリーシステムコールで `PROT_EXEC` を使用しない場合に必要となる保護を完全に実装できます。以前 x86 では、マップされたすべてのメモリーに `PROT_EXEC` が暗黙的に設定されていました。Solaris で NX ビットをサポートすることにより、ウイルスに対する保護が強化されます。

NX に対応したハードウェア上では、`PROT_EXEC` が指定されていない場合は常に、Solaris OS はデフォルトで NX ビットを使用します。ただし、スタックセグメントでは、NX ビットではなく `PROT_EXEC` がデフォルトで使用されます。スタックセグメントに関するデフォルトの設定は、次のいずれかを実行することによって変更できます。

- `/etc/system` 内に `no_exec_userstack` を設定して、すべてのアプリケーションスタックに対して大域的に `no exec` を設定します。
- 個別のアプリケーションを `/usr/lib/ld/map.noexstk` マップファイルにリンクします。

システム管理者は、`eeeprom` コマンドを使用して `enforce-prot-exec` をオフに設定することで、NX ビットの使用をすべて無効にできます。この変数は、`PROT_EXEC` のない古いアプリケーションを実行するシステムのために過渡的な回避方法として用意されています。

インストール前の注意事項とバグ情報

ここでは、Solaris 10 OS のインストールまたは Solaris 10 OS へのアップグレードを行う前に知っておく必要がある重要な問題点について説明します。このような問題点による影響で、インストールやアップグレードが正常に完了しない場合があります。ここで説明する問題点が使用しているシステムに該当する場合は、インストールやアップグレードを行う前に、推奨される回避方法を実行する必要があります。

Solaris OS 以外の製品のサポート

Solaris 10 ソフトウェアは以前のリリースとの互換性についてテスト済みですが、第三者のアプリケーションが ABI に完全準拠していない場合もあります。これらのアプリケーションの互換性については、製造元に直接お問い合わせください。

Solaris ソフトウェアに含まれないほかの製品を Solaris OS とともにシステムで実行する場合があります。このような製品には、Sun によって提供されるものと、他社によって提供されるものがあります。このシステムを Solaris 10 リリースにアップグレードする場合は、このようなほかの製品が Solaris 10 OS でもサポートされることを確認してください。これらの各製品の状態に応じて、次のどちらかの方法を実行できます。

- 製品の既存のバージョンが Solaris 10 ソフトウェアでサポートされていることを確認します。
- Solaris 10 リリースでサポートされている製品の新しいバージョンをインストールします。Solaris ソフトウェアにアップグレードする前に、製品の以前のバージョンを削除する必要がある場合もあります。詳細は、製品のマニュアルを参照してください。
- Solaris 10 ソフトウェアにアップグレードする前に、製品を削除します。

Solaris 10 3/05 HW_x リリースについて

Solaris 10 3/05 HW_x リリースは、一時的かつ限定的に公開されたリリースで、Solaris 10 1/06 ソフトウェアに置き換わります。この節の情報は、HW1 または HW2 が最初に必要だったけれども、まだ Solaris 10 1/06 OS に更新していないプラットフォームを使用している場合にのみ適用されます。

Solaris 10 3/05 HW1 OS は特定のシステムにインストールする必要がある

Solaris 10 3/05 HW1 OS は、Solaris 10 3/05 OS に基づいていますが、特定の新しい Sun ハードウェアのサポートが追加されています。Solaris 10 3/05 HW1 OS は、この OS を必要とするハードウェア製品を使用するシステムまたはドメインにのみインストールします。それ以外のシステムまたはドメインでは、従来の Solaris 10 3/05 ソフトウェアを使用します。

Solaris 10 3/05 HW1 OS を必要とするハードウェアであるかどうかを調べるには、そのハードウェアのマニュアルを参照してください。使用しているシステムに UltraSPARC IV+ ボードが含まれている場合は、そのハードウェアで Solaris 10 3/05 HW1 OS を使用するためにさらに詳しい情報が必要になることがあります。詳細は、http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Software/Solaris_on_Sun_Hardware/Solaris_10/index.html にある『Solaris 10 Sun Hardware Platform Guide (ja)』(『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』)を参照してください。

次の情報は、一時的な Solaris 10 3/05 HW1 リリースをまだ実行しているプラットフォームにのみ適用されます。この情報は、Solaris 10 3/05、Solaris 10 3/05 HW2、または Solaris 10 1/06 OS を実行中のシステムには適用されません。

Solaris インストール起動ツールを終了すると再起動される (6300863)

Solaris インストール起動ツールが `find_device.out` の検出に失敗して Solaris 10 3/05 HW1 のインストールに失敗し、リブートし、また同じ状態になって再度リブートを求めることがあります。

回避方法: ブート時に `-text` オプションを指定します。

```
boot net -text
```

EF/kcfd アルゴリズムと IPsec アルゴリズムを使用するときにこれらが競合する (6266083)

この問題は、新規にインストールしたシステム、つまりブート時に新しい SMF (Service Management Facility) マニフェストを多数インポートするシステムで発生することがあります。このようなブートを実行したあとに、`svc:/system/cryptosvc:default` に含まれる暗号化フレームワークが初期化される前に、`svc:/network/initial:default` に含まれる IPsec が初期化されることがあります。認証アルゴリズムまたは暗号化アルゴリズムが使用できないため、IPsec セキュリティーアソシエーションの作成に失敗して、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
PF_KEY error: type=ADD, errno=22:
Invalid argument, diagnostic code=40:
Unsupported authentication algorithm
```

このエラーは、IPsec サービスを必要とする Sun Fire E25K システムで DR を使用する場合などに発生することがあります。

回避方法: IPsec サービスを使用する処理を実行する前に、新しい SMF マニフェストを多数インポートするブートを実行してから次の手順を実行します。

1. ブート後に、次のコマンドを実行します。

```
ipseccalgs -s
```

2. システムに `/etc/inet/secret/ipseckey` が存在する場合は、次のコマンドも実行します。

```
ipseckey -f /etc/inet/secret/ipseckey
```

これで、Sun Fire E25K システム上で DR を使用するなど、IPsec セキュリティーアソシエーションを作成する処理を実行できる状態になります。

この手順を実行する必要があるのは、ブート時に新しい SMF マニフェストが多数インポートされる場合だけです。

Solaris 10 3/05 HW2 OS は特定のシステムにインストールする必要がある

Solaris 10 3/05 HW2 オペレーティングシステムは、新しい SunUltraSPARC T1 プロセッサを搭載する Sun Fire™ T2000 システムをサポートするための追加パッチが適用済みの Solaris 10 3/05 OS です。HW2 OS は T2000 システム上で必要とされますが、その他のいかなるシステムにも、インストールされるべきではありません。詳細については、Sun Fire T2000 製品のご使用にあたって『Solaris 10 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

注 - HW2 OS は Solaris 10 3/05 と Solaris 10 3/05 HW1 オペレーティングシステムのどちらとも置き換えることはできません。UltraSPARC IV+ と T1 プロセッサベースのシステム以外のすべての Sun 製品では Solaris 10 3/05 OS を稼働させるべきです。

Solaris Express や Solaris 10 ベータリリースからのアップグレードはできない

注 - Solaris 10 1/06 リリース以降のアップグレードに関する最新のサポート情報については、[23 ページの「Solaris リリースのアップグレードサポートの変更」](#)を参照してください。

次のいずれかのリリースのみ Solaris 10 OS リリースにアップグレードできます。

- Solaris 9 9/04
- Solaris 8 2/04 (SPARC 版)
- Solaris 8 2/02 (x86 版)
- Solaris 7 11/99

Solaris Express や Solaris 10 Beta リリースからのアップグレードは、標準アップグレードでも Live Upgrade でもサポートされていません。このようなリリースからアップグレードするには、Solaris 10 OS をインストールする必要があります。

Solaris 10 OS へのアップグレード後、署名されていない実行可能ファイルが存在する

Solaris 10 では、ほとんどの実行可能ファイルにデジタル署名が含まれており、これらを使用してファイルの信頼性を確認できます。この機能については、『Solaris 10 の概要』の「ELF オブジェクトの署名」を参照してください。

Solaris Express や Solaris 10 ベータリリースからアップグレードする際、一部のファイルがデジタル署名付きのバージョンで置き換えられないことがあります。署名がなくてもプログラムを実行する機能に影響はありませんが、ファイルの信頼性を確

認できなくなります。この問題を回避するには、アップグレードではなく Solaris 10 OS の完全インストールを実行してください。66 ページの「[Solaris Express](#) や [Solaris 10 ベータリリースからのアップグレードはできない](#)」を参照してください。

Sun Fire V250 Server のインストール

SUNWCXa11 ソフトウェアメタクラスタを Sun FireV250 Server にインストールする必要があります。

NFS Version 4 で新しく導入された初回システムブート時のプロンプト

Solaris 10 OS では、分散ファイルシステムの機構として、デフォルトで NFS Version 4 (NFSv4) が使用されます。NFSv4 では、ファイルのユーザーおよびグループの属性は、それぞれ「user@domain」および「group@domain」という形式の文字列として交換されます。

文字列のドメイン部分は、クライアントとサーバーの間で共通している必要があります。この情報は、システムのネームサービスドメイン名から自動的に導き出されます。ただし、場合によっては、導き出されたドメインがクライアントとサーバーの間で一致しないことがあります。通常、このような不一致は、次のいずれかの状況が成立している環境で発生する可能性があります。

- DNS の TXT レコードを使用していない。
- 複数の管理ドメイン境界が交差している。

クライアントとサーバーの間でドメイン情報が一致しない場合、NFSv4 でアクセスされるファイルの所有者は「nobody」であるように見えることがあります。

正しい構成を確保するために、システムの初回ブート時に、NFSv4 に使用するドメインの入力を求めるプロンプトが表示されるようになりました。次のいずれかの構成に該当する配備を使用している場合は、このプロンプトに「いいえ」と回答してください。

- 配備では、DNS の TXT レコードを使用して NFSv4 ドメインを構成する。
- 配備では、単一の (フラットな) 管理ドメインを使用している。

カスタム JumpStart と上級インストール

カスタム JumpStart™ を使用してシステムインストールを自動的に実行する環境では、初回ブート時のプロンプトを表示しないように、ごく簡単な調整を行う必要があります。

set_nfs4_domain というスクリプト例が Solaris 10 配布メディアの \${CDrom_mnt_pt}/Solaris_10/Misc/jumpstart_sample ディレクトリに用意されています。このスクリプトのコピーを変更して、NFS4_DOMAIN 変数をサイト固

有の条件に合わせて設定し、JumpStart の finish スクリプトの中から呼び出してください。これにより、ターゲットシステムの NFSv4 ドメインは JumpStart の終了段階で事前構成されるので、初回ブート時のプロンプトは表示されなくなります。

自動インストールを実行するには、次の手順を実行します。

1. `set_nfs4_domain` スクリプトのコピーを作成し、JumpStart の `finish.sh` スクリプトと同じディレクトリに置きます。
2. スクリプトを編集して、`NFS4_DOMAIN` 変数をサイト固有の条件に合わせて設定します。
3. `finish.sh` スクリプトを編集して、`set_nfs4_domain` の呼び出しを追加します。
4. JumpStart インストールを通常どおり実行します。

詳細は、`sysidconfig(1M)`、`sysidtool(1M)`、`nfsmapid(1M)`、および `nfs(4)` のマニュアルページを参照してください。『Solaris のシステム管理 (ネットワーク サービス)』も参照してください。

x86: elx または pcelx NIC を備えたシステムでネットワーク構成が失敗する

elx または pcelx ネットワークインタフェースカード (NIC) を備えたシステムでは、インストールが失敗します。NIC の構成中に、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: elx: transmit or jabber underrun: d0<UNDER, INTR, CPLT>
```

詳細は、`elx1(7D)` または `pcelx(7D)` のマニュアルページを参照してください。

回避方法: elx または pcelx NIC を使用していないシステムにインストールして実行してください。

/var ファイルシステムのデフォルトのサイズは Extra Value 製品には不十分

次のような状況では、/var ファイルシステムのデフォルトのサイズは Extra Value 製品には不十分な場合があります。

- Solaris 10 の DVD または CD で提供されている Extra Value 製品のいずれかをインストールする場合
- /var ファイルシステムが別のスライスに置かれている場合

/var ファイルシステムのスライスサイズを手動で大きくする必要があります。

注 – /var ファイルシステムが別のスライスやパーティションに置かれていない場合、この問題は発生しません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- Solaris GUI インストールプログラムを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. インストールを開始します。
 2. 「インストール形式の選択」から「カスタムインストール」を選択します。

Solaris インストールプログラムでは、いくつかの画面が表示され、インストールするソフトウェアの地域対応、製品、およびディスク配置をカスタマイズできます。
 3. 「ファイルシステムの配置」から「変更」を選択します。

ディスク配置画面が表示されます。
 4. 特定のスライスの「ファイルシステム」列に /var と入力し、「適用」をクリックします。

インストールプログラムによって /var ファイルシステムのデフォルトのサイズが提示されます。
 5. /var ファイルシステムの「サイズ」列のエントリを編集して、ディスク容量サイズの 2 倍に設定します。

たとえば、インストールプログラムで 40M バイトの容量が割り当てられている場合は、「サイズ」の値を 80 に変更します。
 6. インストールを完了します。
- Solaris インストールプログラムのテキストインストーラを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. インストールを開始します。
 2. 「インストール形式の選択」から「カスタムインストール」を選択します。

Solaris インストールプログラムでは、いくつかの画面が表示され、インストールするソフトウェアの地域対応、製品、およびディスク配置をカスタマイズできます。
 3. 「ファイルシステムの配置」から「自動配置」を選択します。

ディスク配置画面が表示されます。
 4. 特定のスライスの「ファイルシステム」列に /var と入力します。

インストールプログラムによって /var ファイルシステムのデフォルトのサイズが提示されます。
 5. /var ファイルシステムのサイズをカスタマイズするには、F4_Customize キーを押します。
 6. /var ファイルシステムの「サイズ」列のエントリを編集して、ディスク容量サイズの 2 倍に設定します。

たとえば、インストールプログラムで 40M バイトの容量が割り当てられている場合は、「サイズ」の値を 80 に変更します。

7. インストールを完了します。

- カスタム JumpStart プログラムを使用している場合は、filesys プロファイルキーワードを使用して /var ファイルシステムのサイズを設定します。次の例では、スライス 5 の /var ファイルシステムのサイズを 256M バイトに設定しています。

```
filesys c0t0d0s5 256 /var
```

x86: BIOS バージョン GG.06.13 の Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない

Solaris 10 ソフトウェアには、大きなパーティションをインストールできる機能が含まれています。システム BIOS は Logical Block Addressing (LBA) をサポートしている必要がありますが、BIOS バージョン GG.06.13 は LBA アクセスをサポートしていません。このような衝突を Solaris ブートプログラムは処理できません。このことはほかの HP Vectra システムにも影響します。

このシステムをアップグレードすると、HP システムはブートしなくなります。暗い画面上に点滅する下線が表示されるだけです。

回避方法: 最新の BIOS バージョン GG.06.13 の HP Vectra XU シリーズシステムを Solaris 10 リリースにアップグレードしないでください。Solaris 10 リリースでは、これらのシステムはサポートされていません。

ブートフロッピーディスクまたはブート CD を使用すれば、ブートにハードディスクコードを使用しないので、システムをブートすることができます。その後、ブート可能デバイスとして、ネットワークまたは CD-ROM ドライブではなくハードディスクを選択してください。

SPARC: 古いファームウェアでは、ブート用 Flash PROM を更新する必要がある

SPARC ベースのシステムでは、Solaris 10 OS は 64 ビットモードでのみ動作します。一部の Sun4U™ システムでは、OS を 64 ビットモードで実行するために、Flash PROM 内の OpenBoot™ ファームウェアを高いレベルに更新する必要があります。次のシステムでは、Flash PROM の更新が必要となる場合があります。

- Ultra™ 2
- Ultra 450 および Sun Enterprise™ 450
- Sun Enterprise 3000、4000、5000、および 6000 の各システム

次の表に、UltraSPARC システムと、64 ビットの Solaris 10 OS を実行するために必要な最小限のファームウェアバージョンを示します。システムタイプは、`uname -i` コマンドを実行して確認できます。実行中のファームウェアバージョンは、`prtconf -v` コマンドを実行して確認できます。

表 2-1 UltraSPARC システム上で 64 ビット Solaris ソフトウェアを実行するために必要なファームウェアバージョン

システムタイプ (<code>uname -i</code> で出力される)	必要最小限のファームウェアバージョン (<code>prtconf -v</code> で出力される)
SUNW,Ultra-2	3.11.2
SUNW,Ultra-4	3.7.107
SUNW,Ultra-Enterprise	3.2.16

注 – この表に記載されていないシステムでは、Flash PROM を更新する必要はありません。

Flash PROM を更新する方法については、<http://docs.sun.com> で『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』のいずれかの版を参照してください。

Solaris Live Upgrade を実行するには、追加パッチが必要

Solaris Live Upgrade が正しく動作するためには、使用する OS バージョンに特定のパッチリビジョンのセットをインストールする必要があります。
<http://sunsolve.sun.com> を参照して、最新のパッチリストを使用しているかどうか確認してください。さらに詳しい情報は、SunSolveSM の Web サイトで、info Doc 72099 を参照してください。

Solaris Live Upgrade パッケージをインストールするときの制限

Solaris 7 または Solaris 8 リリースを実行している場合、Solaris Live Upgrade インストールプログラムを実行できない可能性があります。これらのリリースには、JavaTM 2 実行環境を実行するのに必要なパッチセットが含まれていません。

これにより発生する失敗で一番多いのは、Java の例外エラーです。次のメッセージが表示される場合があります。

```
InvocationTargetException in ArchiveReader constructornull
    java.lang.reflect.InvocationTargetException
        at install.instantiateArchiveReader(Compiled Code)
```

```
at install.<init>(Compiled Code)
at install.main(Compiled Code)
```

Solaris Live Upgrade インストールプログラムを実行してパッケージをインストールするためには、Java 2 実行環境の推奨パッチクラスタが必要です。

回避方法: 次の回避方法を完了してください。

- pkgadd コマンドを使用して、Solaris Live Upgrade パッケージをインストールします。
詳細な手順については、『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の第 8 章「Solaris Live Upgrade によるブート環境の作成 (作業)」を参照してください。
- Java 2 実行環境の推奨パッチクラスタをインストールします。パッチクラスタは、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。その後、Solaris Live Upgrade インストールプログラムを使用してパッケージをインストールできます。

旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアと互換性がない

Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアは、旧バージョンの Solaris Management Console 1.0、1.0.1、1.0.2 ソフトウェアと互換性がありません。Solaris Management Console 1.0、1.0.1、1.0.2 のいずれかのソフトウェアがインストールされた状態で Solaris 10 リリースおよびその互換バージョンにアップグレードする場合は、Solaris Management Console ソフトウェアをアンインストールする必要があります。システムに SEAS 2.0、SEAS 3.0、Solaris 8 Admin Pack のいずれかがインストールされていると、Solaris Management Console ソフトウェアが存在している可能性があります。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- アップグレードする前に /usr/bin/prodreg コマンドを実行して、Solaris Management Console ソフトウェアのフルアンインストールを行います。
- Solaris 10 リリースへのアップグレード前に Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 をアンインストールしていなかった場合は、Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 のすべてのパッケージを削除する必要があります。パッケージの削除には prodreg コマンドではなく、pkgrm コマンドを使用します。必ず、手順に記載された順番どおりに削除してください。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを入力します。

```
# pkginfo | grep "Solaris Management Console"
```

上記の出力結果で、パッケージ名の説明文の先頭に「Solaris Management Console 2.1」という文字列がない場合、そのパッケージは Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアのパッケージです。

3. `pkgrm` を使用して、Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – 説明文に「Solaris Management Console 2.1」という文字列が含まれているパッケージは削除しないでください。たとえば、`SUNWmc.2` は Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアのパッケージです。

`pkginfo` の出力に、複数のバージョンの Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージが含まれている場合は、`pkgrm` を使用して、すべてのバージョンを削除してください。このとき、パッケージ名の末尾に番号が付いていないものを先に削除します。その後、末尾に番号が付いているものを削除してください。たとえば、`pkginfo` の出力に `SUNWmcman` と `SUNWmcman.2` が含まれている場合、最初に `SUNWmcman` を削除して、次に `SUNWmcman.2` を削除します。`prodreg` は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWmcman
# pkgrm SUNWmcapp
# pkgrm SUNWmcsvr
# pkgrm SUNWmcsvu
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmcsws
```

4. 端末ウィンドウで次のコマンドを実行します。

```
# rm -rf /var/sadm/pkg/SUNWmcapp
```

これで Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。将来 Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアの保守を行う場合や、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアが正しく機能しない場合は、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアをいったん削除します。次の手順で再インストールしてください。

1. `pkgrm` を使用して、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – `SUNWmc` と `SUNWmc.2` のように、ある Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアパッケージに対して複数のインスタンスがシステム上に存在する場合は、最初に `SUNWmc` を削除して、次に `SUNWmc.2` を削除してください。`prodreg` は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWpmgr
# pkgrm SUNWrmui
# pkgrm SUNWlvmg
# pkgrm SUNWlvma
```

```
# pkgrm SUNWlvmr
# pkgrm SUNWdclnt
# pkgrm SUNWmga
# pkgrm SUNWmgapp
# pkgrm SUNWmcdev
# pkgrm SUNWmcex
# pkgrm SUNWwbmc
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmccom
```

2. Solaris 10 SOFTWARE - 4 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。端末ウィンドウで次のように入力します。

```
#
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Product
# pkgadd -d . SUNWmccom SUNWmcc SUNWmc SUNWwbmc SUNWmcex SUNWmcdev \
SUNWmgapp SUNWmga SUNWdclnt SUNWlvmr SUNWlvma SUNWlvmg SUNWpmgr \
SUNWrmui
```

これによって、すべての旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアが削除され、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris フラッシュアーカイブを空のブート環境にインストールするとインストールが失敗する (6222925)

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris フラッシュアーカイブを空の代替ブート環境にインストールすると、インストールは失敗します。次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
sh: /path_to_install_image/Solaris_10/Tools/Boot/usr/sbin/install.d
/mergescripts/merge_name_service: not found

ERROR: Transfer list entry (/a/var/svc/profile/name_service.xml):
mergescript failed(/path_to_install_image/Solaris_10/Tools/
Boot/usr/sbin/install.d/mergescripts/merge_name_service)

ERROR: Unable to copy a temporary file to it's final location

ERROR: Flash installation failed

Extracting Flash Archive: 100% completed (of 4361.24 megabytes)
The Solaris flash install of the BE S10B74L2 failed.
```

上記の例で、*path_to_install_image* は、インストールに使用しているネットワークインストールイメージのディレクトリパスを表します。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. インストールに使用しているネットワークインストールイメージのディレクトリにある `mergescripts` ディレクトリに移動します。

```
# cd path_to_install_image/Solaris_10/Tools
/Boot/usr/sbin/install.d/mergescripts
```

2. `merge_name_service` ファイルを作成します。

```
# touch merge_name_service
```

3. `merge_name_service` ファイルを実行可能にします。

```
# chmod a+x merge_name_service
```

4. インストールするシステム上で、Solaris Live Upgrade を使用して Solaris フラッシュアーカイブを代替ブート環境にインストールします。

Solaris Live Upgrade による Solaris フラッシュアーカイブのインストール手順については、『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の「ブート環境への Solaris フラッシュアーカイブのインストール」を参照してください。

5. 手順 4 でインストールした代替ブート環境にファイルシステムをマウントします。

```
# lumount alt_boot_env mount-point
```

上記のコマンドで、`alt_boot_env` は手順 4 でインストールした代替ブート環境を表し、`mount-point` はこの代替ブート環境のマウントポイントを表します。

6. 代替ブート環境の `/var/svc/profile` ディレクトリに移動します。

```
# cd mount-point/var/svc/profile
```

7. `name_service.xml` プロファイルを削除します。

```
# rm name_service.xml
```

8. ネームサービスプロファイルについて、`name_service.xml` ファイルへのシンボリックリンクを作成します。

```
# ln -s ns_name-service.xml name_service.xml
```

上記の例で、`name-service` は、システムに使用するネームサービスを表します。この値には、次のいずれかの文字列を使用します。

- `nis`
- `nisplus`
- `dns`
- `ldap`
- `files`

主インタフェースでないインタフェースを構成し DHCP を有効にすると、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する (6215739)

Solaris 10 のインストール中に主ボードインタフェースでないインタフェースを構成しようとする、次のような場合にインストールが失敗します。

- Solaris GUI インストールプログラムを使用する。
- PCMCIA インタフェースカードなど、主インタフェースでないインタフェースを構成する。
- システムで DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) の使用を有効にする。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
An error has occurred in configuring the system.
Please go back and check your settings.
```

回避方法 1: Solaris の対話式テキストインストーラ (デスクトップセッション) を使用します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、ok プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok boot cdrom -text
```

- x86 ベースのシステムの場合は、インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトが表示されたら、次のコマンドを入力します。

```
b -text
```

回避方法 2: Solaris GUI インストールプログラムを使用します。

1. ネットワーク接続の情報を求めるプロンプトが表示されたら、「接続されていない」を選択します。
2. インストールを完了します。
3. インストール後、sys-unconfig コマンドを使用して、ネットワークに接続されたシステムとしてシステムを再構成して DHCP サポートを有効にします。

sys-unconfig コマンドでシステムを再構成する方法の詳細については、sys-unconfig(1M) のマニュアルページを参照してください。

x86: Sun Java Workstations 2100Z では、Solaris 10 Operating System DVD からのブート時にパニックが発生することがある (6214356)

Sun Java Workstation 2100Z の DVD コンボドライブのファームウェアが原因で、システムパニックが発生することがあります。このパニックは、ワークステーションを Solaris 10 Operating System DVD からブートするときに発生します。カーネル起動画面が表示されたあと、次のメッセージがごく短時間に表示されます。

```
panic[cpu0]/thread=fec1be20: mod_hold_stub:
Couldn't load stub module sched/TS_DTB
fec25cb0 genunix:mod_hold_stub+139 (fec04088, 63, fea11)
fec25cc4 unix:stubs_common_code+9 (1, 8, fec026e4)
fec25ce4 unix:disp_add+3d (fec026dc)
fec25d00 genunix:mod_installsched+a4 (fef01530, fef01518)
fec25d20 genunix:mod_install+2f (fef01518, fec25d3c,)
fec25d2c TS:_init+d (0, d6d89c88, fec25d)
```

```
fec25d3c genunix:modinstall+d9 (d6d89c88)
fec25d50 genunix:mod_hold_installed_mod+2e (d6d77640, 1, fec25d)
fec25d7c genunix:modload+ac (fec026c4, fec26c4)
fec25d98 genunix:scheduler_load+3d (fec026c4, fec026dc)
fec25db4 genunix:getcid+50 (fec026c4, fec28514)
fec25dcc unix:dispinit+df (fec25ddc, fe814ba9)
fec25dd4 unix:startup_modules+d5 (fec25dec, fe8cac37)
fec25ddc unix:startup+19 (fe800000, 166130, 7)
fec25dec genunix:main+16 ()
```

その後、システムが自動的にリセットされます。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: BIOS の構成設定の一部を変更します。この一時的な回避方法によって、Solaris 10 のインストールを完了できます。ただし、この方法では、DVD の読み取りパフォーマンスが低下することがあります。次の手順を実行します。

1. システムのブート中に、プロンプトで F2 キーを押してセットアップモードに入ります。

画面には、次のような接続タイプのオプションが表示されます。

```
Primary Master [ ]
Primary Slave [ ]
Secondary Master [CD-ROM]
Secondary Slave [ ]
```

2. DVD ドライブの接続タイプを選択するために、CD-ROM 用の接続タイプを選択します。

注 - システムに光学式ドライブが複数ある場合など、画面に CD-ROM 用の接続タイプが複数表示されることがあります。そのような場合は、システムのケースを開き、DVD ドライブの接続点を調べる必要があります。必ず DVD ドライブに適した接続タイプを選択してください。

3. 適切な CD-ROM 接続タイプを選択したら、Enter キーを押します。
次に表示される画面では、Type: [Auto] が自動的に選択されています。
4. スペースキーを 2 回押して、選択を Type: [CD-ROM] に変更します。
5. 矢印キーを使用して「Transfer Mode」を選択します。
6. Enter キーを押して、「Transfer Mode」のほかのオプションを一覧表示します。
7. 矢印キーを使用して「Standard」を選択し、Enter キーを押して確定します。
8. F10 キーを押して、構成の変更を保存し、BIOS セットアップを終了します。
システムが再起動します。

回避方法 2: DVD コンボドライブのファームウェアを v1.12 に更新します。この回避方法を実行するには、Microsoft Windows が稼働しているシステムに DVD コンボドライブを接続する必要があります。次の手順を実行します。

1. DVD コンボドライブを Sun Java Workstation 2100z から取り外します。ドライブを正しく取り外す手順については、ワークステーションのユーザーガイドを参照してください。
2. Microsoft Windows が稼働しているシステムにドライブを接続します。必要な場合は必ず、マスターおよびスレーブのジャンパ設定を変更してください。
3. AOpen のダウンロードセンターを参照します。
<http://download.aopen.com.tw/default.aspx>
4. 次の情報を使用して、使用している DVD ドライブのファームウェアを検索します。
 - Product: Combo drives
 - Model: COM5232/AAH
 - Categories: Firmware
5. ファームウェアバージョン R1.12 をダウンロードし、インストールします。
6. ドライブをワークステーションに再び取り付けます。必要に応じて、マスターおよびスレーブのジャンパ設定を元に戻します。

注 - このサイトには、これよりも新しいバージョンのファームウェアが用意されている可能性もあります。Sun のテストでは、パニックの問題は v1.12 リリースで解決されることが確認されています。v1.12 より新しいバージョンのファームウェアでも同様にこの問題が解決されるかどうかは、Sun では確認できません。

x86: Solaris GUI インストールプログラムが Solaris フラッシュアーカイブのインストールで失敗する 場合がある (6208656)

Solaris インストールのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用して Solaris フラッシュ™アーカイブを x86 ベースのシステムにインストールする場合、インストールが失敗することがあります。インストールの開始前にシステムで Solaris OS または Linux オペレーティングシステムが稼働していなかった場合に、この失敗が発生します。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Unexpected error found with media or archive selected
```

回避方法: Solaris インストールプログラムで、インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトが表示されたら、「Solaris Interactive」オプションは選択しないでください。オプション 3 または 4 を選択して、Solaris の対話式テキストインストーラを実行します。インストール中に使用するメディアを指定するよう求められたら、Solaris フラッシュアーカイブのパスを入力します。

x86: 一部の Sun Fire システムでは、シリアルコンソールが動作しない (6208412)

次の Sun Fire システムでは、デフォルトではシリアルコンソール (ttya) が動作しません。

- Sun Fire V20z
- Sun Fire V40z
- Sun Fire V60x
- Sun Fire V65x

シリアルコンソールを使用するには、システムの BIOS を手動で設定する必要があります。

回避方法: この回避方法を実行するには、システムに Sun キーボードとディスプレイモニターが必要です。次の手順を実行します。

1. マシンをブートします。
2. システムのブート中に、プロンプトで F2 キーを押して Phoenix BIOS にアクセスします。
3. 「Peripherals」で、通信ポートを「disabled」から「enabled」に変更します。
4. 設定を保存し、システムをブートします。
5. eeprom コマンドを使用して、入力デバイスと出力デバイスを ttya に変更します。

注 - これらのシステムでは、システムのブート中に Stop キーと N キーを押しても、低レベルのファームウェアをデフォルトの設定にリセットすることはできません。

x86 fdisk ブートパーティションがすでに存在しているシステムでは、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する場合がある (6186606)

x86 ブートパーティションがすでに存在しているシステムでは、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する場合があります。既存の x86 ブートパーティションが Solaris GUI インストールプログラムで作成された場合に、この失敗が発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Default layout will not work on this system.
Error:
Error: ERROR: Could not create explicit fdisk partition on c0t0d0,
requested cylinders 14581 - 14597 in use by fdisk partition 1
Error:
Error: ERROR: System installation failed
Pfinstall failed. Exit stat= java.lang.UNIXProcess@a89ce3 2
```

```
artition on c0t0d0, requested cylinders 14581 - 14597 in use by fdisk
partition 1 ERROR: System installation failed
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: インストールプログラムで、インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトが表示されたら、「3 Solaris Interactive Text (Desktop Session)」を選択します。

回避方法 2: Solaris GUI インストールプログラムを使用している場合は、次の手順を実行します。

1. インストールを開始します。
2. インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトで、「カスタムインストール」を選択します。
カスタムインストールのパネルでは、インストールするロケール、ソフトウェア、およびディスクに関する情報を入力するよう求められます。
3. システムに応じて、これらの画面の質問に適切に回答します。
4. Fdisk の選択画面で、x86boot パーティションが含まれているディスクにチェックマークを付けます。
5. プルダウンメニューで x86boot パーティションを「UNUSED」に変更して、このパーティションを削除します。
6. x86boot パーティションを「UNUSED」から元の「x86boot」に変更して、このパーティションを追加します。
7. インストールを続行します。

x86: fdisk コマンドまたは format コマンドでディスクの一部しか使用できない (5042195)

x86 ベースのシステムで、ディスクデバイスのシリンダ数が 65,535 を超える場合、Solaris OS ではシリンダ番号の下位 16 ビットだけが使用されます。このため、Solaris OS で使用できる実際のディスク領域サイズが減少します。たとえば、あるディスクのシリンダ数が 70,000 と報告されている場合は、70,000 と 65,535 の差である 4,464 が、Solaris OS で使用できるシリンダ数になります。

使用しているディスクのシリンダ数が 65,535 を超えているかどうかを確認するには、次の式を使用しておおよそのディスク容量を計算します。

ディスク容量 = シリンダ数 * ヘッド数 * セクター数 * 512

次に、明記されているディスク容量とこの計算結果を比較します。2 つの値の差が大きい場合は、ディスクのシリンダ数が 65,535 を超えていることを示しています。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- シリンダの制限を超えないよう、RAID ボリュームを小さく保ちます。

- Solaris ラベルを作成します。このジオメトリでは、65,535 以下のシリンダ数が使用されます。この 2 番目の方法を実行するには、セクター数またはヘッド数の値を大きくします。ただし、どちらも 16 ビットを超えてはなりません。

2 番目の方法は、ミラー化された 72G バイトディスクを備えた Sun Fire V20z または Sun Fire V40z システムに適用できます。BIOS RAID 機能で報告されるヘッド数およびセクター数は、単一の 72G バイトディスクの場合よりかなり少なくなります。このため、シリンダ数は 65,535 の制限を超えます。

ただし、最初のディスクを Solaris 10 OS でフォーマットしラベルを付けてから、この最初のディスクを BIOS で別のディスクにミラー化できます。この手順を通して、最初のディスクのラベルは維持されます。Solaris では最初のディスクのジオメトリが使用され、制限超過を回避できます。

2 番目の方法を実行するには、ディスクエディタを使用してディスクのラベルを手動で変更して、有効なジオメトリ値にする方法もあります。

x86: Sun LX50 サーバーにおいて X サーバーがマウスデバイスを開くことができない (5027771)

Sun LX50 システムにおいて、X サーバーが PS/2 マウスデバイスを開くことができない場合があります。このエラーは、インストール時、あるいは、システムのリブート時に発生します。この問題が発生すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ddxSUNWmouse: Error opening mouse device '/dev/kdmouse;  
/dev/kdmouse: No such device or address
```

結果として、Solaris インストールプログラムはコマンド行インタフェースでしか動作できません。この問題は、インストール後、Solaris 実行時にも残ることがあります。

回避方法: サーバーの PS/2 コネクタに接続されている Y ケーブル上で、PS/2 キーボードとマウス間の接続を切り替えてください。

その後、システムをリブートしても PS/2 マウスが認識されない場合は、LX50 サーバーの Reset ボタンを押してください。あるいは、次のブートプロンプトが表示されたときに、再構成オプション (b -r) を使用してください。

```
Select (b)oot or (i)nterpreter:
```

Solaris 7 ソフトウェアを実行している場合は、Solaris 10 Operating System DVD 上のデータにアクセスできない (4511090)

Solaris 7 ソフトウェアを実行しているシステムでは、Solaris 10 Operating System DVD がボリューム管理によって正しくマウントされません。DVD をマウントすることはできますが、データにはアクセスできません。そのため、インストールサーバーを設定したり、Live Upgrade を実行したり、メディア上のデータにアクセスしたりできません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 次のパッチを適用します。
 - 107259-03
 - 107260-03
- Solaris 10 Operating System DVD を手動でマウントします。ただし、ボリューム管理を使用しないでください。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリューム管理を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```

3. Solaris 10 Operating System DVD を手動でマウントします。

```
# mkdir /mnt1  
# mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /mnt1
```

4. DVD がマウントされていて、DVD 上のデータにアクセスできることを確認します。

```
# cd /mnt1 # ls
```

DVD が正しくマウントされている場合は、システムから次の情報が返されます。

Copyright Solaris_10

インストールに関する注意事項とバグ情報

Solaris 10 OS のインストール時またはインストール後に発生するバグ情報について説明します。

Solaris 10 OS のインストール後に Java エラーメッセージが表示される (6218158)

Solaris 10 OS のインストールが完了し、システムがリブートするとき、次のような Java エラーメッセージが生成されることがあります。このようなメッセージは、コンソールに表示されるか、/var/adm/messages ファイルに記録されます。

```
java[16552]: [ID 874347 user.error] libpkcs11:  
open /var/run/kcfd_door: No such file or directory  
java[16552]: [ID 523743 user.error] libpkcs11:  
/usr/lib/security/pkcs11_softtoken.so
```

```
unexpected failure in ELF signature verification.  
System may have been tampered with.  
Cannot continue parsing /etc/crypto/pkcs11.conf  
java[16580]: [ID 874347 user.error] libpkcs11:  
open /var/run/kcfd_door: No such file or directory  
java[16580]: [ID 523743 user.error] libpkcs11:  
/usr/lib/security/pkcs11_softtoken.so  
unexpected failure in ELF signature verification.  
System may have been tampered with.  
Cannot continue parsing /etc/crypto/pkcs11.conf
```

回避方法: ありません。このエラーメッセージは無視してください。

Solaris フラッシュアーカイブのインストール時に Solaris 10 インストールディスクが排出される (6215847)

インストール中にシステムによってディスクが排出され、インストールが失敗することがあります。このエラーは、Solaris 10 インストールディスクからブートする場合に発生します。インストールディスクは、Solaris 10 Operating System DVD または Solaris 10 SOFTWARE - 1 CD のどちらかです。システムをブートしたあと、Solaris フラッシュアーカイブをネットワークからインストールしようと試みたときです。

この問題は、次の 2 つの状況で発生します。

- DVD または CD のインストールディスクから Solaris GUI インストールプログラムを実行している場合で、システムに対して無効な Solaris フラッシュアーカイブを指定したとき。たとえば、SPARC ベースのシステムへのインストール中に x86 アーカイブのパスを指定すると、このエラーが発生します。ディスクが排出されたあと、次のようなエラーメッセージがコンソールウィンドウに表示されることがあります。

```
/sbin/install-solaris: rm: cannot execute  
/sbin/install-solaris: date: cannot execute  
/sbin/install-solaris: gettext: cannot execute.
```

- Solaris 10 インストールディスクから Solaris テキストインストーラをコンソールセッションで実行し、Solaris フラッシュアーカイブをネットワークから正常にインストールした場合。ディスクが排出されたあと、次のようなエラーメッセージがコンソールウィンドウに表示されることがあります。

```
/sbin/setup-launcher[310]: 1356 Killed  
/sbin/setup-launcher[315]: 1357 Killed
```

回避方法 1: 無効なアーカイブによってエラーが発生した場合は、エラーの原因に応じて次のいずれかを実行してください。

- GUI インストールプログラムを使用して、インストールを再実行します。有効なアーカイブのパスを指定します。
- ウィンドウ表示環境のデスクトップセッションでテキストに基づいたインストーラを使用して、アーカイブをインストールします。

- SPARC ベースのシステムの場合は、ok プロンプトで **boot cdrom -text** と入力します。
- x86 ベースのシステムの場合は、インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトが表示されたら、「3 Solaris Interactive Text (Desktop session)」を選択します。

回避方法 2: テキストに基づいたインストーラをコンソールセッションで使用したあとにエラーが発生した場合は、次のいずれかを実行してください。

- コンソールセッションではなく、ウィンドウ表示環境のデスクトップセッションでテキストに基づいたインストーラを使用します。
- SPARC ベースのシステムの場合は、ok プロンプトで **boot cdrom -text** と入力します。
- x86 ベースのシステムの場合は、インストールの種類を選択するよう求めるプロンプトが表示されたら、「3 Solaris Interactive Text (Desktop session)」を選択します。
- システムによってディスクが排出されたあとに、次の手順を実行します。
 1. DVD または CD をマシンに再び挿入します。
 - ディスク挿入に対してシステムが反応した場合は、システムでインストールを完了させてください。
 - システムがインストールディスクに反応しない場合は、手順 2 に進みます。
 2. システムを手動でリブートします。
 3. プロンプトが表示されたら、システムをリブートします。
これでインストールが完了します。

x86: 初期インストールのあと、kdmconfig プログラムが 2 回実行される (6209092)

Solaris 10 OS の初期インストール後、システムの最初のリブート時に kdmconfig プログラムが 2 回実行されることがあります。この最初の起動時に、プログラムが起動するたびに X サーバーの選択を求めるプロンプトが表示されます。この状況は、X サーバーを使用するように構成されていない x86 ベースのシステムで発生します。たとえば、グラフィックスディスプレイを使用していない「ヘッドレス」システムは、そのようなシステムの一例です。

回避方法: プログラムが起動して X サーバーの選択を求めるプロンプトが表示されたら、そのたびに F3_Exit キーを押します。起動処理が再開されるまでに少し時間がかかる場合もあります。この最初の起動が完了したら、それ以降はシステムをリブートしてもこの問題は発生しなくなります。

x86: カスタム JumpStart インストールのあと、システムのブートが失敗する (6205478)

カスタム JumpStart インストール方式を使用して x86 ベースのシステムへのインストールを行う場合は、スライス 2 をオーバーラップスライスとして明示的に構成すると、エラーが発生します。インストールの完了後に、システムが正常にリブートされません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Cannot find Solaris partition
```

オーバーラップスライス 2 (c0t0d0s2 など) は、シリンダ 0 ではなくシリンダ 1 から始まるように設定されるので、この失敗が発生します。

回避方法: カスタム JumpStart プロファイルで、スライス 2 をオーバーラップスライスとして構成する `filesys` キーワードエントリを削除します。たとえば、次のようなキーワードエントリを削除します。

```
filesys c0t0d0s2 all overlap
```

エントリを削除したあと、カスタム JumpStart インストールを実行します。

インストールログが不完全または不正確なことがある (5087588)

Solaris 10 ソフトウェアをインストールすると、`/var/sadm/system/logs` および `/var/sadm/install/logs` にある `install_log` ファイルが不完全になることがあります。システムに正常に追加されたパッケージに関する情報や、パッケージの追加時に発生したエラーが、これらのログに記録されないことがあります。このため、インストールやアプリケーションの問題の障害追跡を行うための情報源として `install_log` ファイルを使用できません。

回避方法: アプリケーションが正常に動作しない場合に、`install_log` ファイルをアプリケーションパッケージがインストールされたかどうかの確認には使用できません。次の手順を実行します。

1. Solaris Product Registry を調べて、どのパッケージがアプリケーションで使用されているかを確認します。

```
# prodreg
```

2. `pkginfo` コマンドを使用して、これらのパッケージのうちで部分的にインストールされたものがないか確認します。

```
# pkginfo -p package-name
```

3. 上記のコマンドで出力された各パッケージを削除します。

```
# pkgrm options package-name
```

4. 各パッケージを再インストールします。

```
# pkgadd options package-name
```

x86: boot-device 変数が設定されていない場合、DVD から対話式 GUI インストールを行うと失敗する (5065465)

Solaris 10 Operating System DVD から Solaris をインストールする場合、対話式 GUI インストールは失敗することがあります。この失敗は、システムで boot-device 構成変数が設定されていない場合に発生します。

boot-device 構成変数が設定されているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# prtconf -pv | grep boot-device
```

このコマンドの出力が boot-device: のみで、関連付けられたデバイスがない場合、対話式 GUI インストールプログラムを使用して Solaris 10 Operating System DVD からインストールを行うことはできません。

回避方法: 対話式テキストインストーラを使用して Solaris 10 ソフトウェアをインストールしてください。インストールプログラムで、インストールの種類を選択するよう求められたら、オプション 3 の「Solaris Interactive Text (Desktop Session)」を選択します。

Solaris 10 Operating System DVD からインストールする方法の詳細については、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』を参照してください。

SPARC: Solaris 10 OS インストールプログラムは、特定のケースのパネルを適切に表示しないことがある (5002175)

Solaris インストールプログラムを使用して Solaris 10 ソフトウェアをインストールすると、いくつかの情報および SunSM Remote Services (SRS) Net Connect ソフトウェアの終了パネルが適切に表示されないことがあります。

インストールパネルのフレームおよび「取消し」ボタンは表示されますが、インストールパネルの内容が表示されません。

注 - この問題は、この Solaris OS リリースに含まれているほかのソフトウェア製品を Solaris インストールでインストールしている場合にも発生することがあります。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. 空のインストールパネルが表示されたら、「取消し」ボタンをクリックして、SRS Net Connect インストールを省略します。

2. Solaris 10 ソフトウェアのインストールが完了したあとで、SRS Net Connect ソフトウェアを Solaris 10 Operating System DVD または Solaris 10 SOFTWARE - 2 CD から手動でインストールします。

最初に Solaris 10 ソフトウェアインストールを完了したあとで SRS Net Connect ソフトウェアをインストールすると、すべてのパネルが正しく表示されます。

x86: 一部の Dell Precision ワークステーションで、インストール中に USB キーボードがフリーズする (4888849)

一部の Dell Precision ワークステーションでは、インストール中に USB キーボードがフリーズしたり部分的に機能しなくなったりして、インストールを実行できなくなることがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ファームウェアの USB エミュレーションモードを切り替えます。
- PS/2 キーボードに切り替えます。
- リブートして再試行します。

あるいは、システムの BIOS を更新して問題を解決してください。

インストール後、/dev および /devices/pseudo のアクセス権が不適切に設定される (4720192、6215918)

Solaris 10 OS をインストールしたとき、/devices/pseudo 名前空間のアクセス権が不適切に設定されることがあります。その場合、システムが一部のシステムデバイスにアクセスできなくなります。Solaris フラッシュアーカイブを使用してクローンシステムに Solaris 10 OS をインストールした場合にも、同様の名前空間アクセス権エラーが発生します。

インストール後に SUNWcsd パッケージに対して pkgchk -n コマンドを実行すると、次のようなメッセージが表示されます。

```
# pkgchk -n SUNWcsd
ERROR: /devices/pseudo/cvc@0:cvc
  pathname does not exist
  unable to create character-special device
ERROR: /devices/pseudo/cvcredir@0:cvcredir
  pathname does not exist
  unable to create character-special device
```

Solaris フラッシュアーカイブを使用してクローンシステムに Solaris 10 OS をインストールした場合、上記のコマンドを実行すると、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
# pkgchk -n SUNWcsd
ERROR: /dev
      group name sys expected <(null)> actual
ERROR: /devices/pseudo/clone@0:eri
      permissions <0666> expected <0600> actual
ERROR: /devices/pseudo/clone@0:ibd
      permissions <0666> expected <0600> actual
ERROR: /devices/pseudo/cvc@0:cvc
      pathname does not exist
ERROR: /devices/pseudo/cvcredirect@0:cvcredirect
      pathname does not exist
```

Solaris フラッシュインストールの場合も、SUNWcsr パッケージについて上記と同様のエラーメッセージが表示されます。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: SUNWcsd Core Solaris Devices パッケージに対して pkgchk -nf コマンドを実行します。この回避方法は、Solaris 10 OS を CD または DVD メディア、あるいはネットワークインストールイメージからインストールした場合に適用されます。

```
# pkgchk -nf SUNWcsd
```

回避方法 2: この回避方法は、Solaris フラッシュアーカイブを使用して Solaris 10 OS をインストールするクローンシステムに適用されます。アーカイブをインストールする前に、次の手順を実行します。

1. マスターシステム上に /etc/flash/reboot ディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /etc/flash/reboot #
```

2. マスターシステム上で、次のスクリプトをテキストエディタで作成します。

```
#!/usr/bin/sh
# echo " Doing pkgchk -nf SUNWcsd"
pkgchk -nf SUNWcsd
echo " Doing pkgchk -nf SUNWcsr"
pkgchk -nf SUNWcsr
exit 0
```

3. このスクリプトを pkgchk.cleanup というファイル名で /etc/flash/reboot ディレクトリに保存します。

4. pkgchk.cleanup スクリプトが実行可能であることを確実にします。

```
# cd /etc/flash/reboot
# chmod a+x pkgchk.cleanup
```

5. Solaris フラッシュアーカイブを作成します。

6. アーカイブをクローンシステムにインストールします。

ただし、Solaris フラッシュアーカイブを使用してすでに Solaris 10 OS をインストールしている場合は、次の手順を実行してエラーを解決してください。

1. SUNWcsd Core Solaris Devices パッケージに対して pkgchk -nf コマンドを実行します。

```
# pkgchk -nf SUNWcsd
```

2. クローンシステム上で、SUNWcsr Core Solaris (Root) パッケージに対して `pkgchk -nf` コマンドを実行します。

```
# pkgchk -nf SUNWcsr
```

SPARC: ネットワークイメージを使用して Solaris をインストールするときにエラーメッセージが表示される (4704046)

ネットワークイメージを使用して Solaris をインストールできます。Solaris 10 SOFTWARE CD を組み合わせてイメージを作成した場合は、次のメッセージが表示される場合があります。

```
Error message:      Jun 18 10:51:53 b26b statd[149]: [ID 514559
daemon.error] svc_tp_create: Could not register prog 100024 vers 1 on udp
Jun 18 10:51:53 b26b statd[149]: [ID 514559 daemon.error] svc_tp_create:
Could not register prog 100024 vers 1 on tcp
Jun 18 10:51:53 b26b statd[149]: [ID 514559 daemon.error] svc_tp_create:
Could not register prog 100024 vers 1 on ticlts
Jun 18 10:51:53 b26b statd[149]: [ID 514559 daemon.error] svc_tp_create:
Could not register prog 100024 vers 1 on ticotsord
Jun 18 10:51:53 b26b statd[149]: [ID 514559 daemon.error] svc_tp_create:
Could not register prog 100024 vers 1 on ticots
Jun 18 10:51:53 b26b statd[149]: [ID 447212 daemon.error] statd:
unable to create (SM_PROG, SM_VERS) for netpath.
```

回避方法: ありません。このメッセージは無視してください。システムのブート後、ネットワークファイルシステム (NFS) は正常に機能します。

SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (4640568)

複数のネットワークインタフェースを持つシステムに Solaris 10 リリースをインストールまたはアップグレードした場合、システムはすべてのシステムインタフェースが使用可能であると認識します。つまり、ネットワークに接続されていない、あるいは使用する予定のないインタフェースが `ifconfig -a` コマンドの出力に表示されます。さらに、同じ Ethernet アドレスを持つインタフェースに同じ IP アドレスが割り当てられることがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
ifconfig: setifflags: SIOCSLIIFLAGS: qfe3: Cannot assign requested address
```

この問題は、`local-mac-address` PROM 変数が `false` に設定されているシステム上でも発生します。この問題が発生するのは、すべてのインタフェースが同じ IP アドレスで構成されるためです。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 構成されたインタフェースだけを使用するには、初期ブート後にシステムをリブートします。
- 各ネットワークインタフェースに異なる IP アドレスを割り当てるには、次のいずれかの方法で `local-mac-address` PROM 変数を `true` に設定します。
 - `ok` プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
ok setenv local-mac-address? true
```
 - スーパーユーザーとして、次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
# eeprom local-mac-address?=true
```

ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (4189127)

インストール中、ファイルシステムの作成時に、次のどちらかの警告メッセージが出力される可能性があります。

```
Warning: inode blocks/cyl group (87) >= data blocks (63) in last cylinder group. This implies 1008 sector(s) cannot be allocated.
```

または

```
Warning: 1 sector(s) in last cylinder unallocated
```

この警告メッセージは、作成中のファイルシステムのサイズと使用しているディスク上の容量が等しくない場合に表示されます。この場合、ディスク上に、作成中のファイルシステムには取り込まれない未使用の領域ができます。この未使用のディスク領域は、ほかのファイルシステムに割り当てることはできません。

回避方法: この警告メッセージは無視してください。

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

注 - Solaris 10 1/06 リリース以降のアップグレードに関する最新のサポート情報については、[23 ページの「Solaris リリースのアップグレードサポートの変更」](#)を参照してください。

ここでは、アップグレードに関するバグ情報について説明します。これらのバグには、Solaris 10 OS へのアップグレード中に発生するものもあれば、アップグレードの完了後に発生するものもあります。

Solaris 9 9/04 OS からアップグレードしたあとのデバイス ID の不一致

この Solaris 10 リリースの Solaris ボリュームマネージャーでは、デバイス ID が新しい形式で表示されます。Solaris 9 9/04 OS では、ディスクセットでのデバイス ID サポートが導入されましたが、この新しい形式は認識されません。Solaris 9 9/04 リリースから Solaris 10 OS にアップグレードするとき、既存のディスクセットアップに関連付けられたデバイス ID は、Solaris ボリュームマネージャーの構成で更新されません。Solaris 9 9/04 OS に戻す必要がある場合、アップグレード後にディスクセットに加えた構成の変更は、Solaris 9 9/04 OS で使用できないことがあります。詳細は、『Solaris ボリュームマネージャの管理』の第 25 章「Solaris ボリュームマネージャの障害追跡 (作業)」を参照してください。

SPARC: 推奨パッチクラスタが適用された Solaris 9 リリースからのアップグレードは部分的にしか成功しない (6202868)

推奨パッチクラスタがインストールされた Solaris 9 リリースが稼働しているシステムでは、Solaris 10 OS へのアップグレードは部分的にしか成功しません。この問題は、Solaris 9 推奨パッチクラスタがインストールされた次のリリースが稼働しているシステムで発生します。

- Solaris 9 リリース
- Solaris 9 9/02 リリース
- Solaris 9 12/02 リリース
- Solaris 9 4/03 リリース
- Solaris 9 8/03 リリース
- Solaris 9 12/03 リリース
- Solaris 9 4/04 リリース

Solaris 10 リリースへのアップグレード時に、システムから SUNWcti2x パッケージが正常に削除されません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- この問題を回避するには、Solaris 10 OS へのアップグレードを行う前に、パッチ ID 117426-03 またはそれ以降のバージョンをシステムに適用します。
このパッチは <http://sunsolve.sun.com> からダウンロードできます。
- アップグレード時にこの問題が発生する場合は、次の手順を実行します。
 1. テキストエディタを使用して、
`/var/sadm/pkg/SUNWcti2x/install/preremove` ファイル内の次の行をコメントにします。


```
rem_drv -b ${BASEDIR} sc_nct || EXIT=1
```
 2. SUNWcti2x パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWcti2x
```

Solaris Live Upgrade を使用して以前の Solaris リリースからアップグレードするとき、古いアンインストーラが削除されない (6198380)

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 8 または Solaris 9 リリースから Solaris 10 OS にアップグレードするとき、古いアンインストールプログラムは削除されません。このような以前の OS のアンインストールプログラムは、システムの /var/sadm/prod ディレクトリに残ります。

次に示す古いアンインストーラは削除されません。

```
uninstall_Alternate_Pathing_2_3_1.class
uninstall_CDRW_1_1.class o uninstall_CDRW_1_0.class
uninstall_Bonus_Localization_-_Catalan_CDE_Desktop.class
uninstall_Bonus_Localization_-_Polish_CDE_Desktop.class
uninstall_Bonus_Localizations_-_Russian_CDE_Desktop.class
uninstall_Capacity_on_Demand_1_0.class
uninstall_Java3D_1_3_1.class
uninstall_Java3D_1_3.class
uninstall_Java3D_1_2_1_04.class
uninstall_Java3D_1_2_1_03.class
uninstall_Lights_Out_Management_2_0.class
uninstall_Man_Page_Supplement.class
uninstall_OpenGL_1_3.class
uninstall_OpenGL_1_2_3.class
uninstall_Netra_ct_Platform_1_0.class
uninstall_Netra_t1lxx_Alarms_2_0.class
uninstall_Netscape_6_2_3.class
uninstall_Netscape_6_2_1_Beta.class
uninstall_PC_launcher_1_0_2.class
uninstall_PC_launcher_1_0_1_PCfileviewer_1_0_1.class
uninstall_RSC_2_2_2.class
uninstall_RSC_2_2_1.class
uninstall_RSC_2_2.class
uninstall_ShowMeTV_1_3.class
uninstall_Solaris_9_French_Localization.class
uninstall_Solaris_9_German_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Hong_Kong_Traditional_Chinese_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Italian_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Japanese_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Korean_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Simplified_Chinese_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Spanish_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Swedish_Localization.class
uninstall_Solaris_9_Traditional_Chinese_Localization.class
uninstall_Solaris_On_Sun_Hardware_Documentation.class
uninstall_Sun_Hardware_AnswerBook.class
uninstall_SunATM_5_0.class
uninstall_SunATM_5_1.class
```

```

uninstall_SunFDDI_PCI_3_0.class
uninstall_SunFDDI_SBus_7_0.class
uninstall_Sun_Fire_880_FC-AL_Backplane_Firmware_1_0.class
uninstall_Sun_Fire_B10n_Load_Balancing_Blade_1_1.class
uninstall_SunForum_3_1.class
uninstall_SunForum_3_2.class
uninstall_SunHSI_PCI_3_0.class
uninstall_SunHSI_SBus_3_0.class
uninstall_SunScreen_3_2.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS6.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS5.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS4.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS3.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS2.class
uninstall_SunVTS_5_1_PS1.class
uninstall_SunVTS_5_0.class
uninstall_System_Management_Services_1_4.class
uninstall_System_Management_Services_1_3.class
uninstall_System_Management_Services_1_2.class
uninstall_System_Service_Processor_3_5.class
uninstall_WBEM_DR_1_0.class
uninstall_Web_Start_Wizards_SDK_3_0_2.class
uninstall_Web_Start_Wizards_SDK_3_0_1.class
uninstall_Web_Start_Wizards_SDK.class
uninstall_XML_Libraries_2_4_12.class

```

回避方法: システムをアップグレードしたあと、/var/sadm/prod ディレクトリにある古いアンインストーラを手動で削除してください。

アップグレード後に、構成ファイル pam.conf が自動的に更新されない (5060721)

この Solaris 10 リリースでは、pam_ldap の機能に変更が加えられています。このリリースにアップグレードするとき、既存の pam.conf 構成ファイル内の pam_ldap 構成は更新されず、これらの変更は反映されません。pam_ldap 構成が検出された場合は、アップグレードの終了時に生成される CLEANUP ファイルに、次のような通知が追加されます。

```

/etc/pam.conf please examine/update the pam_ldap configuration
because its functionality has changed,
refer to pam_ldap(5) documentation for more information

```

回避方法: アップグレード後に /etc/pam.conf を調べます。必要に応じて、このファイルを手動で変更して、pam_ldap の新しい機能と互換性を持たせます。変更内容は、use_first_pass オプションや try_first_pass オプションなどのパスワードプロンプト機能、パスワード更新機能などです。pam.conf の更新方法の詳細については、pam_ldap(5) のマニュアルページを参照してください。

Solaris Live Upgrade を使用してアップグレードを行うと、Solstice DiskSuite の構成が Solaris ボリュームマネージャー形式に変換されない (4915974)

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 8 リリースから Solaris 10 リリースへのアップグレードを行うと、エラーが発生することがあります。Solstice DiskSuite™ 4.2.1 の構成が Solaris ボリュームマネージャーの構成に変換されない場合があります。RAID-0、RAID-1 のほか、ミラー、ストライプ、サブミラーなどのボリュームがすべて失われることがあります。

アップグレードを行う前に Solaris 8 システムに特定の順序でパッチを適用した場合に、この問題が発生します。システムでこの問題が発生するかどうかを調べるには、Solaris 8 システムの SUNWmdr パッケージのバージョン情報を確認します。次のコマンドを入力します。

```
# grep VERSION /var/sadm/pkg/SUNWmdr/pkginfo
```

このコマンドで次のような出力が生成される場合、システムはこの問題の影響を受ける可能性があります。

```
PKG_CLIENT_VERSION=8
VERSION=4.2.1,REV=1999.12.03.10.00
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. Solaris Live Upgrade を使用して代替ブート環境をアップグレードします。
詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』を参照してください。
2. アップグレードされたブート環境のディスクをマウントします。ただし、アップグレードされたブート環境をアクティブにしないでください。

```
# mnt -F ufs /mnt/c0t0d0slice_number /mnt
```

上記の例で、*slice_number* は、アップグレードされたブート環境が含まれているスライスを表します。

3. /etc/system ファイルで MDD データベース情報のエントリを確認します。たとえば、次のようなテキストです。

```
* Begin MDD database info (do not edit)
set md:mddb_bootlist1="sd:7:16 sd:7:1050 sd:7:2084"
* End MDD database info (do not edit)
```

4. アップグレードされたブート環境の /kernel/drv/md.conf ファイルをテキストエディタで開きます。

```
# cd /kernel/drv
# vi md.conf
```

5. md.conf を次のように変更します。

- a. 手順3で確認した /etc/system ファイルの mddb_bootlist 情報を追加します。この情報の前と後ろに置かれている「Begin」および「End」コメント行も必ず追加してください。
- b. mddb_bootlist 行にある各 sd ディスクエントリの末尾に、テキスト文字列 :id0 を追加します。
- c. mddb_bootlist エントリの下に、次の新しい行を挿入します。

```
md_devid_destroy=1;
```

md.conf ファイルの変更例を次に示します。

```
# Begin MDD database info (do not edit)
mddb_bootlist1="sd:7:16:id0 sd:7:1050:id0 sd:7:2084:id0";
md_devid_destroy=1;
# End MDD database info (do not edit)
```

6. md.conf ファイルを保存します。
7. /etc/system ファイルから mddb_bootlist エントリを削除します。
8. アップグレードされたブート環境のディスクのマウントを解除します。
9. アップグレードされたブート環境をアクティブにします。

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 7 リリースからアップグレードするとき、無効なエラーメッセージが表示される (4872151)

Solaris Live Upgrade を使用して Solaris 7 リリースから Solaris 10 OS にアップグレードする場合、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Removal of package was successful.
/a//var/sadm/system/admin/upgrade_script: /bin/prodreg: not found
/a//var/sadm/system/admin/upgrade_script: /bin/prodreg: not found
/a//var/sadm/system/admin/upgrade_script: /bin/prodreg: not found
```

このエラーが発生するのは、Solaris 7 リリースに Solaris Product Registry (prodreg) ソフトウェアが含まれていないためです。

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。これらのエラーはインストールに影響を与えません。

Solaris Live Upgrade の使用時にインストールプログラムが表示するテキストに関する問題 (4736488)

Solaris Live Upgrade で luupgrade (1M) コマンドに -i オプションを指定して、アクティブでないブート環境をアップグレードした場合、言語によってはインストールプログラムが表示するテキストが判読不能になります。これは、現在のブート環境にある古いリリースに存在していないフォントを、インストールプログラムが要求した場合に発生します。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- 結合されたネットワークインストールイメージを使用してインストールします。
- システムの環境変数を設定し、C ロケールを有効にします。
 - Bourne シェルまたは Korn シェルを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. C ロケールを設定します。

```
# LANG=C; export LANG
```
 2. インストールを開始します。
 - C シェルを使用している場合は、次の手順を実行します。
 1. 次のコマンドを入力します。

```
# csh
```
 2. C ロケールを設定します。

```
# setenv LANG C
```
 3. インストールを開始します。

SPARC: アップグレードの際に、SUNWjxcft パッケージの削除でエラーが記録される (4525236)

Solaris 8 ソフトウェアから Solaris 10 リリースへのアップグレードの際、SUNWjxcft パッケージが削除されるときに、次のようなエラーメッセージが `upgrade_log` ファイルに記録されます。

```
Removing package SUNWjxcft:
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias
Removal of <SUNWjxcft> was successful
```

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。

Solaris 10 リリースにアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (4626093)

/etc/init.d/sshd デーモンから第三者の Secure Shell (OpenSSH など) を実行しているシステムの場合、Solaris 10 リリースにアップグレードすると、既存の Secure Shell デーモンが使用できなくなります。アップグレード時に、Solaris 10 ソフトウェアが自身の sshd で /etc/init.d/sshd の内容を上書きし、既存の sshd が失われます。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムが不要な場合は、アップグレード時に SUNWsshdr パッケージと SUNWsshdu パッケージをインストールしないでください。
- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムもクライアントプログラムもどちらも不要な場合は、アップグレード時に Secure Shell Cluster (SUNWCssh) をインストールしないでください。

/export ディレクトリが満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (4409601)

/export ディレクトリの空き容量がゼロに近い状態で、システムを Solaris 10 リリースにアップグレードしようとする、/export ディレクトリ容量の必要条件の計算に誤りが発生し、アップグレードに失敗します。この問題は、ディスクレスクライアントがインストールされている場合によく発生します。または、/export ディレクトリに他社製のソフトウェアがインストールされている場合にも発生します。次のメッセージが表示されます。

WARNING: Insufficient space for the upgrade.

回避方法: アップグレードの前に、次のいずれかを実行してください。

- アップグレードが完了するまで、一時的に /export ディレクトリの名前を変更します。
- アップグレードが完了するまで、/etc/vfstab ファイル内の /export の行を一時的にコメントにします。
- /export が独立したファイルシステムである場合は、アップグレードを実行する前に /export のマウントを解除します。

ディスクレスクライアントサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (4363078)

現在のシステムが、Solstice AdminSuite™ 2.3 Diskless Client ツールによってインストールされたディスクレスクライアントをサポートしている場合、2つの手順を実行する必要があります。

1. 既存のディスクレスクライアントのうち、サーバーと同じ Solaris バージョンで同じアーキテクチャーのものをすべて削除します。
2. Solaris 10 リリースをインストールするか、または Solaris 10 リリースにアップグレードします。

具体的な手順については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

ディスクレスクライアントを削除せずに Solaris 10 ソフトウェアをインストールしようすると、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
The Solaris Version (Solaris version-number) on slice
<xxxxxxx> cannot
be upgraded.
There is an unknown problem with the software configuration installed
on this disk.
```

このエラーメッセージの *version-number* は、現在、システムで稼働している Solaris のバージョンを表します。<xxxxxxx> は、このバージョンの Solaris ソフトウェアを実行しているスライスです。

インストールに関するその他の注意事項

ここでは、Solaris OS のインストールに関連する注意事項について説明します。

StarOffice と StarSuite は同じシステムに共存できない

Solaris 10 OS をインストールすると、選択した言語に応じて StarOffice または StarSuite™ ソフトウェアのいずれかが自動的にインストールされます。言語の一覧とその言語でサポートされているソフトウェアを次に示します。

選択した言語	サポートされるソフトウェア
中国語、日本語、韓国語	StarSuite
その他の言語	StarOffice

StarOffice と StarSuite は同じシステムに共存できません。誤ってインストールしたソフトウェアを置き換えるには、次の手順を実行します。

1. Solaris 10 SOFTWARE - 3 CD または Solaris 10 Operating System DVD をドライブに挿入します。
2. スーパーユーザーになります。
3. /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Product などの Product ディレクトリに移動します。
4. ソフトウェアを置き換えます。
 - StarOffice を StarSuite で置き換えるには、次のコマンドを使用します。

```
# pkgrm SUNWsogm SUNWsom
# pkgadd -d . SUNWsoagm SUNWsoam
```
 - StarSuite を StarOffice で置き換えるには、次のコマンドを使用します。

```
# pkgrm SUNWsoagm SUNWsoam
# pkgadd -d . SUNWsoagm SUNWsom
```

Solaris 7 または Solaris 8 ソフトウェアが稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前のドキュメントパッケージをインストールできない

翻訳された PDF 形式の文書コレクションの中には、パッケージ名が 9 文字を超えるものがあります。Solaris 7 または 8 ソフトウェアが稼働しているサーバーに、このような PDF コレクションをインストールする場合は、先にパッチを 2 つインストールしておく必要があります。

回避方法: これらのパッチのインストール手順については、Solaris 10 OS DOCUMENTATION DVD にある Solaris Documentation Important Information ファイルを参照してください。このファイルは次のディレクトリにあります。

```
mount-point/README/locale/install_
locale.html
```

選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある

Solaris 10 リリースでは、インストールするロケールを選択した場合、関連するほかのロケールもインストールされることがあります。これは、すべての完全ロケール (メッセージが翻訳されている) とアジアおよび日本語の部分ロケールが、言語単位でパッケージ化し直されたためです。ほかの部分ロケールは従来通りに地理上の分類 (中央ヨーロッパなど) に基づいて、パッケージ化されてインストールされます。

Solaris Live Upgrade を使用すると、LANGUAGES CD からデフォルトですべての言語がインストールされる (4898832)

Solaris 10 リリースをインストールするのに複数の CD を使用する Solaris Live Upgrade で行うと、LANGUAGES CD からデフォルトですべての言語がインストールされます。

インストール後、インストール時に選択したロケール以外のロケールでシステムにログインすると、判読できない文字が表示される可能性があります。このようなロケールのいずれかにログインしたあとは、英語のロケールが表示されます。

回避方法: インストール時に、カスタムインストールオプションを選択します。LANGUAGES CD インストール時にインストールする必要のない言語のチェックをすべて解除します。

第 3 章

実行時の注意事項とバグ情報

この章では、問題として認識されている実行時の問題について説明します。

注 – この章に記載されている問題とバグの一部は、後続の Solaris 10 リリースですでに解決済みです。アップグレード済みの Solaris ソフトウェアでは、この章の一部の問題とバグに関する説明が適用されなくなっている可能性があります。使用している Solaris 10 ソフトウェアに適用されないバグと問題については、[付録 A](#) を参照してください。

共通デスクトップ環境

Solaris 10 OS の共通デスクトップ環境 (CDE) に関するバグ情報について説明します。

x86: インテル社の i810 および i815 統合型グラフィックスチップセットのサポート

インテル社の i810 および i815 統合型グラフィックスチップセットは、Xorg X Window System サーバーではサポートされていません。Xsun サーバーではサポートされています。Xsun サーバーでこれらのチップセットを使用するように設定するには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のプログラムを実行して、キーボード、ディスプレイ、およびマウスを設定します。

```
# kdmconfig
```

3. 「Introduction and X Server Selection」画面で、Xsun サーバーを選択します。
「View and Edit Window System Configuration」画面で、Intel i810/i815 (4MB) が自動的にビデオデバイスとして選択および表示されます。
4. Intel i810 および i815 チップセットが自動的に選択されない場合は、「Change Video Device/Monitor」オプションを選択します。
5. 「Video Device Selection」画面で、「Intel i810/i815 (4MB)」オプションを選択します。
6. 続けてほかの kdmconfig オプションを選択します。

ar ロケールでアラビア語のテキストが表示されない

x86 システムで Xorg をデフォルトの Xserver として使用している場合は、ar ロケールでアラビア語のフォント (iso7759-6) が表示されません。Xorg の代わりに Xsun を使用している場合は、このエラーは発生しません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとして、`/usr/dt/config/Xservers` を編集します。

- 次の行をコメント解除するか、追加します。

```
:0 Local local_uid@console root /usr/openwin/bin/Xsun :0
-nobanner -defdepth 24
```

- 次の行をコメントにします。

```
:0 Local local_uid@console root /usr/X11/bin/Xorg :0
```

2. システムをリブートします。

別の方法として、ar_EG.UTF-8 などの UTF-8 ロケールにログインすることもできます。

一部のロケールで X キーボード拡張を使用するときに Compose キーシーケンスが機能しないことがある (6219932)

C ロケールなどのキーボード入力方式を使用しないロケールでは、いくつかの Compose キーシーケンスが機能しないことがあります。このエラーは、そのようなロケールで次のシステム構成のどちらかを使用した場合に発生します。

- Solaris 10 (x86 版) で Xorg X サーバーを使用するシステム
- Solaris 10 の SPARC 版と x86 版の両方で X キーボード拡張 (XKB) が有効になっている Xsun X サーバーを使用するシステム

特に、Shift キーを使っていずれかの文字を入力する必要がある場合、これらのシステムの Compose キーシーケンスはうまく機能しません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- Shift キーを含まない代替 Compose キーシーケンスを使用します。
詳細は、『Solaris 共通デスクトップ環境 ユーザーズ・ガイド』の付録 C「Compose キーシーケンス」を参照してください。付録に使用できるシーケンスの一覧が記載されており、その中のいくつかには Shift キーを使用しない代替シーケンスが用意されています。
- 利用可能な UTF-8 ロケールなど、キーボード入力方式を使用するロケールを使ってログインします。

x86: kdmconfig コマンドで Xorg X サーバー用のシステム識別情報の構成ファイルを作成できない (6217442)

JumpStart インストール方式を使用する場合は、プロセスによってシステム識別情報の構成 (sysidcfg) ファイルが使用されることがあります。このファイルを使用して、システム用の固有の Xsun 構成ファイルが生成されます。sysidcfg ファイルの Xsun 構成部分は、コマンド `kdmconfig -dfilename` で作成します。ただし、デフォルトの Xorg サーバーを使用するシステムでは、このコマンドで Xorg 構成情報を含むファイルを作成できません。このため、準備手順を追加しないと、これらのシステムで JumpStart 方式を使用できません。

回避方法: Xorg サーバーを使用するシステムで JumpStart インストール方式を使用する前に、次の手順を実行します。

1. システムで使用する固有の `xorg.conf` ファイルを準備します。このファイルを JumpStart サーバーの JumpStart ディレクトリに格納します。
`xorg.conf` ファイルを作成し、Xorg 情報にアクセスする手順については、105 ページの「x86: キーボード、ディスプレイ、およびマウスを構成するプログラムが X サーバーに対して機能していない (6178669)」を参照してください。
2. `xorg.conf` ファイルをシステム内のインストール先の `/etc/X11` ディレクトリにコピーする `finish` スクリプトを作成します。たとえば、次の行をこのスクリプトに追加します。

```
cp ${SI_CONFIG_DIR}/xorg.conf /etc/X11/Xorg.conf
```
3. カスタム JumpStart の `rules` ファイルで、インストールするタイプのシステム用の `rules` エントリに `finish` スクリプトを追加します。
4. カスタム JumpStart インストールを実行します。

カスタム JumpStart インストールの実行方法については、『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』を参照してください。第 4 章には JumpStart の `rules` ファイルに関する情報が記載され、第 5 章には `finish` スクリプトに関する情報が記載されています。

x86: kdmconfig プログラム内の Xorg X サーバーの構成指示が不完全である (6205881)

Xorg サーバーを構成するために kdmconfig プログラムに用意されている指示は不完全です。このプログラムは、xorg.conf ファイルを生成するための基本的な指示を表示しますが、一部の関連情報は使用できません。たとえば、xorg.conf ファイルに含まれるオプションはいくつかの場所で上書きされる可能性があります。

- コマンド行オプション
- Xorg サーバーの起動時にサーバーによって検出される情報
- Xorg サーバーの起動スクリプト (引き渡し優先引数を含むことがある)

したがって、Xorg 構成については、次の情報を参照してください。

- /usr/X11/man ディレクトリにある Xorg (1x) のマニュアルページ
- X サーバーを使用するデスクトップシステムのマニュアルページ。次に例を示します。
 - /usr/dt/man ディレクトリにある dtlogin (1X)
 - /usr/share/man ディレクトリにある gdm (1)

マニュアルページのパスにこれらのディレクトリが含まれていない場合は、次のどちらかの手順を実行します。

- このディレクトリを MANPATH 環境変数の設定に追加します。
- man コマンドの -M ディレクトリオプションを使用します。

Xorg サーバーを起動するスクリプトの中には、smf (5) リポジトリプロパティを使用するものがあります。特に、FMRI svc:/applications/x11/x11-server は X サーバープロパティを格納するために使用します。Xorg サーバーに関連したプロパティは次のとおりです。

- options/xserver
- options/default_depth
- options/server_args

これらのプロパティを設定および検索するには、スーパーユーザーになり、次の例に示すように svccfg コマンドを実行します。

```
# svccfg
svc:> select application/x11/x11-server
svc:/application/x11/x11-server> listprop options/default_depth
options/default_depth integer 24

svc:/application/x11/x11-server> setprop options/default_depth = 8
svc:/application/x11/x11-server> listprop options/default_depth
options/default_depth integer 8
```

```
svc:/application/x11/x11-server> end
#
```

x86: キーボード、ディスプレイ、およびマウスを構成するプログラムが X サーバーに対して機能していない (6178669)

現在の Solaris 10 リリースでは、デフォルトの X サーバーが Xsun から Xorg に変更されました。キーボード、ディスプレイ、およびマウスを構成するプログラム (kdmconfig) は Xsun サーバーにのみ適用されます。このプログラムは Xorg サーバーの構成には効果がありません。したがって、kdmconfig を使用して Xorg サーバーを構成することはできません。kdmconfig では使用するサーバーを選択できませんが、kdmconfig は Xsun サーバーしか構成しません。

回避方法: Xorg サーバーを構成するには、次の手順を実行します。

1. 次のどちらかのコマンドを使用して `xorg.conf` ファイルを作成します。

- `/usr/X11/bin/Xorg -configure`
- `/usr/X11/bin/xorgconfig`
- `/usr/X11/bin/xorgcfg`

2. 作成された `xorg.conf` ファイルに必要な変更を加えて編集します。

3. `xorg.conf` ファイルを `/etc/X11/xorg.conf` に移動します。

Xorg 構成の詳細については、`/usr/X11/man` ディレクトリに含まれている Xorg のマニュアルページを参照してください。このディレクトリは、デフォルトのマニュアルページのパスにはありません。これらのマニュアルページを表示するには、次のいずれかを実行します。

- このパスを環境変数 `MANPATH` の設定に追加します。
- 構文 `man -M /usr/X11/man` を使用します。

注 - Xorg コマンド行オプションは、`xorg.conf` 設定より優先されます。Xorg で使用するオプションの詳細については、マニュアルページを参照してください。

SPARC: 共通デスクトップ環境のログインサービスにおいて、いくつかの UTF-8 ロケールが利用できない (5042573)

ログインサーバーが起動し、共通デスクトップ環境 (CDE) ログインサービスが起動したとき、次の UTF-8 ロケールが利用できません。

- `ar_SA.UTF-8`

- el_GR. UTF-8
- nl_BE. UTF-8
- nl_NL. UTF-8
- pt_PT. UTF-8

回避方法: これらのロケールを使用するには、まず、これら以外の UTF-8 ロケールにログインします。その後、コマンド行で LC_ALL 変数を設定します。次に例を示します。

```
export LC_ALL=ar_SA.UTF-8
```

注 - この回避方法は SPARC ベースのシステムだけに適用されます。これらのロケールは x86 ベースのシステムでは利用できません。

CDE のリムーバブルメディア自動実行機能が削除されている (4634260)

CDE デスクトップ環境のリムーバブルメディア自動実行機能は、Solaris 10 ソフトウェアから一時的に削除されています。

回避方法: CD-ROM などのリムーバブルメディアの自動実行機能を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- リムーバブルメディアのファイルシステムに移動し、最上位のディレクトリで volstart プログラムを実行します。
- CD に記載されている指示に従って、CDE 以外の環境からリムーバブルメディアにアクセスします。

Solaris PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (4260435)

デスクトップから最後のエントリを削除したあとに、PDA デバイスに対して同期処理を実行すると、最後のエントリが PDA デバイスからデスクトップに復元されてしまいます。たとえば、カレンダーの最後のアポイントメントやアドレス帳の最後のアドレスが、削除したあとに復元されてしまいます。

回避方法: 同期処理を実行する前に、PDA デバイスから最後のエントリを手動で削除してください。

Solaris PDASync がマルチバイトの国際化された PDA デバイスとのデータ交換をサポートしていない (4263814)

PDA デバイスと Solaris CDE との間でマルチバイトのデータを交換すると、両方の環境でデータが破壊されることがあります。

回避方法: Solaris PDASync アプリケーションを実行する前に、PDA バックアップユーティリティを使用してパーソナルコンピュータ上のデータのバックアップを作成してください。誤ってマルチバイトのデータを交換し、そのデータを破壊してしまった場合は、作成したバックアップからデータを復元します。

DOCUMENTATION DVD

Solaris 10 リリースの DOCUMENTATION DVD に関するバグ情報について説明します。

ほかのドキュメントパッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要

SUNWsdocs パッケージを削除した場合、ほかのドキュメントパッケージを削除しようとしても失敗します。この問題が発生するのは、SUNWsdocs パッケージがほかのコレクションとともにインストールされ、ブラウザのエントリポイントを提供しているためです。

回避方法: SUNWsdocs パッケージを削除している場合は、ドキュメントメディアから SUNWsdocs パッケージをもう一度インストールし、そのあとでほかのドキュメントパッケージを削除してください。

ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (4674475)

現在の Solaris 10 リリースが動作しているシステムにおいて、次のヨーロッパロケールでは、Solaris 10 DOCUMENTATION DVD の PDF 文書の表示ができません。

- de (ドイツ語)
- es (スペイン語)
- fr (フランス語)

- it (イタリア語)
- sv (スウェーデン語)

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- x86 ベースのシステムでは、環境変数 `LC_ALL` を `C` `acroread` に設定します。たとえば、C シェルでは、次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
% env LC_ALL=C acroread
```
- SPARC ベースのシステムでは、Adobe Acrobat Reader 5.0 またはそれ以降のバージョンにアップグレードします。

ファイルシステム

Solaris 10 リリースのファイルシステムに関するバグ情報について説明します。

一部の Solaris Express または Solaris 10 リリースからのアップグレードにはファイルシステムの再マウントが必要

NFSv4 サーバーを Solaris Express 11/04 または以前の Solaris 10 リリースからアップグレードしたあと、プログラムによって EACCES エラーが検出されることがあります。さらに、ディレクトリが間違っただけに見えるように見えることもあります。

これらのエラーを回避するには、クライアントのファイルシステムをいったんマウント解除してから再マウントします。マウント解除がうまくいかない場合は、`umount -f` を使用して強制的にファイルシステムをマウント解除する必要があります。あるいは、クライアントをリブートしてもかまいません。

NFSv4 アクセス制御リストの関数が正しく動作しないことがある

ネットワーク上のクライアントとサーバーが、異なる以前の Solaris 10 リリースでインストールされている場合、NFSv4 アクセス制御リスト (ACL) の関数が正しく動作しないことがあります。対象となる ACL 関数とその関数を使用するコマンド行ユーティリティは次のとおりです。

- `acl()`
- `facl()`
- `getfacl`

■ setfacl

これらの関数とユーティリティについては、それぞれのマニュアルページを参照してください。

たとえば、次の構成を含むネットワークではエラーが検出される可能性があります。

- Solaris 10 ベータ版ソフトウェアが稼働しているクライアント
- Solaris 10 ソフトウェアが稼働しているサーバー

次の表に、異なる Solaris 10 リリースがインストールされているクライアントとサーバーの構成における ACL 関数の結果を示します。

操作	クライアントの S10 OS	サーバーの S10 OS	結果
get ACL	S10 ベータ版	S10 OS	正しくない ACL * が作成されます
get ACL	S10 OS	S10 ベータ版	正常に機能します
set ACL	S10 ベータ版	S10 OS	正常に機能します
set ACL	S10 OS	S10 ベータ版	エラー: EOPNOTSUP

回避方法: NFSv4 ACL の機能を正しく動作させるには、サーバーとクライアントの両方で Solaris 10 OS の完全なインストールを実行します。

Solaris NFSv4 クライアントと NFSv4 サーバーとの間にアクセスに関する問題がある

現在の Solaris 10 バージョンでは、NFSv4 アクセス制御リスト (ACL) の Solaris 実装は RFC 3530 仕様に準拠しています。しかし、Solaris 10 ベータ版 (Beta 2 または Beta 1) を使用する NFSv4 クライアントではエラーが発生します。これらのクライアントでは、現在の Solaris 10 リリースを使用している NFSv4 サーバー内にファイルを作成することができません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
NFS getacl failed for server_name: error 9 (RPC: Program/version mismatch)
```

回避方法: ありません。

1T バイトよりも大きなデバイスでシステムクラッシュダンプが失敗する (6214480)

システムでは、1T バイト以上のパーティションにダンプを生成することができません。システム上にこのようなデバイスがある場合は、システムパニックが発生したあとにシステムをブートすると、次のようなエラーが発生することがあります。

- システムがダンプを保存しない。
- 次のメッセージが表示されます。

```
0% done: 0 pages dumped, compression ratio 0.00, dump failed: error 6
```

回避方法: システムのダンプデバイスのサイズを 1T バイト未満に設定してください。

smossservice コマンドで OS サービスを追加すると、ディスク容量不足のメッセージが表示される (5073840)

smossservice コマンドを使用して OS サービスを UFS ファイルシステムに追加すると、利用可能なディスク容量が不足しているというメッセージが表示されます。このエラーは、EFI ラベル付きディスクの UFS ファイルシステムでのみ発生します。

回避方法: 次の回避方法を完了してください。

1. SMI VTOC ディスクラベルを適用します。
2. ファイルシステムを作成し直します。
3. smossservice コマンドを再実行します。

ハードウェア関連の注意事項とバグ情報

Solaris 10 リリースのハードウェア関連の注意事項とバグ情報について説明します。

SPARC: Solaris 10 OS で Sun Crypto Accelerator 4000 ボードバージョン 1.0 および 1.1 がサポートされていない

Solaris 10 OS には、新しい暗号化フレームワークが用意されていますが、バージョン 1.0 および 1.1 の Sun Crypto Accelerator 4000 ボードのソフトウェアとファームウェアはこのフレームワークを利用しません。したがって、これらのバージョンは Solaris 10 OS ではサポートされていません。

2.0 リリースでは新しいフレームワークを使用します。Solaris 10 OS の使用を予定している現在の Sun Crypto Accelerator 4000 ユーザーは、このリリースを無償アップグレードで利用できます。Sun Crypto Accelerator 4000 は輸出が規制されている製品であるため、Sun エンタープライズサービスまたは最寄りの販売ルートを通じて無償アップグレードを受ける必要があります。詳細は、Sun の製品サイトにある Sun Crypto Accelerator 4000 Web ページを参照してください。

特定の USB 2.0 コントローラが使用できない

一部の USB 2.0 コントローラは EHCI ドライバとの互換性がないため、サポートされていません。次のメッセージが表示されます。

```
Due to recently discovered incompatibilities with this
USB controller, USB2.x transfer support has been disabled.
This device will continue to function as a USB1.x controller.
If you are interested in enabling USB2.x support please refer
to the ehci(7D) man page.
Please refer to www.sun.com/io for Solaris Ready products
and to www.sun.com/bigadmin/hcl for additional compatible
USB products.
```

USB デバイスに関する最新情報については、http://www.sun.com/io_technologies/USB-Faq.html を参照してください。

サポートされる USB デバイスと対応するハブの構成

この Solaris リリースでは、USB 1.1 と USB 2.0 の両方のデバイスをサポートします。次の表は、特定の構成で動作する USB デバイスをまとめたものです。接続の種類は、コンピュータに直接接続しても、USB ハブ経由で接続してもかまいません。USB 1.1 のデバイスとハブは低速または全速であることに注意してください。USB 2.0 のデバイスとハブは高速です。ポートと動作速度の詳細については、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』を参照してください。

表 3-1 USB デバイスと構成

USB デバイス	接続の種類
USB 2.0 ストレージデバイス	直接、USB 1.1 ハブ、USB 2.0 ハブ
USB 1.1 デバイス (オーディオデバイスを除く)	直接、USB 1.1 ハブ、USB 2.0 ハブ
USB 1.1 オーディオデバイス	直接、USB 1.1 ハブ
USB 2.0 オーディオデバイス	サポートされません

x86: Solaris 10 OS で特定のデバイスドライバにいくつかの制限がある

次のリストは、このリリースの Solaris 10 (x86 版) における特定のドライバとインタフェースの制限事項を示しています。

チェックポイントの再開 この機能は、すべてのデバイスタイプでオフになっています。detach() 関数の DDI_SUSPEND コードでは、DDI_FAILURE を返す必要があります。

電源管理

この機能は、USB デバイスでは利用できません。電源管理コンポーネントを作成しないでください。電源管理コンポーネントが作成されるときにだけ

`pm_raise_power()` と `pm_lower_power()` が呼び出されるようにドライバを作成します。

モニターのないシステムでの DVD-ROM/CD-ROM

リムーバブルメディアなどの対話型デバイスの電源管理は、モニターおよびモニターを制御しているグラフィックスカードの電源管理と連動しています。画面が有効になっているときは、CD-ROM ドライブやフロッピーディスクなどのデバイスは全電力モードとなります。モニターのないシステムでは、これらのデバイスは低電力モードに切り替わることがあります。CD またはフロッピーディスクの電力を元に戻すには、**volcheck** と入力して、各リムーバブルデバイスから最新の状態を取得します。

代替手段として、Dtpower GUI を使用して、使用しているシステムの電源管理を使用不可にすることができます。電源管理を無効にすることにより、これらのデバイスは常に通常の電力モードになります。

x86: US 英語以外のキーボードを指定するには手動による構成が必要

デフォルトでは、`kdmconfig` プログラムはシステムに接続されているキーボードタイプとして、一般的な US 英語 (104 キー) を指定します。システムのキーボードが US 英語キーボードでない場合は、インストール時にそのキーボードタイプを手動で指定する必要があります。指定しない場合、システムの実際のキーボードタイプと矛盾しているデフォルトのキーボード仕様でインストールが続行されます。

回避方法 1: システムのキーボードが US 英語キーボードでない場合は、インストール時に次の手順を実行してください。

1. 「Proposed Window System Configuration For Installation」が表示されたら、Esc キーを押します。

注 - キーボードタイプを含む「Proposed Window System Configuration For Installation」の情報は 30 秒間しか表示されません。構成の設定を変更する場合は、30 秒以内に Esc キーを押す必要があります。そうしないと、表示された設定でインストールが続行されます。

2. キーボードタイプをシステムのキーボードに対応するタイプに変更します。

3. Enter キーを押して変更を受け入れ、インストールを続行します。

回避方法 2: すでに Solaris 10 OS が動作しているシステムのキーボードタイプを変更する場合は、`kdmconfig` プログラムを使用します。システムで実行している X サーバーの種類に応じて、次のいずれかを実行してください。

- Xsun サーバーを実行している場合は、次の手順を実行します。
 1. `kdmconfig` を実行します。
 2. 「Change Keyboard」オプションを使用して、キーボードタイプを変更します。
 3. 構成を保存します。
- デフォルトの Xorg サーバーを実行している場合は、次の手順を実行します。
 1. `kdmconfig` を実行します。
 2. Xsun サーバーを選択します。
 3. 「Change Keyboard」オプションを使用して、キーボードタイプを変更します。
 4. 構成を保存します。
 5. `kdmconfig` をもう一度実行して Xorg サーバーに切り替えます。

SPARC: テープデバイスに接続される特定のホストバスアダプタ用の `jfca` ドライバによってエラーが発生することがある (6210240)

次のホストバスアダプタ (HBA) がテープデバイスに接続されるときに、その HBA 用の `jfca` ドライバによってシステムパニックまたは入出力エラーが発生することがあります。

- SG-PCI1FC-JF2
- SG-PCI2FC-JF2

特定の操作が実行されているときに、これらの HBA 用の `jfca` ドライバは競合状態に陥りやすいため、エラーが発生します。特定の操作は、次のとおりです。

- リンクのリセット
- ループのリセット
- スイッチのリセット
- 繰り返されるリンク障害

次の例のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

- 入出力エラーメッセージ

```
jfca: [ID 277337 kern.info] jfca4: Sequencer-detected error. Recover
immediately.
last message repeated 18376 times
jfca: [ID 716917 kern.notice] jfca4: ExgWarning: SendVerify(1): SHOULD
```

```
ABORT THE ORIG I/O PKG=30007520bd8!  
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING:  
/pci@1e,600000/SUNW,jfca@3,1/fp@0,0/st@w2100001086108  
628,1 (st3):  
    SCSI transport failed: reason 'timeout': giving up
```

■ システムパニックメッセージ

```
panic[cpu1]/thread=2a100497cc0:  
BAD TRAP: type=31 rp=2a1004978d0 addr=a8 mmu_fsr=0 occurred in module  
"jfca" due to a NULL pointer dereference
```

回避方法: テープデバイスを SG-PCI1FC-JF2 または SG-PCI2FC-JF2 の HBA に接続しないでください。

USB 2.0 ハブを USB 1.x デバイスとともに使用すると、システムパニックが発生することがある (6209619)

USB 2.0 ハブから USB 1.x デバイスのダウンストリームを使用すると、システムがパニックになることがあります。次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
BAD TRAP: type=31 rp=2a100f8d6a0 addr=38 mmu_fsr=0 occurred  
in module "usba" due to a NULL pointer
```

回避方法: 次のような USB 1.x デバイスとの接続構成を使用しないでください。

- USB 2.0 システムポートに接続されている USB 2.0 ハブに接続された USB 1.x デバイス
- USB 2.0 PCI カードのポートに接続されている USB 1.x デバイス

代わりに、USB 1.x デバイスを直接システムの USB 1.1 ポートに接続します。あるいは、USB 2.0 システムポートまたは PCI カードのポートに接続されている USB 1.1 外部ハブを使用してもかまいません。

注 – 関連情報については、次のサイトを参照してください。

- <http://www.sun.com/io> (Solaris Ready 製品に関する情報)
 - <http://www.sun.com/bigadmin/hcl> (互換性のあるほかの USB 製品に関する情報)
 - http://www.sun.com/io_technologies/USB-Faq.html (USB デバイスに関する最新情報)
-

x86: 特定のマザーボードで EHCI ドライバが使用できない (6204987)

特定のマザーボードの ICH5R コントローラのシステムソフトウェアは、BIOS からの EHCI ハードウェアの制御に失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
ehci_init_ctrl: Unable to take control from BIOS. EHCI support disabled.
```

したがって、EHCI ドライバを使用できません。

注 – 関連情報については、次のサイトを参照してください。

- <http://www.sun.com/io> (Solaris Ready 製品に関する情報)
 - <http://www.sun.com/bigadmin/hcl> (互換性のあるほかの USB 製品に関する情報)
 - http://www.sun.com/io_technologies/USB-Faq.html (USB デバイスに関する最新情報)
-

回避方法: ありません。

FireWire (IEEE 1394) ストレージデバイスによってシステムパニックが発生することがある (6203680)

FireWire (IEEE 1394) 大容量ストレージデバイスをリムーバブルメディアのボリュームデーモン (vold) とともに使用すると、システムパニックが発生することがあります。このようなストレージデバイスの例に、ハードディスクドライブや CD または DVD ドライブがあります。表示されるエラーメッセージには、「bad mutex (相互排他が正しくない)」というエントリが含まれています。

回避方法: FireWire (IEEE 1394) 大容量ストレージデバイスをシステムに接続する前に、次の手順を実行してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリューム管理デーモンを停止して、リムーバブルメディア管理を無効にします。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```

このデーモンの詳細については、vold(1M) のマニュアルページを参照してください。

再生または録音操作時に USB オーディオデバイス を一時停止すると、システムのデッドロックが発 生することがある (6200924)

USB オーディオデバイスの再生または録音中に、`sdtaudiocontrol` などを使用してデバイスを一時停止すると、ドライバがハングアップする可能性があります。場合によっては、システムをリブートする必要があります。

回避方法: USB オーディオデバイスを一時停止しないでください。

注 – 関連情報については、次のサイトを参照してください。

- <http://www.sun.com/io> (Solaris Ready 製品に関する情報)
 - <http://www.sun.com/bigadmin/hcl> (互換性のあるほかの USB 製品に関する情報)
 - http://www.sun.com/io_technologies/USB-Faq.html (USB デバイスに関する最新情報)
-

同一バスを共有する特定のデバイス間で競合が発 生する (6196994)

Quad FastEthernet (QFE) カードが次のアダプタのいずれかと同一バスを共有する場合、バスの競合が発生します。

- Sun GigaSwift アダプタ
- Sun Dual Gigabit Ethernet + Dual SCSI/P アダプタ
- Sun Quad GigaSwift Ethernet アダプタ

これらのアダプタによって使用される `ce` ドライバの `infinite-burst` パラメータは、デフォルトで有効になっています。このため、同一バスを共有する QFE ポートに利用できるバス時間はほとんどないか、まったくありません。

回避方法: QFE カードをリスト内のネットワークアダプタと同じバス上に配置しないでください。

Num Lock キーをオンにした状態ではキーボードの一部のキーが機能しない (6173972)

特定の Java アプリケーションの実行中に Num Lock キーをオンすると、ほかのキーが機能しなくなることがあります。影響を受けるキーのいくつかを次に示します。

- Back Space
- Delete
- Enter
- Tab
- 数値キーパッドの 0

回避方法: Num Lock キーをオフにしてください。

SPARC: リビジョン ID が 32 未満の GigaSwift Fast と Gigabit Ethernet デバイスによってシステムパニックが発生することがある (5090222)

リビジョン ID (rev_id) が 32 未満の GigaSwift Fast または Gigabit Ethernet カードによってシステムパニックが発生することがあります。パニックが発生するのは、Solaris 10 OS が動作している次のシステムです。

- Sun Blade™ 1500
- Sun Blade 2500
- Sun Fire V210
- Sun Fire V240
- Netra™ 240
- Sun Fire V440
- Netra 440

次のエラーメッセージが表示されます。

```
panic: pcisch-1: Fatal PCI bus error(s)
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. デバイスの rev_id を確認します。

```
kstat ce:instance | grep rev
```

2. rev_id が 32 未満の場合は、そのカードを rev_id が 32 以上の新しいモデルと交換します。

注 - 元のカードは、x86 システムや、上記のリストに含まれていない以前の SPARC ベースのシステムで引き続き使用できます。

hat_getkpfnum() DDI 関数は旧式とされている (5046984)

hat_getkpfnum() DDI 関数は旧式とされています。開発者は、hat_getkpfnum() DDI インタフェースを使用しないようにデバイスドライバを更新する必要があります。ドライバが hat_getkpfnum() を使用していると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: Module mydrv is using the obsolete hat_getkpfnum(9F)
interface in a way that will not be supported in
a future release of Solaris. Please contact the
vendor that supplied the module for assistance,
or consult the Writing Device Drivers guide,
available from http://www.sun.com for migration
advice.
```

```
Callstack of bad caller:
    hat_getkpfnum_badcall+93
    hat_getkpfnum+6e
    mydrv_setup_tx_ring+2d
    mydrv_do_attach+84
    mydrv_attach+242
    devi_attach+6f
    attach_node+62
    i_ndi_config_node+82
    i_ddi_attachchild+4a
    devi_attach_node+4b
    devi_attach_children+57
    config_immediate_children+6e
    devi_config_common+77
    mt_config_thread+8b
```

ドライバが hat_getkpfnum() を使用しているかどうかを確認するには、ドライバのソースコードを参照するか、nm() を使用してドライバのシンボルを調べます。たとえば、ドライバ mydrv を調べる場合は、次の構文を入力します。

```
% nm /usr/kernel/drv/mydrv | grep hat_getkpfnum
```

ドライバが hat_getkpfnum() を使用しないように移行する方法については、『Writing Device Drivers』の付録 B 「Summary of Solaris DDI/DKI Services」を参照してください。

USB 2.0 ホストコントローラを持つシステムがハングアップまたはパニックを起こすことがある (5030842)

USB 2.0 ホストコントローラを持つシステムは、このリリースの Solaris を実行していると、頻繁にハングアップまたはパニックを起こすことがあります。これらの問題は、NEC 製チップセットを搭載していない USB 2.0 デバイスに原因があります。これらの問題が発生した場合、Enhanced Host Controller Interface (EHCI) に関する次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: /pci@0,0/pci8086,244e@1e/pci925,1234@2,2 (ehci1):  
This controller is not supported.  
Please refer to www.sun.com/io for Solaris Ready products  
and to www.sun.com/bidadmin/hcl for additional compatible USB products
```

回避方法: システムのハードウェア構成によって、次のいずれかを実行してください。

- USB 2.0 ホストコントローラハードウェアを NEC 製チップセットを搭載したハードウェアと交換します。NEC 製チップセットを搭載した USB 2.0 ハードウェアは Solaris OS で正しく動作することが確認されています。
- USB 2.0 ホストコントローラがマザーボード上に組み込まれているシステムでは、空いている PCI スロットを利用して、次の手順を実行します。
 1. NEC 製チップセットを搭載した USB 2.0 PCI カードを追加します。
 2. スーパーユーザーになります。
 3. マザーボード上の USB 2.0 サポートを無効にして、PCI カード上の USB 2.0 サポートだけを有効にします。次のコマンドを実行します。

```
# update_drv -d -i '"pciclass,0c0320"' usba10_ehci  
# update_drv -a -i '"pci1033,e0"' usba10_ehci  
# reboot
```

4. 速度が求められる USB 2.0 デバイスについては、マザーボード上の USB ポートではなく、PCI カード上の USB ポートに接続します。
- 新規に USB ハードウェアをシステムに追加できない場合でも、システムの EHCI を無効にできます。この場合は、次の手順を実行します。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを実行します。

```
# update_drv -d -i '"pciclass,0c0320"' usba10_ehci  
# reboot
```

注 – USB 2.0 ポートは 2 つのハードウェア構成要素で動作します。

- 高速の場合は EHCI
- 低速と全速の場合は Open Host Controller Interface (OHCI) または Universal Host Controller Interface (UHCI)

x86 ベースのシステムには、OHCI 用のドライバと UHCI 用のドライバが存在します。SPARC ベースのシステムには、OHCI 用のドライバが存在します。したがって、SPARC ベースのシステムの場合、EHCI を無効にしても、OHCI を持つ USB PCI カードは動作します。また、x86 ベースのシステムの場合、EHCI を無効にしても、OHCI または UHCI を持つ USB PCI カードは動作します。どちらの場合も、EHCI を無効にしたポートに接続されている USB 2.0 デバイスは、USB 1.1 デバイスの速度で動作します。

自分の SPARC ベースのシステムで EHCI と OHCI が存在するかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

prtconf -D

次の例のように、EHCI エントリは 1 つまたは複数の OHCI エントリのあとに出力されます。

```
pci, instance #0 (driver name: pci_pci)
usb, instance #0 (driver name: usba10_ohci)
usb, instance #1 (driver name: usba10_ohci)
usb, instance #0 (driver name: usba10_ehci)
```

x86: Sun Fire V65x サーバーで Adaptec SCSI Card 39320D カードを 2 枚使用すると、システムがパニックになることがある (5001908)

Sun Fire V65x サーバーで Adaptec SCSI Card 39320D カードを 2 枚使用すると、システムがパニックになることがあります。パニックが発生するのは、Solaris 10 ソフトウェアのインストール後にはじめてリブートしているときです。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Initializing system Please wait...
1 run-time error M6111: MATH
  - floating-point error: stack underflow
```

回避方法: 2 枚目の Adaptec 製カードを取り外してください。

x86: Solaris OS (x86 版) ではソフトシステム シャットダウンがサポートされていない (4873161、5043369)

Solaris OS (x86 版) では、コマンドによって開始されるソフトシステムシャットダウンをサポートしていません。シャットダウンのコマンドは、電源ボタンを押して電源をオフにする操作をシミュレートしたものです。x86 ベースのシステムでは、Solaris OS の動作中にこのコマンドを実行すると、オペレーティングシステムが正しくシャットダウンされずに即座に電源がオフになります。シャットダウンプロセスが正しく行われないと、ファイルシステムが破壊されることがあります。

回避方法: 電源をオフにする前に、まずオペレーティングシステムをシャットダウンしてください。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. `init`、`halt`、`shutdown` など、Solaris OS を正しくシャットダウンするコマンドのいずれかを実行します。次に例を示します。

```
# shutdown
```

3. オペレーティングシステムが完全にシャットダウンされたら、次のいずれかの方法で電源をオフにします。
 - システムがソフトシャットダウンをサポートしている場合は、コマンドを実行して電源をオフにします。
 - システムがソフトシャットダウンをサポートしていない場合は、電源スイッチを使用して手動で電源をオフにします。

オペレーティングシステムをシャットダウンするコマンドの詳細については、`init(1M)`、`halt(1M)`、`shutdown(1M)` の各マニュアルページを参照してください。システムの電源をオフにする方法については、システムのマニュアルを参照してください。

一部の DVD および CD-ROM ドライブで Solaris をブートできない (4397457)

SunSwift™ PCI Ethernet/SCSI ホストアダプタ (X1032A) カードの SCSI 部分のデフォルトタイムアウトは、Sun の SCSI DVD-ROM ドライブ (X6168A) のタイムアウト条件を満たしていません。一部のメディアでは、DVD-ROM で頻繁にタイムアウトエラーが発生します。例外は、OpenBoot PROM によって SCSI タイムアウト値を上書きする Sun Fire 6800、4810、4800、および 3800 システムのみです。

回避方法: ほかのプラットフォームでは、システムボード上の SCSI インタフェースまたは DVD-ROM 互換 SCSI アダプタを使用してください。次に例を示します。

- X1018A (SBus: F501-2739-xx)

- X6540A (PCI: F375-0005-xx)

iPlanet Directory Server 5.1 に関する注意事項

ここでは、iPlanet™ Directory Server 5.1 のユーザーがシステムを新しいリリースの Solaris 10 にアップグレードする際に重要な情報について説明します。

Directory Server 5.1 のインストール

Solaris 9 オペレーティングシステムに統合されていた iPlanet Directory Server 5.1 は Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 に置き換わりました。Solaris 10 OS では、この新しい Directory Server を Sun Java Enterprise System の一部としてインストールできます。

注 – Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 については、<http://docs.sun.com> にある Sun Java System のマニュアルを参照してください。

Solaris 10 OS では、引き続き Directory Server 5.1 のサポートを行います。次の状況では、場合により Directory Server 5.1 をインストールする必要があります。

- Directory Server 5.1 のデータを復元する必要がある場合。
- データを Directory Server 5 2005Q1 に移行する場合。

Solaris 10 リリースでは、Directory Server 5.1 のインストールは手動で行います。次の手順を実行します。

1. Solaris 10 SOFTWARE - 4 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで、Directory Server をインストールします。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_10/Product/  
# pkgadd -d . IPLTnls IPLTnspr IPLTnss IPLTjss IPLTpldap \  
IPLTdsr IPLTdsu IPLTadmin IPLTcons IPLTadcon IPLTdscon \  
IPLTadman IPLTdsman
```

簡体字中国語地域化パッケージをインストールするには、さらに次のコマンドを実行します。

```
# pkgadd -d . IPLTcdsu IPLTcadmin IPLTccons IPLTcadcon \
IPLTcdscon IPLTcadman IPLTcdsman
```

日本語地域化パッケージをインストールするには、さらに次のコマンドを実行します。

```
# pkgadd -d . IPLTjdsu IPLTjadmin IPLTjcons IPLTjadcon \
IPLTjdscon IPLTjadman IPLTjdsman
```

4. インストールが完了したら、iPlanet Directory Server 5.1 を設定します。詳細は、『Solaris のシステム管理 (ネーミングとディレクトリサービス : DNS、NIS、LDAP 編)』の第 11 章「Sun ONE Directory Server の構成」を参照してください。

Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 への移行



注意 – 2 つのバージョンの Directory Server のデータベース形式には互換性はありません。したがって、Directory Server 5.1 ユーザーは使用しているデータベースを Sun Java System Directory Server 5 2005Q1 用にフォーマットされたデータベースに移行することをお勧めします。

移行を行うには、Solaris 10 OS にアップグレードしたシステムに両方のバージョンの Directory Server が含まれている必要があります。圧縮されたアーカイブ(.tar.gz) 配信形式を使用している DS 5.1 ユーザーは、手順 2 の移行処理にすぐに進むことができます。

1. 端末ウィンドウで、iPlanet Directory Server 5.1 パッケージがシステムに存在しているかどうかを確認します。

```
$ pkginfo | grep IPLT
```

次のパッケージが出力として表示されたら、手順 2 に進んで移行処理を開始できます。この出力は、iPlanet Directory Server 5.1 パッケージがシステムに含まれていることを示します。

```
system IPLTadcon Administration Server Console
system IPLTadman Administration Server Documentation
system IPLTadmin Administration Server
system IPLTcons Console Client Base
system IPLTdscon Directory Server Console
system IPLTdsman Directory Server Documentation
system IPLTdsr Directory Server (root)
system IPLTdsu Directory Server (usr)
system IPLTjss Network Security Services for Java
system IPLTnls Nationalization Languages and Localization Support
system IPLTnspr Portable Runtime Interface
```

```
system IPLTnss      Network Security Services
system IPLTldap     PerLDAP
$
```

パッケージが存在しない場合は、まず iPlanet Directory Server 5.1 パッケージをインストールします。詳細は、前節 122 ページの「[Directory Server 5.1 のインストール](#)」の手順 1 ～ 4 を参照してください。インストールが完了したら、手順 2 に進んで移行処理を始めます。

2. iPlanet Directory Server 5.1 のデータベースを現在のバージョンに移行します。手順については、http://docs.sun.com/coll/DirectoryServer_05q1 にある Sun Java System Directory Server のドキュメントコレクションを参照してください。

データの移行後は、引き続き移行前に行ったのと同じ方法でディレクトリデータのバックアップを行うようにしてください。今後の障害回復に、移行したデータベースが必要となることがあります。

デバッグ実行時の注意事項

カーネルデバッグに関する注意事項について説明します。

SPARC: 保存停止・復元再開サイクル中にカーネルデバッグがアクティブになっているシステムがパニックになることがある (5062018)

カーネルデバッグ (kmdb) がアクティブになっているシステムで保存停止・復元再開サイクルを何度か実行すると、最終的にシステムがパニックになることがあります。パニックが発生するのは、サイクルの復元再開時です。通常、この問題は保存停止・復元再開サイクルが 20 ～ 50 回行われたシステムで発生します。システムはパニックメッセージを生成します。

回避方法: 保存停止・復元再開モジュール (cpr) を使用する必要があるすべてのシステムで kmdb を無効にしてください。

マスター CPU の変更後、システムがループになることがある (4405263)

Solaris カーネルデバッグを実行して稼働中のシステムをデバッグしているシステムは、不完全なエラーメッセージのループになることがあります。このループは、OpenBoot PROM のマスターCPU を変更したときに発生します。リセットすればシステムを稼働状態に戻すことができます。しかし、元のエラーのトレースログが失われます。したがって、重大なリセットの診断が実行不能になります。

回避方法: システムが PROM レベルにあるときは、OpenBoot の ok プロンプトが表示されます。複数の CPU を備えたシステムでは、ok プロンプトの前に中括弧で囲まれた数値が表示されます。この数値は、システム内のアクティブになっている CPU を示しています。PROM レベル時にデバッグセッションを実行するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、pil を f に変更します。

```
{0} ok h# 0f pil!
```

2. switch-cpu コマンドを使用して、選択的に現在アクティブになっている CPU を別の CPU に切り替えます。たとえば、CPU #0 から CPU #1 に切り替えるには、次のコマンドを入力します。

```
(0) ok 1 switch-cpu
```

これで、ok プロンプトの前に、切り替えた CPU の番号が表示されます。

```
{1} ok
```

3. デバッグを実行します。
4. デバッグセッションの終わりで、reset-all コマンドを実行してシステムを通常の使用状態に戻します。

注 - 必ずシステムを最新バージョンの OpenBoot PROM にアップグレードしてください。

地域化に関する注意事項

ここでは、Solaris 10 OS の地域化に関する注意事項について説明します。

ログイン画面で UTF-8 ロケールに推奨のマークが付いている

ログイン画面の言語メニューでは、UTF-8 ロケールに推奨オプションを表すラベルが付いています。たとえば、日本語ロケールの場合、画面は次のように表示されます。

```
ja_JP.eucJP ----- Japanese EUC
ja_JP.PCK ----- Japanese PCK
ja_JP.UTF-8 (Recommended) - Japanese UTF-8
```

Java Desktop System では UTF-8/Unicode を内部文字エンコーディングとして使用するため、JDS のユーザーには UTF-8 ロケールの使用が推奨されています。これは、将来 UTF-8 以外のロケールのソフトウェアサポートが中止されることも踏まえて推奨されます。詳細は、[199 ページの「UTF-8 でないレガシー \(従来の\) ロケール」](#)を参照してください。

UTF-8 ロケールに移行すると、それらのファイルはデータをインポートまたはエクスポートするときに使用方法に影響します。

Microsoft Office ファイル

Microsoft Office ファイルは、Unicode でエンコードされています。StarSuite アプリケーションでは、Unicode でエンコードされたファイルの読み取りと書き込みを行うことができます。

HTML ファイル

Mozilla Composer などの HTML エディタを使用して作成した HTML ファイルや、Web ブラウザで保存された HTML ファイルには通常、charset エンコーディングタグが含まれています。エクスポートまたはインポートしたあとの HTML ファイルは、HTML ファイル内のエンコーディングタグに基づいて、Mozilla Navigator Web ブラウザで表示したり、Mozilla Composer を使用して編集したりすることができます。

壊れた HTML ファイルの修正

HTML ファイルが文字化けして表示されることがあります。この問題は通常、次の理由で発生します。

- charset エンコーディングタグが正しくない。
- charset エンコーディングタグがない。

HTML ファイルの charset エンコーディングタグを見つけるには、次の手順を実行します。

1. Mozilla を使用してファイルを開きます。

2. Ctrl+I キーを押すか、「表示」をクリックして「表示」メニューを開きます。
3. 「ページ情報」をクリックします。

charset 情報は、「一般」タブの下に、次のように表示されます。

```
Content-Type text/html; charset=us-ascii
```

文字列 `charset=us-ascii` がファイルの実際のエンコーディングと一致しない場合、そのファイルは壊れているように見えることがあります。HTML ファイルのエンコーディングを編集するには、次の手順を実行します。

1. Mozilla Composer でファイルを開きます。
2. 「ファイル」メニューを開きます。
3. 「文字エンコードの保存および変更」を選択します。
4. 正しいエンコーディングを選択します。Mozilla Composer は、自動的にエンコーディングと charset タグを適切に変換します。

汎用形式で保存された電子メール

現在の電子メールには、MIME charset タグが指定されています。電子メールおよびカレンダーアプリケーションは、MIME charset タグに対応しています。エンコーディング変換を実行する必要はありません。

プレーンテキストファイル

プレーンテキストファイルには、charset タグがありません。ファイルが UTF-8 エンコーディング形式でない場合には、エンコーディング変換を行う必要があります。たとえば、繁体字中国語 (BIG5) でエンコードされているプレーンテキストファイルを UTF-8 に変換するには、次のコマンドを実行します。

```
iconv -f big5 -t UTF-8 inputfilename > outputfilename
```

ファイルシステム検査器を使用して、エンコーディングを変換することもできます。

テキストエディタを使用して文字エンコーディングテキストの読み取りおよび書き込みを行うことができますが、自動的にエンコーディングが変換される場合と、ファイルを開くか保存するときに明示的にエンコーディングを指定する場合があります。

テキストエディタを起動するには、「起動」をクリックし、「アプリケーション」->「アクセサリ」->「テキストエディタ」の順に選択します。

ファイル名とディレクトリ名

複数バイト文字を使用するファイル名やディレクトリ名が UTF-8 エンコーディング形式でない場合は、エンコーディング変換を行う必要があります。ファイルシステム検査器を使用して、レガシー文字エンコーディングによるファイル名、ディレクトリ名、およびプレーンテキストファイルの内容を、UTF-8 エンコーディングに変換することができます。詳細は、ファイルシステム検査器のオンラインヘルプを参照してください。

ファイルシステム検査器を起動するには、「起動」をクリックし、「アプリケーション」->「ユーティリティ」->「ファイルシステム検査器」の順に選択します。

ファイルマネージャーを使用して SMB 経由で Microsoft Windows 上の UTF-8 以外のファイル名やディレクトリ名にアクセスする場合は、エンコーディングを変換しなくても UTF-8 以外のファイル名やディレクトリ名にアクセスできます。

従来のロケール固有のアプリケーションの起動

Unicode UTF-8 への移行準備が整っていないアプリケーションの場合、フロントパネルに起動ツールを作成すると、従来のロケールでアプリケーションを開始できます。コマンド行からそれらのアプリケーションを直接起動することもできます。アプリケーションの起動ツールを作成するには、次の手順を実行します。

1. パネル上で起動ツールを配置する場所を右クリックします。
2. 「パネルに追加」->「ランチャー」と選択します。
3. 「ランチャーの作成」ダイアログの「コマンド」フィールドに、次の書式で必要な項目を入力します。

```
env LANG=locale LC_ALL=  
locale application name
```

たとえば、`/usr/dt/bin` から `motif-app` という名前のアプリケーションを中国語 (BIG5) ロケールで起動する場合は、「ランチャーの作成」の「コマンド」フィールドに、次のテキストを入力します。

```
env LANG=zh_TW.BIG5 LC_ALL=zh_TW.BIG5 /usr/dt/bin/motif-app
```

4. 「了解」をクリックすると、パネルに起動ツールが作成されます。

従来のロケール固有の CLI (コマンド行インタフェース) アプリケーションを実行する必要があるときは、まず従来のロケールで端末ウィンドウを開いてから、その端末ウィンドウで CLI アプリケーションを実行します。端末ウィンドウを従来のロケールで開くには、次のコマンドを入力します。

```
eng LANG=locale LC_ALL=locale GNOME-TERMINAL -disable-factory.
```

従来のロケールで新規の端末ウィンドウを開く代わりに、現在の端末ウィンドウの「文字エンコーディングの設定」メニューでエンコーディングを変更することで、ロケール設定を UTF-8 から従来のロケールに切り替えることもできます。この場合、現在のシェルに対して LANG および LC_ALL 環境変数を設定し直す必要があります。

エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードのハードウェアがサポートされない

Solaris OS 用に、新しく 3 つのキー配列のソフトウェアサポートが追加されました。エストニア語タイプ 6 キーボード、フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボード、プログラマ向けポーランド語タイプ 5 キーボードです。

エストニア、カナダ、およびポーランドのユーザーは、必要に応じて標準 U.S. キーボード配列を変更できます。このため、柔軟性の高いキーボード入力が可能になります。

現時点では、この 3 つのキーボードタイプに適合するハードウェアは入手できません。

回避方法: この新しいキーボードソフトウェアを有効利用するには、次のいずれかの方法で `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイルを編集します。

- エストニア語タイプ 6 キーボードの場合、次の変更を行います。
 1. `/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map` ファイル内の `US6.kt` エントリを `Estonia6.kt` に変更します。たとえば、次のように変更します。

```
6                                0                Estonia6.kt
```
 2. `/usr/openwin/lib/locale/iso8859-15/Compose` ファイルに次のエントリを追加します。

<scaron>	: "/xa8"	scaron
<scaron>	: "/xa6"	scaron
<scaron>	: "/270"	scaron
<scaron>	: "/264"	scaron

3. システムをリブートすると、変更内容が有効になります。
- フランス語 (カナダ) タイプ 6 キーボードの場合、次の変更を行います。

1. /usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内の US6.kt エントリを Canada6.kt に変更します。たとえば、次のように変更します。

```
6                                0                Canada6.kt
```

2. システムをリブートすると、変更内容が有効になります。

- 通常のポーランド語タイプ 5 キーボードを使用している場合、次の変更を行います。

1. Poland5.kt エントリを Poland5_pr.kt に変更します (/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内)。たとえば、次のように変更します。

```
4                                52                Poland5_pr.kt
```

注—ディップスイッチの付いたキーボードを使用している場合は、システムをリブートする前に、スイッチがポーランド語のキーテーブルエントリとして正しいバイナリ値 (バイナリ 52) に設定されていることを確認してください。

2. 標準の U.S. タイプ 5 キーボードを使用している場合は、US5.kt エントリを Poland5_pr.kt に変更します (/usr/openwin/share/etc/keytables/keytable.map ファイル内)。たとえば、次のように変更します。

```
4                                33                Poland5_pr.kt
```

3. システムをリブートすると、変更内容が有効になります。

PDF ドキュメントを印刷することができない (6239307、6218079)

すべてのロケールのドキュメントビューアで、地域対応された PDF (Portable Document Format) ファイルを印刷することはできません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- SPARC ベースのシステムでは、Acrobat Reader を使用して地域対応された PDF ファイルを印刷してください。
- x86 ベースのシステムでは、StarSuite を使用して PDF ファイルを作成してから印刷してください。

x86: 特定のアジア言語の UTF-8 以外のロケールでログインプロセスがハングアップすることがある (6215527)

一部の x86 ベースのシステムで、特定のアジア言語の UTF-8 以外のロケールにログインすると、ログインプロセスがハングアップすることがあります。たとえば、次のようなロケールでエラーが検出されます。

- zh_CN.EUC
- zh_TW.BIG5
- ko_KR.EUC

回避方法: ログインウィンドウの言語メニューで、UTF-8 ロケールを選択してください。

localeadm -l を実行してもインストールされた韓国語ロケールパッケージが表示されない (6189823)

localeadm -l コマンドが /usr/sadm/lib/localeadm/locales.list ファイルを作り直す際に、韓国語ロケールは組み込まれません。このため、韓国語ロケールがシステムにインストールされていても、localeadm -l を実行したときに韓国語ロケールが表示されません。さらに、インストールされているロケールの表示後、localeadm -r ko で韓国語ロケールを削除しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。

地域 korean は、このマシン上にインストールされていません。終了します

回避方法: /usr/sadm/lib/localeadm/locales.list ファイルを正しく更新するには、localeadm -a ko を実行します。これで、localeadm -r ko を使用して韓国語ロケールを正常に削除できます。

別の方法として、次の手順を実行することもできます。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のエントリを追加して /usr/sadm/lib/localeadm/locales.list ファイルを編集します。

Korean (korean)

特殊キーボードキーが機能しない (5077631)

キーボードの左側にある特殊なキーは、ヨーロッパのキーボードマッピングでは機能しません。この問題は、すべてのヨーロッパロケールに適用されます。

回避方法: 特殊キーボードキーの代わりに、ショートカットキーを使用してください。次のリストは、ショートカットキーと対応する機能の例です。

- Ctrl + Z - 元に戻す
- Ctrl + C - コピー
- Ctrl + V - ペースト
- Alt + Tab - ウィンドウの切り替え

修飾キーが正しく機能しない (4996542)

すべてのロケールで、インターネットまたはイントラネット入力方式を使用するときに、Alt キーと Shift キーが修飾キーとして機能しないことがあります。たとえば、Shift キー + 矢印キーの組み合わせを使用してテキストを選択できない場合があります。代わりに、ラテン文字が挿入されます。

回避方法: デフォルトの入力方式など、別の入力方式を使用してください。入力方式を切り替えるには、オブジェクトを右クリックして入力方式を選択します。

中国語と韓国語の文字が、四角形として印刷される (4977300)

ポストスクリプトプリンタには、中国語または韓国語のフォントは含まれていません。このため、中国語または韓国語ロケールで Mozilla ブラウザから印刷しようとすると、それらの文字が四角形として印刷されます。ファイルを印刷する前に、Common UNIX Printer System (CUPS) による Mozilla ポストスクリプトフォントの変換が必要です。

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. 「起動」=>「設定」=>「プリンタ」の順に選択します。
2. PostScript プリンタアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。
3. 「詳細」タブをクリックします。
4. 「Ghostscript pre-filtering」を「Convert to PS level 1」に設定します。

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソート機能が正しく動作しない (4307314)

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールでソート機能を実行すると、正しく動作しません。

回避方法: フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語の UTF-8 ロケールでソートを行う前に、LC_COLLATE 変数をその言語の ISO8859-1 ロケールに設定してください。

```
# echo $LC_COLLATE
> es_ES.UTF-8
# LC_COLLATE=es_ES.IS08859-1
# export LC_COLLATE
```

上記のように `LC_COLLATE` 変数を設定後、ソートを行なってください。

ネットワーク接続に関する注意事項

Solaris 10 リリースのネットワーク接続に関するバグ情報について説明します。

SPARC: 32 ビットコンパイルと 64 ビットコンパイルで RTM_IFINFO メッセージのサイズが異なっている

PF_ROUTE ソケットを作成し、`if_msghdr_t` 構造体に含まれる `RTM_IFINFO` メッセージの内容を解析する 64 ビットのプログラムは、再コンパイルしないと正しく動作しないことがあります。

Solaris 10 OS では IP 転送がデフォルトで無効になっている

この Solaris リリースでは、IP 転送はデフォルトで無効になっています。この設定は、ほかのシステム構成に関係なく IPv4 と IPv6 の両方に適用されます。以前はデフォルトで IP パケットを転送していた複数の IP インタフェースを持つシステムには、もうこの自動機能はありません。マルチホームシステムでの IP 転送を有効にするには、管理者は手動でいくつかの設定手順を実行する必要があります。

回避方法: コマンド `routeadm` を実行して IP 転送を有効にできます。`routeadm` を使用して行われた構成変更は、システムのリブート時にも保持されます。

- IPv4 転送を有効にするには、**`routeadm -e ipv4-forwarding`** と入力します。
- IPv6 転送を有効にするには、**`routeadm -e ipv6-forwarding`** と入力します。
- 有効になった IP 転送の設定を現在実行しているシステムに適用するには、**`routeadm -u`** と入力します。

IP 転送の詳細については、`routeadm(1M)` のマニュアルページを参照してください。

IP アドレスが失敗した IP ネットワークマルチパスグループに属していると、ゾーンはブートしない (6184000)

ゾーンの IP アドレスが IP ネットワークマルチパス (IPMP) グループの一部になるようにゾーンを構成できます。構成方法については、『Solaris のシステム管理 (Solaris コンテナ: 資源管理と Solaris ゾーン)』の「IP ネットワークマルチパス機能を非大域ゾーンに拡張する方法」を参照してください。

IPMP グループに含まれるすべてのネットワークインタフェースが失敗すると、その IPMP グループに属している IP アドレスを持つゾーンはブートしません。

次の例は、ゾーンをブートしようとした場合の結果を示しています。

```
# zoneadm -z my-zone boot
zoneadm: zone 'my-zone': bge0:1:
could not set default interface for multicast: Invalid argument
zoneadm: zone 'my-zone': call to zoneadmd failed
```

回避方法: グループ内のネットワークインタフェースの少なくとも 1 つを修復してください。

IPv4 または IPv6 の ATM LANE サブネットが正常に初期化されないことがある (4625849)

1 つのアダプタ上に 9 つ以上の LANE (LAN Emulation) インスタンスが存在する場合は、システムのブート時に複数のインスタンスが対応する LANE インスタンスに接続されないことがあります。このバグは、マルチユーザーレベルでは発生しません。

回避方法: SunATM ネットワークを再度初期化するには、次の手順を実行します。

1. `lanestat -a` コマンドを実行して問題が発生しているかどうかを確認します。
接続されていないインスタンスは、LES (LAN Emulation Server) と BUS (Broadcast and Unknown Address Server) の VCI (Virtual Circuit Identifier) 値が 0 です。
2. SunATM ネットワークをいったん終了してから再起動します。

```
# /etc/init.d/sunatm stop
# /etc/init.d/sunatm start
```
3. SunATM インタフェースのネットマスクやその他のネットワーク設定をリセットします。

フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (4152864)

2 つの IP ノード間に複数の IP トンネルを設定し、`ip_strict_dst_multihoming` またはその他の IP フィルタを有効にした場合、パケットが失われることがあります。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- まず、2 つの IP ノード間に IP トンネルを 1 つだけ設定します。次に、`addif` オプションを指定した `ifconfig` コマンドによって、トンネルにアドレスを追加します。
- 2 つの IP ノード間のトンネルで `ip_strict_dst_multihoming` を有効にしないでください。

セキュリティに関する注意事項

Solaris 10 リリースのセキュリティに関する注意事項について説明します。

pam_ldap を有効にしておくと、パスワードなしのログインが失敗する

LDAP 用のアカウント管理 PAM モジュール (`pam_ldap`) を有効にした後、ユーザーはシステムにログインするときにパスワードを指定する必要があります。結果として、パスワードなしのログインは失敗します。これには、次のようなツールを使用したログインが含まれます。

- リモートシェル (`rsh`)
- リモートログイン (`rlogin`)
- セキュアシェル (`ssh`)

回避方法: ありません。

新しいバージョンの `encrypt()` と `decrypt()` は下位互換性がない

`encrypt()` によって生成される出力ファイルは、対応する `decrypt()` によって処理されます。現在のリリースでは、新しいバージョンの `encrypt()` と `decrypt()` が使用されます。これらのコマンドは、以前のバージョンによって生成および処理されたファイルとは異なる形式のファイル进行处理します。以前の `encrypt()` によって暗号化されたデータは、新しい `decrypt()` では正しく認識できなくなりました。

詳細は、`encrypt(1)` と `decrypt(1)` の各マニュアルページを参照してください。

回避方法: 以前に暗号化されたデータを新しいバージョンの `encrypt()` と `decrypt()` で処理できるように変換するには、次の手順を実行します。

1. 既存のデータを以前のバージョンの `decrypt()` で復号化します。
2. 同じデータを新しい `encrypt()` で再度暗号化します。

Sun StorEdge T3 が不正なパラメータによってパニックになることがある (4319812)

Sun StorEdge™ T3 システムは、アプリケーションが HTTP インタフェースを使って有効範囲外のパラメータを含むトークンを送信したときに、パニックになることがあります。

サービス管理機能

ここでは、Solaris 10 OS のサービス管理機能に関する注意事項について説明します。Solaris OS のサービス管理機能については、『Solaris 10 の概要』の「Solaris サービスマネージャー」を参照してください。

`svccfg import` サブコマンドで依存サービスが更新されない (6221374)

Solaris 10 OS のインストール後にはじめてシステムをブートすると、依存サービスにエラーが発生することがあります。`svccfg import` サブコマンドは、サービスの目録ファイルに宣言されている依存サービスをアクティブにできないことがあります。その結果、依存サービスが順番に起動されず、それらのサービスに関するエラーメッセージが生成されることがあります。

回避方法: 依存サービスに対してコマンド `svcadm refresh` を実行します。次に例を示します。

`svcadm refresh dependent FMRI`

ソフトウェア開発者は、次の回避方法を使用してこの問題が発生しないようにできます。

- 依存サービスをサービスレベルではなくインスタンスレベルで宣言します。
- ライブインストールの場合は、パッケージの `postinstall` スクリプトを有効にして、`svcadm refresh dependent FMRI` コマンドを実行します。

- 代替ブート環境を使用するインストールの場合は、svcadm refresh *dependent* FMRI コマンドを /var/svc/profile/upgrade ファイルに追加します。

印刷サービスがデフォルトでオフライン設定になっている (5100134)

ホストにローカルプリンタが構成されていないと、ipp-listener および rfc1179 という 2 つの印刷サービスがデフォルトでオフラインに設定されます。ホストでローカルプリンタを構成すると、これらのサービスは自動的にオンラインになります。これらのサービスのデフォルトのオフライン設定は、エラーを示しているわけではありません。したがって、ユーザーは何も行う必要がありません。

回避方法: ありません。

keyserv デーモンによって一部のファイルシステムサービスが無効になる (5084183)

ネットワーク情報サービス (NIS) または NIS+ のネームサービスを使用しないシステムでは、NFS と AutoFS サービスが無効になっています。エラーが発生するのは、これらのサービスが keyserv デーモンに依存しているためです。keyserv デーモンは、RPC ドメイン名に依存していますが、NIS または NIS+ を使用しないシステムではこのドメイン名が設定されません。その結果、keyserv デーモンの失敗によって NFS および AutoFS サービスが無効になります。

回避方法: これらのサービスを有効にするには、次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを実行します。

```
# svcadm disable network/rpc/keyserv
# svcadm disable -t network/nfs/client:default
# svcadm enable network/nfs/client:default
# svcadm disable -t network/nfs/server:default
# svcadm enable network/nfs/server:default
# svcadm disable -t network/rpc/gss:ticotsord
# svcadm enable network/rpc/gss:ticotsord
```

ファイルシステムがマウントされる前にログインプロンプトが表示される場合がある (5082164)

システムの起動中、リモートファイルシステムとネーミングサービスが利用可能になる前に、コンソールまたは ssh ログインなどのログインサービスが起動する場合があります。その結果、ユーザー名が認識されなかったり、ユーザーのホームディレクトリが利用できないことがあります。

回避方法: エラーが発生した場合は、数秒待ってから再度ログインします。あるいは、ローカルアカウントからログインしてシステム状態を確認します。

スマートカード

Solaris 10 OS のスマートカードに関するバグ情報について説明します。

スマートカードに対してシステムが反応しない (4415094)

ocfserv が終了し、ディスプレイがロックされている場合は、スマートカードを挿入しても取り出しても、システムはロックされたままになります。

回避方法: 次の手順を実行してシステムのロックを解除してください。

1. ocfserv プロセスが終了したマシンにリモートログインして接続します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで次のように入力して、dtsession プロセスを終了させます。

```
# pkill dtsession
```

ocfserv プロセスが再起動し、スマートカードのログインおよびその他の機能が復元されます。

スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (4447632)

スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目を使用して、`/etc/smartcard/opencard.properties` にあるスマートカードの構成ファイルを編集することができません。メニュー項目を選択すると、テクニカルサポートからのリクエストがないと編集を継続できないことを示す警告メッセージが表示されます。

回避方法: スマートカード Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目は使用しないでください。スマートカードの設定に関する情報は、『Solaris スマートカードの管理』を参照してください。

Solaris のコマンドと標準

次の節では、Solaris 10 OS における特定のコマンドと標準の動作変更について説明します。

Bash 2.0.5b でいくつかの環境変数が設定されなくなった

Solaris 10 OS には Bash 2.0.5b が含まれていますが、このシェルでは次の変数が自動的に環境にエクスポートされなくなりました。

- HOSTNAME
- HOSTTYPE
- MACHTYPE
- OSTYPE

この動作変更は、シェルによってこれらの変数にデフォルト値が割り当てられる場合にも適用されます。

回避方法: これらの変数を手動でエクスポートしてください。

新しい ln ユーティリティーには -f オプションが必要

/usr/bin/ln の動作は、SVID3 から XCU6 までのすべての標準に準拠するように変更されました。-f オプションの付かない ln コマンドを使用して既存のターゲットファイルにリンクすると、リンクは確立されません。代わりに、診断メッセージが標準エラーに書き込まれ、残りのリンク元ファイルのリンクが続行されます。最後に、ln コマンドはエラー値を返して終了します。

たとえば、ファイル b がある場合、構文 **ln a b** を実行すると、次のメッセージが生成されます。

ln: b: ファイルが存在します。

この動作変更は、-f オプションの付かない ln コマンドを含む既存のシェルスクリプトやプログラムに影響します。このため、以前正常に動作していたスクリプトが Solaris 10 OS では失敗することがあります。

回避方法: ln コマンドには -f オプションを付けて使用してください。ln ユーティリティーを実行する既存のスクリプトがある場合は、必ずコマンドの新しい動作に適合するようにこれらのスクリプトを変更してください。

新しい tcsh により、ハイフンまたは等号が使われている setenv 変数名が拒否される

Solaris 10 OS では、tcsh はバージョン 6.12 にアップグレードされました。このバージョンは、名前にハイフンや等号が使われている環境変数を受け入れなくなりました。setenv 行を含み、以前の Solaris バージョンで動作するスクリプトを現在の Solaris 10 リリースで実行すると、エラーが生成されることがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

setenv: 文法が間違っています。

詳細は、Solaris 10 OS 用の tcsh のマニュアルページを参照してください。

回避方法: 環境変数名にハイフンや等号を使用しないでください。

STDIO getc ファミリのファイル終了条件の動作が変更になった

厳しい標準 C 準拠モードで作成されたアプリケーションは、一部のライブラリ関数の動作変更による影響を受けます。たとえば、cc -xc または c89 準拠モードでコンパイルされたアプリケーションがこれに当たります。動作が変更されたライブラリ関数は次のとおりです。

- fgetc()
- fgets()
- fgetwc()
- fgetws()
- getc()
- getchar()
- gets()
- getwc()
- getwchar()
- getws()

1990 C 標準の正式な解釈では、ファイル終了条件が設定されたら、それ以降の入力操作ではファイルからデータを返さないようにする必要があります。ただし、ファイルポインタの位置を変更したり、アプリケーションによってエラーとファイル終了フラグが明示的にクリアされている場合は例外です。

ほかのすべての準拠モードの動作は変わりません。特に、このインタフェースでは、ファイル終了インジケータの設定後に、新しく書き込まれた追加データをストリームから読み取ることができます。

回避方法: ストリームのファイル終了条件が報告されたあとで追加データを読み取るには、ストリームに対して fseek() または clearerr() を呼び出します。

ps コマンドの出力列が広がった

UID、プロセッサ ID、および累積実行時間が大きくなったため、ps コマンドの出力列が広がりました。カスタムスクリプトは、出力列が固定されていると仮定しないようにする必要があります。

回避方法: スクリプトでは ps コマンドの -o オプションを使用するようにしてください。

詳細は、ps(1) のマニュアルページを参照してください。

コマンド ping -v が IPv6 アドレスに対して機能しない (4984993)

コマンド ping -v は、インターネットプロトコルバージョン (IPv6) を使用するアドレスに適用されると失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
ping: setsockopt IPV6_RECVRTHDRDSTOPTS Invalid argument
```

回避方法: ありません。ping -v によって得られるのと同じ ICMP パケット情報を取得するには、snoop コマンドを使用します。

Solaris ボリュームマネージャー

Solaris 10 リリースの Solaris ボリュームマネージャーに関するバグ情報について説明します。

Solaris ボリュームマネージャーの metattach コマンドが失敗することがある

ファイルシステムがシリンダ 0 から始まっていない Solaris ボリュームマネージャーのミラー化が存在するルート (/) ファイルシステムの場合には、接続されるサブミラーにシリンダ 0 から始まるものを含めることはできません。

最初のサブミラーがシリンダ 0 から始まらないミラーに、シリンダ 0 から始まるサブミラーを接続しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
can't attach labeled submirror to an unlabeled mirror
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まるようにします。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダ 0 から始まらないようにします。

注 - JumpStart インストールのデフォルトでは、swap パーティションがシリンダ 0 から始まっていて、ルートファイルシステム / はディスク上のほかの場所から始まっています。システム管理者は通常、スライス 0 をシリンダ 0 から始めようとします。デフォルトの JumpStart インストールにおいてスライス 0 上にあり、シリンダ 0 から始まってないルートパーティションを、別のディスクのシリンダ 0 から始まるスライス 0 にミラー化しようとする問題が発生する場合があります。その結果、ミラーを追加しようとする際に、エラーメッセージが出力されます。Solaris インストールプログラムのデフォルト動作の詳細については、Solaris 10 インストールガイドを参照してください。

Solaris ボリュームマネージャーの metassist コマンドが英語以外のロケールで失敗する (5067097)

英語以外のロケールでは、Solaris ボリュームマネージャーの metassist コマンドがボリュームの作成に失敗することがあります。たとえば、LANG を ja (日本語) に設定した場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

```
xmlEncodeEntitiesReentrant : input not UTF-8
Syntax of value for attribute read on mirror is not valid
Value "XXXXXX"(unknown word) for attribute read on mirror
is not among the enumerated set
Syntax of value for attribute write on mirror is not valid
Value "XXXXXX"(Parallel in Japanese) for attribute write on mirror
is not among the enumerated set
metassist: XXXXXX(invalid in Japanese) volume-config
```

回避方法: スーパーユーザーとして、LANG 変数を LANG=C に設定してください。

Bourne、Korn、および Bash シェルの場合は、次のコマンドを実行します。

```
# LANG=C; export LANG
```

C シェルの場合は、次のコマンドを実行します。

```
# setenv LANG C
```

ディスクがフォーマットされていないシステムではボリュームの作成に失敗する (5064066)

フォーマットされていないディスクがシステムに存在する場合、metassist コマンドによる Solaris ボリュームマネージャーのボリューム構成の作成が失敗することがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
metassist: failed to repartition disk
```

回避方法: フォーマットされていないすべてのディスクを手動でフォーマットしてから、metassist コマンドを実行してください。

Solaris ボリュームマネージャー RAID-1 (ミラー) または RAID-5 ボリュームがソフトウェアパーティション上に構築されたディスクセット内に作成されると、ホットスペアが正しく動作しない (4981358)

Solaris ボリュームマネージャー RAID-1 (ミラー) または RAID-5 ボリュームをソフトウェアパーティションの上に構築されたディスクセットに作成すると、ホットスペアデバイスが正しく動作しません。

次の問題が発生する可能性があります、ほかの問題が発生することもあります。

- ホットスペアデバイスがアクティブになっていない可能性がある。
- ホットスペアデバイスの状態が変わった、つまりデバイスが壊れている可能性がある。
- ホットスペアデバイスが使用されているが、不適切なドライブと再同期処理されている。
- 使用中のホットスペアデバイスに障害が生じたが、破壊された状態が報告されていない。

回避方法: この構成では、ディスクセットに Solaris ボリュームマネージャー RAID-1 または RAID-5 ボリュームを作成しないでください。

論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャーの metadevadm コマンドが失敗する (4645721)

障害が発生したドライブは Solaris ボリュームマネージャーソフトウェアで構成されたドライブに交換できません。交換するドライブは Solaris ボリュームマネージャーソフトウェアにとって新しいドライブである必要があります。Sun StorEdge A5x00 上のあるスロットから別のスロットにディスクを物理的に移動した場合、metadevadm コマンドが失敗することがあります。この問題は、スライスの論理デバイス名がすでに存在しないときに発生します。ただし、ディスクのデバイス ID はメタデバイス複製に存在しています。次のメッセージが表示されます。

```
Unnamed device detected. Please run 'devfsadm && metadevadm -r to resolve.
```

注 - このとき、新しい場所にあるディスクにはアクセスできますが、スライスにアクセスするためには、古い論理デバイス名を使用する必要があります。

回避方法: ドライブを物理的に元のスロットに戻してください。

Solaris ボリュームマネージャーの `metarecover` コマンドが `metadb` 名前空間の更新に失敗する (4645776)

システムからディスクを物理的に取り外して交換して、`metarecover -p -d` コマンドを使用して適切なソフトパーティションの特定の情報をディスクに書き込むと、オープンエラーが発生します。このコマンドはメタデバイスデータベースの名前空間を更新せず、ディスクデバイス識別情報の変更を反映しません。この状態になると、ディスクの一番上に構築された各ソフトパーティションでオープンエラーが発生し、次のメッセージが表示されます。

Open Error

回避方法: `metarecover` コマンドを実行してソフトパーティションを回復するのではなく、新しいディスクにソフトパーティションを作成してください。

注 - ソフトパーティションがミラーまたは RAID5 の一部である場合、次の `metareplace` コマンドを `-e` オプションをつけずに使用して、古いソフトパーティションを新しいソフトパーティションに交換します。

```
# metareplace dx mirror or RAID 5  
old_soft_partition new_soft_partition
```

Sun Java Desktop System

この節では、Solaris 10 OS の Sun Java Desktop System (Java DS) に適用される問題について説明します。

電子メールとカレンダー

複数の添付ファイルの使用に関する問題 (6260583)

電子メールメッセージを新しい電子メールメッセージ本文にドラッグ&ドロップすると、その新しい電子メールメッセージの内容が壊れます。

回避方法: 複数の添付ファイルを送信するには、次の手順を実行してください。

1. 添付するメッセージを選択します。
2. メニューバーで、「アクション」=>「転送」=>「添付する」の順に選択します。
Ctrl + J キーを押してメッセージを送信することもできます。

認証タイプの変更に関する問題 (6246543)

受信メールサーバーの認証タイプを変更したあとに、電子メールとカレンダーが正しく動作しないことがあります。

回避方法: 電子メールとカレンダーを再起動してください。

地域対応されたコンテンツを含む添付ファイルの保存するときの問題 (6204976)

電子メールとカレンダーが含まれている Evolution アプリケーションでは、地域対応されたコンテンツを含む添付ファイルを保存することはできません。

回避方法: ありません。

連絡先フォルダの連絡先の一覧が不完全である (5088514)

いくつかの連絡先を含む LDIF (LDAP Data Interchange Format) ファイルをインポートしたあとに、連絡先フォルダに一部の連絡先しか表示されません。これは、単なる表示上の問題です。電子メールとカレンダーには、すべての連絡先がインポートされています。

回避方法: 電子メールとカレンダーを再起動してください。

ログイン

ログインエラーメッセージ

Java Desktop System セッションにログインしたときに、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Could not look up internet address for hostname.  
This will prevent GNOME from operating correctly.  
It may be possible to correct the problem by adding  
hostname to the file /etc/hosts
```

回避方法: /etc/hosts ファイルにホスト名が正しく設定されていることを確認してください。次の手順を実行します。

1. /etc/hosts ファイルにホスト名を次のように設定します。

```
127.0.0.1 localhost loghost hostname  
localhost.localdomain
```

hostname はシステムの名前です。

2. ホスト名が /etc/nodename ファイルに指定されていることを確認します。このファイルに次の行も追加する必要があります。

```
127.0.0.1 localhost loghost hostname  
localhost.localdomain
```

3. /etc/inet/ipnodes ファイルに次のエントリを追加します。

```
127.0.0.1 hostname
```

\$PATH の問題 (6247943)

Java Desktop System Release 3 にログインするときに、\$PATH が次のように誤って設定されます。

```
/usr/bin:./usr/dt/bin:/usr/openwin/bin:/bin:  
/usr/ucb:/usr/openwin/bin:/usr/dt/bin
```

回避方法: \$PATH から次の文字列を削除してください。

- /usr/openwin/bin:
- /bin:
- .:

次のようなパスになるはずです。

```
/usr/bin:/usr/dt/bin:/usr/ucb:/usr/openwin/bin:/usr/dt/bin
```

リモート接続の問題 (6203727)

dtlogin リモート接続を使用する場合に、システムによっては GNOME ディスプレイマネージャーに接続できないことがあります。

回避方法: リモートログインを選択する画面で、ホスト名ではなく IP アドレスを指定してください。

ヘルプシステム

ボリュームコントロールのヘルプウィンドウが違う (6253210)

Yelp ブラウザを使用してボリュームコントロールのオンラインヘルプを開くと、代わりに「キーボードアクセシビリティ」パネルアプリケーションのヘルプファイルが開きます。

回避方法: ありません。

オンラインヘルプが動かなくなる (5090731)

アプリケーションのオンラインヘルプを開くときに、そのアプリケーションのヘルプファイルが存在しない場合には、エラーダイアログボックスが表示されます。「了解」をクリックしない限り、そのオンラインヘルプシステムが動かなくなり、それ以降に起動するその他のアプリケーションのオンラインヘルプを開けなくなります。

回避方法: エラーダイアログボックスで「了解」ボタンをクリックする必要があります。

Mozilla ブラウザ

Mozilla ブラウザから印刷できないドキュメントがある

BMP (Basic Multilingual Plane) 形式ではない Unicode 文字が含まれているドキュメントは、Mozilla ブラウザから印刷できません。

回避方法: ありません。

Mozilla ブラウザで「ユーザ設定」をローミングアクセスするように指定できない (6200999)

Mozilla ブラウザでは、ローミングアクセスサーバーと「ユーザ設定」をやり取りできます。ローミングアクセスオプションを指定するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザで「編集」をクリックし、「設定」を選択します。
2. 「ローミングユーザ」を選択してから、「項目の選択」を選択します。
3. 右側のパネルで「ユーザ設定」を選択します。

ただし、「ユーザ設定」の選択は反映されません。

回避方法: ありません。

キーボードショートカットが機能しない (6192644)

Mozilla ブラウザでは、F7 キーを押すことでキャレットのブラウズが有効になります。キャレットのブラウズが有効になると、キーボードショートカット **Ctrl + Home** を入力すると、ブラウズしている Web ページの初めに戻ります。ただし、このキーボードショートカットは、www.yahoo.com や www.mozilla.org などのサイトをブラウズするときには機能しません。

回避方法: F7 キーを押して、キャレットのブラウズを無効にします。

システムレベルの問題

ユーザー設定の互換性が完全でない

旧バージョンの GNOME デスクトップでは、ホームアカウントのユーザー設定と Java Desktop System Release 3 のユーザー設定との間に完全な互換性がない場合があります。

回避方法: ユーザー設定を設定し直してください。次の手順を実行します。

1. Java Desktop System からログアウトします。
2. 「セッション」をクリックし、「端末の復旧」を選択します。
3. ログインします。
4. 「端末の復旧」ウィンドウで、次のコマンドを入力します。

```
% gnome-cleanup exit
```

5. 再度ログインします。
GNOME 設定が設定し直されました。

グラフィックスメニューに GIMP (GNU Image Manipulation Program) が表示されない (6209566)

GIMP (GNU Image Manipulation Program) は、グラフィックスメニューでは使用できません。

回避方法: 次の手順を実行してください。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. `/usr/share/applications/gimp-2.0.desktop` ファイルを編集します。
3. Exec 行と TryExec 行を変更して、GIMP バイナリへの絶対パスを追加します。

```
TryExec=/usr/sfw/bin/gimp2.0
Exec=/usr/sfw/bin/gimp-remote-2.0 %u
```

StarSuite 7 ソフトウェアのオンライン登録に関する問題 (6208829)

StarSuite 7 ソフトウェアがシステム上に Mozilla を検出できない場合に、StarSuite 7 ソフトウェアのオンライン登録を完了できない場合があります。StarSuite 7 ソフトウェアが電子メールとカレンダーアプリケーションを検出できない場合には、ドキュメントを正常に送信することができません。

回避方法: /usr/sfw/bin を PATH に追加します。次の手順を実行してください。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを実行します。

```
% export PATH=/usr/sfw/bin:$PATH
```

3. StarSuite ソフトウェアを起動するために、次のコマンドを実行します。

```
% soffice
```

4. StarSuite 登録手順を完了します。

サウンドレコーダに関する問題

サウンドレコーダが new.wav ファイルを録音しているときに、スライドバーとサイドカウンタが機能しません。

回避方法: ありません。

ボリュームコントロールオプションが動作しない

ボリュームコントロールデスクトップアプリケーションを起動するための、ボリュームコントロールパネルアプリケーションのオプションが機能しません。

回避方法: ありません。

キーボードインジケータを使用するときの問題 (6245563)

キーボードインジケータを使用すると、X サーバーを切り替えた際にキーボードが使用できなくなることがあります。

回避方法: ありません。キーボードインジケータを使用しないでください。

一部の表示オプションを使用すると、ファイルマネージャーでエラーが発生することがある (6233643)

次の表示オプションを使用すると、ファイルマネージャーでエラーが発生することがあります。

- カタログ表示
- 画像コレクション表示

使用する表示オプションに応じて、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

■

```
The application nautilus has quit unexpectedly
```

■

```
The Catalog view encountered an error while starting up
```

■

```
The Image Collection view encountered an error while starting up
```

回避方法: ありません。これらの問題が発生したら、ファイルマネージャーを再起動するか、クラッシュダイアログボックスで「アプリケーションの再起動」ボタンをクリックしてください。

ホームディレクトリの外部にあるファイルを削除できない (6203010、5105006)

ファイルを削除するときは、ホームディレクトリのファイルシステムから行う必要があります。

回避方法: ホームディレクトリのファイルシステムの外部にあるファイルを削除するには、端末ウィンドウを開き、コマンド行を使用します。

特定の種類のアーカイブを作成するときの問題 (5082008)

アーカイブ管理を使用して、次の種類のアーカイブを作成することはできません。

- .arj
- .lha
- .bzip
- .lzop

- .ZOO

回避方法: ありません。

テキストエディタで複数バイト文字を入力できない (4937266)

gedit テキストエディタで自動インデント機能を有効にすると、複数バイト文字を正しく入力できません。

回避方法: 自動インデント機能を無効にしてください。テキストエディタで、次の手順を実行します。

1. 「編集」=>「設定」の順に選択します。
2. 「カテゴリ」リストで「エディタ」を選択してから、「自動インデント」を選択します。
3. 「自動インデントを有効にする」オプションの選択を解除します。

システム管理

ここでは、Solaris 10 OS のシステム管理に関するバグ情報について説明します。

Sun Patch Manager Tool 2.0 に旧バージョンとの互換性がない

Sun Patch Manager Tool 2.0 が動作するシステムでは、Sun Patch Manager Tool 1.0 などのパッチマネージャーツールが動作するリモートシステムを管理できます。

ただし、旧バージョンのパッチマネージャーツールが動作するシステムで、Patch Manager Tool 2.0 が動作するリモートシステムを管理することはできません。旧バージョンは次のとおりです。

- Sun Patch Manager Base Software 1.x
- Sun Patch Manager Tool 1.0

注 – Solaris 8 OS にはパッチマネージャーツール用の CIM/WBEM (Common Information Model/Web Based Enterprise Management) サポートがありません。したがって、Solaris 8 システムではパッチマネージャーによるリモート管理が行えません。

Sun Remote Services Net Connect が大域ゾーンでしかサポートされない

Sun Remote Services (SRS) Net Connect は、大域ゾーンでしかサポートされていません。次のいずれかの操作を行うと、エラーメッセージが表示されます。

- SRS Net Connect を局所ゾーンにインストールする
- 局所ゾーンが作成されるときに SRS Net Connect を大域ゾーンにインストールする

エラーメッセージの内容は次のとおりです。

```
*** package SUNWcstu failed to install - interactive administration required:
```

```
Interactive request script supplied by package  
pkgadd: ERROR: request script did not complete successfully
```

```
Installation of SUNWcstu was suspended (interaction required).  
No changes were made to the system.
```

```
*** package SUNWfrunc failed to install - interactive administration required:
```

```
Interactive request script supplied by package  
pkgadd: ERROR: request script did not complete successfully
```

```
Installation of SUNWfrunc was suspended (interaction required).  
No changes were made to the system.
```

回避方法: このエラーメッセージは無視してください。

zoneadm コマンドで非大域ゾーンをインストールしているときにエラーまたは警告メッセージが表示されることがある

パッケージのインストール中、zoneadm コマンドを使用して非大域ゾーンをインストールしているときにエラーまたは警告メッセージが表示されることがあります。次のようなメッセージが表示されます。

```
Preparing to install zone zone1.  
Creating list of files to copy from the global zone.  
Copying 2348 files to the zone.
```

```
Initializing zone product registry.  
Determining zone package initialization order.  
Preparing to initialize 790 packages on the zone.  
Initialized 790 packages on zone.  
Zone zone1 is initialized.
```

```
Installation of the following packages generated errors:  
SUNWjhrt SUNWmcc SUNWjhdev SUNWnsb SUNWmcon SUNWmpatchmgr
```

```
Installation of the following packages generated warnings:  
SUNWj3rt SUNWmc SUNWwbmc SUNWmga SUNWdclnt SUNWlvma SUNWlvmg  
SUNWrmui SUNWdoc SUNWpl5m SUNWpmgr
```

パッケージのインストールに関する問題は、ゾーンのインストールのログが含まれている `/export/zone1/root/var/sadm/system/logs/install_log` にも記録されます。

回避方法: ありません。

注 - 非大域ゾーンは、これらのメッセージが通知されても使用できます。以前の Solaris Express と Solaris 10 ベータリリースにはパッケージのインストールに関する問題がありますが、これらの問題に関する通知は生成されませんでした。この Solaris リリースからは、これらのエラーが正しく報告され、記録されるようになりました。

Solaris Product Registry の管理ユーティリティーがゾーン内で起動できない (6220284)

ゾーン内で Solaris Product Registry の管理ユーティリティーを起動しようとする、失敗します。ゾーンのインストール時に、Solaris Product Registry のデータベース `productregistry` がゾーン内に複製されなかったため、管理ユーティリティーをゾーン内で実行できません。

回避方法: スーパーユーザーとして、`productregistry` データベースをゾーンにコピーしてください。

```
# cp /var/sadm/install/productregistry zone_path/var/sadm/install/
```

上記のコマンドで、`zone_path` は作成したゾーンのルートディレクトリへのパスです。

新しくインストールされたパッケージに patchadd でパッチを再適用できない (6219176)

`patchadd` コマンドは、次の状況ではパッチを再適用できません。

1. パッチの対象となるパッケージの一部が含まれていないシステムにパッチを適用する。

2. パッチを適用したときにインストールされていなかったパッケージをあとでインストールする。
3. 新しくインストールしたパッケージにパッチを適用するためにパッチを再適用する。

あとで追加したパッケージに適用するパッチ部分はインストールされません。次の出力のようなメッセージが表示されます。

```
patchadd ~tsk/patches/111111-01
Validating patches...
```

```
Loading patches installed on the system...
```

```
Done!
```

```
Loading patches requested to install.
```

```
Done!
```

```
The following requested patches are already installed on the system
Requested to install patch 111111-01 is already installed on the system.
```

```
No patches to check dependency.
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: システムにゾーンを作成していない場合は、`-t` オプションを指定して `patchadd` コマンドを実行します。

```
# patchadd -t patch-ID
```

上記のコマンドで、*patch-ID* は適用するパッチの ID です。

回避方法 2: システムにゾーンを作成してある場合は、次の手順を実行します。

1. パッチを削除します。

```
# patchrm patch-ID
```

2. システム上に存在しないが、パッチの対象となる追加のパッケージをインストールします。

```
# pkgadd -d device pkgabbrev
```

上記の例で、*device* はインストールするパッケージへの絶対パスを示します。*pkgabbrev* はインストールするパッケージの略称を示します。複数のパッケージ名を指定できます。

3. パッチを再インストールします。

```
# patchadd patch-ID
```

大域ゾーンのパッチ適用後に作成された非大域ゾーンにリモートログインサービスでアクセスできない (6216195)

大域ゾーンを作成してからパッチを適用した場合、そのあとに作成した非大域ゾーン上ではリモートログインサービスは有効になりません。このようなりモートサービスには、`rlogin` や `telnet` などがあります。大域ゾーンのパッチ適用後に非大域ゾーンを作成した場合、そのゾーンにリモートでログインすることはできません。この問題は、`SUNWcsr` パッケージを配布または変更するパッチが適用されているシステムに影響します。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

回避方法 1: 非大域ゾーンをまだ起動していない場合は、次の手順を実行します。

1. 大域ゾーンで、非大域ゾーンにある `/var/svc/profile` ディレクトリに移動します。

```
global# cd zone_path/root/var/svc/profile
```

上記の例で、`zone_path` は非大域ゾーンへのパスです。非大域ゾーンへのパスを調べるには、大域ゾーンで次のコマンドを入力します。

```
global# zonecfg -z zonename info zonepath
```

2. `inetd_services.xml` プロファイルを削除します。

```
global# rm inetd_services.xml
```

3. `inetd_generic.xml` プロファイルを指す `inetd_services.xml` のシンボリックリンクを作成します。

```
global# ln -s inetd_generic.xml inetd_services.xml
```

4. 非大域ゾーンを起動します。

ゾーンのブート方法については、『Solaris のシステム管理 (Solaris コンテナ: 資源管理と Solaris ゾーン)』を参照してください。

回避方法 2: 非大域ゾーンをすでに起動してある場合は、次の手順を実行します。

1. 前の回避方法に示されている手順を実行します。
2. 非大域ゾーンで、`/var/svc/profile/inetd_services.xml` プロファイルに示されているサービスを有効にします。

```
my-zone# svccfg apply /var/svc/profile/inetd_services.xml
```

3. 非大域ゾーンを再起動します。

```
my-zone# reboot
```

回避方法 3: システムにゾーンを作成する前に、使用しているプラットフォームに適したパッチを適用します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、パッチ ID 119015-01 またはそれ以降のバージョンを適用します。

- x86 ベースのシステムの場合は、パッチ ID 119016-01 またはそれ以降のバージョンを適用します。

既存のディスクレスクライアントをシステムから削除できない (6205746)

`smdiskless` コマンドを使用してディスクレスクライアントを削除すると、コマンドは失敗します。ディスクレスクライアントは、システムデータベースから削除されません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failing with error EXM_BMS.
```

回避方法: クライアントを追加する前に、`/export` パーティションの共有を解除してください。

Net Connect 3.1.1 のインストールが失敗する (6197548)

Net Connect 3.1.1 のインストールが失敗するのは、Solaris 10 の完全インストールの初期にその製品を選択した場合です。このエラーは、Solaris 10 Operating System DVD を使用してインストールを行なっているときに発生します。OS のインストールが完了した時点で、次のエラーメッセージが `/var/sadm/install/logs/` の Net Connect インストールログに記録されます。

```
Installation of SUNWSRSPX failed.  
Error: pkgadd failed for SUNWsrspx  
Install complete. Package: SUNWsrspx
```

回避方法: OS のインストールが完了したら、次の手順を実行してください。

1. Solaris 10 Operating System DVD または Solaris 10 SOFTWARE - CD 4 を挿入します。
2. Net Connect 製品のディレクトリに移動します。
3. Net Connect インストーラを実行します。

注 - 最新バージョンの Sun Net Connect ソフトウェアおよびリリースノートダウンロードするには、<https://srsnetconnect.sun.com> の Sun Net Connect ポータルにアクセスしてください。

x86: Solaris フラッシュアーカイブをインストールするときに、デフォルトの C ライブラリによってブート障害が発生することがある (6192995)

次の状況下では、Solaris フラッシュアーカイブに関係のあるブート障害が発生することがあります。

- 特定のハードウェアサポート機能を備えた C ライブラリ `libc` を使用しているシステムで Solaris フラッシュアーカイブを作成する。
- さまざまなハードウェアサポート機能を備えたクローンシステムにアーカイブをインストールする。

クローンシステムをブートしようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: init exited with fatal signal 9; restarting.
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. アーカイブを作成する前に、マスターシステム上の `/lib/libc.so.1` ライブラリをマウント解除します。

```
# umount /lib/libc.so.1
```

このコマンドを使用すると、マスターシステムで C ライブラリ `libc` の基本バージョンを使用できるようになります。

2. マスターシステムで Solaris フラッシュアーカイブを作成します。

Solaris フラッシュアーカイブの作成方法については、『Solaris 10 インストールガイド (Solaris フラッシュアーカイブの作成とインストール)』を参照してください。

3. `/lib/libc.so.1` ライブラリをマスターシステムにマウントします。

```
# mount -O -F lofs /lib/libc.so.1 /usr/lib/libc/libc_hwcaps2.so.1
```

4. クローンシステムに Solaris フラッシュアーカイブをインストールします。

Solaris フラッシュアーカイブのインストール方法については、『Solaris 10 インストールガイド (Solaris フラッシュアーカイブの作成とインストール)』を参照してください。

SPARC: smossservice delete コマンドですべてのディレクトリが正常に削除されずとは限らない (6192105)

`smossservice delete` コマンドを使用してディスククライアントサービスを削除した場合、すべてのサービスディレクトリが正常に削除されずとは限りません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. そのサービスを使用するクライアントが存在しないことを確認します。

```
# unshare /export/exec/Solaris_10_sparc.all
# rm -rf /export/exec/Solaris_10_sparc.all
# rm -rf /export/exec/.copyofSolaris_10_sparc.all
# rm -rf /export/.copyofSolaris_10
# rm -rf /export/Solaris_10
# rm -rf /export/share
# rm -rf /export/root/templates/Solaris_10
# rm -rf /export/root/clone/Solaris_10
# rm -rf /tftpboot/inetboot.sun4u.Solaris_10
```

2. 次のエントリを /etc/bootparams ファイルから削除します。

```
fs1-24 boottype=:os
```

注 - このエントリを削除するのは、このファイルサーバーが関数や資源をほかのサービスに提供していない場合に限られます。

3. 次のエントリを /etc/dfs/dfstab ファイルから削除します。

```
share -F nfs -o ro /export/exec/Solaris_8_sparc.all/usr
```

4. /var/sadm/system/admin/services/Solaris_10 ファイルを変更します。

- ファイルサーバーが Solaris_10 でない場合は、そのファイルを削除します。
- ファイルサーバーが Solaris_10 である場合は、冒頭の 3 行を残し、あとのエントリをすべて削除します。削除した行は、
/export/root/templates/Solaris_10 に含まれるサービス USR_PATH
および SPOOLED ROOT のパッケージとサポートされるプラットフォームを示します。

patchadd コマンドでパッチを NFS サーバーからインストールできない (6188748)

patchadd コマンドを使用してほかのシステムから NFS を介してパッチをインストールしようとすると、コマンドは失敗します。次の例は、失敗した patchadd 操作と表示されるエラーメッセージを示しています。

```
Validating patches...

Loading patches installed on the system...
[...]
Loading patches requested to install.
[...]
Checking patches that you specified for installation.
[...]
Approved patches will be installed in this order:
[...]
```

```

Checking local zones...
[...]
Summary for zones:
[...]
Patches that passed the dependency check:
[...]

Patching global zone
Adding patches...

    Checking installed patches...
    Verifying sufficient filesystem capacity (dry run method)...
    Installing patch packages...

    Patch Patch_ID has been successfully installed.
    See /var/sadm/patch/Patch_ID/log for details
    Patch packages installed:
        SUNWroute
    [...]

Adding patches...
    The patch directory
    /dev/.SUNW_patches_0111105334-1230284-00004de14dcb29c7
    cannot be found on this system.

[...]

Patchadd is terminating.

```

回避方法: まず、インストールするすべてのパッチを NFS サーバーからローカルシステムに手動でコピーします。次に、patchadd コマンドを使用して、パッチをコピーしたローカルシステムのディレクトリからパッチをインストールします。

lucreate コマンドで RAID-1 ボリュームを作成できない (5106987)

lucreate コマンドを使用して、/dev/md ディレクトリにデバイスエントリが含まれていない RAID-1 ボリューム (ミラー) を作成しようとする、コマンドが失敗します。最初に Solaris ボリュームマネージャーでミラーを作成しないかぎり、lucreate コマンドでファイルシステムをミラー化することはできません。

回避方法: まず Solaris ボリュームマネージャーでミラー化されたファイルシステムを作成し、次に lucreate コマンドで新しいブート環境を作成してください。

lucreate コマンドの詳細については、lucreate (1M) のマニュアルページまたは『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』を参照してください。

Solaris ボリュームマネージャーによるミラー化されたファイルシステムの作成方法については、『Solaris ボリュームマネージャの管理』を参照してください。

SPARC: 保存停止・復元再開サイクル中にパニックが発生すると、システムがハングアップすることがある (5062026)

保存停止・復元再開 (cpr) サイクル中にパニックが発生すると、システムがハングアップすることがあります。この問題は、XVR-1000 グラフィックスアクセラレータをインストールした Sun Blade 2000 ワークステーションで多く発生します。まれに、ほかの SPARC ベースのシステムでも、パニックが発生したときに同様なハングアップが発生することがあります。パニックが発生すると、コアダンプは保存されず、コンソールにプロンプトが表示されなくなります。この問題は、カーネルデバッグ (kadb) をアクティブにしていると発生しやすくなります。

回避方法: システムを使用できる状態に復元するには、システムを手動でリブートしてください。

SPARC: キーボードシーケンスを使用してシステムを停止すると、システムがパニックすることがある (5061679)

Stop-A キーや L1-A キーなどのキーボードシーケンスを使用してシステムを停止しようとすると、システムがパニックすることがあります。次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
panic[cpu2]/thread=2a100337d40: pcisch2 (pci@9,700000):  
consistent dma sync timeout
```

回避方法: OpenBoot PROM に入るときには、キーボードシーケンスを使用しないでください。

ipfs コマンドを -w オプション付きで使用する と失敗する (5040248)

ipfs コマンドは、ネットワークアドレス変換 (NAT) の状態とパケットフィルタリングの状態テーブルに関する情報を保存および復元します。このユーティリティーは、システムがリブートした場合にネットワーク接続が中断されるのを防ぎます。-w オプションを指定して ipfs コマンドを実行すると、カーネル状態テーブルの保存に失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
state:SIOCSTGET: Bad address
```

回避方法: ありません。

マウントポイントのアクセス権が作成したブート環境に保存されない (4992478)

lucreate コマンドを使用して新しいブート環境を作成するときは、ファイルシステムのマウントポイントのアクセス権が保存されません。その結果、一部のユーザープロセスが失敗してしまいます。クラスタリング環境で新しいブート環境を作成すると、クラスタはいったんノードを停止し、CD-ROM からブートして、マウントポイントのアクセス権を修復します。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. 新しいブート環境を作成します。

```
# lucreate -n newbe -m /:c0t0d0s0:ufs
-m /var:c1t0d0s0:ufs -m /usr:c2t0d0s0:ufs
```

上記の例では、lucreate コマンドによって *newbe* ブート環境が作成され、次のファイルシステムとマウントポイントが定義されます。

- root (/) ファイルシステムが c0t0d0s0 にマウントされます。
- var ファイルシステムが c1t0d0s0 にマウントされます。
- usr ファイルシステムが c2t0d0s0 にマウントされます。

2. 新しいブート環境のルートファイルシステムをマウントします。

```
# mount /dev/dsk/c0t0d0s0 /mnt
```

3. ブート環境用に定義されたマウントポイントごとに、アクセス権を 755 に変更します。

```
# chmod 755 /mnt/var
# chmod 755 /mnt/usr
```

4. ルートファイルシステムをマウント解除します。

```
# umount /dev/dsk/c0t0d0s0
```

kill -HUP によって必ずしもエージェントが snmpd.conf 構成ファイルを再度読み取るとは限らない (4988483)

snmpd.conf の内容を変更したあとは、コマンド `kill -HUP snmp Process ID` を実行できます。このコマンドによって *snmp* プロセスが停止します。その後、システム管理エージェントのマスターエージェント(*snmpd*)に信号が送信されて *snmpd.conf* が再度読み取られ、導入した変更が実装されます。このコマンドによって必ずしもマスターエージェントが構成ファイルを再度読み取るとは限りません。その結果、このコマンドを使用しても、必ずしも構成ファイル内の変更が有効になるとは限りません。

回避方法: `kill -HUP` を使用する代わりに、変更を *snmpd.conf* に追加したあとでシステム管理エージェントを再起動してください。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. 次のコマンドを入力します。

```
# /etc/init.d/init.sma restart
```

x86: BIOS のブート時に F4 キーを押すとサービスパーティションのブートに失敗する (4782757、5051157)

これは、Solaris 10 OS (x86 版) がインストールされた、サービスパーティションを保持する Sun LX50 のブート時に発生します。F4 ファンクションキーを押すことでサービスパーティションのブートを選択できますが、オプションを選択すると画面が空白になります。その後、システムはサービスパーティションのブートに失敗します。

回避方法: BIOS ブート画面の表示時に、F4 キーを押さないでください。タイムアウト後に「Current Disk Partition Information」画面が表示されます。type=DIAGNOSTIC に対応する「Part#」列の番号を選択します。続いて Return キーを押します。サービスパーティションがブートします。

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (4619576)

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは、com.sun.wbem.provider インタフェースまたは com.sun.wbem.provider20 インタフェースに書き込まれたプロバイダを検出できません。これらのインタフェースに書き込まれたプロバイダ用に Solaris_ProviderPath インスタンスを作成した場合でも、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンはプロバイダを検出しません。

回避方法: デーモンがこのようなプロバイダを検出できるようにするには、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンをいったん停止してから再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 - javax API を使用してプロバイダを作成した場合は、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンを停止してから再起動する必要はありません。Solaris WBEM Services 2.5 デーモンが javax プロバイダを動的に認識します。

XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタ フェースメソッド呼び出しが失敗することがある (4497393、4497399、4497406、4497411)

javax アプリケーションプログラミングインタフェースではなく、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースを使用して WBEM ソフトウェアを開発する場合、全面的にサポートされるのは Common Information Model (CIM) リモートメソッド呼び出し (RMI) だけです。XML/HTTP など、ほかのプロトコルについては、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースで完全に機能するという保証はありません。

次の表に、RMI では正常に実行され、XML/HTTP では失敗する呼び出しの例を示します。

メソッド呼び出し	エラーメッセージ
<code>CIMClient.close()</code>	<code>NullPointerException</code>
<code>CIMClient.execQuery()</code>	<code>CIM_ERR_QUERY_LANGUAGE_NOT_SUPPORTED</code>
<code>CIMClient.getInstance()</code>	<code>CIM_ERR_FAILED</code>
<code>CIMClient.invokeMethod()</code>	<code>XMLERROR: ClassCastException</code>

Solaris Management Console のマウントと共有 ツールでファイルシステムのマウント属性を変更 できない (4466829)

Solaris Management Console のマウントと共有ツールでは、ルート (/)、/usr、/var などのシステムに必須なファイルシステム上のマウントオプションを変更できません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- `mount` コマンドとともに `remount` オプションを使用します。

```
# mount -F file-system-type -o remount,  
additional-mount-options \  
device-to-mount mount-point
```

注 - `--remount` オプションを指定した `mount` コマンドで行われるマウント属性の変更は、一時的なものです。また、上記のコマンドの *additional-mount-options* の部分で指定しなかったマウントオプションのすべてがシステムによって指定されたデフォルト値を継承するわけではありません。詳細は、`mount_ufs(1M)` のマニュアルページを参照してください。

- `/etc/vfstab` ファイル内の適切なエントリを編集することによって、ファイルシステムのマウント属性を変更し、システムをリブートします。

第 4 章

特定システムに関する注意事項

この章では、Sun のミッドレンジサーバーおよびハイエンドサーバーに固有の注意事項について説明します。現在の Sun のサーバーは Sun Fire システムファミリーに含まれます。古いサーバーは Sun Enterprise システムファミリーに含まれます。

注 – Sun Validation Test Suite リリースノートは分離したマニュアルとなりました。これは <http://sun.com> で参照できます。

注 – この章に記載されている問題とバグの一部は、後続の Solaris 10 リリースですでに解決済みです。アップグレード済みの Solaris ソフトウェアでは、この章の一部の問題とバグに関する説明が適用されなくなっている可能性があります。使用している Solaris 10 ソフトウェアに適用されないバグと問題については、[付録 A](#) を参照してください。

Sun Fire ハイエンドシステムでの動的再構成

ここでは、Solaris 10 ソフトウェアを実行している Sun Fire ハイエンドシステムでのドメイン側の動的再構成 (DR) の主なバグについて説明します。

- Sun Fire 25K
- Sun Fire 20K
- Sun Fire 15K
- Sun Fire 12K

Sun Management Services での DR のバグについては、使用しているシステムで実行されている SMS のバージョンに対応した『SMS ご使用にあたって』を参照してください。

ソフトウェアおよびハードウェアの既知のバグ

Sun Fire ハイエンドシステムに関するソフトウェアおよびハードウェアのバグ情報について説明します。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスが関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. /rplboot ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```

4. DR による切り離し操作を実行します。

5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```

deleteboard を実行するとリークエラーが表示される (4730142)

SunSwift PCI カード、Option 1032 を使用するよう構成されているシステムで DR コマンドを実行すると、次のような警告が表示されることがあります。このような警告は、Solaris 8、Solaris 9、または Solaris 10 ソフトウェアが稼働しているドメインで発生します。警告の例を次に示します。

```
Aug 12 12:27:41 machine genunix: WARNING:
vmem_destroy('pcisch2_dvma'): leaked
```

このような警告が表示されても問題はなく、DR 操作中に DVMA (Direct Virtual Memory Access) 空間は正常にリフレッシュされます。実際には、カーネルのメモリーリークは発生していません。

回避方法: この警告が表示されないようにするには、`/etc/system` ファイルに次の行を追加します。

```
set pcisch:pci_preserve_iommu_tsb=0
```

GigaSwift Ethernet MMF のリンクが、DR 接続後の CISCO 4003 スイッチで停止する

Sun GigaSwift Ethernet MMF Option X1151A を備えたシステムと一部の CISCO スイッチの間でリンクが失敗します。次のいずれかのスイッチに接続されているシステムで DR 操作を実行しようとする、この失敗が発生します。

- CISCO WS-c4003 スイッチ (ファームウェア: WS-C4003 Software, Version NmpSW: 4.4(1))
- CISCO WS-c4003 スイッチ (ファームウェア: WS-C4003 Software, Version NmpSW: 7.1(2))
- CISCO WS-c5500 スイッチ (ファームウェア: WS-C5500 Software, Version McpSW: 4.2(1) および NmpSW: 4.2(1))

この問題は CISCO 6509 スイッチでは見られません。

回避方法: 別のスイッチを使用するか、一覧に示したスイッチのパッチについて Cisco 社にお問い合わせください。

Sun Fire ミッドレンジシステムでの動的再構成

ここでは、次の Sun Fire ミッドレンジシステムでの動的再構成 (DR) に関連する重要な問題について説明します。

- Sun Fire E6900
- Sun Fire E4900
- Sun Fire E6800
- Sun Fire E4810
- Sun Fire E4800
- Sun Fire E3800

最小構成のシステムコントローラファームウェア

表 4-1 で、Solaris ソフトウェアと、DR を実行する各 Sun Fire ミッドレンジシステムのシステムコントローラ (SC) ファームウェアの許容可能な組み合わせを示します。

注 – 最新のファームウェア機能とバグ修正を利用するには、Sun Fire ミッドレンジシステム上で最新の SC ファームウェアを実行してください。最新のパッチについては、<http://sunsolve.sun.com> を参照してください。

表 4-1 各プラットフォームと Solaris リリースの組み合わせで最小構成の SC ファームウェア

プラットフォーム	Solaris リリース	最小構成の SC ファームウェア
UltraSPARC IV+ が搭載された Sun Fire E6900/E4900	Solaris 10 3/05 HW1 (限定リリース) または Solaris 10 1/06	5.19.0
UltraSPARC IV+ が搭載されていない E6900/E4900	Solaris 9 4/04	5.16.0
Sun Fire 6800/4810/4800/3800	Solaris 9 4/04	5.16.0
Sun Fire 6800/4810/4800/3800	Solaris 9	5.13.0

Sun Fire ミッドレンジシステムのシステムファームウェアは、ファームウェアイメージが格納されている FTP または HTTP サーバーに接続することによってアップグレードすることができます。詳細は、README ファイルと Install.info ファイルを参照してください。これらのファイルは、使用しているドメインで動作中のファームウェアリリースに含まれています。パッチは、Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) で入手できます。

DR ソフトウェアの既知のバグ

ここでは、DR に関する重要なバグについて説明します。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスが関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. /rplboot ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```

4. DR による切り離し操作を実行します。

5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```

Solaris Bandwidth Manager が原因で DR 操作中にシステムパニックが生じる場合がある (4506562)

Solaris Bandwidth Manager (SBM) の使用中に CPU を搭載したシステムボードがシステムから削除されると、パニックが生じることがあります。

回避方法: DR に使用されるシステムには SBM をインストールしないでください。また、SBM がインストールされたサーバーで、CPU システムボードに対する DR 操作を実行しないでください。

ポート 0 が使用不可のときは、cPCI ボードを構成解除できない (4798990)

Sun Fire ミッドレンジシステムでは、CompactPCI (cPCI) 入出力ボード上のポート 0 (P0) が使用不可になっているときは、このボードを構成解除することはできません。この問題は、Solaris 10 および Solaris 9 ソフトウェアで発生します。また、次のパッチが 1 つ以上インストールされている Solaris 8 ソフトウェアでも発生します。

- パッチ ID 108528-11 ~ 108528-29
- パッチ ID 111372-02 ~ 111372-04

また、このエラーは cPCI ボードを使用する DR 操作中にのみ発生します。次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
# cfgadm -c unconfigure NO.IB7
cfgadm: Hardware specific failure: unconfigure NO.IB7: Device
busy:/ssm@0,0/pci@1b,700000/pci@1
```

NO.IB7 は、P0 が使用不可となっている CompactPCI 入出力ボードです。

回避方法: ポート 0 ではなく、スロットを使用不可にします。

Sun Enterprise 10000 に関するリリース情報

ここでは、Sun Enterprise 10000 サーバーでの次の機能に関連する注意事項について説明します。

- システムサービスプロセッサの要件
- 動的再構成 (DR)
- InterDomain Networks (IDNs)
- Sun Enterprise 10000 ドメイン上の Solaris オペレーティングシステム

注 – Solaris 10 ソフトウェアは、Sun Enterprise 10000 システム内の個々のドメイン上で実行できます。ただし、このリリースでは、Sun Enterprise 10000 システムサービスプロセッサはサポートされていません。

システムサービスプロセッサの要件

システムサービスプロセッサ (SSP) で Solaris 10 ソフトウェアをサポートするには、SSP 3.5 ソフトウェアが必要です。まず、SSP 3.5 を SSP にインストールしてください。その後、Sun Enterprise 10000 ドメインで Solaris 10 OS のインストールやアップグレードを行うことができます。

SSP 3.5 ソフトウェアは、ドメインを DR モデル 3.0 用に正しく構成するためにも必要です。

動的再構成に関する注意事項

ここでは、Sun Enterprise 10000 ドメインでの動的再構成 (DR) に関連する注意事項について説明します。

DR モデル 3.0

Solaris 9 12/03 リリース以降の Solaris OS が動作している Sun Enterprise 10000 ドメインでは、DR モデル 3.0 を使用する必要があります。DR モデル 3.0 とは、SSP 上で次のコマンドを使用してドメイン DR 操作を実行する機能のことです。

- addboard
- moveboard
- deleteboard

- showdevices
- rcfgadm

ドメインで `cfgadm` コマンドを実行して、ボードの状態情報を取得することもできます。DR モデル 3.0 は、Reconfiguration Coordination Manager (RCM) とのインタフェースを通じて、ドメインで動作しているほかのアプリケーションとの DR 操作の調整も行います。

DR モデル 3.0 の詳細は、『Sun Enterprise 10000 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

DR と結合ユーザープロセス

この Solaris リリースでは、DR は切り離された CPU とユーザープロセスとの結合解除を自動的に実行しません。切り離し操作を開始する前に、手動でこの操作を実行する必要があります。プロセスが結合されている CPU が検出されると、ドレイン操作が失敗します。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスに関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. `/rplboot` ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```

3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```

4. DR による切り離し操作を実行します。

5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```

DR 3.0 を使用可能にすると、特定の状態で余分なステップが必要になる (4507010)

ドメインを DR 3.0 用に正しく構成するには、SSP 3.5 ソフトウェアが必要です。SSP を SSP 3.5 にアップグレードしたあと、ドメインで DR 3.0 が使用可能になっている場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# devfsadm -i ngdr
```

InterDomain Networks

ドメインを InterDomain Network に接続する場合、そのドメインにあるボードのうち、メモリーが動作しているボードについては、動作中の CPU が少なくとも 1 つ必要です。

OpenBoot PROM 変数

OpenBoot PROM プロンプト (OK) で `boot net` コマンドを実行する前には、必ず `local-mac-address?` 変数の値が `false` に設定されていることを確認してください。これは出荷時のデフォルト値です。この変数の値が `true` になっている場合は、この値がローカルな構成として適切かどうかを確認してください。



注意 – `local-mac-address?` が `true` に設定されていると、ネットワーク上でのそのドメインのブートが正しく行われない場合があります。

`netcon` ウィンドウでは、OpenBoot PROM プロンプトで次のコマンドを使用して、OpenBoot PROM 変数の値を表示できます。

```
OK printenv
```

`local-mac-address?` 変数をデフォルト値にリセットするには、`setenv` コマンドを使用します。

```
OK setenv local-mac-address? false
```

Sun Enterprise ミッドレンジシステムでの動的再構成

ここでは、Solaris 10 ソフトウェアを実行する次のようなミッドレンジサーバーでの動的再構成 (DR) 機能について、最新情報を提供します。

- Sun Enterprise 6x00
- Sun Enterprise 5x00
- Sun Enterprise 4x00
- Sun Enterprise 3x00

Sun Enterprise サーバーの DR の詳細については、『Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。Solaris 10 リリースは、上記のリストに示したシステムのすべての CPU/メモリーボードとほとんどの入出力ボードをサポートしています。

サポートするハードウェア

DR を実行する前に、システムが動的再構成をサポートしていることを確認してください。システムの設計が古い場合は、コンソールまたはコンソールログに次のようなメッセージが表示されます。このようなシステムは動的再構成をサポートしていません。

```
Hot Plug not supported in this system
```

次の入出力ボードは現在サポートされていません。

- タイプ 2 (グラフィックス)
- タイプ 3 (PCI)
- タイプ 5 (グラフィックスと SOC+)

ソフトウェアに関する注意事項

ここでは、DR に関する一般的なソフトウェア情報について説明します。

動的再構成を有効にする

動的再構成を有効にするには、`/etc/system` ファイルで 2 つの変数を設定します。また、CPU/メモリーボードの取り外しを有効にするために、もう 1 つの変数を設定する必要があります。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. `/etc/system` ファイルを編集して、次の行を追加します。

```
set pln:pln_enable_detach_suspend=1
set soc:soc_enable_detach_suspend=1
```

3. CPU/メモリーボードの取り外しを有効にするには、次の行をファイルに追加します。

```
set kernel_cage_enable=1
```

この変数の設定により、メモリーの構成解除が可能になります。

4. 変更を適用するために、システムをリブートします。

休止テスト

次のコマンドを使用して、休止テストを開始できます。

```
# cfgadm -x quiesce-test sysctrl0:slot number
```

システムの規模が大きい場合は、休止テストの実行に1分近くかかる場合もあります。この間、`cfgadm` が互換性のないドライバを検出しなかった場合はメッセージはまったく表示されませんが、これは正常な動作です。

使用不可ボードリスト

使用不可ボードリストに登録されているボードに接続処理を実行しようとする、次のエラーメッセージが出力されることがあります。

```
# cfgadm -c connect sysctrl0:slotnumber
```

```
cfgadm: Hardware specific failure: connect failed:  
board is disabled: must override with [-f] [-o enable-at-boot]
```

リストへの登録を無効にして使用可能な状態にするには、2つの方法があります。

- 強制フラグ (`-f`) を使用する

```
# cfgadm -f -c connect sysctrl0:slot number
```

- 使用可能設定オプション (`-o enable-at-boot`) を使用する

```
# cfgadm -o enable-at-boot -c connect sysctrl0:slot  
number
```

使用不可ボードリストからすべてのボードを削除するには、コマンドを入力するプロンプトに応じて、次のいずれかの手順を実行します。

- スーパーユーザーのプロンプトからは、次のように入力します。

```
# eeeprom disabled-board-list=
```

- OpenBoot PROM プロンプトからは、次のように入力します。

```
OK set-default disabled-board-list
```

`disabled-board-list` 変数の設定については、『特記事項: Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム』の「固有の NVRAM 変数」の節を参照してください。このマニュアルは、このリリースのマニュアルセットに含まれています。

使用不可メモリーリスト

OpenBoot PROM コマンドの `disabled-memory-list` 変数の設定については、このリリースで公開されています。Solaris Sun ハードウェアマニュアルの『特記事項: Sun Enterprise 6x00、5x00、4x00、3x00 システム』の「固有の NVRAM 変数」を参照してください。

切り離し危険ドライバの読み込み解除

切り離し危険ドライバの読み込みを解除するには、`modinfo` コマンドを使用してドライバのモジュール ID を確認し、`modunload` コマンドでそのモジュール ID を指定します。

接続処理中のセルフテストの失敗

DR 機能を利用してボードに接続処理を実行しているときに次のようなメッセージが表示された場合は、ボードのセルフテストでエラーが発生しています。すぐにシステムからボードを取り外してください。

```
cfgadm: Hardware specific failure: connect failed: firmware operation error
```

ボードを取り外すことで、システムのリブート時に再構成エラーが起こるのを回避できます。

セルフテストに失敗した状態では、それ以上操作を実行できません。したがって、失敗した操作をすぐに実行し直す場合は、ボードをいったん取り外して操作可能な状態に戻してから、取り付け直してください。

既知の障害

次の情報は随時変更されることがあります。

プログラムでネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、デバイスの取り外しが失敗する (5054195)

プロセスによってネットワークデバイスが開いた状態に保持されていると、そのデバイスが関連する DR 操作はすべて失敗します。参照カウントを保持しているデーモンやプロセスによって、DR 操作が中止されます。

回避方法: スーパーユーザーとして次の手順を実行します。

1. `/rplboot` ディレクトリを削除するか、またはディレクトリ名を変更します。
2. NFS サービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server stop
```
3. ブートサーバーサービスを停止します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server stop
```
4. DR による切り離し操作を実行します。
5. NFS サービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/nfs.server start
```

6. ブートサーバーサービスを再起動します。

```
# sh /etc/init.d/boot.server start
```

重大なリセット操作を実行後、メモリーが不適切にインタリーブされる (4156075)

Sun Enterprise 5x500 サーバーに対して不正なリセット操作が実行されると、メモリーが不適切にインタリーブされた状態になり、以降の DR 操作は失敗します。この問題は、メモリーインタリーブの設定が min になっているシステムでのみ発生します。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- すでに問題が発生している場合は、OK プロンプトから手動でシステムをリセットします。
- 問題が発生する前にそれを回避するには、NVRAM の memory-interleave 変数を max に設定します。

2 番目の方法を使用すると、システムがブートされるたびにメモリーがインタリーブされるようになります。ただし、インタリーブ方式のメモリーを搭載したメモリーボードを動的に構成解除することはできないので、必ずしも推奨される方法ではありません。176 ページの「[インタリーブ方式のメモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない \(4210234\)](#)」を参照してください。

インタリーブ方式のメモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない (4210234)

メモリーモジュール付き CPU ボードまたはメモリーボードに対して構成解除および切り離し操作を実行するには、まずメモリーを構成解除する必要があります。ただし現在のところ、ボード上のメモリーがほかのボード上のメモリーとインタリーブされている場合は、メモリーを動的に構成解除することはできません。

システムでインタリーブ方式のメモリーを使用しているかどうかは、prtdiag コマンドまたは cfigadm コマンドで確認できます。

回避方法: システムを停止してからボードの追加、交換を行い、その後リブートします。CPU/メモリーボードで DR 機能を利用できるようにするには、NVRAM の memory-interleave 変数を min に設定します。インタリーブ方式のメモリーについては、176 ページの「[重大なリセット操作を実行後、メモリーが不適切にインタリーブされる \(4156075\)](#)」も参照してください。

固定メモリーを搭載した CPU/メモリーボードを構成解除できない (4210280)

メモリーモジュール付き CPU ボードまたはメモリーボードに対して構成解除および切り離し操作を実行するには、まずメモリーを構成解除する必要があります。ただし現在のところ、再配置不可能なメモリー (固定メモリー) もあります。

ボードに固定メモリーが搭載されている場合は、cfgadm コマンドによる状態表示では「permanent」と表示されます。

```
# cfgadm -s cols=ap_id:type:info
Ap_Id Type Information
ac0:bank0 memory slot3 64Mb base 0x0 permanent
ac0:bank1 memory slot3 empty
ac1:bank0 memory slot5 empty
ac1:bank1 memory slot5 64Mb base 0x40000000
```

上の例では、スロット 3 のボードに固定メモリーが搭載されているので、このボードを取り外すことはできません。

回避方法: システムを停止してからボードの追加、交換を行い、その後リブートします。

cfgadm コマンドを実行中、同時に別のボードに対して cfgadm による切り離し操作を実行できない (4220105)

あるボードに対して cfgadm コマンドを実行しているときに、同時に別のボードに対して cfgadm コマンドによる切り離し操作を実行しようとするすると失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
cfgadm: Hardware specific failure:
disconnect failed: nexus error during detach:address
```

回避方法: 一度に実行する cfgadm 操作は 1 つだけにします。1 枚目のボードに対して cfgadm 操作を実行しているときは、その操作が終了してから 2 枚目のボードに対する切り離し操作を実行してください。

第 5 章

サポート中止に関する情報

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

Solaris 10 オペレーティングシステム でサポートを中止した製品

アジアの短縮 dtlogin 名

次のアジアの短縮ロケール名は、Solaris ソフトウェアの dtlogin 言語リストに含まれていません。

- zh.GBK
- zh.UTF-8
- ko.UTF-8

add_drv システムコマンドの device_driver へのパス名指定サポート

以前の add_drv コマンドでは、device_driver パラメータにパス名を指定できました。パス名の指定は、Solaris でサポートされなくなりました。デバイスドライバのパス名を指定すると、次のエラーメッセージが STDERR に書き込まれます。

```
Error: driver may not be specified by path path name  
Error: Could not install driver driver name
```

インストールまたはアップグレードの実行時にパス名を指定したことにより生成されるエラーメッセージは、install_log ファイルまたは upgrade_log ファイルに書き込まれます。

admintool コマンド

swmtool を含む admintool は、Solaris でサポートされなくなりました。このコマンドの機能は、次のユーティリティで置き換えられています。

ユーティリティ	コマンド	機能
Solaris Management Console	smc	ユーザー、グループ、ホスト、およびシリアルポートの管理
印刷マネージャー	printmgr	プリンタの管理
Product Registry	prodreg	ソフトウェアの管理

asysmem() インタフェースおよび sysmem() インタフェース

libadm(3lib) からエクスポートされる asysmem() インタフェースおよび sysmem() インタフェースは、Solaris に含まれなくなりました。これら 2 つは旧式のインタフェースです。アプリケーション開発者は、代わりに sysconf(3C) ライブラリ関数を使用してください。

詳細は、sysconf(3C) のマニュアルページを参照してください。

BIND バージョン 8 DNS サーバーおよびツール

Internet Systems Consortium の BIND 8 DNS ネームサーバーおよびツールは、Solaris 10 OS ではサポートされなくなりました。BIND 8 バージョンの DNS ネームサーバーおよびツールは、それぞれ対応する BIND 9 バージョンで置き換えられています。BIND 8 から BIND 9 への移行情報と特定の Solaris での実装の詳細については、『Solaris のシステム管理 (ネーミングとディレクトリサービス : DNS、NIS、LDAP 編)』のパート II 「DNS の設定と管理」を参照してください。

x86: 共通オブジェクトファイル形式 (COFF)

共通オブジェクトファイル形式 (COFF) のオブジェクトコードを x86 アーキテクチャプラットフォームで実行する機能は、Solaris でサポートされなくなりました。同様に、x86 プラットフォームで System V リリース 3 との互換性を保つためのその他のサポートも、すべて終了しました。

廃止されたデバイスドライバインタフェース (DDI)

`identify` ドライバエントリポイントは、カーネルで呼び出されなくなりました。この Solaris リリース用の新しいドライバをコンパイルして提供する場合は、このエントリポイントを `nulldev` カーネル関数に設定してください。既存のドライバのバイナリは、再コンパイルしなくても動作します。

次のシンボルがヘッダーファイルから削除されています。これらのシンボルに関連付けられている機能は、Solaris で使用できなくなりました。ドライバ開発者は、関連するコードを削除してください。

廃止されたインタフェース	好ましいインタフェース
<code>ddi_getimminor(9F)</code>	<code>getminor(9F)</code> を使用
<code>GLOBAL_DEV</code>	0 を指定
<code>NODEBOUND_DEV</code>	0 を指定
<code>NODESPECIFIC_DEV</code>	0 を指定
<code>ENUMERATED_DEV</code>	0 を指定
<code>DDI_IDENTIFIED</code>	不要
<code>DDI_NOTIDENTIFIED</code>	不要
<code>ddi_mapdev(9F)</code>	<code>devmap_setup(9F)</code>
<code>ddi_mapdev_intercept(9F)</code>	<code>devmap_load(9F)</code>
<code>ddi_mapdev_nointercept(9F)</code>	<code>devmap_unload(9F)</code>
<code>ddi_mapdev_ctl(9S)</code>	<code>devmap_callback_ctl(9S)</code>
<code>mapdev_access(9E)</code>	<code>devmap_access(9E)</code>
<code>mapdev_free(9E)</code>	<code>mapdev_free(9E)</code>
<code>mapdev_dup(9E)</code>	<code>devmap_dup(9E)</code>
<code>ddi_mapdev_set_device_acc_attr(9F)</code>	<code>ddi_device_mapping_check</code>

詳細は、`ddi_create_minor_node(9F)`、`ddi_getimminor(9F)`、`getminor(9F)`、`identify(9E)`、`nulldev(9F)`、および `devmap(9E)` のマニュアルページを参照してください。

Alt キーおよびメタキーを使用した Euro 文字入力シーケンス

Solaris UTF-8 (Unicode) ロケールで、Euro 文字の次の非標準入力キーシーケンスは、Solaris でサポートされなくなりました。

- Alt-E
- Alt-4
- Alt-5
- Meta-E
- Meta-4
- Meta-5

注 – シーケンスを表わす場合、ハイフンはキーを同時に押すことを示します。+ 記号は、キーを連続して押すことを示します。

推奨される標準の入力キーシーケンスは、次のとおりです。

- Alt Graph-E
- Compose+C+=

キーボードに Alt Graph キーまたは Compose キーがない場合は、次のキーシーケンスを使用します。

- Ctrl-Shift-T+C+=

フェデレーテッドネーミングサービス XFN のライブラリとコマンド

X/Open XFN 標準に基づくフェデレーテッドネーミングサービス (FNS) は、Solaris でサポートされなくなりました。

汎用 LAN ドライバのバージョン 0 インタフェース

汎用 LAN ドライバ (GLD) のバージョン 0 インタフェースは、Solaris でサポートされなくなりました。バージョン 0 インタフェースについては、『Solaris 2.1 Device Driver Writer's Guide for x86』を参照してください。ドライバには、『Writing Device Drivers』に記載されているバージョン 2 インタフェースを使用することをお勧めします。

ドライバでどのバージョンの GLD インタフェースが使用されているかを調べるには、次のスクリプトを実行します。

```
#!/bin/sh
#
# Test a driver binary for v0 or v2 GLD interface usage
#
for file
do
  /usr/ccs/bin/nm $file | /bin/awk '
```

```

/\|gld_register$/ { isgld=1; }
/\|gld_mac_alloc$/ { isv2=1; }
END {
    if (!isgld)
        print file, "does not use GLD";
    else if (!isv2)
        print file, "is a version 0 GLD driver";
    else if (isv2)
        print file, "is a version 2 GLD driver";
    }' file=$file
done

```

注 – Realtek の `rtls` ドライバは現在でもバージョン 0 インタフェースを使用していますが、この Solaris リリースではサポートされません。しかし、`rtls` の代替ドライバである `rf` は、バージョン 2 インタフェースを使用しています。この代替ドライバは <http://homepage2.nifty.com/mrym3/taiyodo/eng> からダウンロードできます。

GMT zoneinfo タイムゾーン

`/usr/share/lib/zoneinfo/GMT[+-]*` タイムゾーンは、Solaris でサポートされなくなりました。これらの zoneinfo タイムゾーンの代わりに、対応するタイムゾーンを引用符付きで使用してください。

詳細は、`zoneinfo(4)` および `environ(5)` のマニュアルページを参照してください。

Sun Java Desktop System, Release 3 から除外された GNOME コンポーネント

Solaris 10 ソフトウェアの Sun Java Desktop System, Release 3 ソフトウェアは、GNOME 2.6 Desktop に基づいて構成されています。次のコンポーネントは、Java Desktop System, Release 3 に含まれていません。

- `/usr/bin/galf`
- `/usr/bin/galf-server`
- `/usr/bin/gnome-settings-daemon`
- `/usr/bin/gnome-theme-properties`
- `/usr/bin/gnometriz`
- `/usr/bin/intltool-unicodify`
- `/usr/bin/jmplay.bin`
- `-font-install`
- `/usr/bin/linc-config`
- `/usr/bin/metacity-properties`
- `/usr/bin/mk-star-menuentries`

- /usr/bin/nautilus-gtkhtml-view
- /usr/bin/play
- /usr/bin/rec
- /usr/bin/sfconvert
- /usr/bin/sfinfo
- /usr/bin/soxmix
- /usr/bin/yelp-pregenrate
- /usr/lib/libgen_util_applet-2.so
- /usr/lib/liblinc.so
- /usr/lib/libzvt2.0.s

これらのコンポーネントが必要な場合は、GNOME コミュニティーにお問い合わせください。<http://gnome.org> を参照してください。

グラフィックドライバのサポート

次のグラフィックデバイスのソフトウェアサポートは、このリリースでは提供されていません。

デバイス	ドライバ
MG1、MG2	bwtwo
CG3	cgthree
SX/ CG14	sx、cgfourteen
TC	cgeight
TCX	tcx

x86: EISA デバイスとドライバ

ISA および EISA 入出力バスに基づく次のデバイスは、Solaris でサポートされなくなりました。同様に、これらのデバイス専用で作成されたデバイスドライバもサポートされなくなりました。このようなドライバで、PCI デバイスもサポートされている場合があります。その場合、ドライバを削除すると、これらの PCI デバイスのサポートも削除されます。Solaris での EISA バスのサポートは削除されています。

- Distributed Processing Technology (DPT) 製 SmartRAID IV SCSI HBA および RAID アダプタカード
 - DPT HBA アダプタ
 - PM2024
 - PM2044UW
 - PM2044W

- PM2124
- PM2124W
- PM2144UW
- PM2144W
- DPT RAID アダプタ
 - PM3224
 - PM3224W
 - PM3334UW
 - PM3334W
- Compaq 製コントローラ
 - Compaq 32-Bit Fast-Wide SCSI-2 EISA/PCI Controller (825)
 - Compaq Wide-Ultra SCSI PCI Controller (875)
 - Compaq Smart-2 EISA/PCI Array Controller
 - Smart-2SL PCI Array Controller
- American Megatrends 製コントローラ
 - American Megatrends MegaRAID 428 SCSI RAID Controller
- Mylex
 - Mylex DAC960E EISA
 - Mylex DAC960P/PD/PD-Ultra/PL PCIhost バスアダプタシリーズ
- PSMI MP モジュール
 - Compaq PSMI MP モジュール
 - Corollary PSMI MP モジュール

注 - これらの PSMI MP モジュールでは、次のマルチプロセッサアーキテクチャが使用されています。

- Compaq systempro (386/486)
 - Compaq systempro XL (486/Pentium 60/66)
 - Corollary cbus (386/486)
 - Corollary cbus-II (Pentium)
-

JRE 1.2.2

Java Runtime Environment (JRE) のバージョン 1.2.2 は、このリリースではサポートされなくなりました。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

Kodak Color Management System

Kodak Color Management System (KCMS™) は、Solaris でサポートされなくなりました。

SPARC: Lance Ethernet ドライバ

Lance Ethernet (1e) ドライバは、Solaris でサポートされなくなりました。

LDAP クライアントライブラリ

LDAP C-API ライブラリバージョン 3 `libldap.so.3` は、Solaris でサポートされなくなりました。このライブラリの最新バージョンは、LDAP C-API バージョン 5 `libldap.so.5` です。

廃止された軽量プロセス (LWP) インタフェース

次の軽量プロセス (LWP) インタフェースは、Solaris でサポートされなくなりました。

- `_lwp_create(2)`
- `_lwp_detach(2)`
- `_lwp_exit(2)`
- `_lwp_getprivate(2)`
- `_lwp_makecontext(2)`
- `_lwp_setprivate(2)`
- `_lwp_wait(2)`

これらのインタフェースは、デフォルトでマルチスレッドが有効になる一般モデルに含まれていません。これらのインタフェースは、`libthread` をリンクしていないアプリケーション内で使用する場合に限り、期待どおり機能していました。

無名インタフェースグループ機能

無名インタフェースグループ機能は、この Solaris リリースではサポートされなくなりました。無名インタフェースグループ機能を有効にするには、`nnd` コマンドを使用して `ip_enable_group_ifs` 変数を設定していました。

代わりに、同様の働きを持つ、サポート対象の IP ネットワークマルチパス機能を使用してください。IP ネットワークマルチパスグループは、`ifconfig` コマンドの `group` キーワードを使って作成できます。

詳細は、`ifconfig(1M)` のマニュアルページを参照してください。

Netscape ソフトウェア

Netscape™ ソフトウェアの次に示すバージョンは、Solaris でサポートされなくなりました。

- Netscape 4.7.x
- Netscape 6.2.x
- Netscape 7.0

netstat の -k オプション

`netstat` コマンドの `-k` というサポートされていないオプション (実行中の OS インスタンス上のすべての名前付きカーネル統計情報について報告するオプション) は、Solaris に含まれなくなりました。代わりに、サポートされている `kstat` コマンド (同じ機能を提供している) を使用してください。

x86: ネットワークデバイス

次のネットワークデバイスは、Solaris でサポートされなくなりました。

- 3Com Etherlink III (elx)
- Intel EtherExpress Pro/100A (ieef)
- Xircom Pocket Ethernet Adapter (PE3 および PE2) (pe)

POSIX スレッド以外の `fork()` 関数の動作

`-lpthread` ライブラリにリンクされていない場合の `fork()` の動作が変更されました。この動作の変更により、Solaris スレッドは POSIX スレッドに一致します。

`fork()` 関数は、`fork1()` と同じ動作をするように再定義されました。その結果、`fork()` は子プロセスに呼び出し元スレッドだけを複製します。この再定義の結果は、`-lpthread` とリンクした場合の現在の `fork1()` および `fork()` の動作と一致します。

`fork()` の `replicate-all()` の動作を必要とするアプリケーションのサポートは、引き続き提供されます。このようなアプリケーションは、`fork()` の代わりに新しい `forkall()` 関数を呼び出すように変更する必要があります。

pam_unix モジュール

pam_unix(5) モジュールは、このリリースには含まれなくなりました。
pam_unix_auth(5)、pam_authtok_check(5)、pam_authtok_get(5)、
pam_authtok_store(5)、pam_dhkeys(5)、pam_unix_account(5)、
pam_unix_session(5)、および pam_passwd_auth(5) が同様の機能を提供します。

PC File Viewer

PC File Viewer は、Solaris でサポートされなくなりました。

現在、PC ファイル閲覧用の PC File Viewer と同様の機能は、Sun StarSuite Office Productivity Suite で使用できます。StarSuite は、Microsoft Office などの主要なデスクトップアプリケーションで使用されているファイル形式で閲覧可能です。

詳細は、<http://www.sun.com/staroffice> を参照してください。

Perl バージョン 5.005_03

Perl バージョン 5.005_03 は、このリリースには含まれなくなりました。Solaris に含まれている Perl のデフォルトバージョンは、バージョン 5.005_03 とバイナリ互換ではありません。サイトで独自にインストールしたモジュールは、新しいバージョンを使用して再構築および再インストールする必要があります。

libc の ptrace インタフェース

libc に含まれていた 64 ビット版の ptrace インタフェースは、Solaris でサポートされなくなりました。proc インタフェースによってその機能が置き換えられます。

詳細は、proc(4) のマニュアルページを参照してください。

電源管理入出力制御コマンド

次の電源管理入出力制御コマンド (ioctl) は、Solaris でサポートされなくなりました。

- PM_DISABLE_AUTOPM
- PM_REENABLE_AUTOPM
- PM_SET_CUR_PWR
- PM_GET_CUR_PWR
- PM_GET_NORM_PWR

Solaris OS では、次の `ioctl` が代わりにサポートされています。

- `PM_DIRECT_PM`
- `PM_RELEASE_DIRECT_PM`
- `PM_GET_CURRENT_POWER`
- `PM_SET_CURRENT_POWER`
- `PM_GET_FULL_POWER`

これらの `ioctl` の詳細については、`pm(7D)` のマニュアルページを参照してください。

sendmailvars と `L sendmail.cf` コマンドまたは `G sendmail.cf` コマンド

`nsswitch.conf(4)` に含まれている `sendmailvars` データベースは、Solaris でサポートされなくなりました。`L sendmail.cf` または `G sendmail.cf` コマンドを使用せずに、この機能を有効にすることはできませんでした。この変更により、Sun バージョンの `sendmail` は、`sendmail.org` バージョンにより厳密に準拠するようになります。

ShowMe TV

ShowMe™ TV は、このリリースではサポートされなくなりました。

SPARC: 64 ビットパッケージ

Solaris ソフトウェアはこれまで、32 ビットコンポーネントと 64 ビットコンポーネントで別々のパッケージで配布されていました。64 ビットパッケージは Solaris 7 リリースで導入されたもので、Solaris オペレーティングシステムの 64 ビットコンポーネントを配布していました。一般的に、64 ビットパッケージの名前の末尾は「x」でした。たとえば、`SUNWcs1` は Solaris コアライブラリの 32 ビットバージョンを、`SUNWcs1x` は 64 ビットバージョンを配布するものでした。

この Solaris リリースでは、32 ビットコンポーネントと 64 ビットコンポーネントが単一の基本パッケージでいっしょに配布されます。両方が同梱されたパッケージの名前は、元の 32 ビットパッケージの名前になり、64 ビットパッケージはもう配布されません。たとえば、`/usr/lib/sparcv9/libc.so.1` は `SUNWcs1x` として配布されていましたが、現在は `SUNWcs1` として配布され、`SUNWcs1x` は配布されなくなりました。

注 - パッケージによっては、64 ビットコンポーネントだけが配布され、対応する 32 ビットパッケージが存在しないものもありました。このような場合、パッケージの名前が変更され、末尾の「x」が削除されます。たとえば、SUNW1394x は SUNW1394 となります。

明示的に 64 ビットパッケージを参照しているソフトウェアパッケージをインストールすると、警告が発生します。これらは重大な警告ではないので、ユーザーは警告を無視してソフトウェアを正常にインストールできます。

たとえば、SUNWpool パッケージをインストールしようとする、存在しない 64 ビットパッケージ SUNWcs1x が参照されているため、次のような情報と警告が画面に表示されます。

```
# pkgadd SUNWpool

Processing package instance SUNWpool from /var/spool/pkg

Resource Pools (64-bit)
(sparc) 11.10.0,REV=2003.04.08.04.21
Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.
Using / as the package base directory.
## Processing package information.
## Processing system information.
   6 package pathnames are already properly installed.
## Verifying package dependencies.
WARNING:
    The SUNWcs1x package "Core Solaris Libraries
    (64-bit)" is a prerequisite package and should be
    installed.

Do you want to continue with the installation of SUNWpoolx [y,n,?]
```

SPARC システム用の 32 ビットアプリケーションを提供する独立系ソフトウェアベンダーや、32 ビットアプリケーションを実行するお客様は、何も変更を行う必要はありません。このようなアプリケーションは従来どおり動作します。

sdtjmlplay Desktop Java Media Player

Java Media Framework 1.1 に基づいた Desktop Java Media Player (/usr/dt/bin/sdtjmlplay) は、Solaris でサポートされなくなりました。ユーザーは、新しい Java Media Framework 2.1.1 リリースに基づいた Java Media Player (/usr/bin/jmlplay) に移行する必要があります。

jmlplay Java Media Player は、Solaris 9 OS 8/03 以降の Solaris に含まれています。jmlplay は、Solaris 8 および前期の Solaris 9 リリースでも GNOME 2.0 デスクトップ環境として使用できます。

GNOME 2.0 デスクトップ環境は、<http://www.sun.com/gnome/> からダウンロードして使用可能です。

Solaris 静的システムライブラリ

この告知は、32 ビット版の静的システムライブラリおよび静的にリンクしたユーティリティだけに該当します。64 ビット版の静的システムライブラリやユーティリティは、これまで提供されたことはありません。

32 ビット版の Solaris 静的システムライブラリおよび静的にリンクしたユーティリティは、Solaris でサポートされなくなりました。特に、静的 C ライブラリ (`/usr/lib/libc.a`) は、Solaris でサポートされなくなりました。

既存の静的システムライブラリにリンクしたアプリケーションは、Solaris で正常に動作しない可能性があります。Solaris ABI (Application Binary Interface) を提供するシステムライブラリと動的にリンクするアプリケーションだけが、将来のリリースと互換性を持つように設計されています。

システムトラップの動作に直接依存するアプリケーションは、Solaris で正常に動作しない可能性があります。また、システムトラップの動作に直接依存する他社製ライブラリ (一般的には、ABI 機能を代替的に提供するライブラリ) にリンクされたアプリケーションも、Solaris で正常に動作しない可能性があります。

Solaris ボリュームマネージャーのトランザクションボリューム

Solaris ボリュームマネージャーのトランザクションボリューム (trans メタデバイス) は、Solaris でサポートされなくなりました。拡張された機能が、Solaris に含まれる UFS ロギング (LUFS) により提供されます。

SBus 用シリアルパラレルコントローラ stc (7d)

SBus 用シリアルパラレルコントローラ (SPC/S) ドライバ stc(7D) は、Solaris でサポートされなくなりました。これに代わるインタフェースとして、SAI/P、HSI/P などがあります。

記憶装置インタフェース

デバイスドライバプロパティに使用される次のインタフェースは、Solaris でサポートされなくなりました。

- 高速書き込み (pln ドライバプロパティ)

- 優先予約 (pln ドライバプロパティ)

次のデバイスドライバは、Solaris でサポートされなくなりました。

- /kernel/drv/pln
- /kernel/drv/pln.conf
- /kernel/drv/sparcv9/pln
- /kernel/drv/soc
- /kernel/drv/sparcv9/soc

次のユーティリティーは、Solaris でサポートされなくなりました。

- /usr/sbin/ssaadm

sun4m ハードウェア

sun4m アーキテクチャーベースの次のサーバーは、この Solaris リリースではサポートされなくなりました。

- SPARCstation® 4
- SPARCstation 5
- SPARCstation 10
- SPARCstation 20
- SPARCstation LX
- SPARCstation LX+
- SPARCclassic
- SPARCclassic X
- SPARCengine™ EC 3

sun4m アーキテクチャーに依存するハードウェアオプションは、このリリースには含まれなくなりました。

SunFDDI ドライバと SunHSI/S ドライバ

FDDI/S、FDDI/P、および SunHSI/S™ の各ドライバは、Solaris でサポートされなくなりました。

Sun Java System Application Server Platform Edition 7.0 (旧 Sun ONE Application Server 7.0 Platform Edition)

Sun Java System Application Server Platform Edition 7.0 は、Solaris OS でサポートされなくなりました。Solaris 10 のリリース以降、このバージョンは、Sun Java System Application Server Platform Edition 8.0 で置き換えられています。

Sun StorEdge A1000、Sun StorEdge A3000、Sun StorEdge A3500、および Sun StorEdge A3500FC システム

次の記憶装置向けのソフトウェアサポートは、Solaris で提供されなくなりました。

- Sun StorEdge A1000 システム
- Sun StorEdge A3000 システム
- Sun StorEdge A3500 システム
- Sun StorEdge A3500FC システム

テープデバイス

次のテープデバイスは、Solaris でサポートされなくなりました。

- Sun StorEdge DLT4700 テープオートローダ
- Sun StorEdge L140 テープライブラリ
- Sun StorEdge L280 テープオートローダ
- Sun StorEdge L400 テープライブラリ
- Sun StorEdge L1800 テープライブラリ
- Sun StorEdge L3500 テープライブラリ
- Sun StorEdge L11000 テープライブラリ

トークンリングネットワークドライバ

SBus トークンリングおよび PCI バストークンリングのネットワークドライバは、このリリースではサポートされなくなりました。

SPARC: 32 ビット Sun4U カーネル

32 ビット SPARC カーネルは、Solaris OS でサポートされなくなりました。既存の 32 ビットアプリケーションは影響を受けません。

この変更の影響として、200 MHz 以下のクロック周波数の UltraSPARC I プロセッサを搭載した Sun4U システムはサポートされなくなりました。

システムのカーネルタイプを識別するには、isainfo コマンドを使用します。

```
% isainfo -kv
```

システムのプロセッサクロックレートを識別するには、psrinfo コマンドを使用します。

```
% psrinfo -v | grep MHz
```

詳細は、`isainfo(1)` および `psrinfo(1M)` のマニュアルページを参照してください。

Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカード

Ultra AX および SPARCengine Ultra AXmp グラフィックスカードは、このリリースではサポートされなくなりました。

32-bit: X11 静的ライブラリ

`/usr/openwin/lib` にある 32 ビット版の静的ライブラリは、この Solaris リリースではサポートされなくなりました。これらのライブラリに静的にリンクしているプログラムは、このリリースではサポートされません。64 ビット版の静的ライブラリは、これまで提供されたことはありません。

`/usr/openwin/lib` にある静的ライブラリを使用して以前のリリースで構築された既存のアプリケーションは、このリリースや将来のリリースで動作しない可能性があります。Solaris ABI (Application Binary Interface) を提供する共有ライブラリと動的にリンクするアプリケーションだけが、将来のリリースと互換性を持つように設計されています。

xutops プリントフィルタ

xutops プリントフィルタは、このリリースではサポートされなくなりました。Solaris の `mp(1)` プリントフィルタで同様の機能が提供されています。

将来のリリースで提供されなくなる予定の製品

ここでは、Solaris オペレーティングシステムの将来のリリースに適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

アジアの短縮 `dtlogin` 名

次にリストするアジアの短縮ローケル名は、将来のリリースでは `dtlogin` 言語リストに含まれない可能性があります。

- zh

- ko
- zh_TW

Solaris 8 リリース以降、下記を含む新しい ISO 標準ロケール名を提供しています。

- zh_CN.EUC
- zh_CN.GBK
- zh_CN.UTF-8
- ko_KR.EUC
- ko_KR.UTF-8
- zh_TW.EUC

監査デーモンインタフェース

Solaris 監査デーモンが使用する次のインタフェースは、将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

- auditsvc(2)
- audit_data(4)

Cfront 実行時サポートライブラリ

libC.so.3 ライブラリは、Cfront C++ コンパイラ C++ 3.0 でコンパイルされたプログラムのための実行時サポートライブラリです。コンパイラ自体もコンパイラで作成されたプログラムも、Solaris 10 OS では動作しません。このライブラリは、Solaris の将来のリリースでサポートされなくなる可能性があります。

Configuration Assistant (構成用補助) の fp プラグインハードウェアオプション

構成管理者の (cfgadm) の fp プラグインの次のオプションは、将来の Solaris リリースではサポートされない可能性があります。

- show_FCP_dev
- unusable_FCP_dev

基本セキュリティーモジュールのデバイス割り当てインタフェース

基本セキュリティーモジュールのデバイス割り当てメカニズムに含まれる次のコンポーネントは、Solaris ソフトウェアの将来のリリースには含まれない可能性があります。

- `mkdevalloc(1M)`
- `mkdevmaps(1M)`
- `/etc/security/dev`

旧式となるデバイスドライバインタフェース (DDI)

将来のリリースでは、一部のデバイスドライバインタフェース (Device Driver Interface、DDI) がサポートされなくなります。

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定の DDI インタフェースと、代わりに推奨される DDI インタフェースを示します。

旧式となるインタフェース	好ましいインタフェース
<code>mmap</code>	<code>devmap</code>
<code>identify</code>	<code>nulldev</code> に設定
<code>copyin</code>	<code>ddi_copyin</code>
<code>copyout</code>	<code>ddi_copyout</code>
<code>ddi_dma_addr_setup</code>	<code>ddi_dma_addr_bind_handle</code>
<code>ddi_dma_buf_setup(9F)</code>	<code>ddi_dma_buf_bind_handle</code>
<code>ddi_dma_curwin</code>	<code>ddi_dma_getwin</code>
<code>ddi_dma_free</code>	<code>ddi_dma_free_handle</code>
<code>ddi_dma_htoc</code>	<code>ddi_dma_addr[buf]_bind-handle</code>
<code>ddi_dma_movwin</code>	<code>ddi_dma_getwin</code>
<code>ddi_dma_nextseg</code>	<code>ddi_dma_nextcookie</code>
<code>ddi_dma_nextwin</code>	<code>ddi_dma_nextcookie</code>
<code>ddi_dma_segtocookie</code>	<code>ddi_dma_nextcookie</code>
<code>ddi_dma_setup</code>	<code>ddi_dma_*_handle</code>
<code>ddi_dmae_getlim</code>	<code>ddi_dmae_getattr</code>
<code>ddi_getlongprop</code>	<code>ddi_prop_lookup</code>
<code>ddi_getlongprop_buf</code>	<code>ddi_prop_lookup</code>
<code>ddi_getprop</code>	<code>ddi_prop_get_in</code>
<code>ddi_getproplen</code>	<code>ddi_prop_lookup</code>
<code>ddi_iopb_alloc</code>	<code>ddi_dma_mem_alloc</code>

旧式となるインタフェース	好ましいインタフェース
ddi_iopb_free	ddi_dma_mem_free
ddi_mem_alloc	ddi_dma_mem_alloc
ddi_mem_free	ddi_dma_mem_free
ddi_map_regs	ddi_regs_map_setup
ddi_prop_create	ddi_prop_update
ddi_prop_modify	ddi_prop_update
ddi_segmap	devmap を参照
ddi_segmap_setup	devmap_setup
ddi_unmap_regs	ddi_regs_map_free
free_pktiopb	scsi_free_consistent_buf
get_pktiopb	scsi_alloc_consistent_buf
makecom_g0	scsi_setup_cdb
makecom_g0_s	scsi_setup_cdb
makecom_g1	scsi_setup_cdb
makecom_g5	scsi_setup_cdb
scsi_dmafree	scsi_destroy_pkt
scsi_dmaget	scsi_init_pkt
scsi_pktalloc	scsi_init_pkt
scsi_pktfree	scsi_destroy_pkt
scsi_resalloc	scsi_init_pkt
scsi_resfree	scsi_destroy_pkt
scsi_slave	scsi_probe
scsi_unslave	scsi_unprobe
ddi_peek{c,s,l,d}	ddi_peek{8,16,32,64}
ddi_poke{c,s,l,d}	ddi_poke{8,16,32,64}
in{b,w,l}	ddi_get{8,16,32}
out{b,w,l}	ddi_put{8,16,32}
repins{b,w,l}	ddi_rep_get{8,16,32}
repouts{b,w,l}	ddi_rep_put{8,16,32}

power.conf の Device Management エントリ

power.conf ファイルの Device Management エントリは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 10 ソフトウェアでは、Automatic Device Power Management エントリによって同様の機能が得られます。

詳細は、power.conf (4) のマニュアルページを参照してください。

デバイスとドライバソフトウェアのサポート

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定のデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 5-1 デバイスとドライバソフトウェア

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
AMI MegaRAID host bus adapter, first generation	mega	SCSI RAID
Compaq 53C8x5 PCI SCSI および Compaq 53C876 PCI SCSI	cpqncr	SCSI HBA
Compaq SMART-2/P Array Controller および Compaq SMART-2SL Array Controller	smartii	SCSI RAID コントローラ

FMLI (Form and Menu Language Interpreter)

FMLI (Form and Menu Language Interpreter) コマンドは旧式のため、将来の Solaris リリースではサポートされない可能性があります。次のコマンドは旧式です。

- /usr/bin/fmli
- /usr/bin/vsig

/etc/net/ti* のホストファイル

/etc/net/ti* にあるホストファイルは、Solaris ソフトウェアに残ってはいますが、Solaris オペレーティングシステムで参照されなくなりました。Solaris の将来のリリースでは、これらのホストファイルはすべて削除される可能性があります。

Java 2 Platform, Standard Edition 1.4

Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE Platform) 1.4 は、将来の Solaris リリースには含まれない可能性があります。Solaris 10 OS のデフォルトの Java バージョンは J2SE 5.0 ソフトウェアですが、J2SE 1.4 テクノロジと互換性があり、J2SE 1.4 の代わりに利用できます。

krb5.conf の Kerberos Ticket Lifetime パラメータ

Kerberos Ticket Lifetime パラメータ `max_life` および `max_renewable_life` は、Solaris の将来のリリースで提供されなくなる可能性があります。これらのパラメータは、`/etc/krb5/krb5.conf` ファイルの `appdefaults` セクションにあります。これらのパラメータの代わりに、`/etc/krb5/krb5.conf` の `libdefaults` セクションにある `max_lifetime` および `renew_lifetime` を使用してください。

Korean CID フォント

Korean CID フォントは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris ソフトウェアには、Korean CID フォントに代わるものとして Korean TrueType フォントが組み込まれているので、そちらを使用してください。

UTF-8 でないレガシー (従来の) ロケール

Sun では、文字エンコーディングに Unicode の採用を進めています。これにともない、`zh_CN.GB18030` ロケールおよび C ロケールを除き、UTF-8 でないロケールは、Solaris の将来のリリースで Java Desktop System のログインロケールとしては削除される可能性があります。

CPU パフォーマンスカウンタライブラリ (libcpc) の関数

ハードウェアパフォーマンスカウンタを使用すると、CPU 動作に関連するさまざまなハードウェアイベントを測定できます。CPU パフォーマンスカウンタライブラリ (`libcpc`) に含まれている次の関数は、Solaris OS の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

<code>cpc_access</code>	<code>cpc_bind_event</code>
<code>cpc_count_sys_events</code>	<code>cpc_count_usr_events</code>
<code>cpc_event_accum</code>	<code>cpc_event_diff</code>
<code>cpc_eventtostr</code>	<code>cpc_getcciname</code>
<code>cpc_getcpuref</code>	<code>cpc_getcpuver</code>
<code>cpc_getnpic</code>	<code>cpc_getusage</code>

cpc_pctx_bind_event	cpc_pctx_invalidate
cpc_pctx_rele	cpc_pctx_take_sample
cpc_rele	cpc_seterrfn
cpc_shared_bind_event	cpc_shared_close
cpc_shared_open	cpc_shared_rele
cpc_shared_take_sample	cpc_strtoevent
cpc_take_sample	cpc_version
cpc_walk_names	

Solaris 10 OS では、このライブラリに新しい関数が追加されています。上のリストに示したインタフェースをコードで使用している場合は、対応する次の新しい関数を代わりに使用してください。

cpc_open	cpc_close
cpc_set_create	cpc_set_destroy
cpc_set_add_request	cpc_set_request_preset
cpc_buf_create	cpc_buf_destroy
cpc_bind_curlwp	cpc_bind_pctx
cpc_bind_cpu	cpc_unbind
cpc_set_sample	cpc_buf_sub
cpc_buf_add	cpc_buf_copy
cpc_buf_zero	cpc_buf_get
cpc_buf_set	cpc_buf_hrttime
cpc_buf_tick	cpc_walk_requests
cpc_walk_events_all	cpc_walk_events_pic
cpc_walk_attrs	cpc_enable
cpc_disable	cpc_caps
cpc_npics	cpc_cpuref
cpc_cciname	cpc_seterrhdlr

詳細は、cpc (3CPC) のマニュアルページを参照してください。

libXinput ライブラリ

libXinput.so.0 ライブラリは、Solaris ソフトウェアの将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。libXinput.so.0 ライブラリは、Solaris 2.1 および Solaris 2.2 の標準 (草案) X 入力 API を使用して構築された X11R4 アプリケーションとの下位互換性を目的として提供されています。X11 標準 X 入力拡張ライブラリである libXi は、Solaris 2.3 に統合されました。

libXinput API に依存するすべてのアプリケーションは、将来の互換性および標準適合のために、libXi 共有ライブラリを使用して構築すべきです。

NIS+ (ネットワーク情報サービスプラス) のネームサービスの種類

NIS+ は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 ソフトウェアには、NIS+ から LDAP への移行ツールが用意されています。詳細は、<http://www.sun.com/directory/nisplus/transition.html> を参照してください。

nstest テストプログラム

nstest は、DNS クエリーの構築と送信を行うための対話式 DNS テストプログラムです。このプログラムは、Solaris OS の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。dig コマンドと nslookup コマンドを使用することにより、このテストプログラムと同じ機能が得られます。

Perl バージョン 5.6.1

Perl バージョン 5.6.1 は、Solaris OS の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 10 OS でのデフォルトバージョンは Perl バージョン 5.8.4 で、これは Perl バージョン 5.6.1 とバイナリ互換ではありません。ただし、この Solaris リリースには以前のバージョンも残っています。サイトで独自にインストールしたカスタムモジュールは、Perl バージョン 5.8.4 を使用して再構築および再インストールする必要があります。スクリプトでバージョン 5.6.1 を使用する必要がある場合は、スクリプトを変更して、バージョン 5.8.4 ではなくバージョン 5.6.1 のインタプリタを使用するよう指定してください。Perl の各バージョンに対応するインタプリタは、それぞれ次のディレクトリに置かれています。

Perl 5.6.1 /usr/perl5/5.6.1/bin/perl

Perl 5.8.4 /bin/perl, /usr/bin/perl, または /usr/perl5/bin/perl

Solaris Management Console のパッチツール (パッチマネージャー)

Solaris Management Console のパッチツールであるパッチマネージャーは、将来のリリースでは提供されない可能性があります。

Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

スタンドアロンのルーター検出

IPv4 ICMP ルーター発見プロトコルの `/usr/sbin/in.rdisc` 実装は、Solaris ソフトウェアの将来のリリースではサポートされなくなる可能性があります。このプロトコルとほぼ同等のバージョンが、`/usr/sbin/in.routed` のコンポーネントとして実装されており、拡張された管理インタフェースをサポートしています。
`/usr/sbin/in.routed` コンポーネントは、RIP (経路制御情報プロトコル、Routing Information Protocol) バージョン 2 の実装をサポートします。
`/usr/sbin/in.routed` コンポーネントには、モバイル IP 通知をルーター発見メッセージと区別する機能もあります。

Sun Fire Link インタフェース

Sun Fire Link インタフェースは、将来の Solaris リリースではサポートされなくなる可能性があります。

Sun Java Desktop System アプリケーション

Java Desktop System, Release 3 の次のアプリケーションは、将来のリリースから削除される可能性があります。

- Sun Java Calendar Preview
- GNOME Keyboard Layout Switcher
- JDS Diagram Editor
- JDS Java Text Editor
- JDS Java Dictionary
- JDS Disk Analyzer
- JDS Image Organizer

■ JDS Mr. Project

トークンリングおよび FDDI デバイスタイプ

トークンリング (DL_TPR) および FDDI (光ファイバ分散データインタフェース、Fiber Distributed Data Interface) のデバイスタイプは、汎用 LAN ドライバ (GLD) でサポートされていますが、Solaris の将来のリリースではこのサポートが中止される可能性があります。GLD でのサポートが中止されたあと、このサポートに依存しているトークンリングドライバや FDDI ドライバは動作しなくなります。ただし、このサポートを使用しないドライバやアプリケーションは、影響を受けません。ドライバが GLD に依存しているかどうかを調べるには、次のスクリプトを実行します。

```
#!/bin/sh
#
# Test a driver binary for use of GLD
#
for file
do
    /usr/ccs/bin/nm $file | /bin/awk '
    /\|gld_register$/      { isgld=1; }
    END {
        if (isgld)
            print file, "uses GLD";
        else
            print file, "does not use GLD";
    }' file=$file
done
```

汎用 LAN ドライバの詳細については、gld(7D) のマニュアルページおよび『Writing Device Drivers』を参照してください。

WBEM ベースの動的再構成

WDR (Web-Based Enterprise Management Dynamic Reconfiguration) と呼ばれる機能は、Solaris の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。現在、WDR は Sun Fire ミッドレンジシステムおよびハイエンドシステムでサポートされています。

XIL インタフェース

XIL™ インタフェースは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: XIL OBSOLESCENCE
This application uses the Solaris XIL interface
which has been declared obsolete and may not be
present in version of Solaris beyond Solaris 9.
Please notify your application supplier.
The message can be suppressed by setting the environment variable
"_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG".
```

xetops ユーティリティー

xetops ユーティリティーは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。xetops ユーティリティーは、アジア言語のテキストファイルを PostScript ファイルに変換します。この変換により、アジア文字をその組み込みフォントを持たない PostScript プリンタでも印刷できるようになります。

同様の機能は、mp コマンドで提供されています。ネイティブなアジア言語のすべてのエンコーディングについて、オプションおよび機能が追加され、サポートが拡張されています。

x86: Xsun DDX のモジュール、ライブラリ、および関連ファイル

Xsun の一部の DDX モジュールは、将来の Solaris リリースから削除される可能性があります。これらのモジュールは、「XF86」という接頭辞が付いていないエントリを選択して、kdmconfig の「Video Device Selection」画面で Xsun X サーバーを構成するときに使用されます。この削除通知には、次のファイルが関係します。

- /usr/openwin/server/modules ディレクトリのファイルのうち、ファイル名に ddxSUNWxf86 接頭辞が付いていないもの
- /usr/openwin/server/lib/libaccel.so.1 ライブラリ
- /usr/openwin/share/etc/devdata/SUNWaccel/boards ディレクトリのファイルのうち、.xga 接尾辞が付いているもの

優先度の高い X サーバーには、DDX モジュールが Xsun X サーバーと互換性を持つ、Xorg X サーバーを使用することをお勧めします。ただし、Xsun X サーバーを使用する場合でも、XFree86 DDX モジュールを使用できます。これらのモジュールは、接頭辞が ddxSUNWxf86 で、kdmconfig の「Video Device Selection」画面には「XF86」で始まるエントリとして表示されます。これらのモジュールは、削除される可能性がある Xsun DDX モジュールに相当する機能を提供します。

第 6 章

マニュアルに関する情報

この章では、ドキュメントについて知られている問題を説明します。

Software Supplement CD に収録されていたマニュアル

Solaris 10 オペレーティングシステム以降、Supplement CD はなくなります。これまで Supplement CD に収録されていたマニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照できるようになりました。この CD に収録されていたその他のコンテンツは、Solaris キットまたは Sun Microsystems の Web サイトにあります。

『Solaris のシステム管理 (基本編)』

ここでは、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の特定の章に関する訂正について説明します。

注 – Solaris 10 1/06 リリースから、この節は Solaris のマニュアルに適用されなくなります。

ディスクレスクライアントの管理 (手順)

「ディスクレスクライアントの追加方法」の手順 4 で、ディスクレスクライアントが追加されたかどうかを確認するためのコマンドは、正しくは次のとおりです。

4. ディスクレスクライアントがインストールされたことを確認します。

```
# /usr/sadm/bin/smdiskless list -H host-name:898 --
```

『Solaris 10 インストールの手引き』と Solaris 10 インストールガイド

注 - Solaris 10 1/06 リリースから、この節は Solaris のマニュアルに適用されなくなります。

『Solaris 10 インストールの手引き』と Solaris 10 インストールガイドで、Solaris 10 リリースでは Sun Java Enterprise System がデフォルトでインストールされると記述されていますが、これは誤りです。Solaris 10 OS とともに Sun Java Enterprise System をインストールするには、カスタムインストールを実行する必要があります。

次の各マニュアルで、Solaris 10 のインストール時に Sun Java Enterprise System がデフォルトでインストールされると記述されていますが、これは誤りです。

『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』

- CD または DVD メディアによる Solaris インストールの計画 (手順) - インストール用のチェックリスト
- Solaris インストールプログラムによるインストール (作業)
 - SPARC の手順 9: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法
 - x86 の手順 17: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』

- Solaris のインストールおよびアップグレード (ロードマップ) - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード
- インストールやアップグレードの前に収集すべき情報 (計画)
 - インストール用のチェックリスト

- アップグレード用のチェックリスト

『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』

- Solaris のインストールおよびアップグレード (ロードマップ) - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード
- インストールやアップグレードの前に収集すべき情報 (計画) - アップグレード用のチェックリスト

『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart / 上級編)』

「Solaris のインストールおよびアップグレード (ロードマップ) - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード」を参照してください。

『Solaris 10 インストールの手引き』

「Solaris 10 OS のインストール」を参照してください。

Solaris 10 のマニュアルとマニュアルページ

S2io 社は、社名を Neterion に変更しました。Solaris 10 のマニュアルおよびマニュアルページで S2io に関する記述は、すべて Neterion と読み替えてください。

付録 A

Solaris 10 オペレーティングシステム で統合されたバグの表

この付録の表は、リリースノートに記載されているバグのうち、Solaris 10 OS で解決されたバグの一覧です。Solaris 10 OS に適用されなくなったバグについては、使用しているリリースに対応する表を参照してください。

注 – これらの表にあるのは、解決されたバグの一部分です。オペレーティングシステムのその他の解決済みバグのうち、以前のリリースノートに記載されていないものについては、これらの表からは除外されています。完全な一覧については、『Solaris 10 オペレーティングシステムのパッチについて』を参照してください。このパッチ一覧には、現在のリリースに適用されている特定のパッチによって修正されているバグを記載しています。これまでのリリースノートに記載されていないバグも含まれています。

解決済みの統合されたバグ

表 A-1 Solaris 10 1/06 ソフトウェアで解決されたバグ

CR 番号	タイトル
6222925	Solaris Live Upgrade を使用して Solaris フラッシュアーカイブを空のブート環境にインストールするとインストールが失敗する
6221374	svccfg import サブコマンドで依存サービスが更新されない
6219932	一部のロケールで X キーボード拡張を使用するときに Compose キーシーケンスが機能しないことがある
6219176	新しくインストールされたパッケージに patchadd でパッチを再適用できない

表 A-1 Solaris 10 1/06 ソフトウェアで解決されたバグ (続き)

CR 番号	タイトル
6218158	Solaris 10 OS のインストール後に Java エラーメッセージが表示される
6216195	大域ゾーンのパッチ適用後に作成された非大域ゾーンにリモートログインサービスでアクセスできない
6215847	Solaris フラッシュアーカイブのインストール時に Solaris 10 インストールディスクが排出される
6215739	主インタフェースでないインタフェースを構成し DHCP を有効にすると、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する
6209619	USB 2.0 ハブを USB 1.x デバイスとともに使用すると、システムパニックが発生することがある
6208656	Solaris GUI インストールプログラムが Solaris フラッシュアーカイブのインストールで失敗する場合があります
6204987	特定のマザーボードで EHCI ドライバが使用できない
6203680	FireWire (IEEE 1394) ストレージデバイスによってシステムパニックが発生することがある
6200924	再生または録音操作時に USB オーディオデバイスを一時停止すると、システムのデッドロックが発生することがある
6189823	localeadm -l を実行してもインストールされた韓国語ロケールパッケージが表示されない
6173972	Num Lock キーをオンにした状態ではキーボードの一部のキーが機能しない
5090222	SPARC: リビジョン ID が 32 未満の GigaSwift Fast と Gigabit Ethernet デバイスによってシステムパニックが発生することがある
5087588	インストールログが不完全または不正確なことがある
5062026	SPARC: 保存停止・復元再開サイクル中にパニックが発生すると、システムがハングアップすることがある
5062018	保存停止・復元再開サイクル中にカーネルデバッグがアクティブになっているシステムがパニックになることがある
5042573	共通デスクトップ環境のログインサービスにおいて、いくつかの UTF-8 ロケールが利用できない
5042195	fdisk コマンドまたは format コマンドでディスクの一部分しか使用できない
4992478	マウントポイントのアクセス権が作成したブート環境に保存されない
4915974	Solaris Live Upgrade を使用してアップグレードを行うと、Solstice DiskSuite の構成が Solaris ボリュームマネージャー形式に変換されない
4720192、 6215918	インストール後、/dev および /devices/pseudo のアクセス権が不適切に設定される

表 A-1 Solaris 10 1/06 ソフトウェアで解決されたバグ (続き)

CR 番号	タイトル
4640568	インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する
4506562	Solaris Bandwidth Manager が原因で DR 操作中にシステムパニックが生じる場合がある

Solaris 10 オペレーティングシステム のパッチについて

この付録で示すパッチは、次のいずれかの方法で、すでに Solaris 10 オペレーティングシステムに適用されています。

- SolStart

この方法で適用されたパッチは、インストールされたシステムの `/var/sadm/patch` ディレクトリにあります。

- Freshbits テクノロジ

この方法で適用されたパッチは、Solaris 10 OS が作成されたときに適用されたものです。そのため、`/var/sadm/patch` ディレクトリにはありません。

`showrev -p` コマンドを実行すると、インストールしたシステムに適用されているすべてのパッチの一覧が、その適用方法にかかわらず表示されます。Solaris 10 ソフトウェアには、既知の検査済みのパッチが含まれています。これらのパッチは Solaris 10 リリースからバックアウトすることはできません。

注 – Solaris 10 ソフトウェアには、Solaris リリースのインストールイメージに特有のタスクを実行するパッチが含まれています。これらのパッチはそれぞれの Solaris ソフトウェアリリースに固有であるため、Solaris ソフトウェアのほかのシステム、またはほかのリリースには適用されません。これらのパッチを Solaris オペレーティングシステムのほかのシステムにダウンロードまたはインストールしようとしてはけません。

SPARC パッチの一覧

- 117170-01 – SunOS 5.10:async.h patch

6229676

- 117447-01 – SunOS 5.10:/usr/sbin/ntpdate patch

6237001

■ 117461-08 – SunOS 5.10:ld Patch

4638717 5080443 6208532 6209350 6212797 6215444 6219132 6219317 6219538 6219651 6222525
6226206 6226484 6228472 6228709 6233613 6233624 6234710 6235000 6235044 6236594 6236942
6237078 6237197 6237411 6241995 6244897 6246138 6251722 6251798 6254364 6257177 6258834
6260361 6260780 6261803 6261990 6262789 6266261 6267352 6268693 6272563 6273855 6273864
6273875 6276905 6280467 6283601 6284941 6290157 6291547 6295971 6299525 6301218 6309061
6310736 6311865 6314115 6314743 6318306 6318401 6324019 6324589 6329796 6332983

■ 117463-02 – SunOS 5.10:passwdutil Patch

5007891 5096736

■ 117465-02 – SunOS 5.10:fwtmp Patch

6180974

■ 118346-01 – SunOS 5.10:libnsl Patch

5106725

■ 118348-01 – SunOS 5.10:fcode Patch

6177369

■ 118367-02 – SunOS 5.10:csch Patch

6209912 6282038

■ 118370-04 – SunOS 5.10:ibmf Patch

6196844 6196850 6196861 6201142 6207840 6207842 6210668 6213486 6219178 6220069 6220217
6256813 6262297 6262304 6262347 6293434

■ 118371-06 – SunOS 5.10:elfsign Patch

4987141 5019131 5057756 6196062 6214106 6214824 6216464 6218014 6218030 6220136 6221396
6222046 6222935 6238177 6238962 6239551 6258976 6259973 6265403 6268124 6283570 6301500
6317027

■ 118373-01 – SunOS 5.10:mpstat Patch

6223353

■ 118375-06 – SunOS 5.10:nfs Patch

5105010 6210936 6212406 6214604 6216134 6217001 6219142 6237355 6237357 6240160 6240342
6243444 6245953 6247143 6248250 6251754 6257150 6266836 6328296

■ 118557-01 – SunOS 5.10:patch platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/su

6222697

■ 118560-01 – SunOS 5.10:patch usr/bin/telnet

6234932

■ 118564-02 – SunOS 5.10:patch /usr/lib/libproc.so.1

6237196

■ 118566-01 – SunOS 5.10:patch usr/sbin/ping

6222209

■ 118666-05 – J2SE 5.0 update 6 patch

4263904	4976239	4986256	5043245	5047307	5053844	5062222	5068014	5073778	5083062	5092063
5101898	5104215	6173783	6174229	6177732	6182812	6195469	6197534	6197726	6204620	6206166
6206441	6206933	6208022	6215625	6231602	6232820	6232954	6233622	6237688	6239400	6240876
6241823	6248507	6251458	6253848	6254441	6256473	6257260	6258466	6260834	6262235	6262572
6263272	6264252	6267224	6267930	6269555	6271298	6281384	6282084	6282891	6283270	6283361
6285301	6286011	6286189	6287191	6287601	6291034	6294558	6295680	6296125	6296410	6298940
6301771	6302769	6302904	6304225	6304650	6305546	6305653	6307455	6310737	6310858	6311255
6313317	6315358	6317122	6317178	6317278	6322521	6322568	6325315	6325748	5060628	6201802
6259137	6305157	6311051	6322301	6325504	6329042	6331269	6332350	6337834	6338436	6338891
6340079	6340202	6342738	6343024	6287164	6343111	6344735	6346725	6347132	6348045	4521075
4855860	4868278	4896773	5039416	5045217	5070081	5077603	5086160	5086424	5089317	5109224
6180936	6183734	6186280	6190413	6192376	6207824	6209695	6212440	6214543	6217210	6223265
6224811	6226827	6229389	6231029	6232485	6233005	6235633	6240755	6245809	6250214	6250749
6251460	6255285	6255949	6257124	6257182	6258006	6259991	6263814	6264872	6268365	6269854
6272715	6274390	6278597	6279126	6283161	6286864	6296218	6306172	4207472	4305459	4881314
4964339	4975824	5003235	5044738	5053272	5055567	5067517	5074396	5076514	5077866	5078280
5079751	5083441	5087208	5088035	5092850	5095117	5097015	5097241	5101391	5102490	5109602
6174596	6176318	6176814	6178395	6186747	6191542	6192422	6194668	6195301	6196089	6198522
6200138	6203233	6203483	6204669	6205422	6210088	6211480	6213128	6214132	6218454	6218682
6218987	6220064	6222034	6223691	6224591	6225440	6225605	6226269	6227033	6227583	6228585
6231186	6231936	6232039	6232513	6232607	6233169	6234804	6237349	6237552	6237654	6240586
6241743	6243108	6243400	6244063	6250286	6250517	6252770	6254466	6255782	6256476	6256477
6256728	6258508	6258681	6259113	6261269	6261304	6261558	6261980	6263857	6268145	6268876
6273094	6273975	6277246	6277266	6277315	6277659	6278491	4388541	4684153	4845692	4911491
4915324	4974531	4980122	4987923	5003402	5023243	5037521	5038903	5051880	5054010	5058132
5058463	5062118	5064088	5070730	5073407	5074530	5074836	5079429	5079729	5079742	5084004
5084812	5086089	5087395	5087826	5088701	5088703	5089312	5089429	5090555	5090643	5091805
5092058	5094112	5094138	5094505	5097131	5097939	5099360	5102082	5103449	5104239	5105410
5105917	5105918	5106044	5107852	5108694	5110117	6175601	6177059	6178366	6179014	6179233
6182630	6183297	6184225	6184713	6184715	6184718	6185342	6185483	6186650	6188839	6188959
6188963	6189072	6189657	6189687	6190277	6190713	6190873	6190987	6191064	6192124	6192223
6192448	6192845	6192907	6192944	6193821	6194024	6194838	6195181	6195632	6195718	6197664
6198632	6199000	6199899	6200343	6200960	6201185	6201302	6201464	6201644	6201884	6201952
6202061	6203504	6205320	6205321	6205414	6205494	6206764	6207138	6207322	6209613	6210721
6211220	6212165	6214159	6214166	6214369	6214784	6215407	6216277	6219639	6220829	6221563
6222071	6222449	6224433	6224438	6225348	6233287	6219668	4548788	4656461	4897333	4924758
4949631	4984794	4994329	5017051	5023873	5024379	5056403	5075526	5075546	5080386	5082319
5089985	5092094	5100483	5101128	5104960	5105765	6173972	6180194	6181598	6181784	6182685
6189106	6189594	6195099	6206216	6206839	6207079	6207830	6208366	6208545	6208676	6208712
6208965	6209095	6209342	6209737	6210227	6213461	6213473	6215109	6215480	6215746	6218309
6219491	6219495	6221549	6222350	6224405	6226589	6227551	6227874	6228205	6229377	6229965
6231054	6231145	6231216	6232417	6232636	6233573	6234174	6234219	6234909	6237671	6238128
6247771	6250165	6250473	6261499	6261509	6261510					

■ 118667-05 – J2SE 5.0 update 6 patch, 64bit

4263904	4976239	4986256	5043245	5047307	5053844	5062222	5068014	5073778	5083062	5092063
5101898	5104215	6173783	6174229	6177732	6182812	6195469	6197534	6197726	6204620	6206166
6206441	6206933	6208022	6215625	6231602	6232820	6232954	6233622	6237688	6239400	6240876
6241823	6248507	6251458	6253848	6254441	6256473	6257260	6258466	6260834	6262235	6262572
6263272	6264252	6267224	6267930	6269555	6271298	6281384	6282084	6282891	6283270	6283361
6285301	6286011	6286189	6287191	6287601	6291034	6294558	6295680	6296125	6296410	6298940
6301771	6302769	6302904	6304225	6304650	6305546	6305653	6307455	6310737	6310858	6311255
6313317	6315358	6317122	6317178	6317278	6322521	6322568	6325315	6325748	5060628	6201802
6259137	6305157	6311051	6322301	6325504	6329042	6331269	6332350	6337834	6338436	6338891
6340079	6340202	6342738	6343024	6287164	6343111	6344735	6346725	6347132	6348045	4521075

4855860 4868278 4896773 5039416 5045217 5070081 5077603 5086160 5086424 5089317 5109224
6180936 6183734 6186280 6190413 6192376 6207824 6209695 6212440 6214543 6217210 6223265
6224811 6226827 6229389 6231029 6232485 6233005 6235633 6240755 6245809 6250214 6250749
6251460 6255285 6255949 6257124 6257182 6258006 6259991 6263814 6264872 6268365 6269854
6272715 6274390 6278597 6279126 6283161 6286864 6296218 6306172 4207472 4305459 4881314
4964339 4975824 5003235 5044738 5053272 5055567 5067517 5074396 5076514 5077866 5078280
5079751 5083441 5087208 5088035 5092850 5095117 5097015 5097241 5101391 5102490 5109602
6174596 6176318 6176814 6178395 6186747 6191542 6192422 6194668 6195301 6196089 6198522
6200138 6203233 6203483 6204669 6205422 6210088 6211480 6213128 6214132 6218454 6218682
6218987 6220064 6222034 6223691 6224591 6225440 6225605 6226269 6227033 6227583 6228585
6231186 6231936 6232039 6232513 6232607 6233169 6234804 6237349 6237552 6237654 6240586
6241743 6243108 6243400 6244063 6250286 6250517 6252770 6254466 6255782 6256476 6256477
6256728 6258508 6258681 6259113 6261269 6261304 6261558 6261980 6263857 6268145 6268876
6273094 6273975 6277246 6277266 6277315 6277659 6278491 4548788 4656461 4897333 4924758
4949631 4984794 4994329 5017051 5023873 5024379 5056403 5075526 5075546 5080386 5082319
5089985 5092094 5100483 5101128 5104960 5105765 6173972 6180194 6181598 6181784 6182685
6189106 6189594 6195099 6206216 6206839 6207079 6207830 6208366 6208545 6208676 6208712
6208965 6209095 6209342 6209737 6210227 6213461 6213473 6215109 6215480 6215746 6218309
6219491 6219495 6221549 6222350 6224405 6226589 6227551 6227874 6228205 6229377 6229965
6231054 6231145 6231216 6232417 6232636 6233573 6234174 6234219 6234909 6237671 6238128
6247771 6250165 6250473 6261499 6261509 6261510 4388541 4684153 4845692 4911491 4915324
4974531 4980122 4987923 5003402 5023243 5037521 5038903 5051880 5054010 5058132 5058463
5062118 5064088 5070730 5073407 5074530 5074836 5079429 5079729 5079742 5084004 5084812
5086089 5087395 5087826 5088701 5088703 5089312 5089429 5090555 5090643 5091805 5092058
5094112 5094138 5094505 5097131 5097939 5099360 5102082 5103449 5104239 5105410 5105917
5105918 5106044 5107852 5108694 5110117 6175601 6177059 6178366 6179014 6179233 6182630
6183297 6184225 6184713 6184715 6184718 6185342 6185483 6186650 6188839 6188959 6188963
6189072 6189657 6189687 6190277 6190713 6190873 6190987 6191064 6192124 6192223 6192448
6192845 6192907 6192944 6193821 6194024 6194838 6195181 6195632 6195718 6197664 6198632
6199000 6199899 6200343 6200960 6201185 6201302 6201464 6201644 6201884 6201952 6202061
6203504 6205320 6205321 6205414 6205494 6206764 6207138 6207322 6209613 6210721 6211220
6212165 6214159 6214166 6214369 6214784 6215407 6216277 6219639 6220829 6221563 6222071
6222449 6224433 6224438 6225348 6233287 6219668

■ 118676-01 – SunOS 5.10:patch for Solaris make and sccs utilities

6208430

■ 118683-01 – SunOS 5.10:Patch for assembler

5069118 5071178 5079903 5093350 5090509 6192963 6236017 6253736

■ 118706-01 – SunOS 5.10:Creator and Creator3D:FFB Graphics Patch

6240103

■ 118707-04 – SunOS 5.10:Expert3D IFB Graphics Patch

6239859 6278448 6297322 6266390 6319759

■ 118708-10 – SunOS 5.10:Sun XVR-1200 and Sun XVR-600 Graphics Accelerator Patch

6210235 6202655 6205888 6250233 6244529 6248620 6278448 6293254 6297322 6266390 6260241
6319362

■ 118711-02 – SunOS 5.10:M64 Graphics Patch

4950414 6269998

■ 118712-08 – SunOS 5.10:Sun XVR-100 Graphics Accelerator Patch

5098578 6182271 6214907 6260233 6282798 6282999 6302266 6307293 6345888 6350133

- 118731-01 – SunOS 5.10:/usr/sbin/zonecfg patch

6229724

- 118733-01 – SunOS 5.10:snmpdx patch

6227115 6228341

- 118735-01 – SunOS 5.10:patch usr/sbin/rpc.nisd_resolv

6220055

- 118777-03 – SunOS 5.10:Sun GigaSwift Ethernet 1.0 driver patch

6266985 6255365 6277650 6273441 6223263 6238254 6261657 6251174 6279238 6266901 6218302
6280692 6304571 6216131 6255394

- 118812-01 – SunOS 5.10:patch
platform/SUNW,Netra-T12/kernel/drv/sparcv9/ntwdt

6226428 6228652 6228655 6230025

- 118814-01 – SunOS 5.10:patch platform/sun4u/kernel/tod/sparcv9/todsg

6226428 6228652 6228655 6230025

- 118815-01 – SunOS 5.10:/usr/xpg4/bin/awk patch

6195584

- 118822-25 – SunOS 5.10:kernel Patch

4117562 4256818 4387797 4471706 4486878 4636944 4638717 4712059 4745648 4763363 4782952
4818196 4818484 4849565 4853554 4872386 4892666 4913952 4923208 4927518 4954646 4954703
4972826 4995852 5005976 5007714 5007726 5013200 5017095 5029967 5039369 5041567 5062645
5067964 5070446 5073604 5076027 5076357 5076976 5081575 5085886 5087929 5090037 5090773
5091442 5095432 5102062 5106644 5106803 5108067 5108961 5110153 6175438 6178746 6179167
6180137 6182677 6183621 6184323 6187076 6189856 6190561 6194576 6198405 6198521 6198766
6198890 6198953 6199444 6200160 6200295 6200924 6200969 6201257 6202564 6203955 6204983
6204987 6205337 6206217 6207772 6207963 6208532 6208798 6209399 6209411 6209588 6209619
6210697 6210881 6210936 6211936 6212248 6212406 6212756 6213074 6213184 6213277 6213962
6214180 6214472 6214604 6214615 6215546 6216056 6216134 6216447 6217370 6217624 6217821
6218194 6218854 6219127 6219132 6219142 6219195 6219317 6219672 6220234 6220843 6221058
6221094 6221490 6221495 6221496 6221498 6222174 6222228 6222466 6222535 6223059 6223379
6223603 6223915 6224061 6224745 6224788 6224822 6224934 6225650 6226023 6226263 6226302
6226320 6226332 6226345 6226441 6226484 6226862 6226920 6226968 6227041 6227872 6228044
6228498 6228709 6229159 6229172 6229575 6230117 6230146 6230156 6230249 6230315 6230528
6230552 6230925 6230951 6230979 6230995 6231030 6231203 6231205 6231207 6231502 6231804
6231964 6232748 6232852 6232864 6233073 6233184 6233388 6233613 6233615 6233624 6233919
6234004 6234033 6234037 6234063 6234072 6234449 6234710 6235003 6235044 6235086 6235348
6235959 6236000 6236038 6236072 6236182 6236382 6236617 6236726 6236942 6237078 6237197
6237355 6237357 6237411 6237666 6237779 6237793 6237799 6237823 6238277 6238322 6238533
6238601 6238679 6238686 6239011 6239254 6239626 6239708 6239801 6240160 6240367 6240456
6240490 6241299 6241305 6241739 6241837 6242365 6242764 6242831 6243241 6243341 6243444
6243456 6243651 6243897 6244310 6244315 6244317 6244320 6244431 6244519 6245378 6245953
6246138 6246787 6246875 6247143 6247399 6247821 6248393 6248527 6248555 6248591 6248910
6249127 6249712 6250374 6250382 6250386 6250493 6250931 6251092 6251611 6251625 6251659
6251754 6251862 6252083 6252176 6252398 6252403 6252407 6252411 6252856 6253027 6253028
6253030 6253031 6253033 6253548 6253744 6253747 6253788 6253955 6254258 6254303 6254433
6254741 6254783 6254835 6254960 6255351 6255668 6255689 6255906 6256111 6256152 6256158

6256245 6256312 6256357 6257150 6258024 6258433 6258528 6258738 6259168 6259227 6259768
6260517 6260524 6261173 6261284 6262302 6262887 6263250 6263338 6263907 6263927 6264443
6264469 6264473 6264487 6265027 6265068 6265086 6265087 6265088 6265090 6265094 6265183
6265652 6266922 6267670 6267671 6267680 6267682 6267693 6267695 6267718 6267731 6267759
6267902 6268152 6268387 6269064 6269246 6269285 6269465 6269633 6270528 6271650 6271688
6271759 6272550 6272652 6272865 6272867 6273098 6273261 6273474 6274126 6274840 6274965
6274969 6275414 6276242 6277084 6277108 6277224 6277304 6278450 6279331 6279506 6279569
6279871 6279932 6280390 6281150 6281281 6281300 6282037 6282121 6282291 6282386 6282867
6282875 6282885 6283314 6283565 6283577 6284597 6285253 6285447 6286341 6287398 6287550
6287954 6288246 6288365 6288882 6289017 6289141 6290459 6290673 6291662 6291720 6291876
6291901 6292054 6294490 6294867 6294902 6296526 6296594 6297432 6298780 6298786 6298895
6298989 6299091 6300289 6300406 6300734 6300960 6301419 6302130 6302322 6302652 6302751
6302807 6303053 6303188 6303210 6303260 6303405 6303424 6303530 6303569 6304200 6304378
6304654 6304736 6304858 6305393 6305938 6306072 6307395 6308352 6309270 6310724 6311048
6311869 6312753 6312960 6313025 6313259 6313403 6313410 6313488 6313788 6313837 6313842
6314321 6314417 6317091 6317693 6319100 6320968 6321578 6321768 6322165 6322179 6322231
6322663 6324573 6324927 6327017 6327762 6328296 6328310 6328906 6329593 6330256 6331250
6332594 6333456 6333712 6333857 6334302 6335629 6336748 6336768 6337355 6338258 6340768
6342112 6342422 6343544 6344065 6344138 6344639 6348423 6351843

■ 118824-01 – SunOS 5.10:patch usr/bin/sparcv9/sort

6178339

■ 118830-01 – SunOS 5.10:hme patch

5005976 5076750 6235003 6240490

■ 118842-01 – SunOS 5.10:dada patch

5005976 6235003 6240490

■ 118852-01 – SunOS 5.10:patch kernel/misc/sparcv9/ibcm

6203517 6231461 6236513

■ 118868-01 – SunOS 5.10:ttymon patch

6237359

■ 118870-01 – SunOS 5.10:nss_ldap patch

6230927

■ 118872-02 – SunOS 5.10:ksh patch

6208198 6261715

■ 118874-02 – SunOS 5.10:pcfs patch

4898397 5047630 6180557 6216134

■ 118879-01 – SunOS 5.10:dhcp daemon patch

4932150

■ 118884-01 – SunOS 5.10:atomic.h patch

4954703

■ 118890-01 – SunOS 5.10:llib-lc patch

4954703

■ 118918-09 – SunOS 5.10:Solaris Crypto Framework patch

4691624 4926742 6195934 6197268 6197284 6199119 6204887 6215509 6215816 6217866 6220814
6222467 6223863 6223866 6223869 6228384 6231739 6231978 6249979 6250963 6252894 6262344
6264379 6274680 6276609 6280574

■ **118925-01 – SunOS 5.10:unistd header file patch**

6214687 6214698 6215000 6239984 6245233

■ **118927-02 – SunOS 5.10:header file patch**

6230117 6258024 6279871

■ **118929-03 – SunOS 5.10:config files patch**

6233613 6237411 6302802 6302827

■ **118945-01 – SunOS 5.10:Sun Gigabit Ethernet 3.0 driver patch**

6238162 5019183 6240487

■ **118959-02 – SunOS 5.10:patch usr/bin/lastcomm and usr/bin/acctcom**

5040580 6200474 6227221

■ **118981-01 – SunOS 5.10:Sun Quad FastEthernet qfe driver**

6267267 6268767 6238254 6293226

■ **118996-03 – SunOS 5.10:format patch**

4934259 4968226 5090022 6194723 6265652

■ **119012-03 – SunOS 5.10:crypto Patch**

5072858 5100567 6195428 6200215 6211857 6222467 6250168

■ **119042-05 – SunOS 5.10:patch usr/sbin/svccfg**

6217410 6221374 6222202 6231947 6251841 6351779 6355665

■ **119059-09 – X11 6.6.2:Xsun patch**

6219932 6219947 5016163 6224159 6276115 6212502 6228875 6219170 6248445 6265634 4751462
6226733 6248453 6247062 6248417 6216985 6269938 6226717 6265045 6280222 6297797 6278131
6279680 6270914 6316436 6227843

■ **119063-01 – SunOS 5.10:libXpm patch**

6231515 6241936

■ **119065-01 – SunOS 5.10:fc-cache patch**

6205323

■ **119070-04 – SunOS 5.10:Netra-CP2300 Patch**

6197206 6213630 6233445

■ **119073-03 – SunOS 5.10:ldapclient patch**

6217454 6228760

■ **119077-10 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For EDITABLE Files**

4691624 6194576 6199119 6215509 6226428 6228652 6228655 6230025 6231964 6233613 6238277
6241837 6249025 6302802 6299091 6280390 6282121 6254960 6264487 6313488

■ **119079-13 – SunOS 5.10:Script Patch**

6210697 6223059 6226968 6233613 6238277 6242365 6243456 6256312 6273106 6302827 6324123
6326533 6231947 6251841 6222202 6217410 6344138

■ **119081-10 – SunOS 5.10:CD-ROM Install Boot Image Patch**

4393815 4692667 4713660 4716085 4719125 4789211 4947796 5009917 5047412 6178185 6198783
6215847 6215918 6218158 6221702 6222925 6252385 6252388 6254694 6288726 6290082 6301206
6313099 6314149 6320965 6323208 6323511 6329642 6331510 6332093 6332722 6336267 6341482
6342039 6343072 6347051 6349235 6351213

■ **119088-06 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:qlc Script Patch to replace package scripts**

6210934 6236343 6292280 6292987 6303297 6320936

■ **119090-14 – SunOS 5.10:Sun iSCSI Device Driver and Utilities**

5094124 5094370 6173739 6173912 6206029 6206568 6207172 6207973 6208490 6211472 6211499
6211560 6211924 6212031 6213484 6213487 6213490 6213516 6214405 6214546 6215262 6216983
6218751 6219608 6220407 6220773 6221284 6221432 6221880 6222630 6224359 6224866 6226740
6226933 6228489 6230319 6231086 6231706 6233206 6233384 6235292 6236260 6236271 6236375
6239078 6239185 6239207 6240818 6240849 6240911 6241611 6242847 6244250 6244358 6245161
6247445 6249424 6250036 6254222 6255629 6257030 6258672 6259522 6259737 6261483 6261560
6261627 6261669 6262279 6262413 6263279 6263646 6267539 6267543 6268934 6274744 6276026
6278190 6280621 6282646 6282686 6284875 6285462 6287318 6288103 6293219 6296381 6296407
6296971 6297371 6297390 6298546 6300099 6300259 6303184 6304963 6306146 6314187 6343904

■ **119092-04 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:iSCSI Script Patch to replace package scripts**

5094124 6207973 6213487 6239078

■ **119115-14 – Mozilla 1.7 patch**

6177442 6221725 6211632 6192644 6200999 6200994 5077554 6200990 6202289 6224482 6225441
6228782 6216830 6224900 6234566 6245856 6247811 6247837 6247838 6247849 6248466 6248468
6248516 6248547 6248557 6248594 6248613 6249777 6249778 6255667 6248548 6249776 6259266
6259860 6259866 6259873 6259902 6260571 6260573 6269887 6261013 6281357 6271958 5015369
6251128 6267169 6281360 6282170 6282190 6284465 6287117 6258444 6297209 6297215 6297218
6297219 6297231 6191277 6200696 6200705 6282893 6297174 6297242 6317624 6318009 6334587
6334619 6339970

■ **119117-10 – Evolution 1.4.6 patch**

6204976 6201742 6218068 6182553 6206223 6216041 6231010 6222258 6251188 6262120 6272983
6259214 6249871 6253417 6279337 6297294 6299994 6303111 6182358 6198500 6206245 6221676
6300019 5099374 5106735 6306915 6226019 6312129 6321792 6323770

■ **119130-14 – SunOS 5.10:Sun Fibre Channel Device Drivers**

4368092 4792071 4961555 4976582 4998402 5091773 6205269 6207101 6207184 6207845 6210934
6214931 6215726 6216326 6216743 6221242 6225769 6227340 6227562 6233352 6233800 6235327
6235886 6238787 6250038 6254848 6258722 6260549 6261607 6270092 6276354 6279071 6279108
6283597 6286318 6288500 6288908 6290618 6292280 6292446 6292987 6295169 6296383 6298259
6298288 6311175 6311314 6313089 6316063 6317420 6319731 6320936 6325525 6326293 6328827
6343904

■ **119143-02 – SunOS 5.10:patch lib/libinetutil.so.1**

6220609

■ **119201-08 – SunOS 5.10:OS Localization message patch**

6232516 6218356 6210085 6209742 6237404 6255735 6278006 6270754 6284429 6305523 6309435
6336898

■ 119246-09 – SunOS 5.10:Manual Page updates for Solaris 10

4754411 6211237 6226954 6231497 6232483 6237082 6259813 6290845 6294809 6294811 6294812
6296740 6297786 6301361 6306533 6308447 6309398 6319339 6324864 6328540 6328541 6329060
6330016 6330062 6330188 6330671 6331047 6331055 6331331 6331841 6332029 6332677 6337869
6338057 6339627 6204577 6221309 6241099 6242990 6248877 6255008 6258334 6258339 6286409
6288555 6309363 6313868 6317846 6318461 6320393 6321596 6322368 6322669 6322739 6322863
6323460 6323484 6324148 6324248 6324420 6324858 6325356 5032018 5044715 6213568 6219083
6227560 6227561 6239801 6240066 6266903 6270406 6284937 6291991 6293104 6298241 6300498
6300514 6301501 6302861 6303663 6304180 6305130 6305702 6305923 6306228 6306246 6306391
6306499 6309411 6310305 6312151 6316296 2123343 2123344 2125584 5107445 6176645 6192812
6218160 6219867 6229028 6231508 6236743 6239205 6247514 6248484 6249686 6249689 6249985
6259275 6275178 6280439 6281184 6289748 6289985 6291968 6292324 6293276 6293905 6293994
6295135 6295164 6295455 6295501 6295606 6295883 6295885 6295972 6298238 6299871 6301701
6302598 6175259 6186292 6213557 6219322 6244794 6247949 6256977 6259276 6267730 6268875
6274065 6275116 6275182 6275486 6276860 6277917 6278481 6279864 6279996 6178430 6199201
6215789 6227520 6242411 6242412 6245230 6247046 6248312 6249005 6249691 6259032 6259382
6260165 6261039 6261047 6262466 6263124 6266052 6266054 6266570 6267911 6270039 6270071
6271056 6274141 2123236 5087622 6190827 6196727 6209285 6218778 6222501 6225497 6235402
6241181 6247652 6251475 6252447 6253481 6256136 5090875 6207391 6212233 6217156 6217716
6222749 6227376 6242519 6242876 6243333 6244894 6245209 6245842 6246422 6247757 6250396
6250515 2122825 2122940 5008956 5038387 5043371 5046429 5069521 5095891 5096574 5104556
5108949 6182303 6193595 6194741 6195276 6195547 6198061 6200093 6201988 6202122 6205275
6208084 6209281 6210273 6211790 6211903 6212029 6212232 6212654 6212836 6213475 6213502
6213507 6213536 6214276 6214973 6215139 6215474 6215475 6216789 6216851 6217406 6218320
6218842 6218986 6219657 6219660 6219661 6219671 6220014 6220161 6220729 6220859 6221541
6221589 6221625 6221733 6221891 6222153 6222369 6222447 6222663 6222727 6223264 6223570
6224890 6225126 6225266 6225304 6225337 6225421 6225486 6225503 6225575 6225624 6225693
6229095 6229654 6229957 6230305 6230958 6231259 6231325 6231382 6231455 6231505 6231794
6232091 6233524 6233764 6233884 6233891 6233909 6234453 6235323 6236959 6236965 6237101
6237254 6237389 6237405 6237708 6237832 6237835 6238687 6240599 6240819 6241622 6243286

■ 119252-08 – SunOS 5.10:System Administration Applications Patch

4692667 4921333 4952774 5009917 5101364 6198291 6211620 6221551 6252385 6252388 6265069
6298572 6311509

■ 119254-14 – SunOS 5.10:Install and Patch Utilities Patch

4908553 5045607 6210622 6216195 6216798 6216809 6217206 6219176 6220578 6221954 6224740
6224767 6226770 6226930 6231818 6233011 6233738 6236231 6236796 6236855 6236866 6239875
6240894 6241431 6241944 6242607 6243480 6244125 6245446 6245715 6248984 6251452 6252385
6252388 6256515 6262677 6263190 6265069 6271791 6274438 6275530 6275557 6276148 6278325
6279485 6284610 6288746 6290368 6290429 6290432 6292233 6292269 6292275 6296187 6304222
6306319 6307548 6309013 6313848 6315157 6315316 6318864 6319430 6319570 6323208 6328091
6331277 6334066 6337009 6337644 6340114 6342245 6344531 6344916 6345121 6348813 6349319
6351408 6351428 6352966 6354346 6355320 6355604

■ 119262-02 – SunOS 5.10:Patch for Central European Region locale issues

6222362 2123566 6255292

■ 119276-03 – SunOS 5.10:Patch for Northern Europe Region locale issues

2123566 6255292 6276095

■ 119278-03 – CDE 1.6:dtlogin patch

5046689 6209544 6247943 6211096 6267572

- **119280-02 – CDE 1.6:Runtime library patch for Solaris 10**

6209386 6255303 4750419

- **119282-01 – CDE1.6:GNOME/CDE Menu for Solaris 10**

6224922

- **119284-01 – CDE 1.6:sdtwsinfo patch**

6215091

- **119286-01 – CDE 1.6:dtterm libDtTerm patch**

6219941

- **119309-03 – SunOS 5.10:PGX32 Graphics**

6231238 6222319 6218355 6256782

- **119313-05 – SunOS 5.10:WBEM Patch**

4872697 5006767 6183058 6212927 6235892 6252385 6252388 6255908 6265069

- **119315-03 – SunOS 5.10:Solaris Management Applications Patch**

4418366 4770830 5080683 5092418 6192017 6196606

- **119317-01 – SunOS 5.10:SVr4 Packaging Commands (usr) Patch**

6202830

- **119366-05 – GNOME 2.6.0:Display Manager Patch**

5054339 6197950 6230090 6230098 6203727 5032088 6232578 6214222 6248517 6277164

- **119368-03 – GNOME 2.6.0:Printing Technology Patch**

5083233 6200941 6263422

- **119370-09 – GNOME 2.6.0:GNOME panel and support libraries Patch**

6205402 6253594 6214486 6200000 6208184 6218072 6222326 6303664 6303219 6312879 6225051
6324700

- **119372-02 – GNOME 2.6.0:GNOME common development tools and libraries Patch**

6230101 6200654

- **119374-09 – SunOS 5.10:sd and sdd patch**

4471706 5023670 5042195 5067964 5090022 6226862 6230146 6234227 6237149 6237585 6245378
6249580 6253744 6256272 6256312 6268697 6271814 6273374 6292076 6334799

- **119397-02 – SunOS 5.10:Patch for North America Region locale issues**

2123566 6255292

- **119399-02 – SunOS 5.10:Patch for Central American Region locale issues**

2123562 6255292

- **119401-02 – SunOS 5.10:Patch for Western Europe Region locale issues**

2123566 6255292

- **119404-02 – SunOS 5.10:Patch for South American Region locale issues**
2123562 6255292
- **119407-02 – SunOS 5.10:Patch for Eastern Europe Region locale issues**
2123563 2123564 6255292
- **119410-03 – GNOME 2.6.0:Gnome Applets Patch**
6205402 6245563 6207273
- **119412-08 – GNOME 2.6.0:Nautilus libraries Patch**
5011528 6218831 6202416 4899270 6255964 6234837 6200485 6234894 6200326 6238031 6251220
6262830 6261299 6312879 6312736
- **119414-05 – GNOME 2.6.0:Gnome Accessibility Libraries Patch**
6192805 6205225 6182499 6182502 6217152 6192693 6205004 6216843 6226723 6228329 6260441
6283137 6315241 4768049 6340516
- **119416-01 – GNOME 2.6.0:Gnome Text-To-Speech Engine Patch**
6216843 6226723 6228329
- **119418-02 – GNOME 2.6.0:Gnome On-screen Keyboard Patch**
5109895 6200712 6211656 6223576
- **119420-01 – SunOS 5.10:Thai locale patch**
6235012
- **119470-06 – SunOS 5.10:Sun Enterprise Network Array firmware and utilities**
5046910 5076769 6201060 6204512 6234959 6235886 6247521 6250956 6250957 6274205 6285969
- **119534-05 – SunOS 5.10:Flash Archive Patch**
4947796 4956004 5031468 5081174 6216373 6225430 6256048 6267370 6301206 6306712
- **119538-03 – GNOME 2.6.0:Window Manager Patch**
6200511 6182510 6227065
- **119540-04 – GNOME 2.6.0:Gnome Dtlogin configuration Patch**
6197950 6248517 6214486 6206909
- **119542-06 – GNOME 2.6.0:Gnome desktop preference configuration Patch**
6239595 6244269 6214486 6195818 6217648 6271501 6317578
- **119544-03 – GNOME 2.6.0:Gnome streaming media framework Patch**
6226060 6227666 6226597
- **119546-04 – APOC 1.1:APOC Configuration Agent Patch**
6241546 6257229 6258281 6278047 6293945 6313943
- **119548-03 – GNOME 2.6.0:Gnome Multi-protocol instant messaging client Patch**
6217610 4990149 6268932 6269430
- **119555-03 – SunOS 5.10:Software to support QLogic Ultra3 SCSI host bus adapters**

4895884 6219159 6220200 6343904

■ **119557-07 – SunOS 5.10:tavor patch**

4880976 6196844 6196850 6196861 6199406 6200071 6201142 6207840 6207842 6210668 6213418
6223563 6223569 6223572 6223580 6223583 6226445 6234486 6234506 6239625 6239671 6250345
6266388 6326533 6349440

■ **119560-02 – SunOS 5.10:netra-210 Patch**

6197861 6204621 6207276 6218503 6239064 6242869 6243046 6248724

■ **119561-03 – SunOS 5.10:sun4v picl patch**

6236870 6237411 6270085 6298924 6310408

■ **119568-02 – SunOS 5.10:sgsbcc Patch**

4818196 5090037 6231030

■ **119569-02 – SunOS 5.10:pppd patch**

6233613 6237411 6257917

■ **119570-01 – SunOS 5.10:lw8 Patch**

5090037

■ **119572-01 – SunOS 5.10:scosmb Patch**

5090037

■ **119573-01 – SunOS 5.10:cachebsd patch**

6233613 6237411

■ **119574-02 – SunOS 5.10:su patch**

6213281 6219721 6219774 6243480

■ **119578-10 – SunOS 5.10:FMA Patch**

4818484 5062645 5087929 5090037 6198521 6202564 6213277 6216754 6218246 6218463 6223348
6224293 6225875 6240456 6244989 6249531 6253955 6254303 6256371 6273144 6276462 6278378
6279063 6317871 6320584 6321736 6322749 6323532 6324536 6325530 6326958 6328921 6337809

■ **119580-02 – SunOS 5.10:libcpc Patch**

5062645 5087929 6202564 6264753

■ **119582-01 – SunOS 5.10:libprtdiag Patch**

5062645 5087929 6202564

■ **119583-01 – SunOS 5.10:memory classification header file patch**

4818484 6198521 6253955

■ **119586-02 – SunOS 5.10:pcbe Patch**

5062645 5087929 6202564 6259341

■ **119593-01 – SunOS 5.10:net-svc patch**

6196716

■ **119596-01 – SunOS 5.10:hsfs patch**

6216134

■ **119598-04 – GNOME 2.6.0:Gnome Screen Reader and Magnifier Patch**

6205770 6191352 6207171 5083128 6205765 6202337 6200573 6186020 5095976 6315934 6202897
6193299 6239339 6240135

■ **119601-03 – SunOS 5.10:Patch for European Region JDS messages**

6250683 6296998 6274401 6186577 6263015 6176784 6180730 4929548 4957762 6308186 6336423

■ **119603-03 – S10:Patch for Asian Region JDS messages**

6250683 6263015 6176784 4932571 6308186 4957762 6294274 6297892 6312176 6336423

■ **119605-03 – SunOS 5.10:Patch for Japanese JDS messages**

6250683 6263015 6176784 6308186 6336423

■ **119648-01 – SunOS 5.10:vlan driver patch**

5097913 6216827

■ **119681-05 – SunOS 5.10:patch platform/sun4u/wanboot**

6228203 6233613 6237411 6251093 6276060 6281038

■ **119685-04 – SunOS 5.10:svc.startd patch**

6222477 6223908 6225601 6231291 6248163 6262086

■ **119687-02 – SunOS 5.10:in.mpathd patch**

4691277 6229034

■ **119689-06 – SunOS 5.10:libc.so.1 patch**

4932869 4954703 5042855 6174574 6198351 6214687 6214698 6214721 6214834 6215000 6221845
6224730 6225876 6225908 6231288 6234594 6238996 6239984 6245233 6256317 6263065 6263070
6266969 6269525 6270398 6288420 6288430 6288435 6288440 6288448

■ **119703-02 – S10:Patch for localeadm issues**

6293965 6192791 6286551 6189823 6252055

■ **119712-02 – SunOS 5.10:usr/sbin/in.routed Patch**

5096257 6227282 6231263 6302789

■ **119715-09 – SunOS 5.10:patch kernel/drv/sparcv9/scsi_vhci**

4845958 6202573 6203547 6219672 6219812 6221306 6227074 6230133 6230552 6232301 6238276
6252555 6254876 6271314 6271323 6279001 6287422 6342630 6350416 6354461

■ **119721-02 – SunOS 5.10:usr/lib/efcode/sparcv9/interpreter patch**

6251093 6281038

■ **119728-02 – SunOS 5.10:FJSV,GPUU platform fmd.conf patch**

6249544 6265507

■ **119757-01 – SunOS 5.10:Samba patch**

5080288 5100732 6179361 6217228 6218964 6248115 6248953

■ **119764-02 – SunOS 5.10:ipmitool patch**

6209442 6266203 6266225

■ **119766-02 – SunOS 5.10 :SunFreeware man pages patch**

6209442 6266203 6266225

- 119771-01 – SunOS 5.10:Asian CCK locales patch

6246438

- 119783-01 – SunOS 5.10 :bind patch

6192028 6226796

- 119797-04 – SunOS 5.10:CDE Localization message patch

6259957 6299116 6279262 6309630

- 119810-01 – SunOS 5.10:International Components for Unicode Patch

4785261 6217550

- 119812-01 – X11 6.6.2:Freetype patch

6229445

- 119814-04 – SunOS 5.10:OS Japanese manpages patch

6262660 6261964 6317482

- 119824-01 – SunOS 5.10:prstat patch

6216522

- 119826-01 – SunOS 5.10:libadm.so.1 patch

6197410

- 119828-04 – SunOS 5.10:nfssrv Patch

5083133 6218082 6228017 6232586 6257280

- 119844-01 – SunOS 5.10:Patch for Southern Europe Region locale issues

6255292

- 119845-01 – SunOS 5.10:Patch for Australasia Region locale issues

6255292

- 119850-08 – SunOS 5.10:mpt patch

6225262 6226426 6234363 6236253 6237411 6238679 6238686 6240956 6252787 6256312 6269064
6280459 6318183

- 119852-02 – SunOS 5.10:unix branding patch

6226920 6236514 6236985

- 119876-04 – SunOS 5.10:FJSV,GPUU platform links patch

6265507 6285132 6343503 6348606

- 119890-03 – GNOME 2.6.0:search tool Patch

6253916 5072526 6234957

- 119892-01 – GNOME 2.6.0:gimp Patch

6209566

- 119900-01 – GNOME 2.6.0:Gnome libtiff - library for reading and writing TIFF Patch

6203747

- 119903-01 – OpenWindows 3.7.3:Xview Patch

4459703

- 119906-03 – Gnome 2.6.0:Virtual File System Framework patch

5068327 6199955 6200485 6205707 6243455 6234855 6262830

- 119908-02 – Gnome 2.6.0:session manager patch

6193275 6202413

- 119955-02 – CDE 1.6:Tooltalk Runtime patch for Solaris 10

6206423 6235250

- 119963-04 – SunOS 5.10:Shared library patch for C++

6242459 6244128 6244223 6253345 6300352 6283644 6244286 6274396 6304703 6326163 6339010

- 119974-02 – SunOS 5.10:fp plug-in for cfgadm

6223856 6259488

- 119981-06 – SunOS 5.10:libc_psr patch

5067964 6226862 6230146 6245378 6253744 6256312 6274184 6307457 6322258 6323531 6324149
6330111 6333857

- 119982-03 – SunOS 5.10:ufsboot patch

6228203 6233613 6237411 6276060

- 119984-01 – SunOS 5.10:devsadm patch

6237411 6245559

- 119985-01 – SunOS 5.10:perl patch

6233613 6237411

- 119986-01 – SunOS 5.10:clri patch

4913439

- 119988-01 – SunOS 5.10:sed patch

4865669

- 119992-01 – SunOS 5.10:ses device patch

6227029

- 119994-01 – SunOS 5.10:libdevinfo patch

6253561 6257772

- 119996-01 – SunOS 5.10:libsec patch

6270748

- 120009-01 – SunOS 5.10:rmformat patch

5096891 6205014 6255670

- 120013-02 – SunOS 5.10:ip header patch

6230528 6237779

- 6279317
 - 120030-01 – SunOS 5.10:mountd patch
- 6205056
 - 120032-01 – SunOS 5.10:libresolv.so patch
- 6250256
 - 120034-01 – SunOS 5.10:mntfs patch
- 4626861 6226776 6232564 6232579 6274517 6276525
 - 120036-02 – SunOS 5.10:libldap patch
- 6257191
 - 120038-01 – SunOS 5.10:sadc patch
- 6248421
 - 120044-01 – SunOS 5.10:psrset patch
- 6243099 6268829 6276074
 - 120046-01 – SunOS 5.10:nfsmapid patch
- 6219389 6313929
 - 120048-02 – SunOS 5.10:FSS patch
- 6211845
 - 120050-01 – SunOS 5.10:usermod patch
- 6281689
 - 120052-01 – SunOS 5.10:pam unix cred library patch
- 6249526
 - 120056-01 – SunOS 5.10:hpc3130 patch
- 6258111
 - 120061-01 – SunOS 5.10:glm Patch
- 6274427 6287593
 - 120062-01 – SunOS 5.10:localedef Patch
- 6266832
 - 120064-01 – SunOS 5.10:stdio_iso.h Patch
- 6246102
 - 120068-01 – SunOS 5.10:in.telnetd Patch
- 6214946
 - 120083-01 – SunOS 5.10:arp patch
- 6239487
 - 120085-01 – SunOS 5.10:in.ftpd patch
- 120094-04 – X11 6.6.2:xscreensaver patch

6237901 6267306 6228023 6203951

- 120099-03 – APOC 1.1:Sun Java(tm) Desktop System Configuration Shared Libraries

6265312 6278049 6293945

- 120101-01 – SunOS 5.10:libsmedia patch

6240296

- 120128-02 – SunOS 5.10:xargs patch

6203159 6323628

- 120133-03 – GNOME 2.6.0:Gnome themes Patch

6214486 6255199 6298139

- 120135-03 – GNOME 2.6.0:Gnome Libraries Patch

6214486 6237403 6250742 6267922

- 120182-01 – SunOS 5.10:Sun Fibre Channel Host Bus Adapter Library

6210435

- 120195-01 – SunOS 5.10:schpc sc_gptwocfg gptwo_pci patch

5076027

- 120196-02 – SunOS 5.10:patch libprtdiag_psr.so.1

5076027 6286335

- 120198-04 – SunOS 5.10:patch libpiclfrutree.so.1

5076027 6243897 6274493 6280933 6286335 6295752

- 120199-03 – SunOS 5.10:sysidtool Patch

4716085 6194680 6220706 6268847

- 120201-01 – X11 6.8.0:Xorg client libraries patch

6248315

- 120222-05 – SunOS 5.10:Emulex-Sun LightPulse Fibre Channel Adapter driver

6248456 6248899 6252273 6252308 6252633 6252767 6264417 6273321 6273949 6275529 6276730
6277406 6281068 6281270 6281938 6284688 6286283 6286352 6290648 6291133 6296689 6300078
6314407 6329384 6329972 6331152 6336547 6343904

- 120224-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:Emulex-Sun Fibre Channel Adapter driver

6267262

- 120235-01 – SunOS 5.10:Live Upgrade Zones Support Patch

6275557

- 120251-02 – SunOS 5.10:st & mt patch

6224221 6225780 6232414 6252197 6260355

- 120272-01 – SunOS 5.10:SMA patch

6191915 6243363 6243366 6244918 6247942

- 6191915
 - 120274-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For postinstall File
- 5053909 6210011
 - 120282-01 – GNOME 2.6.0:Gnome CD Player Utility Patch
- 6235648 6238754 6295858
 - 120284-02 – GNOME 2.6.0:GNOME CORBA ORB and component framework
- 4937266
 - 120286-01 – GNOME 2.6.0:Gnome text editor Patch
- 6241338 6242857 6303664
 - 120288-02 – GNOME 2.6.0:Gnome terminal Patch
- 6258187
 - 120292-01 – SunOS 5.10 :mysql patch
- 6258187
 - 120294-01 – SunOS 5.10 :mysql man patch
- 6178746
 - 120311-02 – SunOS 5.10:FRESHBIT ONLY PATCH:For deletes file
- 6245588
 - 120329-01 – SunOS 5.10:rexec patch
 - 120335-04 – SunOS 5.10:Sun Update Connection Localization, System Edition 1.0 Client
 - 120338-04 – SunOS 5.10:Asian CCK locales patch
- 6279310 6285930
 - 120339-01 – CDE 1.6:styleModern patch
- 6263134
 - 120344-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:Common Fibre Channel HBA API Library Script Patch
- 6202863 6239116
 - 120346-03 – SunOS 5.10:Common Fibre Channel HBA API Library
- 6202863 6239116 6288908 6334772
 - 120362-02 – SunOS 5.10:DDI header file patch
- 6233613 6237411 6249127 6238679 6238686
 - 120408-01 – SunOS 5.10:Korean Locales Patch
- 6267785 5024604 6285934 6263482 4916340 6299102
 - 120450-01 – SunOS 5.10:get_netmask Utility Patch
- 4218092
 - 120452-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For editable files only

5006767

- 120454-01 – GNOME 2.6.0:Gnome Apoc GConf Adapter Patch

6281517

- 120456-01 – GNOME 2.6.0:Gnome image viewer Patch

6288517

- 120458-01 – GNOME 2.6.0:Gnome configuration Patch

6293945

- 120460-05 – GNOME 2.6.0:Gnome libs Patch

6242857 5087948 5088844 6216594 6306889 6301837

- 120462-04 – SunOS 5.10:FUJITSU PCI GigabitEthernet 2.0 patch

6263610 6314180 6314192 6326340 6328936

- 120467-03 – SunOS 5.10:LP patch

4997994 5096624 6208058 6233613 6237411 6260526 6289134 6314243 6314245

- 120469-03 – SunOS 5.10:kerberos patch

6203833 6208638 6261685 6284864

- 120471-01 – SunOS 5.10:libbssm patch

6260039

- 120473-01 – SunOS 5.10:nss_compat patch

5097644

- 120543-01 – SunOS 5.10:Apache Patch

6257414

- 120560-01 – SunOS 5.10:sun4u platform links patch

6297712

- 120618-01 – SunOS 5.10:mailx patch

6233613 6237411

- 120627-01 – SunOS 5.10:nfslogd patch

6214620

- 120629-02 – SunOS 5.10:libpool patch

6232648 6234525

- 120661-04 – SunOS 5.10:rpcmod patch

5061331 6228017 6253388 6265027 6272865 6328296

- 120664-01 – SunOS 5.10:tl driver patch

4352289 6227895 6249138 6256056 6260210 6290652

- 120690-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For depend File

6299541

- 6310070
 - 120704-01 – SunOS 5.10 :smartcard man patch
- 6255091
 - 120706-01 – SunOS 5.10:XIL 1.4.2 Loadable Pipeline Libraries
- 6283819 6294656
 - 120719-01 – SunOS 5.10 :gzip patch
- 5033202 6251518 6251836 6272172
 - 120732-01 – SunOS 5.10 :libusb patch
- 6251636
 - 120737-01 – SunOS 5.10:FX patch
- 6219093 6294547
 - 120739-02 – GNOME 2.6.0:GNOME PDF Viewer based on Xpdf
- 6264443
 - 120741-01 – SunOS 5.10:seg_map header file patch
 - 120744-02 – L10n update from version 2.2 to version 2.2.4
 - 120746-01 – SunOS 5.10_sparc, SUNWswmt patch
- 6314804
 - 120753-02 – SunOS 5.10:Microtasking libraries (libmtsk) patch
- 4640927 5105585 6176541 6224639 6266200 6281454 6284576 6292619 6308531 6315352 6347707
 - 120780-01 – SunOS 5.10:ixgb patch
- 6224685 6249135 6267684 6273316 6275585 6275597 6283655 6293332 6296681 6303593
 - 120791-05 – SunOS 5.10:Sun Update Connection Localization
- 6317596 6318522 6319326 6336892 6338752
 - 120807-01 – SunOS 5.10:rpc.mdcommd patch
- 6290815
 - 120809-01 – SunOS 5.10:metaclust patch
- 6274840
 - 120811-01 – SunOS 5.10:FUJITSU PCI Fibre Channel Driver 3.0 patch
- 6320887 6320888 6320889 6320890 6320891
 - 120812-04 – OpenGL 1.5:OpenGL Patch for Solaris
- 6319713 6329031 6304867 6310706 6325241 6320884 6318796 6331251 6331516 6336456 4898884
 - 120815-01 – SunOS 5.10:dmfe patch
- 5067101
 - 120816-01 – SunOS 5.10:at and batch Patch
- 6208425

- 120824-03 – SunOS
5.10:usr/platform/SUNW,Sun-Fire-T200/lib/libprtdiag_psr.so.1 Patch
6311020 6314098 6321414
- 120825-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:FJSVpiclu depend file
6318307
- 120830-02 – SunOS 5.10:vi and ex patch
6208422 6219736 6219754
- 120837-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For DEPEND Files
6213629 6317245
- 120844-01 – SunOS 5.10:platform/sun4v/kernel/drv/sparcv9/glvc patch
6313788
- 120845-01 – SunOS 5.10:auditd patch
4875480 6261894
- 120849-02 – SunOS 5.10:Sun PCI-E Gigabit Ethernet Adapter Patch
6324137 6315924 6267523 6326244 6332746 6337912 6348971
- 120873-01 – SunOS 5.10:xscreensaver localization message patch
6203951 6316915
- 120887-01 – SunOS 5.10:cdwr patch
5097578
- 120889-01 – SunOS 5.10:librac patch
6297767
- 120900-03 – SunOS 5.10:libzonecfg Patch
6218854 6328286 6346201
- 120928-03 – SunOS 5.10:Sun XVR-2500 Graphics Accelerator Patch
6327283 6305850 6316467 6234713 6307350 6265574 6238000 6325762 6205581 6314730 6320112
6336694 6338638 6342123
- 120932-01 – Solaris 10 U1:Live Upgrade to S10U1 fails due to checkinstall script
6320417
- 120934-01 – Solaris 10 U1:Live Upgrade to S10U1 fails due to SUNWcccr
postinatall
6320433
- 120984-01 – SunOS 5.10:nss_user.so.1 Patch
6235336
- 120986-02 – SunOS 5.10:mkfs and newfs patch
4471706 6184783 6245090
- 120988-01 – SunOS 5.10:grpck Patch

6221968

- 120990-01 – SunOS 5.10:net-physical Patch

5062168

- 120992-01 – SunOS 5.10:nfs_clnt.h and nfs4_clnt.h Patch

6266836

- 120994-01 – SunOS 5.10:elf_amd64.h Patch

6236594

- 120996-01 – SunOS 5.10:cpio Patch

6268417

- 120998-02 – SunOS 5.10:

5090022 6292076

- 121002-01 – SunOS 5.10:pax patch

6300407

- 121004-01 – SunOS 5.10:sh patch

6277636

- 121006-01 – SunOS 5.10:libkadm5 and kadmind patch

6215066 6227969 6265737 6278018

- 121008-01 – SunOS 5.10:ufsrestore patch

6264883

- 121010-01 – SunOS 5.10:rpc.metad patch

6324927

- 121012-01 – SunOS 5.10:traceroute patch

6290611 6290623 6291147 6291879 6298211 6298351

- 121036-01 – Gnome 2.6.0:base libraries patch

6215709

- 121061-01 – SunOS 5.10:motd Patch

6222495

- 121095-01 – GNOME 2.6.0:GNOME EXIF tag parsing library for digital cameras

6257383

- 121097-01 – GNOME 2.6.0:GNOME library for reading and writing TIFF

6321957

- 121104-01 – Adobe Acrobat Reader patch

6300634 6333477 6338781

- 121136-01 – Adobe Acrobat Reader patch

6300634

- 121189-01 – SunOS 5.10:Sun GigaSwift Ethernet 1.0 driver patch
6304571 6216131 6255394
- 121211-01 – SunOS 5.10:Sun Java Web Console (Lockhart) Patch
6174575 6190851 6197979 6202144 6202180 6210774 6216732 6219010 6221395 6221403 6221475
6221807 6221988 6227790 6234014 6238598 6245886 6250060 6261549 6263027 6285557
- 121215-01 – SunOS 5.10:ipseconf patch
6214460
- 121229-01 – SunOS 5.10:libssl patch
6332476
- 121233-01 – SunOS 5.10:gsscred patch
5008950
- 121235-01 – SunOS 5.10:rcapd patch
6228013
- 121236-01 – SunOS 5.10:ncp patch
6338338
- 121237-01 – SunOS 5.10:zones header patch
6328286 6328296
- 121239-01 – SunOS 5.10:libgss patch
6203833
- 121242-02 – L10n update from version 2.2 to version 2.2.4
6341293
- 121265-01 – SunOS 5.10:libc_psr_hwcap1.so.1 patch
6315997
- 121306-02 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For package level scripts only
6323208 6336160
- 121308-02 – SunOS 5.10:Solaris Management Console Patch
5090761 6183058
- 121333-02 – SunOS 5.10:zoneadmd, zlogin and zoneadm patch
6328286 6329667 6346201
- 121336-01 – SunOS 5.10:FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 1.0
6342915 6342916 6342918
- 121337-01 – SunOS 5.10:tlimod patch
6328296
- 121394-01 – SunOS 5.10:aio_impl.h patch
4954646 6183621
- 121406-01 – SunOS 5.10:ikeadm patch

6268124 6283165

- 121414-01 – SunOS 5.10:ufs utilities patch

4471706

- 121428-01 – SunOS 5.10:Live Upgrade Zones Support Patch

6221561 6242607

- 121430-02 – SunOS 5.10:Live Upgrade Patch

4873203 4992478 6221561 6221609 6224940 6252385 6252388 6253700 6263351 6265069 6284550
6286969 6317386 6319706 6319769 6322850 6322867 6332091 6336160 6339728 6347732

- 121453-02 – SunOS 5.10_sparc, Sun Update Connection Client, System Edition 1.0

6322616 6348676 6325141 6325580 6325603 6324926 6325021 6319981 6324894 6316500 6288010
6288194 6288300 6289010 6293659 6297756 6298489 6299025 6300171 6300219 6300355 6300794
6302650 6303352 6303587 6304558 6304563 6304786 6306155 6260830 6315572 6314437 6314341
6316780

- 121463-01 – GNOME 2.6.0:Gnome Accessibility Libraries Patch

6347858

- 121549-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:FJSVdrdr.us r.mainfest file

6231947

- 121575-01 – SunOS 5.10:SPECIAL PATCH:For package level scripts only

6345097



x86 パッチの一覧

x86 パッチの一覧は、次のとおりです。

- 113000-06 – SunOS 5.10_x86:SUNWgrub patch

6238277 6332309 6346889 6353778

- 117181-01 – SunOS 5.10_x86:/kernel/drv/pcscsi patch

6235392

- 117435-02 – SunOS 5.10_x86:biosdev patch

6237903 6268888 6291914

- 117448-01 – SunOS 5.10_x86:patch usr/sbin/ntpdate

6237001

- 117464-01 – SunOS 5.10_x86:passwdutil Patch

5007891 5096736

- 117466-01 – SunOS 5.10_x86:fwtmp Patch

6180974

■ 118344-05 – SunOS 5.10_x86:Fault Manager Patch

6213277 6218246 6218463 6223348 6224293 6225875 6240456 6244989 6254303 6256371 6273144
6276462 6320584 6322749 6323532 6326958

■ 118347-01 – SunOS 5.10_x86:libnsl Patch

5106725

■ 118368-02 – SunOS 5.10_x86:csch Patch

6209912 6282038

■ 118372-06 – SunOS 5.10_x86:elfsign Patch

4987141 5019131 5057756 6196062 6214106 6214824 6216464 6218014 6218030 6220136 6221396
6222046 6222935 6238177 6238962 6239551 6258976 6259973 6265403 6268124 6283570 6301500
6317027

■ 118374-01 – SunOS 5.10_x86:mpstat Patch

6223353

■ 118376-06 – SunOS 5.10_x86:nfs Patch

5105010 6210936 6212406 6214604 6216134 6217001 6219142 6237355 6237357 6240160 6240342
6243444 6245953 6247143 6248250 6251754 6257150 6266836 6328296

■ 118561-01 – SunOS 5.10_x86:patch usr/bin/telnet

6234932

■ 118565-03 – SunOS 5.10_x86:/usr/lib/libproc.so.1 patch

6210936 6212406 6214604 6216134 6219142 6237196 6237355 6237357 6240160 6243444 6245953
6247143 6251754 6257150

■ 118567-01 – SunOS 5.10_x86:ping Command Patch

6222209

■ 118668-05 – J2SE 5.0_x86 update 6 patch

4263904 4976239 4986256 5043245 5047307 5053844 5062222 5068014 5073778 5083062 5092063
5101898 5104215 6173783 6174229 6177732 6182812 6195469 6197534 6197726 6204620 6206166
6206441 6206933 6208022 6215625 6231602 6232820 6232954 6233622 6237688 6239400 6240876
6241823 6248507 6251458 6253848 6254441 6256473 6257260 6258466 6260834 6262235 6262572
6263272 6264252 6267224 6267930 6269555 6271298 6281384 6282084 6282891 6283270 6283361
6285301 6286011 6286189 6287191 6287601 6291034 6294558 6295680 6296125 6296410 6298940
6301771 6302769 6302904 6304225 6304650 6305546 6305653 6307455 6310737 6310858 6311255
6313317 6315358 6317122 6317178 6317278 6322521 6322568 6325315 6325748 5060628 6201802
6259137 6305157 6311051 6322301 6325504 6329042 6331269 6332350 6337834 6338436 6338891
6340079 6340202 6342738 6343024 6287164 6343111 6344735 6346725 6347132 6348045 4521075
4855860 4868278 4896773 5039416 5045217 5070081 5077603 5086160 5086424 5089317 5109224
6180936 6183734 6186280 6190413 6192376 6207824 6209695 6212440 6214543 6217210 6223265
6224811 6226827 6229389 6231029 6232485 6233005 6235633 6240755 6245809 6250214 6250749
6251460 6255285 6255949 6257124 6257182 6258006 6259991 6263814 6264872 6268365 6269854
6272715 6274390 6278597 6279126 6283161 6286864 6296218 6306172 4207472 4305459 4881314
4964339 4975824 5003235 5044738 5053272 5055567 5067517 5074396 5076514 5077866 5078280
5079751 5083441 5087208 5088035 5092850 5095117 5097015 5097241 5101391 5102490 5109602
6174596 6176318 6176814 6178395 6186747 6191542 6192422 6194668 6195301 6196089 6198522

6200138	6203233	6203483	6204669	6205422	6210088	6211480	6213128	6214132	6218454	6218682
6218987	6220064	6222034	6223691	6224591	6225440	6225605	6226269	6227033	6227583	6228585
6231186	6231936	6232039	6232513	6232607	6233169	6234804	6237349	6237552	6237654	6240586
6241743	6243108	6243400	6244063	6250286	6250517	6252770	6254466	6255782	6256476	6256477
6256728	6258508	6258681	6259113	6261269	6261304	6261558	6261980	6263857	6268145	6268876
6273094	6273975	6277246	6277266	6277315	6277659	6278491	4548788	4656461	4897333	4924758
4949631	4984794	4994329	5017051	5023873	5024379	5056403	5075526	5075546	5080386	5082319
5089985	5092094	5100483	5101128	5104960	5105765	6173972	6180194	6181598	6181784	6182685
6189106	6189594	6195099	6206216	6206839	6207079	6207830	6208366	6208545	6208676	6208712
6208965	6209095	6209342	6209737	6210227	6213461	6213473	6215109	6215480	6215746	6218309
6219491	6219495	6221549	6222350	6224405	6226589	6227551	6227874	6228205	6229377	6229965
6231054	6231145	6231216	6232417	6232636	6233573	6234174	6234219	6234909	6237671	6238128
6247771	6250165	6250473	6261499	6261509	6261510	4388541	4684153	4845692	4911491	4915324
4974531	4980122	4987923	5003402	5023243	5037521	5038903	5051880	5054010	5058132	5058463
5062118	5064088	5070730	5073407	5074530	5074836	5079429	5079729	5079742	5084004	5084812
5086089	5087395	5087826	5088701	5088703	5089312	5089429	5090555	5090643	5091805	5092058
5094112	5094138	5094505	5097131	5097939	5099360	5102082	5103449	5104239	5105410	5105917
5105918	5106044	5107852	5108694	5110117	6175601	6177059	6178366	6179014	6179233	6182630
6183297	6184225	6184713	6184715	6184718	6185342	6185483	6186650	6188839	6188959	6188963
6189072	6189657	6189687	6190277	6190713	6190873	6190987	6191064	6192124	6192223	6192448
6192845	6192907	6192944	6193821	6194024	6194838	6195181	6195632	6195718	6197664	6198632
6199000	6199899	6200343	6200960	6201185	6201302	6201464	6201644	6201884	6201952	6202061
6203504	6205320	6205321	6205414	6205494	6206764	6207138	6207322	6209613	6210721	6211220
6212165	6214159	6214166	6214369	6214784	6215407	6216277	6219639	6220829	6221563	6222071
6222449	6224433	6224438	6225348	6233287	6219668					

■ 118669-05 – J2SE 5.0_x86 update 6 patch, 64bit

4263904	4976239	4986256	5043245	5047307	5053844	5062222	5068014	5073778	5083062	5092063
5101898	5104215	6173783	6174229	6177732	6182812	6195469	6197534	6197726	6204620	6206166
6206441	6206933	6208022	6215625	6231602	6232820	6232954	6233622	6237688	6239400	6240876
6241823	6248507	6251458	6253848	6254441	6256473	6257260	6258466	6260834	6262235	6262572
6263272	6264252	6267224	6267930	6269555	6271298	6281384	6282084	6282891	6283270	6283361
6285301	6286011	6286189	6287191	6287601	6291034	6294558	6295680	6296125	6296410	6298940
6301771	6302769	6302904	6304225	6304650	6305546	6305653	6307455	6310737	6310858	6311255
6313317	6315358	6317122	6317178	6317278	6322521	6322568	6325315	6325748	5060628	6201802
6259137	6305157	6311051	6322301	6325504	6329042	6331269	6332350	6337834	6338436	6338891
6340079	6340202	6342738	6343024	6287164	6343111	6344735	6346725	6347132	6348045	4521075
4855860	4868278	4896773	5039416	5045217	5070081	5077603	5086160	5086424	5089317	5109224
6180936	6183734	6186280	6190413	6192376	6207824	6209695	6212440	6214543	6217210	6223265
6224811	6226827	6229389	6231029	6232485	6233005	6235633	6240755	6245809	6250214	6250749
6251460	6255285	6255949	6257124	6257182	6258006	6259991	6263814	6264872	6268365	6269854
6272715	6274390	6278597	6279126	6283161	6286864	6296218	6306172	4207472	4305459	4881314
4964339	4975824	5003235	5044738	5053272	5055567	5067517	5074396	5076514	5077866	5078280
5079751	5083441	5087208	5088035	5092850	5095117	5097015	5097241	5101391	5102490	5109602
6174596	6176318	6176814	6178395	6186747	6191542	6192422	6194668	6195301	6196089	6198522
6200138	6203233	6203483	6204669	6205422	6210088	6211480	6213128	6214132	6218454	6218682
6218987	6220064	6222034	6223691	6224591	6225440	6225605	6226269	6227033	6227583	6228585
6231186	6231936	6232039	6232513	6232607	6233169	6234804	6237349	6237552	6237654	6240586
6241743	6243108	6243400	6244063	6250286	6250517	6252770	6254466	6255782	6256476	6256477
6256728	6258508	6258681	6259113	6261269	6261304	6261558	6261980	6263857	6268145	6268876
6273094	6273975	6277246	6277266	6277315	6277659	6278491	4548788	4656461	4897333	4924758
4949631	4984794	4994329	5017051	5023873	5024379	5056403	5075526	5075546	5080386	5082319
5089985	5092094	5100483	5101128	5104960	5105765	6173972	6180194	6181598	6181784	6182685
6189106	6189594	6195099	6206216	6206839	6207079	6207830	6208366	6208545	6208676	6208712
6208965	6209095	6209342	6209737	6210227	6213461	6213473	6215109	6215480	6215746	6218309

6219491 6219495 6221549 6222350 6224405 6226589 6227551 6227874 6228205 6229377 6229965
6231054 6231145 6231216 6232417 6232636 6233573 6234174 6234219 6234909 6237671 6238128
6247771 6250165 6250473 6261499 6261509 6261510 4388541 4684153 4845692 4911491 4915324
4974531 4980122 4987923 5003402 5023243 5037521 5038903 5051880 5054010 5058132 5058463
5062118 5064088 5070730 5073407 5074530 5074836 5079429 5079729 5079742 5084004 5084812
5086089 5087395 5087826 5088701 5088703 5089312 5089429 5090555 5090643 5091805 5092058
5094112 5094138 5094505 5097131 5097939 5099360 5102082 5103449 5104239 5105410 5105917
5105918 5106044 5107852 5108694 5110117 6175601 6177059 6178366 6179014 6179233 6182630
6183297 6184225 6184713 6184715 6184718 6185342 6185483 6186650 6188839 6188959 6188963
6189072 6189657 6189687 6190277 6190713 6190873 6190987 6191064 6192124 6192223 6192448
6192845 6192907 6192944 6193821 6194024 6194838 6195181 6195632 6195718 6197664 6198632
6199000 6199899 6200343 6200960 6201185 6201302 6201464 6201644 6201884 6201952 6202061
6203504 6205320 6205321 6205414 6205494 6206764 6207138 6207322 6209613 6210721 6211220
6212165 6214159 6214166 6214369 6214784 6215407 6216277 6219639 6220829 6221563 6222071
6222449 6224438 6225348 6233287 6219668

■ 118677-01 – SunOS 5.10_x86:patch for Solaris make and sccs utilities

6208430

■ 118727-04 – SunOS 5.10_x86:ibmf Patch

6196844 6196850 6196861 6201142 6207840 6207842 6210668 6213486 6219178 6220069 6220217
6256813 6262297 6262304 6262347 6293434

■ 118732-01 – SunOS 5.10_x86:/usr/sbin/zonecfg patch

6229724

■ 118734-01 – SunOS 5.10_x86:patch libssagent.so.1 and libssasmp.so.1

6227115 6228341

■ 118736-01 – SunOS 5.10_x86:/usr/sbin/rpc.nisd_resolv Patch

6220055

■ 118778-03 – SunOS 5.10_x86:Sun GigaSwift Ethernet 1.0 driver patch

6266985 6255365 6277650 6273441 6223263 6238254 6261657 6251174 6279238 6266901 6218302
6280692 6304571 6216131 6255394

■ 118813-01 – SunOS 5.10_x86:hsfs patch

6216134

■ 118816-01 – SunOS 5.10_x86:/usr/xpg4/bin/awk patch

6195584

■ 118825-01 – SunOS 5.10_x86:sort patch

6178339

■ 118844-26 – SunOS 5.10_x86:kernel Patch

4117562 4256818 4387797 4471706 4636944 4638717 4712059 4745648 4763363 4782952 4818484
4849565 4872386 4913292 4921433 4954646 4954703 4972826 4995852 5005976 5007714 5007726
5013200 5017095 5029967 5039369 5041567 5067964 5070446 5071610 5073739 5076357 5076976
5081575 5082975 5085394 5085886 5090037 5090773 5091442 5095432 5102743 5106644 5106803
5108961 5110153 6174349 6175438 6178746 6179167 6182677 6182871 6183621 6184323 6187076
6189856 6190561 6193659 6194576 6195108 6198405 6198521 6198766 6198890 6198953 6200295
6200924 6200969 6201257 6203046 6203602 6203833 6204983 6204987 6205337 6207682 6207772

6207963 6208532 6208638 6208798 6209399 6209411 6209619 6210598 6210697 6210881 6210936
6211068 6211936 6212248 6212406 6212675 6212756 6212810 6213084 6213101 6213184 6213277
6213962 6214472 6214604 6214615 6215261 6215546 6216056 6216134 6216447 6217046 6217624
6217821 6218194 6218854 6219127 6219132 6219142 6219195 6219298 6219317 6219672 6220843
6221058 6221079 6221094 6221490 6221495 6221496 6221498 6222174 6222228 6222466 6222535
6223059 6223379 6223603 6223680 6223915 6224061 6224788 6224901 6224934 6225650 6226023
6226217 6226263 6226302 6226320 6226332 6226345 6226441 6226484 6226862 6226920 6226968
6227872 6228013 6228017 6228044 6228203 6228498 6228709 6229159 6229753 6230146 6230156
6230249 6230315 6230381 6230528 6230552 6230925 6230951 6231065 6231203 6231205 6231207
6231502 6232748 6232852 6232864 6233073 6233184 6233388 6233624 6233919 6234004 6234033
6234037 6234063 6234072 6234449 6234710 6235003 6235086 6236000 6236038 6236072 6236182
6236617 6236726 6236942 6237078 6237197 6237355 6237357 6237411 6237666 6237779 6237793
6237823 6238277 6238322 6238486 6238533 6238547 6238601 6238679 6238686 6239011 6239254
6239279 6239626 6239708 6239801 6240160 6240367 6240456 6240490 6241299 6241739 6242365
6242612 6242764 6243341 6243444 6243456 6245378 6245953 6246138 6246787 6246875 6247143
6247281 6247821 6247936 6248527 6248555 6248591 6249003 6249127 6249712 6250374 6250382
6250386 6250493 6251625 6251659 6251754 6251862 6252809 6252856 6253027 6253028 6253030
6253031 6253033 6253561 6253744 6253955 6254258 6254303 6254433 6254741 6254835 6256212
6256254 6256312 6257150 6257657 6257772 6258738 6259168 6259227 6260254 6261173 6261284
6261685 6262302 6263338 6264443 6264469 6264473 6264487 6265068 6265086 6265087 6265088
6265090 6265094 6265183 6265652 6266922 6267670 6267671 6267680 6267682 6267693 6267695
6267718 6267731 6268152 6268387 6269064 6269100 6269246 6269285 6269465 6270528 6271650
6271688 6271759 6272550 6272652 6272865 6272867 6273474 6273730 6274965 6274969 6275414
6277084 6277108 6277224 6279506 6279932 6280390 6281150 6281281 6282037 6282291 6282867
6282875 6282885 6283314 6283577 6284597 6284864 6285253 6286341 6286414 6286536 6287250
6287398 6287550 6288246 6288873 6289141 6290459 6290673 6291662 6291720 6291876 6291914
6292054 6293265 6293270 6294490 6294867 6294902 6295986 6296526 6298780 6300960 6301076
6302948 6303053 6303188 6303210 6303530 6304200 6304238 6304378 6304654 6304657 6306072
6308352 6313259 6313410 6313609 6315002 6316468 6317091 6317412 6318423 6319100 6319851
6321768 6322165 6322179 6322231 6323272 6323525 6323886 6324927 6327017 6327762 6328286
6328296 6328310 6329593 6330819 6333456 6333712 6334302 6336786 6341645 6342422 6342770
6343544 6343824 6344065 6344138 6344639 6345009 6345010 6347545 6347918 6348423 6348618
6348808 6349172 6351482 6352141 6352917 6352926

■ 118853-01 – SunOS 5.10_x86:ibcm Patch

6203517 6231461 6236513

■ 118869-01 – SunOS 5.10_x86:ttymon patch

6237359

■ 118871-01 – SunOS 5.10_x86:nss_ldap patch

6230927

■ 118873-02 – SunOS 5.10_x86:ksh patch

6208198 6261715

■ 118880-01 – SunOS 5.10_x86:dhcp daemon patch

4932150

■ 118881-02 – SunOS 5.10_x86:pcfs patch

4898397 5047630 6180557 6216134

■ 118885-01 – SunOS 5.10_x86:atomic.h patch

4954703

■ 118891-01 – SunOS 5.10_x86:llib-lc patch

4954703

■ 118919-08 – SunOS 5.10_x86:Solaris Crypto Framework patch

4691624 4926742 6195934 6197268 6197284 6199119 6204887 6215509 6215816 6217866 6220814
6222467 6223863 6223866 6223869 6228384 6231739 6231978 6250963 6252894 6262344 6264379
6274680 6276609 6280574

■ 118926-01 – SunOS 5.10_x86:unistd header file patch

6214687 6214698 6215000 6239984 6245233

■ 118928-02 – SunOS 5.10_x86:header file patch

6230117 6258024 6279871

■ 118960-02 – SunOS 5.10_x86:patch usr/bin/acctcom and usr/bin/lastcomm

5040580 6200474 6227221

■ 118966-11 – X11 6.8.0_x86:Xorg patch

6210823 6219349 6221637 6221655 6227952 6227475 6251506 6198604 6219169 6241320 6212502
6251042 6264498 6275666 6279968 6252544 6277477 6207005 6316438 6307303 6278337 6335783

■ 118997-03 – SunOS 5.10_x86:format patch

4934259 4968226 5090022 6194723 6265652

■ 119013-03 – SunOS 5.10_x86:crypto Patch

5072858 5100567 6195428 6200215 6211857 6222467 6250168

■ 119043-05 – SunOS 5.10_x86:patch usr/sbin/svccfg

6217410 6221374 6222202 6231947 6251841 6265652 6351779 6355665

■ 119060-09 – X11 6.6.2_x86:Xsun patch

6219932 6219947 5016163 6224159 6276115 6212502 6228875 6219170 6248445 6265634 4751462
6226733 6248453 6247062 6248417 6216985 6269938 6226717 6265045 6280222 6297797 6278131
6279680 6270914 6316436 6227843

■ 119062-01 – X11 6.8.0_x86:font patch

6206898

■ 119064-01 – SunOS 5.10_x86:libXpm patch

6231515 6241936

■ 119066-01 – SunOS 5.10_x86:fc-cache patch

6205323

■ 119074-03 – SunOS 5.10_x86:ldapclient patch

6217454 6228760 6265652

■ 119078-08 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For EDITABLE Files

4691624 6194576 6199119 6210936 6212675 6213084 6215509 6229753 6233613 6238277 6249025
6286536

■ 119080-12 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For Script Files

4691624 4915974 6199119 6207842 6210697 6212675 6213084 6215509 6221079 6223059 6226968
6229753 6233613 6234157 6237500 6238277 6242365 6243456 6252550 6273106 6324123 6326533
6231947 6251841 6222202 6217410 6344138

■ **119082-10 – SunOS 5.10_x86:CD-ROM Install Boot Image Patch**

4393815 4692667 4713660 4716085 4719125 4789211 4947796 5009917 5047412 6178185 6198783
6215847 6215918 6218158 6221702 6222925 6252385 6252388 6254694 6288726 6290082 6301206
6313099 6314149 6320965 6323208 6323511 6329642 6331510 6332093 6332722 6336267 6341482
6342039 6343072 6345658 6347051 6349235 6351213

■ **119089-06 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:qlc Script Patch to replace package scripts**

6210934 6236343 6292280 6292987 6303297 6320936

■ **119091-14 – SunOS 5.10_x86:Sun iSCSI Device Driver and Utilities**

5094124 5094370 6173739 6173912 6206029 6206568 6207172 6207973 6208490 6211472 6211499
6211560 6211924 6212031 6213484 6213487 6213490 6213516 6214405 6214546 6215262 6216983
6218751 6219608 6220407 6220773 6221284 6221432 6221880 6222630 6224359 6224866 6226740
6226933 6228489 6230319 6231086 6231706 6233206 6233384 6235292 6236260 6236271 6236375
6239078 6239185 6239207 6240818 6240849 6240911 6241611 6242847 6244250 6244358 6245161
6247445 6249424 6250036 6254222 6255629 6257030 6258672 6259522 6259737 6261483 6261560
6261627 6261669 6262279 6262413 6263279 6263646 6267539 6267543 6268934 6274744 6276026
6278190 6280621 6282646 6282686 6284875 6285462 6287318 6288103 6293219 6296381 6296407
6296971 6297371 6297390 6298546 6300099 6300259 6303184 6304963 6306146 6314187 6343904

■ **119093-04 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:iSCSI Script Patch to replace package scripts**

5094124 6207973 6213487 6239078

■ **119116-14 – Mozilla 1.7_x86 patch**

6177442 6221725 6211632 6192644 6200999 6200994 5077554 6200990 6202289 6224482 6225441
6228782 6216830 6224900 6234566 6245856 6247811 6247837 6247838 6247849 6248466 6248468
6248516 6248547 6248557 6248594 6248613 6249777 6249778 6255667 6248548 6249776 6259266
6259860 6259866 6259873 6259902 6260571 6260573 6269887 6261013 6281357 6271958 5015369
6251128 6267169 6281360 6282170 6282190 6284465 6287117 6258444 6297209 6297215 6297218
6297219 6297231 6191277 6200696 6200705 6282893 6297174 6297242 6317624 6318009 6334587
6334619 6339970

■ **119118-10 – Evolution 1.4.6_x86 patch**

6204976 6201742 6218068 6182553 6206223 6216041 6231010 6222258 6251188 6262120 6272983
6249871 6259214 6253417 6279337 6297294 6299994 6303111 6182358 6198500 6206245 6221676
6300019 5099374 5106735 6306915 6226019 6312129 6321792 6323770

■ **119131-14 – SunOS 5.10_x86:Sun Fibre Channel Device Drivers**

4368092 4792071 4961555 4976582 4998402 5091773 6205269 6207101 6207184 6207845 6210934
6214931 6215726 6216326 6216743 6221242 6225769 6227340 6227562 6233352 6233800 6235327
6235886 6238787 6250038 6254848 6258722 6260549 6261607 6270092 6276354 6279071 6279108
6283597 6286318 6288500 6288908 6290618 6292280 6292446 6292987 6295169 6296383 6298259
6298288 6311175 6311314 6313089 6316063 6317420 6319731 6320936 6325525 6326293 6328827
6343904

■ **119144-02 – SunOS 5.10_x86:patch lib/libinetutil.so.1**

6220609 6265652

■ 119202-08 – SunOS 5.10_x86:OS Localization message patch

6232516 6218356 6210085 6209742 6237404 6255735 6278006 6270754 6284429 6305523 6309435
6336898

■ 119247-09 – SunOS 5.10_x86:Manual Page updates for Solaris 10

4754411 6211237 6226954 6231497 6232483 6237082 6259813 6290845 6294809 6294811 6294812
6296740 6297786 6301361 6306533 6308447 6309398 6319339 6324864 6328540 6328541 6329060
6330016 6330062 6330188 6330671 6331047 6331055 6331331 6331841 6332029 6332677 6337869
6338057 6339627 6204577 6221309 6241099 6242990 6248877 6255008 6258334 6258339 6286409
6288555 6309363 6313868 6317846 6318461 6320393 6321596 6322368 6322669 6322739 6322863
6323460 6323484 6324148 6324248 6324420 6324858 6325356 5032018 5044715 6213568 6219083
6227560 6227561 6239801 6240066 6266903 6270406 6284937 6291991 6293104 6298241 6300498
6300514 6301501 6302861 6303663 6304180 6305130 6305702 6305923 6306228 6306246 6306391
6306499 6309411 6310305 6312151 6316296 2123343 2123344 2125584 5107445 6176645 6192812
6218160 6219867 6229028 6231508 6236743 6239205 6247514 6248484 6249686 6249689 6249985
6259275 6275178 6280439 6281184 6289748 6289985 6291968 6292324 6293276 6293905 6293994
6295135 6295164 6295455 6295501 6295606 6295883 6295885 6295972 6298238 6299871 6301701
6302598 6175259 6186292 6213557 6219322 6244794 6247949 6256977 6259276 6267730 6268875
6274065 6275116 6275182 6275486 6276860 6277917 6278481 6279864 6279996 6178430 6199201
6215789 6227520 6242411 6242412 6245230 6247046 6248312 6249005 6249691 6259032 6259382
6260165 6261039 6261047 6262466 6263124 6266052 6266054 6266570 6267911 6270039 6270071
6271056 6274141 2123236 5087622 6190827 6196727 6209285 6218778 6222501 6225497 6235402
6241181 6247652 6251475 6252447 6253481 6256136 5090875 6207391 6212233 6217156 6217716
6222749 6227376 6242519 6242876 6243333 6244894 6245209 6245842 6246422 6247757 6250396
6250515 2122825 2122940 5008956 5038387 5043371 5046429 5069521 5095891 5096574 5104556
5108949 6182303 6193595 6194741 6195276 6195547 6198061 6200093 6201988 6202122 6205275
6208084 6209281 6210273 6211790 6211903 6212029 6212232 6212654 6212836 6213475 6213502
6213507 6213536 6214276 6214973 6215139 6215474 6215475 6216789 6216851 6217406 6218320
6218842 6218986 6219657 6219660 6219661 6219671 6220014 6220161 6220729 6220859 6221541
6221589 6221625 6221733 6221891 6222153 6222369 6222447 6222663 6222727 6223264 6223570
6224890 6225126 6225266 6225304 6225337 6225421 6225486 6225503 6225575 6225624 6225693
6229095 6229654 6229957 6230305 6230958 6231259 6231325 6231382 6231455 6231505 6231794
6232091 6233524 6233764 6233884 6233891 6233909 6234453 6235323 6236959 6236965 6237101
6237254 6237389 6237405 6237708 6237832 6237835 6238687 6240599 6240819 6241622 6243286

■ 119253-09 – SunOS 5.10_x86:System Administration Applications Patch

4692667 4921333 4952774 5009917 5101364 6198291 6211620 6221551 6252385 6252388 6265069
6278350 6298572 6311509

■ 119255-14 – SunOS 5.10_x86:Install and Patch Utilities Patch

4908553 5045607 6210622 6216195 6216798 6216809 6217206 6219176 6220578 6221954 6224740
6224767 6226770 6226930 6231818 6233011 6233738 6236231 6236796 6236855 6236866 6239875
6240894 6241431 6241944 6242607 6243480 6244125 6245446 6245715 6248984 6251452 6252385
6252388 6256515 6262677 6263190 6265069 6271791 6274438 6275530 6275557 6276148 6278325
6279485 6284610 6288746 6290368 6290429 6290432 6292233 6292269 6292275 6296187 6304222
6306319 6307548 6309013 6313848 6315157 6315316 6318864 6319430 6319570 6323208 6328091
6331277 6334066 6337009 6337644 6340114 6342245 6344531 6344916 6345121 6348813 6349319
6351408 6351428 6352966 6354346 6355320 6355604

■ 119277-02 – S10_x86:Patch for Northern Europe Region locale issues

2123566 6276095

■ 119279-03 – CDE 1.6_x86:dtlogin patch

5046689 6209544 6247943 6211096 6267572

- 6209386 6255303 4750419

 - 119281-02 – CDE 1.6_x86:Runtime library patch for Solaris 10
- 6224922

 - 119283-01 – CDE1.6_x86:GNOME/CDE Menu for Solaris 10_x86
- 6215091

 - 119285-01 – CDE 1.6_x86:sdtwsinfo patch
- 6219941

 - 119287-01 – CDE 1.6_x86:dtterm libDtTerm patch
- 4872697 5006767 6183058 6212927 6235892 6252385 6252388 6255908 6265069

 - 119314-05 – SunOS 5.10_x86:WBEM Patch
- 4418366 4770830 5080683 5092418 6192017 6196606

 - 119316-03 – SunOS 5.10_x86:Solaris Management Applications Patch
- 6202830

 - 119318-01 – SunOS 5.10_x86:SVr4 Packaging Commands (usr) Patch
- 5054339 6197950 6230090 6230098 6203727 5032088 6232578 6214222 6248517 6277164

 - 119367-05 – GNOME 2.6.0_x86:Display Manager Patch
- 5083233 6200941 6263422

 - 119369-03 – GNOME 2.6.0_x86:Printing Technology Patch
- 6205402 6253594 6214486 6200000 6208184 6218072 6222326 6303664 6303219 6312879 6225051 6324700

 - 119371-09 – GNOME 2.6.0_x86:GNOME panel and support libraries Patch
- 6200654 6230101

 - 119373-02 – GNOME 2.6.0_x86:GNOME common development tools and libraries Patch
- 4471706 5023670 5042195 5067964 5090022 6226862 6230146 6232908 6234227 6237149 6237585 6245378 6249580 6253744 6256272 6256312 6268697 6271814 6273374 6292076 6334799

 - 119375-09 – SunOS 5.10_x86:sd and sdd patch
- 2123566

 - 119398-01 – SunOS 5.10_x86:Patch for North America Region locale issues
- 2123562

 - 119400-01 – SunOS 5.10_x86:Patch for Central American Region locale issues
- 2123566

 - 119402-01 – SunOS 5.10_x86:Patch for Western Europe Region locale issues
- 2123562

 - 119405-01 – 5.10_x86:Patch for South American Region locale issues
- 119406-01 – SunOS 5.10_x86:Patch for Central European Region locale issues

6222362 2123566

- 119408-01 – SunOS 5.10_x86:Patch for Eastern Europe Region locale issues

2123563 2123564

- 119411-03 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Applets Patch

6205402 6245563 6207273

- 119413-08 – GNOME 2.6.0_x86:Nautilus libraries Patch

5011528 6218831 6202416 4899270 6255964 6234837 6200485 6234894 6200326 6238031 6251220
6262830 6261299 6312879 6312736

- 119415-05 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Accessibility Libraries Patch

6192805 6205225 6182499 6182502 6217152 6192693 6205004 6216843 6226723 6228329 6260441
6283137 6315241 4768049 6340516

- 119417-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Text-To-Speech Engine Patch

6216843 6226723 6228329

- 119419-02 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome On-screen Keyboard Patch

5109895 6200712 6211656 6223576

- 119421-01 – SunOS 5.10_x86:Thai locale patch

6235012

- 119471-05 – SunOS 5.10_x86:Sun Enterprise Network Array firmware and utilities

5046910 5076769 6201060 6204512 6234959 6235886 6247521 6250956 6250957 6274205 6285969

- 119535-05 – SunOS 5.10_x86:Flash Archive Patch

4947796 4956004 5031468 5081174 6216373 6225430 6256048 6267370 6301206 6306712

- 119539-03 – GNOME 2.6.0_x86:Window Manager Patch

6200511 6182510 6227065

- 119541-04 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Dtlogin configuration Patch

6197950 6248517 6214486 6206909

- 119543-06 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome desktop preference configuration Patch

6239595 6244269 6214486 6195818 6217648 6271501 6317578

- 119545-03 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome streaming media framework Patch

6226060 6227666 6226597

- 119547-04 – APOC 1.1_x86:APOC Configuration Agent Patch

6241546 6257229 6258281 6278047 6293945 6313943

- 119549-03 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Multi-protocol instant messaging client Patch

6217610 4990149 6268932 6269430

- 119558-03 – SunOS 5.10_x86:tavor Patch

4880976 6196844 6196850 6196861 6199406 6200071 6201142 6207840 6207842 6210668 6213418
6223563 6223569 6223572 6223580 6223583 6226445 6234486 6234506 6239625 6239671 6250345
6326533

■ **119575-02 – SunOS 5.10_x86:su patch**

6213281 6219721 6219774 6243480

■ **119585-01 – SunOS 5.10_x86:pppd patch**

6257917

■ **119594-01 – SunOS 5.10_x86:net-svc patch**

6196716

■ **119599-04 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Screen Reader and Magnifier Patch**

6205770 6191352 6207171 5083128 6205765 6202337 6200573 6186020 5095976 6315934 6202897
6193299 6239339 6240135

■ **119602-03 – S10_x86:Patch for European Region JDS messages**

6250683 6186577 6296998 6274401 6263015 6176784 4957762 6180730 6308186 4929548 6336423

■ **119604-03 – S10_x86:Patch for Asian Region JDS messages**

6250683 6263015 6176784 4932571 6308186 4957762 6294274 6297892 6312176 6336423

■ **119606-03 – S10_x86:Patch for Japanese Region JDS messages**

6250683 6263015 6176784 6308186 6336423

■ **119649-01 – SunOS 5.10_x86:vlan driver patch**

5097913 6216827

■ **119686-04 – SunOS 5.10_x86:lib/svc/bin/svc.startd Patch**

6222477 6223908 6225601 6231291 6248163 6262086

■ **119688-02 – SunOS 5.10_x86:in.mpathd patch**

4691277 6229034

■ **119704-02 – S10_x86:Patch for localeadm issues**

6293965 6192791 6286551 6189823 6252055

■ **119713-02 – SunOS 5.10_x86:usr/sbin/in.routed Patch**

5096257 6227282 6231263 6302789

■ **119716-09 – SunOS 5.10_x86:scsi_vhci patch**

4845958 6202573 6203547 6219672 6219812 6221306 6227074 6230133 6230552 6232301 6238276
6252555 6254876 6271314 6271323 6279001 6287422 6342630 6350416 6354461

■ **119758-01 – SunOS 5.10_x86:Samba patch**

5080288 5100732 6179361 6217228 6218964 6248115 6248953

■ **119765-02 – SunOS 5.10_x86:ipmitool patch**

6209442 6266203 6266225

■ **119767-02 – SunOs 5.10_x86:SunFreeware man pages patch**

6209442 6266203 6266225

- 119772-01 – SunOS 5.10_x86:Asian CCK locales patch

6246438

- 119784-01 – SunOS 5.10_x86:bind patch

6192028 6226796

- 119798-04 – SunOS 5.10_x86:CDE Localization message patch

6259957 6299116 6279262 6309630

- 119811-01 – SunOS 5.10_x86:International Components for Unicode Patch

4785261 6217550

- 119813-02 – X11 6.6.2_x86:Freetype patch

6229445 6261066

- 119815-04 – SunOS 5.10_x86:OS Japanese manpages patch

6262660 6261964 6317482

- 119825-01 – SunOS 5.10_x86:prstat patch

6216522

- 119827-01 – SunOS 5.10_x86:libadm.so.1 Patch

6197410

- 119829-04 – SunOS 5.10_x86:nfssrv Patch

5083133 6218082 6228017 6232586 6257280

- 119851-08 – SunOS 5.10_x86:kernel/drv/amd64/mpt patch

5067964 6225262 6226426 6226862 6230146 6234363 6236253 6237411 6238679 6238686 6240956
6245378 6252787 6253744 6256312 6269064 6280459 6318183

- 119853-02 – SunOS 5.10_x86:socket header files patch

6226920 6236514 6236985

- 119891-03 – GNOME 2.6.0_x86:search tool Patch

6253916 5072526 6234957

- 119893-01 – GNOME 2.6.0_x86:gimp Patch

6209566

- 119901-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome libtiff - library for reading and writing TIFF Patch

6203747

- 119904-01 – Openwindows 3.7.3_x86:Xview Patch

4459703

- 119907-03 – Gnome 2.6.0_x86:Virtual File System Framework patch

5068327 6199955 6200485 6205707 6243455 6234855 6262830

- 119909-02 – Gnome 2.6.0_x86:session manager patch

6193275 6202413

■ 119956-02 – CDE 1.6_x86:Tooltalk Runtime patch for Solaris 10

6206423 6235250

■ 119961-02 – SunOS 5.10_x86, x64, Patch for assembler

6251717 6250279 6200917 5058413 6201130 6211433 6200463 6219243 6218032 6205808 6252350
6316356 6313008 6307995 6302163 6304577 6299462 6290635 6265210 6260465 6280973

■ 119964-04 – SunOS 5.10_x86:Shared library patch for C++_x86

6242459 6244128 6244223 6253345 6300352 6264451 6253807 6242145 6244286 6274396 6304703
6326163 6339010

■ 119975-02 – SunOS 5.10_x86:fp plug-in for cfgadm

6223856 6259488

■ 119987-01 – SunOS 5.10_x86:clri patch

4913439

■ 119989-01 – SunOS 5.10_x86:sed patch

4865669

■ 119997-01 – SunOS 5.10_x86:libsec patch

6270748

■ 120010-01 – SunOS 5.10_x86:rmformat patch

5096891 6205014 6255670

■ 120028-02 – SunOS 5.10_x86:sd headers patch

5090022 6292076

■ 120031-01 – SunOS 5.10_x86:mountd patch

6279317

■ 120033-01 – SunOS 5.10_x86:libresolv.so patch

6205056

■ 120035-01 – SunOS 5.10_x86:mntfs patch

6250256

■ 120037-02 – SunOS 5.10_x86:libldap patch

4626861 6226776 6232564 6232579 6274517 6276525

■ 120039-01 – SunOS 5.10_x86:sar patch

6257191

■ 120045-01 – SunOS 5.10_x86:psrset patch

6248421

■ 120047-01 – SunOS 5.10_x86:nfsmapid patch

6243099 6268829 6276074

■ 120049-02 – SunOS 5.10_x86:fss patch

6219389 6313929

- 6211845
 - 120051-01 – SunOS 5.10_x86:usermod patch
- 6281689
 - 120053-01 – SunOS 5.10_x86:pam unix cred library patch
- 6274427 6287593
 - 120063-01 – SunOS 5.10_x86:localedef Patch
- 6266832
 - 120065-01 – SunOS 5.10_x86:stdio_iso.h Patch
- 6246102
 - 120069-01 – SunOS 5.10_x86:in.telnetd Patch
- 6268417
 - 120070-01 – SunOS 5.10_x86:cpio Patch
- 6221581 6298543
 - 120081-02 – SunOS 5.10_x86:bmc driver patch
- 6214946
 - 120084-01 – SunOS 5.10_x86:arp patch
- 6239487
 - 120086-01 – SunOS 5.10_x86:patch usr/sbin/in.ftpd
- 6237901 6267306 6228023 6203951
 - 120095-04 – X11 6.6.2_x86:xscreensaver patch
- 6265312 6278049 6293945
 - 120100-03 – APOC 1.1_x86:Sun Java(tm) Desktop System Configuration Shared Libraries
- 6240296
 - 120102-01 – SunOS 5.10_x86:patch usr/lib/libsmmedia.so.1
- 6203159 6323628
 - 120129-02 – SunOS 5.10_x86:patch usr/bin/xargs
- 6214486 6255199 6298139
 - 120134-03 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome themes Patch
- 6214486 6237403 6250742 6267922
 - 120136-03 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Libraries Patch
- 6210435
 - 120183-01 – SunOS 5.10_x86:Sun Fibre Channel Host Bus Adapter Library
- 4716085 6194680 6220706 6268847
 - 120200-03 – SunOS 5.10_x86:sysidtool Patch
- 120202-01 – X11 6.8.0_x86:Xorg client libraries patch

6248315

- **120223-05 – SunOS 5.10_x86:Emulex-Sun LightPulse Fibre Channel Adapter driver**

6248456 6248899 6252273 6252308 6252633 6252767 6264417 6273321 6273949 6275529 6276730
6277406 6281068 6281270 6281938 6284688 6286283 6286352 6290648 6291133 6296689 6300078
6314407 6329384 6329972 6331152 6336547 6343904

- **120225-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:Emulex-Sun Fibre Channel Adapter driver**

6267262

- **120236-01 – SunOS 5.10_x86:Live Upgrade Zones Support Patch**

6275557

- **120252-03 – SunOS 5.10_x86:mt patch**

6224221 6225780 6232414 6250131 6252197 6260355

- **120273-01 – SunOS 5.10_x86 :SMA patch**

6191915 6243363 6243366 6244918 6247942

- **120275-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For postinstall File**

6191915

- **120283-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome CD Player Utility Patch**

5053909 6210011

- **120285-02 – GNOME 2.6.0_x86:GNOME CORBA ORB and component framework**

6235648 6238754 6295858

- **120287-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome text editor Patch**

4937266

- **120289-02 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome terminal Patch**

6241338 6242857 6303664

- **120293-01 – SunOS 5.10_x86 :mysql patch**

6258187

- **120295-01 – SunOS 5.10_x86 :mysql man patch**

6258187

- **120312-01 – SunOS 5.10_x86:FRESHBIT ONLY PATCH:For deletes file**

6178746

- **120313-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For EDITABLE Files**

6286536

- **120314-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For SCRIPT Files**

6286536

- **120330-01 – SunOS 5.10_x86:rexec patch**

6245588

- 120336-04 – SunOS 5.10_x86:Sun Update Connection Localization, System Edition 1.0 Client
- 120340-01 – CDE 1.6_x86:styleModern patch

6263134

- 120345-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:Common Fibre Channel HBA API Library Script Patch

6202863 6239116

- 120347-03 – SunOS 5.10_x86:Common Fibre Channel HBA API Library

6202863 6239116 6288908 6334772

- 120351-03 – SunOS 5.10_x86:Asian CCK locales patch

6279310 6285930

- 120409-01 – SunOS 5.10_x86:Korean Locales Patch

6267785 5024604 6285934 6263482 4916340 6299102

- 120451-01 – SunOS 5.10_x86:Get netmask Utility Patch

4218092

- 120453-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For editable files only

5006767

- 120455-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Apoc GConf Adapter Patch

6281517

- 120457-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome image viewer Patch

6288517

- 120459-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome configuration Patch

6293945

- 120461-05 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome libs Patch

6242857 5087948 5088844 6216594 6306889 6301837

- 120468-03 – SunOS 5.10_x86:LP patch

4997994 5096624 6208058 6260526 6289134 6314243 6314245

- 120472-01 – SunOS 5.10_x86:libbsm patch

6260039

- 120474-01 – SunOS 5.10_x86:nss_compat patch

5097644

- 120475-02 – SunOS 5.10_x86:audio810 patch

6234157 6252550 6309309

- 120536-07 – SunOS 5.10_x86:Updated video drivers and fixes

5079292 6190517 6251584 6252425 6276981 6277468 6290163 6290213 6299315 6311286 6311316
6311339 6315191 6317233 6317391 6321043 6321995 6334355 6337797 6337945 6334320 6342674
6342687 6343231

■ 120538-05 – SunOS 5.10_x86:md patch

4892666 4927518 6199444 6217370 6220234 6224061 6224745 6236382 6239708 6240367 6244431
6274840 6281300 6304858

■ 120544-01 – SunOS 5.10_x86 :Apache Patch

6257414

■ 120628-01 – SunOS 5.10_x86:nfslogd patch

6214620

■ 120630-02 – SunOS 5.10_x86:libpool patch

6232648 6234525

■ 120662-05 – SunOS 5.10_x86:rpcmod patch

5061331 6253388 6265027 6272865 6328296

■ 120665-01 – SunOS 5.10_x86:tl driver patch

4352289 6227895 6249138 6256056 6260210 6290652

■ 120691-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For depend File

6299541

■ 120705-01 – SunOS 5.10_x86 :smartcard man patch

6310070

■ 120720-01 – SunOS 5.10_x86 :gzip patch

6283819 6294656

■ 120733-01 – SunOS 5.10_x86:libusb patch

5033202 6251518 6251836 6272172

■ 120738-01 – SunOS 5.10_x86:FX patch

6251636

■ 120740-02 – GNOME 2.6.0_x86:GNOME PDF Viewer based on Xpdf

6219093 6294547

■ 120742-01 – SunOS 5.10_x86:seg_map header file patch

6264443

■ 120745-02 – L10n update from version 2.2 to version 2.2.4 for 5.10_x86

■ 120747-01 – SunOS 5.10_x86:SUNWswmt patch

6314804

■ 120754-02 – SunOS 5.10_x86:Microtasking libraries (libmtsk) patch

4640927 5105585 6176541 6224639 6266200 6281454 6284576 6292619 6308531 6315352 6347707

■ 120771-01 – SunOS 5.10_x86:UDC patch

6308547

- 120781-01 – SunOS 5.10_x86:ixgb patch
6224685 6249135 6267684 6273316 6275585 6275597 6283655 6293332 6296681 6303593
- 120792-05 – SunOS 5.10_x86:Sun Update Connection Localization
6317596 6318522 6319326 6336892 6338752
- 120808-01 – SunOS 5.10_x86:rpc.mdcommd match
6290815
- 120810-01 – SunOS 5.10_x86:metaclust patch
6274840
- 120817-01 – SunOS 5.10_x86:at and batch patch
6208425
- 120831-02 – SunOS 5.10_x86:vi and ex patch
6208422 6219736 6219754
- 120838-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For DEPEND Files
6213629
- 120846-01 – SunOS 5.10_x86:auditd patch
4875480 6261894
- 120874-01 – SunOS 5.10_x86:xscreensaver localization message patch
6203951 6316915
- 120888-01 – SunOS 5.10_x86:cdrw patch
5097578
- 120890-01 – SunOS 5.10_x86:librac patch
6297767
- 120901-03 – SunOS 5.10_x86:libzonecfg patch
6218854 6328286 6346201
- 120933-01 – Solaris 10_x86:Live Upgrade to S10U1 fails due to checkinstall script
6320417
- 120935-01 – Solaris 10_x86:Live Upgrade to S10U1 fails due to SUNWcccr postinstall
6320433
- 120985-01 – SunOS 5.10_x86:nss_user.so.1 Patch
6235336
- 120987-02 – SunOS 5.10_x86:mkfs and newfs patch
4471706 6184783 6245090
- 120989-01 – SunOS 5.10_x86:grpck Patch
6221968
- 120991-01 – SunOS 5.10_x86:net-physical Patch

- 5062168
 - 120993-01 – SunOS 5.10_x86:nfs_clnt.h and nfs4_clnt.h Patch
- 6266836
 - 120995-01 – SunOS 5.10_x86:elf_amd64.h Patch
- 6236594
 - 120999-01 – SunOS 5.10_x86:adpu320 patch
- 6290383
 - 121003-01 – SunOS 5.10_x86:pax patch
- 6300407
 - 121005-01 – SunOS 5.10_x86:sh patch
- 6277636
 - 121007-01 – SunOS 5.10_x86:libkadm5 and kadmind patch
- 6215066 6227969 6265737 6278018
 - 121009-01 – SunOS 5.10_x86:ufsrestore patch
- 6264883
 - 121011-01 – SunOS 5.10_x86:rpc.metad patch
- 6324927
 - 121013-01 – SunOS 5.10_x86:traceroute patch
- 6290611 6290623 6291147 6291879 6298211 6298351
 - 121037-01 – Gnome 2.6.0_x86:base libraries patch
- 6215709
 - 121044-01 – X11 6.8.0_x86:Mesa patch
- 6317645 6313676 6318879 6318900
 - 121062-01 – SunOS 5.10_x86:motd Patch
- 6222495
 - 121096-01 – GNOME 2.6.0_x86:GNOME EXIF tag parsing library for digital cameras
- 6257383
 - 121098-01 – GNOME 2.6.0_x86:GNOME library for reading and writing TIFF
- 6321957
 - 121126-01 – SunOS 5.10_x86:aac patch
- 6289318 6303662
 - 121127-01 – SunOS 5.10_x86:umountall.sh Patch
- 6353778
 - 121208-02 – SunOS 5.10_x86:ld & libc.so.1 Patch

4638717 4932869 4954703 4957830 5042855 5080443 6198351 6208532 6209350 6210936 6212406
6212797 6213868 6214604 6214687 6214698 6214721 6214834 6215000 6215218 6215444 6216134
6219132 6219142 6219317 6219538 6219651 6221845 6222525 6225908 6226206 6226484 6228472
6228709 6231288 6233624 6234594 6234710 6235000 6236594 6236942 6237078 6237197 6237355
6237357 6238277 6239984 6240160 6241995 6243444 6244897 6245233 6245953 6246138 6247143
6251722 6251754 6251798 6254364 6257150 6257177 6258834 6260361 6260780 6261803 6261990
6262789 6263065 6263070 6266261 6267352 6268693 6269525 6270398 6272563 6273855 6273864
6273875 6276905 6280467 6283601 6284941 6290157 6291547 6295971 6299525 6301218 6309061
6310736 6311865 6314115 6314627 6314743 6318306 6318401 6321607 6324019 6324589 6329796
6332983 6336945

■ 121212-01 – SunOS 5.10_x86:Sun Java Web Console (Lockhart) Patch

6174575 6190851 6197979 6202144 6202180 6210774 6216732 6219010 6221395 6221403 6221475
6221807 6221988 6227790 6234014 6238598 6245886 6250060 6261549 6263027 6285557

■ 121216-01 – SunOS 5.10_x86:ipsecconf patch

6214460

■ 121230-01 – SunOS 5.10_x86:libssl patch

6332476

■ 121234-01 – SunOS 5.10_x86:gsscred patch

5008950

■ 121238-01 – SunOS 5.10_x86:zones header patch

6328286 6328296

■ 121240-01 – SunOS 5.10_x86:libgss patch

6203833

■ 121243-02 – L10n update from version 2.2 to version 2.2.4 for 5.10_x86

6341293

■ 121264-01 – SunOS 5.10_x86:cadp160 driver patch

6254081

■ 121307-02 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For package level scripts only

6323208 6336160

■ 121309-02 – SunOS 5.10_x86:Solaris Management Console Patch

5090761 6183058

■ 121334-02 – SunOS 5.10_x86:zoneadmd, zlogin and zoneadm patch

6328286 6329667 6346201

■ 121338-01 – SunOS 5.10_x86:tlimod patch

6328296

■ 121395-01 – SunOS 5.10_x86:aio_impl.h.patch

4954646

■ 121407-01 – SunOS 5.10_x86:ikeadm patch

6268124 6283165

■ 121415-01 – SunOS 5.10_x86:ufs utilities patch

4471706

■ 121429-01 – SunOS 5.10_x86:Live Upgrade Zones Support Patch

6221561 6242607

■ 121431-02 – SunOS 5.10_x86:Live Upgrade Patch

4873203 4992478 6221561 6221609 6224940 6252385 6252388 6253700 6263351 6265069 6278345
6278352 6284550 6286969 6317386 6319706 6319769 6322850 6322867 6332091 6336160 6339728
6347732

■ 121454-02 – SunOS 5.10_x86, Sun Update Connection Client, System Edition 1.0

6322616 6348676 6325141 6325580 6325603 6324926 6325021 6319981 6324894 6316500 6288010
6288194 6288300 6289010 6293659 6297756 6298489 6299025 6300171 6300219 6300355 6300794
6302650 6303352 6303587 6304558 6304563 6304786 6306155 6260830 6315572 6314437 6314341
6316780

■ 121464-01 – GNOME 2.6.0_x86:Gnome Accessibility Libraries Patch

6347858

■ 121576-01 – SunOS 5.10_x86:SPECIAL PATCH:For package level scripts only

6345097

日本語環境に関する情報

日本語環境に関する情報

ユーザー定義文字を扱うコマンドに関する制限事項

ユーザー定義文字を扱う次のコマンドは、ja または ja_JP.eucJP ロケールでのみ動作します。日本以外のロケール、ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールでは正しく動作しません。

```
/usr/dt/bin/sdtudc_extract  
/usr/dt/bin/sdtudc_convert
```

「半角／全角」キーが動作しない (6311410)

Sun Type 7 日本語キーボード、または日本語 106 キーボードを Xorg/Xsun 上で使用するといくつかのキーが正しく動作しません。

回避方法:

- 以下のパッチをインストールします。
 - Xsun: 121868-01 (sparc) 121869-01 (x86)
 - Xorg: 118966-13 (x86)
- または、以下のファイルの該当部分のコメントを外し、`$HOME/.dtpofile` に追加します。

```
#  
# Japanese 106 on Xorg  
#
```

```
#xmodmap -e "keycode 49 = Henkan_Mode"
#xmodmap -e "keycode 129 = Kana_Lock"
#xmodmap -e "keycode 138 = Kanji"
#xmodmap -e "keycode 139 = Execute"
#xmodmap -e "keycode 113 = Alt_R"
#
# Japanese 106 on Xsun
#
#xmodmap -e "keycode 60 = Henkan_Mode"
#xmodmap -e "keycode 143 = Mode_switch"
#xmodmap -e "keycode 145 = Kanji"
#xmodmap -e "keycode 146 = Execute"
#xmodmap -e "keycode 237 = Alt_R"
#xmodmap -e "remove Mod2 = Alt_R"
#xmodmap -e "add Mod2 = Mode_switch"
```